㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第284集

西善尺司遺跡

北関東自動車道(高崎～伊勢崎)地域
埋蔵文化財発掘調査報告書第８集

２００１

日　本　道　路　公　団
財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

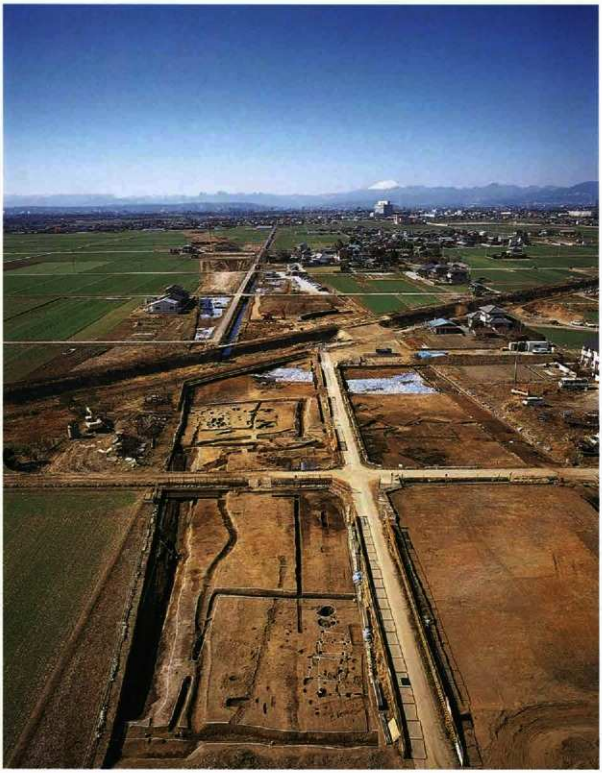
財群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第284集

西善尺司遺跡

北関東自動車道(高崎～伊勢崎)地域
埋蔵文化財発掘調査報告書第８集

2001

日　本　道　路　公　団
財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団



西善尺司遺跡から浅間山を望む

北関東自動車道は群馬県の高崎ＪＣＴから茨城県那珂湊を繋ぐ北関東の大動脈である。西善尺司遺跡は北関東自動車道路の建設に伴い調査された遺跡である。今回の調査によって今まで調査が及ばなかった前橋市南部の歴史が解明されようとしている。

縄文時代の石器製作址
（第３章第２節参照）西善尺司遺跡周辺では今まで旧石器～縄文時代の遺構は少ない。しかし今回の調査により縄文時代早～中期と考えられる石器製作址が検出された。いままではっきりしなかった前橋台地における縄文時代の人々の生活を知る上で重要な発見となった。

墓に供えられた土器(10号方形周溝墓出土)

古墳時代前期の土器

古墳時代前期の方形周溝墓群(第３章第３節参照)
西善尺司遺跡では総数14基の方形周溝墓が狭い微高地上にひしめき合うように検出された。注目されるのは、その造墓時期が北方約1.5kmに位置する群馬県最高の定型化した前方後円墳・後方墳である前橋天神山・八幡山古墳とほぼ同時である点である。ここから古墳時代前期における開発の様子が読みとれるかも知れない。

平安時代の集落群(第３章第４節参照)

西善尺司遺跡では，平安時代の竪穴住居が約50軒見つかった。各住居は概ね８世紀後半から10世紀後半まで継続している。当時の住居は長方形または正方形で，東壁には竈が造り付けてある。

中・近世の館(第３章第５節参照)

西善尺司遺跡は旧西善環濠集落の内部に位置する。今回の調査では今まで知られていない４軒の館跡が見つかった。なかでも４号館は東西34m，南北42mの規模をもつ。

現在も残る環濠(前橋市鶴小路町)

台地と低地(台地は墓域や居住域に、低地は水田に利用された)

低地部の開発(第3章第6節参照)

現在の西善尺司遺跡周辺は圃場整備が進み一面の水田地帯であるが、発掘調査の結果、平安時代頃までは小さな低地と台地が入り組む複雑な地形であることが分った。低地部からは、3層の火山灰と2時期の水田が検出された。このことは当時の群馬の人々が度重なる火山災害を克服し水田を復旧してきたことを示す証でもある。

低地部の土層(上層からAs-B、Hr-FA、As-C)

Hr-FA下水田(古墳時代後期)

As-B下水田(平安時代後期)

序

北関東自動車道は、群馬県の関越自動車道高崎ＪＣＴから分岐し、茨城県那珂湊にいたる延長約150kmの高速自動車国道です。その間、群馬・栃木・茨城各県の主要都市及び東北・常磐自動車道を結び、地域社会の発展に大きな役割を果たすものと期待されています。

今回、北関東自動車道高崎～伊勢崎間約15kmの建設に先立ち、平成７年６月から36遺跡で発掘調査が行われ当事業団ではそのうち31遺跡を担当しました。本書『西善尺司遺跡』は平成９年10月から平成11年１月にかけて発掘調査を実施した遺跡の発掘報告書です。

本遺跡は、前橋市街地の南、玉村町に接する平野部に位置しています。今まであまり発掘調査が行われていない地域でしたが今回の調査の結果、微高地と小谷が連続する複雑な地形であることが分かり、微高地では縄文～中・近世にわたる遺構が、小谷では水田址を２面確認しました。

特に古墳時代前期の方形周溝墓群の発見は、北方約1.5kmに位置する県内最古の前方後円墳である前橋天神山古墳との関連が注目され、当時の群馬県平野部における豪族のあり方を知る上で貴重な遺跡であると思われます。また中・近世の館跡の発見も、さらに東に延びる北関東自動車道地域の各遺跡で発見されている館跡研究の出発点となる遺跡でもあります。

この報告書は、考古学研究者はもちろん、郷土の歴史に関心をお持ちの県民の皆様の研究にも大いに役立つものと確信しております。

最後になりますが、日本道路公団東京建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、前橋市教育委員会、地元関係者の皆様には、発掘調査から本報告書刊行まで終始ご協力を賜り、心から感謝の意を表すとともに、発掘調査に携わった担当者、作業員の方々の労をねぎらい序といたします。

平成13年３月

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長　小　野　宇三郎

例　　言

1．本書は北関東自動車道（高崎〜伊勢崎）建設に伴い事前調査された西善尺司遺跡（遺跡番号KT-110）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．本遺跡は群馬県前橋市西善町1157〜1164、1168〜1170、1174〜1176、1181〜1183、1187〜1192、1196〜1198番地に所在する。

3．発掘調査は、日本道路公団の委託を受けた群馬県教育委員会が、財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して実施されたものである。発掘調査の期間・体制は次の通りである。

期　　間	第一年次（平成９年度）	第二年次（平成10年度）
	平成９年10月１日〜平成10年３月31日	平成10年４月１日〜平成11年１月31日
理事長	小寺弘之	小寺弘之（〜６月）　菅野　清（７月〜）
常務理事	菅野　清	菅野　清（〜６月）　赤山容造（７月〜）
事務局長	原田恒弘	赤山容造
副事務局長	赤山容造	
管理部長	渡辺　健	渡辺　健
調査研究部長	神保侑史（調査研究第２部長）	神保侑史（調査研究第２部長）
総務課長	小渕　淳	坂本敏夫
調査研究課長	佐藤明人（調査研究第６課長）	佐藤明人（調査研究第６課長）
事務担当	笠原秀樹　須田朋子　吉田有光　柳岡良宏	岡島伸昌　宮崎忠司　大澤友治
	井上　剛	小山建夫
事務補助	吉田恵子　並木綾子　今井もと子　内山佳子　星野美智子　羽鳥京子　若田　誠 佐藤美佐子　本間久美子　北原かおり　安藤（本地）由美　狩野真子	
調査担当	齋藤利昭（主幹兼専門員） 須田貞崇（調査研究員） 石田　真（調査研究員）	齋藤利昭（主幹兼専門員） 桜井（関口）美枝（主任調査研究員） 石川雅俊（調査研究員） 須田貞崇（調査研究員）

4．調査資料の整理作業及び報告書作成は、建設省の委託により平成11・12年度の二カ年にわたって（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。整理事業・報告書作成の期間・体制は次の通りである。

期　　間	第一年次（平成11年度）	第二年次（平成12年度）
	平成11年４月１日〜平成12年３月31日	平成12年４月１日〜平成13年３月31日
理事長	菅野　清（〜６月）　小野宇三郎（７月〜）	小野宇三郎
常務理事 （兼）事務局長	赤山容造	赤山容造
管理部長	住谷　進	住谷　進

期　　間	第一年次（平成11年度）	第二年次（平成12年度）
	平成11年４月１日～平成12年３月31日	平成12年４月１日～平成13年３月31日
調査研究部長	水田　稔（調査研究第２部長）	水田　稔（調査研究第1部長）
総務課長	坂本敏夫	坂本敏夫
調査研究課長	西田健彦（調査研究第５課）	西田健彦（資料整理課）
事務担当	笠原秀樹　須田朋子　吉田有光　柳岡良宏	小山建夫　片岡徳雄　大澤友治
	岡島伸昌	森下弘美
事務補助	吉田恵子　並木綾子　今井もと子　内山佳子　若田　誠　佐藤美佐子　本間久美子 北原かおり　狩野真子	
整理担当	須田貞崇（調査研究員）	整理嘱託員　鈴木幹子
整理補助員	山崎由紀枝　手塚ふみ江　木暮芳枝　白井和子　根井美智子	

5．本書作成の担当者は次のとおりである。

編　　集　須田 貞崇（群馬県埋蔵文化財調査事業団　調査研究員）

執　　筆　Ⅰ章　齋藤　利昭（群馬県埋蔵文化財調査事業団　主幹兼専門員）

Ⅱ章　関口　美枝（群馬県埋蔵文化財調査事業団　主任調査研究員）

陶磁器観察表　大西　雅広（群馬県埋蔵文化財調査事業団　主幹兼専門員）

上記以外　須田　貞崇

遺構・遺物図面整理、図版作成等

鈴木幹子　山崎由紀枝　手塚ふみ江　木暮芳枝　白井和子　根井美智子

遺物写真　佐藤元彦

保存科学　関　邦一　土橋まり子　小材浩一　萩原妙子　高橋初美

6．石材同定については、飯島静雄氏（群馬県地質研究会会員）の手を煩わせた。プラントオパール分析及びテフラ同定については、（株）古環境研究所に委託した。樹種同定・リン・カルシウム分析については、（株）パレオ・ラボに委託した。

7．本書の作成にあたっては次の機関ならびに諸氏より有益な指導と助言を賜った。記して感謝の意を表す次第である。

建設省　群馬県教育委員会　前橋市教育委員会　赤塚次郎　飯島静男　石井克己　井上和人　井上唯雄　井上昌美　江浦　洋　岡本淳一郎　小沢　洋　阪口　豊　白井久美子　鈴木敏則　早田　勉　田中清美　寺沢　薫　中山清隆　三浦京子　三田村美彦　谷地尾晋司　山内紀嗣　山口　充　森田　悌　森本　剛　渡井英誉　渡辺ますみ

8．出土遺物と記録資料の一切は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

9．発掘調査にあたっては、多くの作業員の方々の協力を受けた。ここに感謝の意を表します。

凡　　例

1．調査区域には、国家座標に基づいて５m間隔のグリッドを設定した。グリッド枠の座標基点A－０は、日本平面直角座標系第IX系のX＝37.150m、Y＝－63.450mである。詳細は第１章第３節－１.「グリッドの設定」を参照されたい。

2．発掘区は路線内を既存の道路によって分断されている。発掘区の呼称は発掘区の西からⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ区とし、また中央を東西に横断する道路によって分断される北側の区をA区、南側をB区とし、両方を組み合わせてⅠ-A区、Ⅱ-B区とした。また遺構の性格上、一部中内村前遺跡Ⅰ－B区（調査時呼称）を含んでいる。

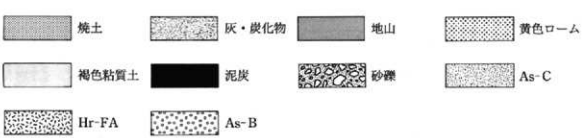
3．本書における遺構番号は、整理作業時に変更したものがある。その対照は、巻末の遺構一覧表に掲載した。

4．遺構図中の北方位は座標北を示す。

5．本書で使用した地図は、建設省国土地理院発行　2.5万分の１地形図「前橋」「高崎」「大胡」「伊勢崎」同5.0万分の１地形図「前橋」「高崎」、前橋市都市計画図(1/2,500)　№89・90である。

6．遺構図・遺物図の縮尺は、各図中に表示してある。また挿図中の「L＝○○m」は、断面図中の水糸標高を示す。

7．遺構図中で使用したスクリーントーンは以下のとおりである。



8．遺物実測図で使用したスクリーントーンは以下のとおりである。

9．遺物写真図版の倍率は、土器は原則として1/4、大型品は1/6に近づけるようにした。石器は原則として礫・剥片石器は1/3、石鏃などの小形品は1/1に近づけるようにした。また部分的に特徴のある遺物に関しては近接写真を撮影した。

10. 本文は以下の点に留意して記述した。

住居については、位置はその遺構が含まれるグリッドをすべて記入した。規模は遺構確認面での上場で計測した。なお竈の付設されている住居の場合、竈を含まない。規模の分類は超大形(5.6m以上)・大形(5.4～6.5m)・中形(4.3～5.4m)・小形(3.2～4.3m)・超小形(3.2m未満)とした。形状は正方形(長軸/短軸<1.1)・長方形(長軸/短軸>1.1)・不整形に腰れ分類した。重複は、重複する遺構とその新旧関係を述べた。面積は床面積とし、プラーニーメーターで3回計測したその平均値とした。方位は向かい合う辺の中点を結ぶ2等分線のうち、炉の付設されている住居の場合は北方位に近い軸を、竈の付設設置されている住居の場合、竈のある方向を主軸とした。床面は床の傾斜・硬化面の有無・その他の特徴を記載した。埋没土については全体的な傾向や特徴について記述した。異物は住居全体の出土状況と特徴的な遺物について述べた。周溝・柱穴・貯蔵穴については、検出された位置・規模・状況などを述べた。

掘立柱建物については住居に準ずる。

土坑については、円形・楕円形・隅丸長方形・隅丸正方形・不定形に形態分類し、各形態ごとに平面図を編集した。規模は遺構確認面の上場で計測した。他は住居に準ずる。

井戸については、底面の標高値を計測した。他は土坑に準ずる。

溝については、規模は遺構確認面の上場で計測した。深さは平均的な底面を計測した。他は住居に準ずる。

溝・溝状遺構・畠については、溝に準ずる。

館については、内部施設について記述した。堀は溝に準ずる。

方形周溝墓については、周溝については溝に、主体部については土坑に準ずる。

遺物観察表の胎土については、(1)胎土中の砂粒の大きさによる分類は、土壌物理研究会による基準に従い、細砂粒(<0.5mm)、粗砂粒(0.5～2.0mm)、細礫(2.0～5.0mm)、中礫(5.0mm>)とした。(2)色調は農林省水産技術会議事務局監修、(財)日本色彩研究所色標監修の新版標準土色帖に従った。(3)遺物の出土レベルは、遺構の床面から遺物までの垂直距離を示した。

年代については、古墳時代中・後期は坂口編年による西暦で表した。古墳時代前期の年代観については考察を参照されたい。

11. 本文中で使用したテフラの記号は以下の通りである。本文中では略称で記した。

名　　称	略称	給源火山	噴出年代
浅間A軽石	As-A	浅間山	1783(天明二)年
浅間B軽石	As-B	浅間山	1108(天仁元)年
榛名二ッ岳伊香保テフラ	Hr-FP	榛名山	6世紀中葉
榛名二ッ岳渋川テフラ	Hr-FA	榛名山	6世紀初頭
浅間C軽石	As-C	浅間山	3世紀後半
浅間板鼻黄色軽石	As-YP	浅間山	1.4～1.5万年前

目　　次

口絵
序文
例言
凡例

第1章　調査に至る経緯と経過……1
　第1節　調査に至る経緯……1
　第2節　調査の経過……3
　　1．遺跡名称及び調査区の設定……3
　　2．発掘調査の経過……4
　第3節　調査の方法……6
　　1．グリッドの設定……6
　第4節　遺跡の基本土層……7

第2章　遺跡の環境……8
　第1節　地理的環境……8
　第2節　歴史的環境……10

第3章　調査の内容……14
　第1節　遺跡の概要……14
　第2節　縄文時代の遺構と遺物……16
　　1．概要……16
　　2．石器集中部……18
　　3．縄文時代遺構外出土遺物……25
　第3節　古墳時代の遺構と遺物……28
　　1．概要……28
　　2．住居……30
　　3．方形周溝墓……37
　　4．井戸……74
　　5．土坑……74
　　6．溝……81
　　7．溝状遺構……85
　第4節　奈良平安時代の遺構と遺物……86
　　1．概要……86
　　2．住居……88
　　3．掘立柱建物……187
　　4．井戸……188
　　5．土坑……202
　　6．溝……214
　　7．畠……230
　第5節　中世以降の遺構と遺物……232
　　1．概要……232
　　2．館……234
　　3．掘立柱建物(館外)……291
　　4．火葬跡……296
　　5．井戸……298
　　6．土坑……314
　　7．溝……357
　第6節　低地部の遺構と遺物……372
　　1．概要……372
　　2．旧河道……376
　　3．As-C下谷……380
　　4．Hr-FA下水田……384
　　5．As-B下水田……386
　第7節　遺構外の出土遺物……389

第4章　関連調査と結果……403
　第1節　西善尺司遺跡の土層とテフラ……403
　第2節　西善尺司遺跡における
　　プラント・オパール分析……406
　第3節　西善尺司遺跡出土木材の樹種同定……414
　第4節　西善尺司遺跡炭化物密集地点の土壌の
　　全リン酸・全カルシウム濃度測定……418

第5章　調査の成果と課題……421

遺構一覧表……425
写真図版
報告書抄録
付　図

挿図目次

第１図　遺跡の位置図……1
第２図　北関東自動車道（高崎～伊勢崎）関連遺跡位置図……2
第３図　西善尺司遺跡　周辺地域字図……3
第４図　西善尺司遺跡　調査区図……3
第５図　西善尺司遺跡　グリッド設定図……6
第６図　西善尺司遺跡　基本土層概念図……7
第７図　群馬県中央部の地形と西善尺司遺跡……8
第８図　西善尺司遺跡で確認された示標テフラ……9
第９図　前橋台地東部の遺跡分布図……11
第10図　西善尺司遺跡　全体図……14・15
第11図　西善尺司遺跡　縄文時代遺構概念図……16・17
第12図　西善尺司遺跡　石器集中部と出土遺物……18
第13図　接合資料-１(１)……19
第14図　接合資料-１(２)……20
第15図　接合資料-１(３)……21
第16図　接合資料-２……22
第17図　接合資料-２・３……23
第18図　遺構外出土遺物……24
第19図　西善尺司遺跡　古墳時代遺構概念図……28・29
第20図　Ⅱ-B区37号住居跡……30
第21図　Ⅱ-B区37号住居生活面……31
第22図　Ⅱ-B区37号住居構築面……32
第23図　Ⅱ-B区37号住居出土遺物……33
第24図　Ⅱ-B区38号住居生活面……34
第25図　Ⅱ-B区38号住居構築面……35
第26図　Ⅱ-B区38号住居炭化材出土状況……36
第27図　Ⅱ-B区38号住居出土遺物……36
第28図　１号方形周溝墓……37
第29図　１号方形周溝墓周溝土層断面……38
第30図　２号方形周溝墓……38
第31図　３号方形周溝墓出土遺物……39
第32図　３号方形周溝墓……40
第33図　４号方形周溝墓と出土遺物……41
第34図　４号方形周溝墓……42
第35図　５号方形周溝墓土層断面……43
第36図　５号方形周溝墓……44
第37図　５号方形周溝墓出土遺物……45
第38図　６号方形周溝墓土層断面……46
第39図　６号方形周溝墓……47・48
第40図　６号方形周溝墓出土遺物(１)……49
第41図　６号方形周溝墓出土遺物(２)……50
第42図　７号方形周溝墓……52
第43図　７号方形周溝墓主体部と出土遺物……53
第44図　８号方形周溝墓……54
第45図　８号方形周溝墓土層断面と出土遺物……55
第46図　９号方形周溝墓土層断面……56
第47図　９号方形周溝墓……57
第48図　９号方形周溝墓出土遺物……58
第49図　10号方形周溝墓……59・60
第50図　10号方形周溝墓遺物出土位置図……61・62
第51図　10号方形周溝墓土層断面と周溝内土坑……63
第52図　10号方形周溝墓出土遺物(１)……64
第53図　10号方形周溝墓出土遺物(２)……65
第54図　11号方形周溝墓……67
第55図　12号方形周溝墓……68
第56図　12号方形周溝墓土層断面と出土遺物(１)……69
第57図　12号方形周溝墓出土遺物(２)……70
第58図　13号方形周溝墓と出土遺物……71
第59図　14号方形周溝墓と遺物出土状況……72
第60図　14号方形周溝墓出土遺物……73
第61図　Ⅳ-A区25号井戸……74
第62図　Ⅰ-B区124号土坑……74
第63図　Ⅱ-B区128・129号土坑と出土遺物……75
第64図　Ⅱ-A区132号土坑と出土遺物……75
第65図　Ⅳ-A区　55号土坑……76
第66図　Ⅳ-A区122号土坑と出土遺物……76
第67図　Ⅳ-A区100号土坑と出土遺物……77
第68図　Ⅳ-A区102号土坑と出土遺物……78
第69図　Ⅳ-A区131号土坑と出土遺物……79
第70図　Ⅳ-A区115号土坑と出土遺物……79
第71図　Ⅱ-B区158号土坑と出土遺物……80
第72図　Ⅱ-B区　13号溝と出土遺物……81
第73図　Ⅳ-A区 35号溝……82
第74図　Ⅱ-A区　11号溝……82
第75図　Ⅲ区溝状遺構(１)と土層断面……83
第76図　Ⅲ区溝状遺構(２)……84
第77図　風倒木痕と出土遺物……85
第78図　西善尺司遺跡　奈良・平安時代遺構概念図……86・87
第79図　Ⅰ-A区１号住居……88
第80図　Ⅰ-A区１号住居出土遺物……89
第81図　Ⅰ-A区２号住居……90
第82図　Ⅰ-A区２号住居出土遺物……91
第83図　Ⅰ-A区３号住居と出土遺物(１)……92
第84図　Ⅰ-A区３号住居竈と出土遺物(２)……93
第85図　Ⅰ-B区４号住居……94
第86図　Ⅰ-A区５号住居と出土遺物(１)……95
第87図　Ⅰ-A区５号住居と出土遺物(２)……96
第88図　Ⅰ-A区５号住居出土遺物(３)……97
第89図　Ⅰ-B区６号住居……98
第90図　Ⅰ-B区６号住居竈と出土遺物……99
第91図　Ⅰ-B区７号住居と出土遺物(１)……100
第92図　Ⅰ-B区７号住居竈と出土遺物(２)……101
第93図　Ⅰ-B区８号住居……103
第94図　Ⅰ-B区８号住居竈と出土遺物(１)……104
第95図　Ⅰ-B区８号住居出土遺物(２)……105
第96図　Ⅰ-A区９号住居……106
第97図　Ⅰ-A区９号住居出土遺物……107
第98図　Ⅰ-A区10号住居……108
第99図　Ⅰ-A区10号住居竈と出土遺物(１)……109
第100図　Ⅰ-A区10号住居出土遺物(２)……110
第101図　Ⅰ-B区11号住居……111
第102図　Ⅰ-B区11号住居竈と出土遺物(１)……112
第103図　Ⅰ-B区11号住居出土遺物(２)……113
第104図　Ⅰ-B区12号住居……114
第105図　Ⅰ-B区12号住居竈と出土遺物……115
第106図　Ⅰ-B区13号住居……117
第107図　Ⅰ-B区13号住居出土遺物……118
第108図　Ⅰ-B区14号住居……119
第109図　Ⅰ-B区14号住居竈と出土遺物……120
第110図　Ⅰ-B区15号住居……121
第111図　Ⅰ-B区15号住居竈と出土遺物……122
第112図　Ⅰ-B区16号住居と出土遺物……124
第113図　Ⅰ-B区17号住居……125
第114図　Ⅰ-B区17号住居出土遺物……126
第115図　Ⅰ-B区18号住居と出土遺物……127
第116図　Ⅰ-B区19号住居と出土遺物……129
第117図　Ⅱ-B区20号住居と出土遺物(１)……131
第118図　Ⅱ-B区20号住居出土遺物(２)……132
第119図　Ⅱ-B区21号住居……133
第120図　Ⅱ-B区21号住居と出土遺物(１)……134
第121図　Ⅱ-B区21号住居出土遺物(２)……135
第122図　Ⅱ-B区21号住居出土遺物(３)……136
第123図　Ⅱ-B区22号住居生活面……138
第124図　Ⅱ-B区22号住居構築面と竈……139
第125図　Ⅱ-B区22号住居出土遺物……140
第126図　Ⅱ-B区23号住居……141
第127図　Ⅱ-B区23号住居と出土遺物(１)……142
第128図　Ⅱ-B区23号住居出土遺物(２)……143
第129図　Ⅱ-B区24号住居……144
第130図　Ⅱ-B区24号住居竈と出土遺物……145

第131図　Ⅱ－B区25号住居……146
第132図　Ⅱ－B区25号住居構築面と出土遺物……147
第133図　Ⅱ－B区26号住居……148
第134図　Ⅱ－B区26号住居と出土遺物……149
第135図　Ⅱ－B区27号住居……151
第136図　Ⅱ－B区27号住居出土遺物……152
第137図　Ⅱ－B区28号住居……153
第138図　Ⅱ－B区28号住居出土遺物……154
第139図　Ⅱ－B区29号住居……155
第140図　Ⅱ－B区29号住居出土遺物……156
第141図　Ⅱ－B区30号住居と出土遺物……157
第142図　Ⅱ－B区31号住居……158
第143図　Ⅱ－B区31号住居出土遺物……159
第144図　Ⅱ－B区32号住居と出土遺物……160
第145図　Ⅱ－B区33号住居と出土遺物……161
第146図　Ⅱ－B区34号住居……162
第147図　Ⅱ－B区34号住居貯蔵穴と出土遺物……163
第148図　Ⅱ－B区35号住居……164
第149図　Ⅱ－B区35号住居出土遺物……165
第150図　Ⅰ－A区36号住居出土遺物……165
第151図　Ⅰ－A区36号住居竈……166
第152図　Ⅰ－A区39号住居と出土遺物(1)……167
第153図　Ⅰ－A区39号住居出土遺物(2)……168
第154図　Ⅰ－A区40号住居……170
第155図　Ⅰ－A区40号住居出土遺物……171
第156図　Ⅱ－A区41号住居竈……171
第157図　Ⅱ－A区41号住居と出土遺物……172
第158図　Ⅰ－A区42号住居……173
第159図　Ⅳ－A区1号住居……174
第160図　Ⅳ－A区1号住居出土遺物……175
第161図　Ⅳ－A区2号住居と出土遺物……176
第162図　Ⅳ－A区3号住居……177
第163図　Ⅳ－A区3号住居出土遺物……178
第164図　Ⅳ－A区4号住居……180
第165図　Ⅳ－A区4号住居竈と出土遺物(1)……181
第166図　Ⅳ区4号住居出土遺物(2)……182
第167図　Ⅳ－A区5号住居……183
第168図　Ⅳ－A区5号住居と出土遺物……184
第169図　Ⅳ－A区6号住居……185
第170図　Ⅳ－A区6号住居出土遺物……186
第171図　Ⅰ－A区4号掘立柱建物と出土遺物……187
第172図　Ⅰ－B区4号井戸と出土遺物(1)……188
第173図　Ⅰ－B区4号井戸出土遺物(2)……189
第174図　Ⅱ－B区7号・9号井戸……190
第175図　Ⅳ－A区5号井戸……190
第176図　Ⅳ－A区5号井戸出土遺物……191
第177図　Ⅳ－B区7号井戸……191
第178図　Ⅳ－B区8号井戸と出土遺物……192
第179図　Ⅳ－A区12号井戸……193
第180図　Ⅳ－A区12号井戸出土遺物……194
第181図　Ⅳ－A区19号井戸と出土遺物……195
第182図　Ⅳ－A区20号井戸と出土遺物……196
第183図　Ⅳ－A区21号井戸と出土遺物(1)……197
第184図　Ⅳ－A区21号井戸出土遺物(2)……198
第185図　Ⅳ－A区21号井戸出土遺物(3)……199
第186図　Ⅳ－A区24号井戸……200
第187図　Ⅳ－A区24号井戸出土遺物……201
第188図　Ⅰ－A区22号土坑と出土遺物……202
第189図　Ⅰ－A区24号土坑と出土遺物……203
第190図　Ⅰ－A区146号土坑……203
第191図　Ⅰ－B区110号土坑と出土遺物……204
第192図　Ⅰ－A区149号土坑……205
第193図　Ⅰ－A区148号土坑と出土遺物……205
第194図　Ⅱ－B区83号土坑と出土遺物……206
第195図　Ⅱ－B区88号土坑と出土遺物……206
第196図　Ⅱ－B区89号土坑と出土遺物……207
第197図　Ⅱ－B区93号土坑と出土遺物……207
第198図　Ⅱ－B区94号土坑と出土遺物……208
第199図　Ⅱ－B区96号土坑……208
第200図　Ⅱ－B区96号土坑出土遺物……209
第201図　Ⅱ－B区97号土坑……209
第202図　Ⅱ－B区98・99号土坑と出土遺物……210
第203図　Ⅱ－B区104号土坑と出土遺物……211
第204図　Ⅱ－B区105号土坑と出土遺物……211
第205図　Ⅱ－B区127号土坑と出土遺物……212
第206図　Ⅱ－B区130号土坑と出土遺物……212
第207図　Ⅱ－A区147号土坑と出土遺物……213
第208図　Ⅳ－A区74号土坑と出土遺物……213
第209図　Ⅰ－A区3号溝と出土遺物……214
第210図　Ⅰ－B区8号溝と出土遺物……215
第211図　Ⅰ－A・B区9号溝……216
第212図　Ⅰ－A・B区9号溝出土遺物……217
第213図　Ⅰ・Ⅱ－B区7号溝出土遺物(1)……218
第214図　Ⅰ・Ⅱ－B区7号溝……219・220
第215図　Ⅰ・Ⅱ－B区7号溝出土遺物(2)……221
第216図　Ⅰ・Ⅱ－B区7号溝出土遺物(3)……222
第217図　Ⅰ－A・B区2号溝と出土遺物……225
第218図　Ⅳ－A区26・27・29～34・36・37号溝……227
第219図　Ⅳ－A区29号溝出土遺物……228
第220図　Ⅳ－A区30・31・33号溝出土遺物……229
第221図　Ⅰ－B区畠(1)……230
第222図　Ⅰ－B区畠(2)……231
第223図　西善尺可遺跡　中・近世遺構概念図……232・233
第224図　Ⅰ区1号館……234
第225図　Ⅰ区1号館礎土層断面(1)……235
第226図　Ⅰ区1号館礎土層断面(2)……236
第227図　Ⅰ区1号館1号掘立柱建物……237
第228図　Ⅰ区1号館2号掘立柱建物……238
第229図　Ⅰ区1号館1・2・3・4号柱穴列……239
第230図　Ⅰ・Ⅱ区2号館出土遺物……240
第231図　Ⅰ・Ⅱ区2号館……241・242
第232図　Ⅱ区3号館……243
第233図　Ⅱ区3号館礎土層断面……244
第234図　Ⅱ区3号館1号掘立柱建物……245
第235図　Ⅱ区3号館2号掘立柱建物……246
第236図　Ⅱ区3号館3号掘立柱建物……247
第237図　Ⅱ区3号館4号掘立柱建物……248
第238図　Ⅱ区3号館5号掘立柱建物……249
第239図　Ⅱ区3号館6号掘立柱建物……250
第240図　Ⅱ区3号館7号掘立柱建物……251
第241図　Ⅱ区3号館1・2・3号柱穴列……252
第242図　Ⅳ区4号館内部……254
第243図　Ⅳ区4号館全体図……255・256
第244図　Ⅳ区4号館17号溝土層断面……258
第245図　Ⅳ区4号館15・17号溝土層断面……259
第246図　Ⅳ区4号館14・25号溝土層断面……261
第247図　Ⅳ区4号館25・31・32号溝土層断面……262
第248図　Ⅳ区4号館13号溝土層断面……264
第249図　Ⅳ区4号館10・11・13号溝土層断面……265
第250図　Ⅳ区4号館9・12号溝土層断面……266
第251図　Ⅳ区4号館13・15・17号溝出土遺物(1)……266
第252図　Ⅳ区4号館13・15・17号溝出土遺物(2)……267
第253図　Ⅳ区4号館1号掘立柱建物……268
第254図　Ⅳ区4号館2号掘立柱建物(1)……269
第255図　Ⅳ区4号館2号掘立柱建物(2)……270
第256図　Ⅳ区4号館3号掘立柱建物……271
第257図　Ⅳ区4号館4号掘立柱建物(1)……272
第258図　Ⅳ区4号館4号掘立柱建物(2)……273
第259図　Ⅳ区4号館5号掘立柱建物……273
第260図　Ⅳ区4号館6号掘立柱建物(1)……274
第261図　Ⅳ区4号館6号掘立柱建物(2)と出土遺物……275
第262図　Ⅳ区4号館7号掘立柱建物(1)……276
第263図　Ⅳ区4号館7号掘立柱建物(2)……277
第264図　Ⅳ区4号館8号掘立柱建物……278
第265図　Ⅳ区4号館9号掘立柱建物……279
第266図　Ⅳ区4号館10号掘立柱建物……280

第267図　Ⅳ区4号館11号掘立柱建物（1）……281
第268図　Ⅳ区4号館11号掘立柱建物（2）……282
第269図　Ⅳ区4号館12号掘立柱建物……283
第270図　Ⅳ区4号館13号掘立柱建物……284
第271図　Ⅳ区4号館14号掘立柱建物……285
第272図　Ⅳ区4号館1号壁穴状遺構と出土遺物……286
第273図　Ⅳ区4号館2号壁穴状遺構……287
第274図　Ⅳ区4号館3号壁穴状遺構……288
第275図　Ⅳ区4号館1・2・3・4号柵穴列……289
第276図　Ⅳ区4号館5・6・7柱穴列……290
第277図　中内村前1号掘立柱建物……291
第278図　中内村前2号掘立柱建物・1号柱穴列……292
第279図　Ⅰ-A区1号掘立柱建物……293
第280図　Ⅰ-A区2号掘立柱建物……294
第281図　Ⅳ-A区15号掘立柱建物……295
第282図　Ⅰ-A区1号火葬跡……296
第283図　Ⅳ-A区1号火葬跡……296
第284図　Ⅳ-A区2号火葬跡……297
第285図　Ⅰ-A区1号井戸と出土遺物……298
第286図　Ⅰ-A区2号井戸と出土遺物……299
第287図　Ⅰ-A区3号井戸……299
第288図　Ⅱ-B区5号・6号井戸……300
第289図　Ⅰ-A区8号井戸……300
第290図　Ⅳ-A区1号井戸……301
第291図　Ⅳ-A区2号井戸……301
第292図　Ⅳ-A区3号井戸……302
第293図　Ⅳ-A区4号井戸……302
第294図　Ⅳ-A区6号井戸（1）……303
第295図　Ⅳ-A区6号井戸（2）と出土遺物……304
第296図　Ⅳ-B区9号井戸……305
第297図　Ⅳ-B区10号井戸……305
第298図　Ⅳ-B区11号井戸……305
第299図　Ⅳ-A区13号井戸……306
第300図　Ⅳ-B区14号井戸……306
第301図　Ⅳ-A区15号井戸……307
第302図　Ⅳ-A区18号井戸……307
第303図　Ⅳ-A区16号井戸と出土遺物……308
第304図　Ⅳ-A区22号井戸……309
第305図　Ⅳ-A区23号井戸……309
第306図　Ⅳ-A区26号井戸……310
第307図　Ⅳ-B区28・29号井戸……310
第308図　Ⅳ-B区28・29号井戸出土遺物……311
第309図　Ⅳ-A区29号井戸（1）……311
第310図　Ⅳ-A区29号井戸遺物出土状況と出土遺物（1）……312
第311図　Ⅳ-A区29号井戸出土遺物（2）……313
第312図　中内村前4号井戸……313
第313図　Ⅰ・Ⅱ区の土坑（1）……315
第314図　Ⅰ・Ⅱ区の土坑（2）……316
第315図　Ⅰ・Ⅱ区の土坑（3）……317
第316図　Ⅰ・Ⅱ区の土坑（4）……318
第317図　Ⅰ・Ⅱ区の土坑（5）……319
第318図　Ⅰ・Ⅱ区の土坑（6）……320
第319図　Ⅰ・Ⅱ区の土坑（7）……321
第320図　Ⅰ・Ⅱ区の土坑（8）……322
第321図　Ⅰ・Ⅱ区の土坑（9）……323
第322図　Ⅰ・Ⅱ区の土坑（10）……324
第323図　Ⅰ・Ⅱ区の土坑（11）……325
第324図　Ⅰ・Ⅱ区の土坑（12）……326
第325図　Ⅰ・Ⅱ区の土坑（13）……327
第326図　Ⅰ・Ⅱ区の土坑（14）……328
第327図　Ⅰ・Ⅱ区の土坑（15）……329
第328図　Ⅰ・Ⅱ区の土坑（16）……330
第329図　Ⅲ・Ⅳ区の土坑（1）……331
第330図　Ⅲ・Ⅳ区の土坑（2）……332
第331図　Ⅲ・Ⅳ区の土坑（3）……333
第332図　Ⅲ・Ⅳ区の土坑（4）……334
第333図　Ⅲ・Ⅳ区の土坑（5）……335
第334図　Ⅲ・Ⅳ区の土坑（6）……336
第335図　Ⅲ・Ⅳ区の土坑（7）……337
第336図　Ⅲ・Ⅳ区の土坑（8）……338
第337図　Ⅲ・Ⅳ区の土坑（9）……339
第338図　Ⅲ・Ⅳ区の土坑（10）……340
第339図　Ⅲ・Ⅳ区の土坑（11）……341
第340図　Ⅲ・Ⅳ区の土坑（12）……342
第341図　Ⅲ・Ⅳ区の土坑（13）……343
第342図　Ⅲ・Ⅳ区の土坑（14）……344
第343図　Ⅲ・Ⅳ区の土坑（15）……345
第344図　Ⅲ・Ⅳ区の土坑（16）……346
第345図　Ⅲ・Ⅳ区の土坑（17）……347
第346図　Ⅲ・Ⅳ区の土坑（18）……348
第347図　Ⅲ・Ⅳ区の土坑（19）……349
第348図　Ⅲ・Ⅳ区の土坑（20）……350
第349図　中内村前地区の土坑……351
第350図　Ⅰ～Ⅳ区の土坑出土遺物（1）……352
第351図　Ⅰ～Ⅳ区の土坑出土遺物（2）……353
第352図　Ⅰ～Ⅳ区の土坑出土遺物（3）……354
第353図　Ⅰ-A区1・4・30号溝……358
第354図　Ⅰ-A区5号・Ⅱ-B区15号溝・6号溝と出土遺物……359
第355図　Ⅱ区10・12・28・29号溝……360
第356図　Ⅳ-A区19号溝と出土遺物……361
第357図　Ⅱ区17～21号・23～27号・31～33号溝……363
第358図　Ⅱ区17～21号・25・26号溝土層断面……364
第359図　Ⅲ区1号～5号溝・7号溝……365・366
第360図　Ⅳ-A区18号溝・20号溝と出土遺物……367
第361図　Ⅳ-A区21・26号溝……368
第362図　Ⅳ-A区36号溝出土遺物（1）……369
第363図　Ⅳ-A区36号溝出土遺物（2）……370
第364図　中内村前地区の溝……371
第365図　西善尺司遺跡　低地概念図……372・373
第366図　Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区低地土層断面……374・375
第367図　Ⅰ区旧河道……376
第368図　Ⅱ区旧河道……377
第369図　Ⅰ・Ⅱ区黒泥層出土遺物（1）……378
第370図　Ⅰ・Ⅱ区黒泥層出土遺物（2）……379
第371図　Ⅰ区As-C下谷……380
第372図　Ⅱ区As-C下谷……381
第373図　Ⅰ区As-C下谷低列……382
第374図　Ⅰ・Ⅱ区As-C下出土遺物……383
第375図　Ⅰ区Hr-FA下水田……384
第376図　Ⅱ区Hr-FA水田……385
第377図　Ⅰ区As-B下水田……386
第378図　Ⅱ区As-B下水田……387
第379図　Ⅲ区As-B下水田……388
第380図　遺構外の遺物（1）弥生・古墳時代の土師器・須恵器・389
第381図　遺構外の遺物（2）奈良・平安時代……390
第382図　遺構外の遺物（3）奈良・平安時代……391
第383図　遺構外の遺物（4）中・近世の磁器……392
第384図　遺構外の遺物（5）中・近世の磁器……393
第385図　遺構外の遺物（6）中・近世の磁器……394
第386図　遺構外の遺物（7）中・近世の陶器・瓦等……395
第387図　遺構外の遺物（8）石製品・金属製品等……396

第4章　関連調査と結果……409
2．西善尺司遺跡におけるプラント・オパール分析……409
図1　Ⅱ区B谷土層断面の土層柱状図……409
図2　Ⅰ区A谷土層断面の土層柱状図……409
図3　Ⅰ区B谷土層断面の土層柱状図……409
図4　Ⅲ区A南壁の土層柱状図……409
図5　西善尺司遺跡Ⅱ区B谷土層断面における
　　プラント・オパール分析結果……411
図6　西善尺司遺跡Ⅰ区A谷土層断面における
　　プラント・オパール分析結果……411
図7　西善尺司遺跡Ⅱ区B谷土層断面における
　　プラント・オパール分析結果……412
図8　西善尺司遺跡Ⅲ区A南壁における
　　プラント・オパール分析結果……412

図9　植物珪酸体の顕微鏡写真……413
3．西善尺司遺跡出土木材の樹種同定
図1　Ⅰ-A区旧河道出土木平面図……416
図2　Ⅰ-A区旧河道杭列(sample, No.12,13,14,15,16)……417
図3　西善尺司遺跡出土木材組織顕微鏡写真……417
4．西善尺司遺跡炭化物密集地点の土壌中の全リン酸・全カルシウム濃度測定
図1　7号方形周溝墓主体部セクション……420
図2　7号方形周溝墓主体部平面図……420

表目次

第1表　西善尺司遺跡周辺の遺跡……12・13
第2表　西善尺司石器集中部石器属性表……26・27

第4章　関連調査と結果
1．西善尺司遺跡Ⅰ遺跡の土層とテフラ
表1　西善尺司Ⅰ遺跡のテフラ検出分析結果……405
2．西善尺司遺跡におけるプラント・オパール分析
表1　西善尺司遺跡におけるプラント・オパール分析……410
3．西善尺司遺跡出土木材の樹種同定
表1　西善尺司遺跡出土木材樹種同定結果一覧……415
4．西善尺司遺跡炭化物密集地点の土壌中の全リン酸・全カルシウム濃度測定
表1　西善尺司遺跡全リン酸－全カルシウム濃度測定結果……419

付図目次

付図1　西善尺司遺跡遺構図(Ⅰ区)
付図2　西善尺司遺跡遺構図(Ⅱ区)
付図3　西善尺司遺跡遺構図(Ⅲ区)
付図4　西善尺司遺跡遺構図(Ⅳ区)
付図5　西善尺司遺跡低地図(旧河道・As-C下谷・Hr-FA下水田)
付図6　西善尺司遺跡低地図(As-B下水田)

写真図版目次

PL　1．1．西善尺司遺跡空中写真(東から)
2．西善尺司遺跡空中写真(南から赤城山を望む)
PL　2．1．Ⅰ-A区低地土層断面(北壁)
2．Ⅱ-B区低地土層断面(北壁)
3．同　拡大写真(北壁)
4．Ⅲ-A区低地土層断面(南壁)
5．Ⅳ-A区台地土層断面(南壁)
6．Ⅰ-A区台地土層断面
7．同　拡大写真
8．Ⅳ-A区台地土層断面
PL　3．1．Ⅲ-A区石器集中部全景(南から)
2．同　遺物出土状況(南から)
3．同　遺物出土状況(南から)
4．同　遺物出土状況(南から)
5．同　出土遺物
PL　4．1．接合資料－1
2．縄文時代遺構外出土遺物
PL　5．1．Ⅱ-B区37号住居全景(西から)
2．同　住居構築面
3．同　炉土層断面
4．同　住居土層断面
5．同　周溝
PL　6．1．Ⅱ-B区37号住居遺物出土状況(1)
2．同　遺物出土状況(2)
3．同　遺物出土状況(3)
4．同　遺物出土状況(4)
5．同　遺物出土状況(5)
6．同　出土遺物(1)
PL　7．1．Ⅱ-B区37号住居出土遺物(2)
2．Ⅱ-B区38号住居全景(西から)
PL　8．1．Ⅱ-B区38号住居構築面(西から)
2．同　炭化材出土状況(西から)
3．同　炭化材出土状況(北西から)
4．同　遺物出土状況(南から)
5．同　遺物出土状況(南東から)
6．同　遺物出土状況(西から)
7．同　出土遺物
PL　9．1．1・2・3号方形周溝墓全景(東から)
2．1・2・3号方形周溝墓遠景(南から)
3．1号方形周溝墓土層断面A-A'
4．1・2号方形周溝墓土層断面A-A'
5．2号方形周溝墓土層断面D-D'
PL　10．1．3号方形周溝墓土層断面B-B'
2．同　土層断面C-C'
3．同　遺物出土状況
4．同　遺物出土状況
5．同　出土遺物
PL　11．1．4号方形周溝墓全景(東から手前13号方形周溝墓)
2．同　土層断面A-A'
3．同　土層断面B-B'
4．同　遺物出土状況(南辺付近)
5．同　遺物出土状況
PL　12．1．4号方形周溝墓遺物出土状況(南辺付近拡大)
2．同　出土遺物
3．5号方形周溝墓全景(南西から左7号方形周溝墓)
4．同　土層断面D-D'
5．同　土層断面B-B'
PL　13．1．5号方形周溝墓遺物出土状況
2．同　遺物出土状況
3．同　出土遺物
4．西善尺司遺跡方形周溝墓遠景(南から)
5．6号方形周溝墓遠景(北東から)
PL　14．1．6号方形周溝墓全景(北東から)
2．同　土層断面B-B'(中位はHr-FAの一次堆積)
3．同　土層断面C-C'(中位はHr-FAの一次堆積)
4．同　遺物出土状況(南西辺付近)
5．同　遺物出土状況(南東辺付近)
PL　15．1．6号方形周溝墓遺物出土状況

2. 同　遺物出土状況
3. 同　出土遺物

PL 16. 1. 6号方形周溝墓出土遺物

PL 17. 1. 7号方形周溝墓全景(南西から)
2. 5・7号方形周溝墓土層断面C-C′
3. 7号方形周溝墓土層断面B-B′
4. 同　主体部全景
5. 同　完掘状況

PL 18. 1. 7号方形周溝墓遺物出土状況
2. 同　出土遺物
3. 8号方形周溝墓全景(南から)
4. 同　土層断面B-B′
5. 同　土層断面D-D′
6. 同　遺物出土状況(北隅)
7. 同　出土遺物

PL 19. 1. 9号方形周溝墓全景
2. 同　土層断面D-D′
3. 同　土層断面E-E′
4. 同　出土遺物

PL 20. 1. 10号方形周溝墓全景
2. 同　土層断面B-B′
3. 同　土層断面D-D′
4. 周溝内土坑全景(南から)
5. 周溝内土坑土層断面(から)

PL 21. 1. 10号方形周溝墓遺物出土状況
2. 同　遺物出土状況(南西辺付近)
3. 同　遺物出土状況
4. 同　遺物出土状況(北東辺付近)
5. 同　遺物出土状況(S字甕出土状況)

PL 22. 1. 10号方形周溝墓出土遺物(1)

PL 23 1. 10号方形周溝墓出土遺物(2)
2. 11号方形周溝墓全景(北から)
3. 同　土層断面A-A′
4. 同　土層断面B-B′

PL 24. 1. 12号方形周溝墓全景(南から)
2. 同　土層断面C-C′
3. 同　土層断面D-D′
4. 同　遺物出土状況(南西辺付近)
5. 同　出土状況

PL 25. 1. 12号方形周溝墓遺物出土状況(南西辺を北から)
2. 同小形丸底土器出土状況
3. 同　出土遺物

PL 26. 1. 13号方形周溝墓全景(南から)
2. 同　土層断面A-A′
3. 同　出土遺物
4. 14号方形周溝墓全景(南から)
5. 同　土層断面B-B′
6. 同　出土状況(北辺付近)
7. 同　出土遺物

PL 27. 1. Ⅳ-A区35号井戸全景
2. 同　土層断面
3. Ⅱ-B区128・129号土坑土層断面
4. Ⅱ-A区132号土坑土層断面
5. Ⅳ-A区55号土坑(南から)
6. Ⅳ-A区122号土坑遺物出土状況(南から)
7. Ⅰ-B区128土坑出土遺物
8. Ⅱ-A区132土坑出土遺物
9. Ⅳ-A区122土坑出土遺物

PL 28. 1. Ⅳ-A区100号土坑全景
2. 同　遺物出土状況
3. Ⅳ-A区102号土坑全景
4. 同　遺物出土状況
5. Ⅳ-A区131号土坑全景
6. Ⅳ-A区100号土坑出土遺物
7. Ⅳ-A区102号土坑出土遺物
8. Ⅳ-A区131号土坑出土遺物

PL 29. 1. Ⅳ-A区115号土坑全景
2. 同　出土遺物
3. Ⅱ-B区158土坑出土遺物
4. Ⅱ-B区158土坑全景
5. Ⅳ-A区35号溝
6. Ⅱ-A区11号溝全景(南から)
7. Ⅲ区溝状遺構(北よりⅣ-B区を望む)
8. Ⅲ区溝状遺構土層断面B-B′(南から)

PL 30. 1. Ⅲ区溝状遺構(南西よりⅣ-A区を望む)
2. Ⅲ区溝状遺構(南西より中央部付近を望む)
3. 風倒木痕出土遺物
4. Ⅰ・Ⅱ区7号溝と集落群遺景
5. 平安時代の集落群遺景

PL 31. 1. Ⅰ-A区1号住居全景
2. 同　竈全景(西から)
3. 同　遺物出土状況
4. 同　出土遺物

PL 32. 1. Ⅰ-A区2号住居全景(西から)
2. 同　竈全景(西から)
3. 同　遺物出土状況
4. 同　出土遺物
5. Ⅰ-A区3号住居全景(西から)

PL 33. 1. Ⅰ-A区3号住居構築面全景(西から)
2. 同　竈全景(西から)
3. 同　3号住居竈土層断面(西から)
4. 同　遺物出土状況
5. 同　出土遺物
6. Ⅰ-B区4号住居全景(西から)
7. 同　竈全景(西から)

PL 34. 1. Ⅰ-B区4号住居貯蔵穴土層断面
2. 同　遺物出土状況
3. Ⅰ-A区5号住居全景(西から)
4. 同　構築面全景(西から)
5. 同　竈全景(西から)
6. 同　遺物出土状況
7. 同　出土遺物(1)

PL 35. 1. Ⅰ-A区5号住居出土遺物(2)
2. Ⅰ-B区6号住居全景(西から)
3. 同　竈全景(西から)
4. 同　遺物出土状況
5. 同　出土遺物

PL 36. 1. Ⅰ-B区7号住居全景(西から)
2. 同　竈全景(西から)
3. 同　貯蔵穴全景(西から)
4. 同　遺物出土状況(竈右袖付近)
5. 同　遺物出土状況

PL 37. 1. Ⅰ-B区7号住居出土遺物
2. Ⅰ-B区8号住居遺物出土状況
3. 同　住居全景(西から)
4. 同　遺物出土状況
5. 同　遺物出土状況

PL 38. 1. Ⅰ-B区8号住居遺物出土状況
2. 同　竈全景(西から)
3. 同　遺物出土状況
4. 同　出土遺物

PL 39. 1. Ⅰ-A区9号住居全景(南西から)
2. 同　構築面全景(南西から)
3. 同　遺物出土状況
4. 同　遺物出土状況
5. 同　出土遺物
6. Ⅰ-A区10号住居出土遺物

PL 40. 1. Ⅰ-A区10号住居全景(西から)
2. 同　竈全景(西から)
3. 同　遺物出土状況(竈前付近)
4. 同　出土遺物

PL 41. 1. Ⅰ-B区11号住居全景(西から)
2. 同　竈全景(西から)
3. 同　貯蔵穴全景
4. 同　遺物出土状況(貯蔵穴)
5. 同　出土遺物

PL 42. 1. I-B区12号住居全景(西から)
2. 同 構築面全景(西から)
3. 同 竈全景(西から)
4. 同 遺物出土状況
5. 同 貯蔵穴土層断面
6. 同 出土遺物

PL 43. 1. I-B区13号住居全景(西から)
2. 同 構築面全景(西から)
3. 同 竈全景(西から)
4. 同 遺物出土状況
5. 同 出土遺物

PL 44. 1. I-B区14号住居全景
2. 同 竈全景
3. 同 遺物出土状況(竈付近)
4. 同 出土遺物

PL 45. 1. I-B区15号住居全景(西から)
2. 同 構築面全景(西から)
3. 同 竈全景(西から)
4. 同 貯蔵穴全景(西から)
5. 同 遺物出土状況
6. 同 出土遺物

PL 46. 1. I-B区16号住居全景(西から)
2. 同住居セクション(西から)
3. 同 遺物出土状況
4. I-B区17号住居全景(西から)
5. 同 竈全景(西から)
6. 同 遺物出土状況
7. I-B区16号住居出土遺物
8. I-B区17号住居出土遺物

PL 47. 1. I-B区18号住居全景(西から)
2. 同 竈全景(西から)
3. 同 貯蔵穴全景(西から)
4. 同 貯蔵穴土層断面(西から)
5. 同 遺物出土状況
6. 同 遺物出土状況
7. 同 出土遺物

PL 48. 1. I-B区19号住居全景(西から)
2. 同 竈全景(西から)
3. 同 貯蔵穴全景(西から)
4. 同 出土遺物
5. II-B区20号住居全景(西から)
6. 同 竈全景(西から)
7. 同 出土遺物

PL 49. 1. II-B区21号住居全景(西から。南面のみ)
2. 同 住居全景(西から。全掘調査時)
3. 同 構築面全景(西から)
4. 同 住居土層断面(南から)
5. 同 貯蔵穴全景・遺物出土状況(北西から)
6. 同 竈全景(西から)
7. 同 住居貯蔵穴全景(西から)
8. 同 遺物出土状況

PL 50. 1. II-B区21号住居出土遺物

PL 51. 1. II-B区22号住居全景(西から)
2. 同 構築面(西から)
3. 同 竈全景(西から)
4. 同 竈土層断面(西から)
5. 同 出土遺物(1)

PL 52. 1. II-B区22号住居出土遺物(2)
2. II-B区23号住居全景(西から。右は34号住居)
3. 同 住居全景(南から)
4. 同 竈全景(西から)
5. 同 住居床下土坑土層断面(東から)
6. 同 遺物出土状況

PL 53. 1. II-B区23号遺物出土状況
2. 同 遺物出土状況
3. 同 遺物出土状況
4. 同 出土遺物
5. II-B区24号住居出土遺物

PL 54. 1. II-B区24号住居全景(西から)
2. 同 構築面全景(西から)
3. 同 竈全景(西から。煙道部残存)
4. 同 竈完掘(西から)
5. 同 竈構築面全景(西から)
6. 同 竈土層断面A-A'(南から)
7. 同 竈土層断面B-B'(西から)
8. 同 遺物出土状況

PL 55. 1. II-B区25号住居全景(西から)
2. 同 構築面・床下土坑土層断面(西から)
3. 同 出土遺物
4. II-B区26号住居全景(西から)
5. 同 竈全景(西から)
6. 同 貯蔵穴全景(西から)
7. 同 出土遺物

PL 56. 1. II-B区27号住居全景(南西から)
2. 同 構築面全景(南西から)
3. 同 竈全景(西から)
4. 同 貯蔵穴全景(北西から)
5. 同 出土遺物

PL 57. 1. II-B区28号住居全景(西から)
2. 同 竈全景(西から)
3. 同 竈全景(南から)
4. 同 竈土層断面(西から)
5. 同 遺物出土状況
6. 同 遺物出土状況
7. 同 出土遺物
8. II-B区29号住居出土遺物

PL 58. 1. II-B区29号住居遺跡
2. 同 住居全景(西から)
3. 同 構築面(西から)
4. 同 竈全景(西から)
5. 同 遺物出土状況(南から)

PL 59. 1. II-B区30号住居全景(西から)
2. 同 竈全景(西から)
3. 同 貯蔵穴全景(北西から)
4. 同 出土遺物
5. II-B区31号住居全景(西から)
6. 同 遺物出土状況
7. 同 遺物出土状況
8. 同 出土遺物

PL 60. 1. II-B区32号住居全景(竈のみ。南から)
2. II-B区33号住居全景(西から)
3. 同 構築面全景 (西から)
4. 同 構築面遺物出土状況
5. 同 II-B区34住居全景(左は23号住居)
6. II-B区32号住居出土遺物
7. II-B区33号住居出土遺物
8. II-B区34号住居出土遺物

PL 61. 1. II-B区35号住居全景(西から)
2. 同 竈全景(北西から)
3. 同 竈遺物出土状況
4. 同 遺物出土状況
5. I-A区36号住居全景(竈のみ。西から)
6. 同 竈構築面全景
7. II-B区35号住居出土遺物
8. I-A区36号住居出土遺物

PL 62. 1. I-A区39号住居遺物出土状況全景(西から)
2. 同 住居全景(西から)
3. 同 竈全景(西から)
4. 同 遺物出土状況(北西隅付近)
5. 同 遺物出土状況
6. 同 出土遺物

PL 63. 1. I-A区39号住居遺物出土遺物
2. I-A区40号住居全景(西から)
3. 同 構築面全景(西から)
4. 同 遺物出土状況
5. 同 出土遺物

PL 64. 1. II-A区41号住居全景(西から)
2. 同 構築面全景(西から)
3. 同 竈全景(西から)
4. 同 貯蔵穴土層断面(西から)
5. I-A区42号住居全景(西から)
6. 同 遺物出土状況
7. II-A区41号住居出土遺物

PL 65. 1. IV-A区1号住居構築面全景(西から)
2. 同 構築面土層断面(南から)
3. 同 竈土層断面
4. 同 出土遺物
5. IV-A区2号住居全景(西から)
6. 同 竈全景(西から)
7. 同 遺物出土状況
8. 同 出土遺物

PL 66. 1. IV-A区3号住居全景(西から)
2. 同 竈全景(西から)
3. 同 竈土層断面(西から)
4. 同 出土遺物

PL 67. 1. IV-A区4号住居全景(西から)
2. 同 竈全景(西から)
3. 同 貯蔵穴全景(北から)
4. 同 遺物出土状況
5. 同 出土遺物

PL 68. 1. IV-A区5号住居全景(西から)
2. 同 竈全景(西から)
3. 同 竈土層断面B-B'(西から)
4. 同 床下土坑土層断面
5. 同 出土遺物
6. IV-A区6号住居全景(西から)
7. 同 床下土坑全景
8. 同 出土遺物

PL 69. 1. I-A区藤川左岸部全景(南から)
2. I-A区4号掘立柱建物全景と出土遺物

PL 70. 1. I-B区4号井戸全景
2. 同 土層断面
3. 同 遺物出土状況
4. I-B区4号井戸出土遺物
5. II-B区7・9号井戸全景(東から)
6. II-B 7号井戸土層断面(南から)

PL 71. 1. IV-A区5号井戸全景(西から)
2. 同 土層断面(東から)
3. IV-B区7号井戸全景(南から)
4. IV-B区8号井戸全景(南から)
5. 同 遺物出土状況 (東から)
6. 同 土層断面
7. IV-A区5号井戸出土遺物
8. IV-B区8号井戸出土遺物

PL 72. 1. IV-A区12号井戸全景(西から)
2. 同 土層断面(南から)
3. IV-A区19号井戸全景(南から)
4. 同 戸土層断面(南から)
5. 同 出土遺物
6. IV-A区12号井戸出土遺物

PL 73. 1. IV-A区20号井戸全景(南から)
2. 同 土層断面(南から)
3. 同 遺物出土状況
4. 同 出土遺物
5. IV-A区21号井戸全景(南から)
6. 同 礫出土状況(南から)
7. 同 遺物出土状況
8. 同 遺物出土状況

PL 74. 1. IV-A区21号井戸出土遺物
2. IV-A区24号井戸全景(南から)
3. 同 土層断面(南から)
4. 同 出土遺物

PL 75. 1. I-A区22号土坑全景(南西から)
2. 同 土層断面
3. 同 遺物出土状況
4. I-A区22号土坑出土遺物
5. I-A区24号土坑全景(南から)
6. 同 土層断面
7. I-A区24号土坑出土遺物

PL 76. 1. I-B区110号土坑全景(南から)
2. I-A区149号土坑全景(南から)
3. I-A区148号土坑全景(南から)
4. II-B区83号土坑全景(南から)
5. II-B区88号土坑全景(南から)
6. I-B区110号土坑出土遺物
7. I-A区148号土坑出土遺物
8. II-B区83号土坑出土遺物
9. II-B区88号土坑出土遺物

PL 77. 1. II-B区89号土坑全景(南から)
2. II-B区94号土坑全景(南から)
3. II-B区93号土坑全景(南から)
4. II-B区93・94号土坑全景
5. II-B区96号土坑全景(東から)
6. II-B区89号土坑出土遺物
7. II-B区93号土坑出土遺物
8. II-B区94号土坑出土遺物
9. II-B区96号土坑出土遺物

PL 78. 1. II-B区97号土坑土層断面(西から)
2. II-B区98号土坑遺物出土状況
3. II-B区99号土坑遺物出土状況
4. II-B区98・99号土坑全景(北から)
5. II-B区98・99号土坑出土遺物
6. II-B区104号土坑出土遺物
7. II-B区105号土坑出土遺物
8. II-B区130号土坑出土遺物
9. II-B区147号土坑出土遺物

PL 79. 1. II-B区127号土坑全景(南から)
2. IV-A区74号土坑全景(南から)
3. 同 遺物出土状況(南から)
4. II-B区127号土坑出土遺物
5. IV-A区74号土坑出土遺物
6. I-A区3号溝全景(南東から)

PL 80. 1. I-A区3号溝遺物出土状況
2. 同 出土遺物
3. I-B区8号溝全景(東から)
4. 同 出土遺物
5. I-A 9・10号溝全景(南から)
6. 同 出土遺物
7. II-B区9・13号溝全景(北から)

PL 81. 1. II-B区7号溝遺景(北から)
2. II-A区7号溝遺景(東から)
3. 同 遺物出土状況(西から東側を望む)
4. 同 出土遺物

PL 82. 1. II-A・B区7号溝出土遺物
2. I-A・B区2号溝出土遺物

PL 83. 1. IV-A区31・32号溝全景(南から)
2. IV-A区29・30号溝全景(南から)
3. IV-A区33・34・36号溝状全景(南から)
4. IV-A区33号溝全景(北から)
5. IV-A区33・36号溝全景(南から)
6. IV-A区31・36号溝全景(南から)
7. IV-A区29号溝遺物出土状況
8. 同 遺物出土状況

PL 84. 1. IV-A区31号溝出土遺物
2. IV-A区33号溝出土遺物
3. IV-A区29号溝出土遺物
4. IV-A区30号溝出土遺物
5. I-B区畠全景(北から)
6. 同 全景(東から)

PL 85. 1. I区1号館全景

PL 86. 1. 1・2・3号館全景
2. I・II区2号館東側(II区を東から望む)

3. Ⅰ・Ⅱ区2号館中央部(東から)
4. Ⅰ・Ⅱ区2号館西側(Ⅰ区を西から望む)
5. Ⅰ・Ⅱ区2号館出土遺物

PL 87. 1. Ⅱ区3号館全景 (南から)
PL 88. 1. Ⅳ区4号館全景
PL 89. 1. Ⅳ区4号館15・17号溝北側連結部(南から)
2. 同 南側連結部(西から)
3. 同 北側連結部土層断面(南から)
4. 同 15号溝全景
5. 同 人口部(西から)
6. 同 館内部遺景
7. 同 土層断面A-A′(南から)
8. 同 土層断面B-B′(南から)
PL 90. 1. Ⅳ区4号館全景(南から)
PL 91. 1. Ⅳ区25号溝土層断面B-B′(南から)
2. 同 土層断面E-E′(南から)
3. Ⅳ区13・26号溝土層断面(南から)
4. Ⅳ区13号溝土層断面C-C′(北から)
5. 同 土層断面D-D′(南から)
6. Ⅳ区12号溝土層断面C-C′(南から)
7. Ⅳ区17号溝出土遺物
8. 4号館1号掘立柱建物出土遺物
PL 92. 1. Ⅳ区4号館1号竪穴状遺構全景(南から)
2. 同 出土遺物
3. Ⅳ区4号館2号竪穴状遺構全景(東から)
4. Ⅳ区4号館3号竪穴状遺構(南から)
5. Ⅰ-A区1号掘立柱建物全景(南から)
6. Ⅰ-A区2号掘立柱建物全景(北東から)
7. Ⅳ-A区15号掘立柱建物全景(南から)
8. Ⅰ-A区1号火葬墓全景(西から)
PL 93. 1. Ⅳ-A区1号火葬墓全景(西から)
2. Ⅳ-A区2号火葬墓全景(西から)
3. Ⅰ-A区1号井戸全景(西から)
4. Ⅰ-A区2号井戸全景(東から)
5. Ⅰ-A区3号井戸土層断面(東から)
6. Ⅰ-A区1号井戸出土遺物
7. Ⅱ-B区5・6号井戸全景(南から)
8. Ⅰ-A区2号井戸出土遺物
PL 94. 1. Ⅰ-A区8号井戸全景(南から)
2. Ⅳ-A区1号井戸土層断面(南から)
3. Ⅳ-A区2号井戸土層断面(南から)
4. Ⅳ-A区3号井戸全景(西から)
5. Ⅳ-A区6号井戸全景(西から)
PL 95. 1. Ⅳ-A区6号井戸土層断面(東から)
2. 同 礫出土状況
3. 同 完掘(西から)
4. Ⅳ-A区6号井戸出土遺物
5. Ⅳ-A区4号井戸全景(西から)
6. Ⅳ-B区9号井戸全景(南から)
7. Ⅳ-B区10号井戸全景(南東から)
8. Ⅳ-B区11号井戸全景(南東から)
PL 96. 1. Ⅳ-A区13号井戸全景(東から)
2. 同 土層断面(東から)
3. Ⅳ-B区14号井戸全景(西南から)
4. 同 土層断面(西南から)
5. Ⅳ-A区15号井戸全景(東から)
6. 同 土層断面(東から)
7. Ⅳ-A区18号井戸全景(南から)
8. 同 土層断面(西から)
PL 97. 1. Ⅳ-A区16号井戸全景(南から)
2. Ⅳ-A区22号井戸土層断面(北から)
3. Ⅳ-A区16号井戸出土遺物
4. Ⅳ-A区23号井戸全景(南から)
5. 同 土層断面(南から)
PL 98. 1. Ⅳ-B区27・28号井戸全景
2. 同 出土遺物
3. Ⅳ-A区29号井戸全景(南から)
4. 同 出土遺物

PL 99. 1. 中内村前Ⅰ-B区全景(東から。中央はⅣ区31号溝)
2. 中内村前Ⅰ-B区全景(西から)
3. 中内村前Ⅰ-B区西部(東から)
4. 中内村前Ⅰ-B区中央部(北から)
PL 100. 1. Ⅰ-A区1号土坑全景(南から)
2. Ⅰ-B区36号土坑土層断面
3. Ⅱ-B区80号土坑全景(北から)
4. Ⅱ-B区91号土坑全景(西から)
5. Ⅱ-B区92号土坑全景(南から)
6. Ⅱ-B区134・135号土坑全景(南から)
7. Ⅰ-A区23号土坑全景(南から)
8. Ⅱ-B区81号土坑全景(南から)
PL 101. 1. Ⅱ-B区85号土坑全景(南から)
2. Ⅱ-B区107号土坑全景(西から)
3. Ⅱ-B区126号土坑全景(南から)
4. 同 遺物出土状況
5. Ⅰ-A区2号土坑全景(南から)
6. Ⅰ-A区3号土坑全景(北から)
7. Ⅰ-A区4号土坑全景(北から)
8. Ⅰ-A区26・27号土坑全景(西南から)
PL 102. 1. Ⅰ-B区28号土坑土層断面(南から)
2. Ⅰ-B区29号土坑土層断面(南から)
3. Ⅱ-B区37号土坑土層断面(南から)
4. Ⅰ-A区72号土坑全景(東から)
5. Ⅰ-B区86号土坑全景(北から)
6. Ⅰ-A区76号土坑全景(北から)
7. Ⅱ-B区95号土坑全景(南から)
8. Ⅱ-B区100号土坑全景(西から)
PL 103. 1. Ⅱ-A区133号土坑全景(南から)
2. Ⅱ-B区84号土坑全景(北から)
3. Ⅱ-B区77号土坑全景(西から)
4. 同 遺物出土状況
5. Ⅰ-B区5・6・7・8・63・68・69号土坑全景
PL 104. 1. Ⅱ-B区75号土坑全景(北から)
2. Ⅱ-B区82号土坑全景(西から)
3. Ⅰ-B区31・32・33・34号土坑全景(南から)
4. Ⅰ-B区40・61・117号土坑全景(南から)
5. Ⅰ-B区62号土坑土層断面(南から)
PL 105. 1. Ⅰ-B区64・65号土坑全景
2. Ⅰ-B区66号土坑全景(南東から)
3. Ⅰ-A区70・71号土坑全景(東から)
4. Ⅰ-B区43・44・45・46・47・54号土坑全景
PL 106. 1. Ⅰ-B区41・55・56・102・103号土坑全景(南から)
2. Ⅰ-B区42・44・45・46号土坑全景(南から)
3. Ⅰ-B区10・11・12・13・14・15・73号土坑
4. Ⅰ-B区11・12・13・14・15号土坑(南から)
5. Ⅰ-B区11・13・14・15号土坑土層断面
PL 107. 1. Ⅳ-A区66・67号土坑土層断面
2. Ⅳ-A区76号土坑全景(西から)
3. Ⅳ-A区84号土坑全景(東から)
4. Ⅳ-A区126号土坑全景(東から)
5. Ⅳ-A区130号土坑全景(南から)
6. Ⅳ-A区57号土坑全景(東から)
7. Ⅲ-A区4号土坑全景(東から)
8. Ⅳ-A区94号土坑全景(南から)
PL 108. 1. Ⅳ-A区108号土坑全景(東から)
2. Ⅳ-A区128号土坑全景(南東から)
3. Ⅳ-A区129号土坑セクション(東から)
4. Ⅲ-A区3号土坑全景(東から)
5. Ⅳ-A区33号土坑全景(南から)
6. Ⅳ-A区65号土坑土層断面(西から)
7. Ⅳ-A区71号土坑全景(西から)
8. Ⅳ-A区85号土坑全景(西から)
PL 109. 1. Ⅳ-A区79号土坑全景(南から)
2. Ⅳ-A区91号土坑全景(西から)
3. Ⅳ-B区97号土坑全景(南東から)
4. Ⅳ-A区101号土坑全景(東から)
5. Ⅳ-A区107号土坑全景(南から)

6. Ⅳ-A区110号土坑全景(東から)
7. Ⅳ-A区118号土坑遺物出土状況
8. Ⅳ-A区123号土坑全景(北東から)

PL 110. 1. Ⅳ-A区124号土坑全景(南西から)
2. Ⅳ-A区132号土坑全景(東から)
3. Ⅳ-A区135号土坑全景(南東から)
4. Ⅳ-A区137号土坑全景(東から)
5. Ⅳ-A区139・140・141土坑全景(北から)
6. Ⅲ-A区19号土坑全景(西から)
7. Ⅳ-A区142号土坑全景(南から)
8. Ⅳ-A区52・53・54号土坑全景(西から)

PL 111. 1. Ⅳ-A区106号土坑全景(南から)
2. Ⅳ-A区70号土坑全景(南から)
3. Ⅳ-A区95・96号土坑全景(東から)
4. Ⅳ-A区136号土坑全景(西から)
5. Ⅳ-A区11・12・13・14号土坑全景(東から)

PL 112. 1. Ⅳ-A区31号土坑全景(東から)
2. Ⅳ-A区34号土坑全景(東から)
3. Ⅳ-A区49号土坑全景(北から)
4. Ⅳ-A区50・51号土坑全景(東から)
5. Ⅳ-A区45号土坑全景(南から)
6. Ⅳ-A区47号土坑全景(東から)
7. Ⅳ-A区45・46・48号土坑(西から)
8. Ⅳ-A区43・44号土坑全景(北から)

PL 113. 1. Ⅳ-A区15号土坑全景(東から)
2. Ⅳ-A区27号土坑全景(南から)
3. Ⅳ-A区16・17・19・20号土坑全景(北から)
4. Ⅳ-A区28号土坑全景(西から)
5. Ⅳ-A区29号土坑全景(西から)

PL 114. 1. Ⅳ-A区26号土坑全景(西から)
2. Ⅳ-A区56号土坑全景(東から)
3. Ⅳ-A区63号土坑全景(西から)
4. Ⅳ-A区68号土坑全景(南から)
5. Ⅳ-A区69号土坑全景(西南から)
6. Ⅳ-A区73号土坑全景(南から)
7. Ⅳ-A区78号土坑全景(東から)
8. Ⅳ-B区98号土坑土層断面(南から)

PL 115. 1. Ⅳ-A区112号土坑全景(西から)
2. Ⅳ-A区109号土坑全景(東から)
3. Ⅳ-A区117号土坑全景(南から)
4. Ⅳ-A区23号土坑土層断面(東から)
5. Ⅳ-A区21号土坑全景(東から)
6. Ⅳ-A区60号土坑全景(南から)
7. Ⅳ-A区72号土坑全景(東から)
8. Ⅳ-A区41号土坑遺物出土状況

PL 116. 1. Ⅳ-A区41号土坑全景(南から)
2. Ⅳ-A区32号土坑全景(南から)
3. Ⅳ-A区61号土坑全景(南から)

PL 117. 1. Ⅳ-A区87号土坑全景(南東から)
2. 同　土層断面(東から)
3. 同　遺物出土状況
4. Ⅳ-A区40号土坑全景(東から)
5. Ⅳ-A区105号土坑全景(南から)
6. Ⅳ-A区42号土坑全景(南から)

PL 118. 1. Ⅳ-A区104土坑全景(南から)
2. 同　遺物出土状況
3. Ⅳ-A区29号井戸・104号土坑全景(南から)
4. Ⅳ-B区143号土坑全景(北西から)

PL 119. 中世以降の土坑出土遺物

PL 120. 1. Ⅳ-A区19号溝全景(南から)
2. 同　遺物出土状況(北から)
3. Ⅳ-A区20号溝全景(東から)
4. Ⅳ-A区19号溝出土遺物
5. Ⅳ-A区20号溝出土遺物
6. Ⅳ-A区18号溝全景(南から)

PL 121. 1. Ⅱ-B区28・29号溝全景(北西から)
2. Ⅱ-A区中世溝群(北から)
3. Ⅱ-A区中世溝群(東から)
4. Ⅱ-A区中世溝群(南東から)
5. Ⅱ-B区中世溝群(西南から)

PL 122. 1. Ⅱ-A区15号溝全景(北から)
2. Ⅱ-B区6号溝出土遺物
3. Ⅱ-A区12号溝全景(北から)
4. Ⅱ-A区10号溝全景(北から)

PL 123. 1. Ⅱ-B区25・33号溝全景(北から)
2. Ⅱ-B区24号溝全景(南西から)
3. Ⅱ-B区27号溝全景(北から)
4. Ⅱ-B区17・20・21・23・26号溝全景(北から)

PL 124. 1. Ⅳ-A区26号溝全景(南から)
2. 同　遺物出土状況(南から)
3. 同　出土遺物

PL 125. 1. Ⅰ-A区旧河道全景(南から)
2. Ⅰ-B区旧河道全景(北から)
3. Ⅱ-B区旧河道全景(東から)
4. Ⅰ-A区低地南壁土層断面(北から)
5. Ⅰ-A区旧河道木材出土状況

PL 126. 1. Ⅱ区旧河道全景(北から)
2. Ⅰ・Ⅱ区黒泥層出土遺物

PL 127. 1. Ⅰ・Ⅱ区As-C下谷全景航空写真
2. 同　全景航空写真(北東から)
3. Ⅱ-B区As-C下谷遺物出土状況(南から)
4. Ⅰ-A区低地土層断面
5. Ⅱ-B区低地北壁土層断面(南から)

PL 128. 1. Ⅰ-A区As-C下谷杭列(北から)
2. 同　杭列検出状況
3. As-C谷出土遺物

PL 129. 1. Ⅰ-A区Hr-FA下水田全景(北から)
2. Ⅱ-B区Hr-FA下水田全景(北から)

PL 130. 1. ⅠB区Hr-FA下水田全景(南から)
2. ⅡB区Hr-FA下水田全景(北から)
3. ⅠB区Hr-FA下水田検出状況
4. Ⅰ-B区Hr-FA水田全景
5. Ⅰ-A区As-B下水田全景(北から)
6. ⅢB区As-B下水田水口検出状況
7. 同　As-B下水田検出状況
8. 同　As-B下水田検出状況

PL 131. 1. ⅠB区As-B下水田全景航空写真(南から)
2. ⅡB区As-B下水田全景航空写真(南から)
3. ⅢB区As-B下水田全景航空写真(南から)

PL 132. 遺構外の遺物(1)

PL 133. 遺構外の遺物(2)

PL 134. 遺構外の遺物(3)

第１章　調査に至る経緯と経過

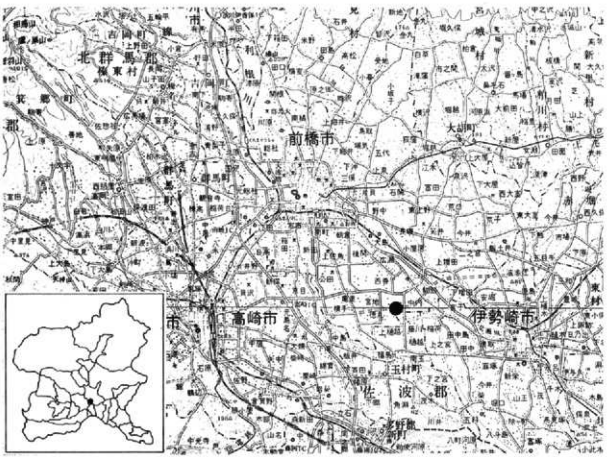
第１節　発掘調査に至る経緯

北関東自動車道（高崎〜伊勢崎）の建設に伴い、平成６年度から該当地域に所在する埋蔵文化財発掘調査について、群馬県教育委員会スポーツ文化部文化財保護課では、県土木部道路建設課高速道路対策室、及び原因者である日本道路公団東京第二建設局と、調査の実施について協議をおこなった。協議の結果、本線部分の発掘調査は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託実施する事に決定した。そして、平成７年６月１日付けで、県教育委員会と本事業団との間で、「北関東自動車道(高崎〜伊勢崎)地域埋蔵文化財発掘調査」についての契約を締結した。契約時の調査対象遺跡は35遺跡、対象面積は687,429㎡で、平成11年度末の調査終了予定であった。

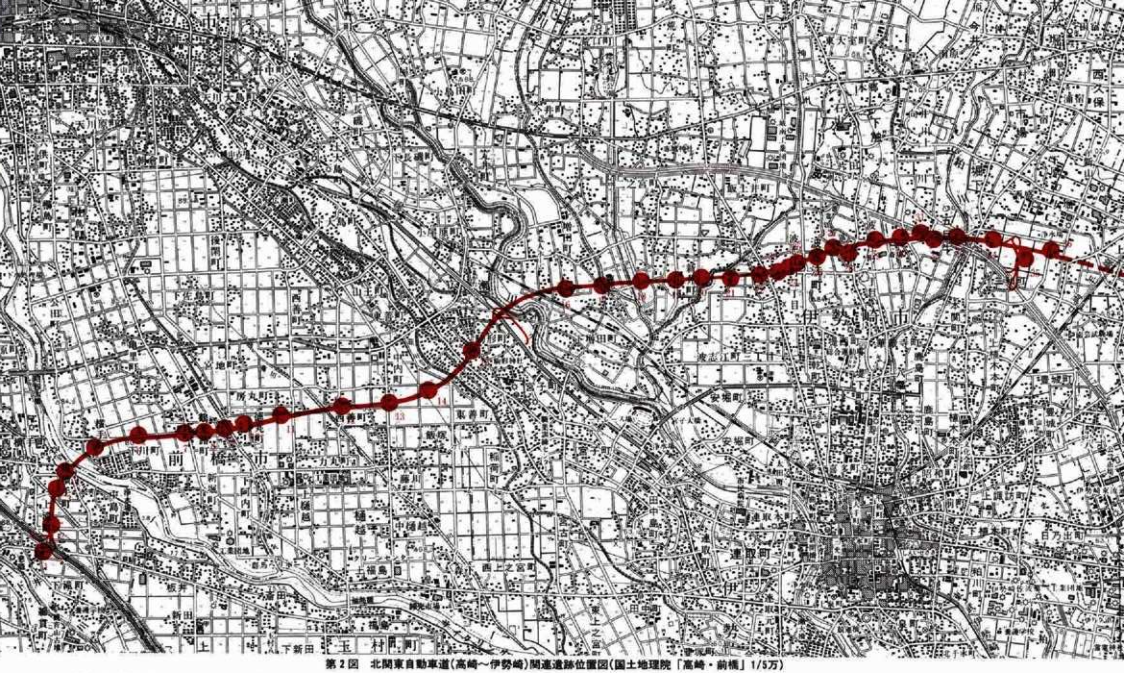
以上の経過を踏まえ、本遺跡は県文化財保護課により平成８年６月に試掘調査が行われ、古墳時代前期から近世に至る集落及び水田遺構が確認された。この結果を受け、発掘調査計画が検討され、平成９年10月より本調査を実施する事となった。

その後、発掘調査工程及び工事工程の調整については、日本道路公団、県文化財保護課、事業団の三者で協議を行い事業を進めた。

発掘調査を実施するにあたり、発掘調査の仕様書を作成し、それに基づき発掘調査を実施した。その詳細については、北関東自動車道（高崎〜伊勢崎）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第１集の「上滝五反畑遺跡」第１章を参照していただきたい。



第１図　遺跡の位置図(国土地理院「中部宮・長野」1/20万)



第２図　北関東自動車道（高崎～伊勢崎）関連遺跡位置図（国土地理院「高崎・前橋」1/5万）

1．上滝五反田遺跡（KT-001）
2．上滝後町北遺跡（KT-010）
3．宿横手三波川遺跡（KT-020）
4．西横手遺跡（KT-030）
5．横手井戸南遺跡（KT-040）
6．横手湯田遺跡（KT-050）
7．村中遺跡（KT-060）
8．西田遺跡（KT-070）
9．鶴光路模横遺跡（KT-080）
10．徳丸高堰遺跡（KT-090）
11．徳丸仲田遺跡（KT-100）
12．西善尺司遺跡（KT-110）
13．中内村前遺跡（KT-120）
14．前田遺跡（KT-130）
15．駒形模岸遺跡（KT-140）
16．上増田遺跡（KT-150）
17．下増田遺跡（KT-151）
18．下増田越渡遺跡（KT-160）
19．萩原遺跡（KT-170）
20．新井大田関遺跡（KT-180）
21．波志江中野面遺跡（KT-190）
22．波志江西屋敷遺跡（KT-200）
23．岡屋敷遺跡（KT-210）
24．波志江中屋敷西遺跡（KT-220）
25．波志江中屋敷遺跡（KT-230）
26．波志江中屋敷東遺跡（KT-240）
27．伊勢山遺跡（KT-250）
28．波志江西宿遺跡（KT-260）
29．波志江中宿遺跡（KT-270）
30．五目牛新田遺跡（KT-280）
31．五目牛南組遺跡（KT-290）
32．福荷山古墳遺跡（KT-291）
33．五目牛清水遺跡（KT-300）
34．光仏房遺跡（KT-310）
35．舞台遺跡（KT-320）
36．大井戸遺跡（KT-330）

第2節　発掘調査の経過

1．遺跡名称及び調査区の設定

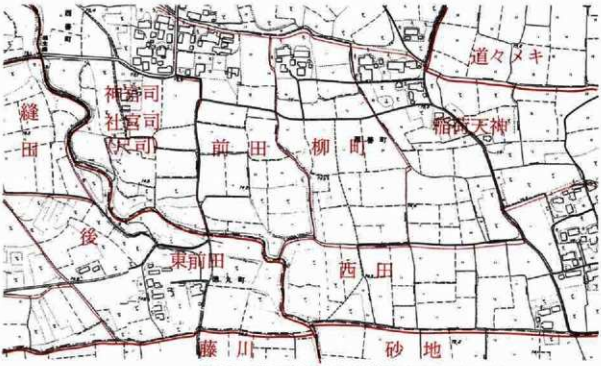
本遺跡は、前橋市の南東部に位置し、西善町地内にある。この前橋市南東部の水田地帯には、島状に点在する集落が見られ、路線はその中の島状集落南辺部を通過する。遺跡名は、大字小字併記により西善尺司遺跡とした。

調査範囲は、西側を南流する藤川左岸部から東に400m程伸びた所に字境があり、中内村前遺跡が所在する。藤川右岸部には徳丸仲田遺跡が所在する。

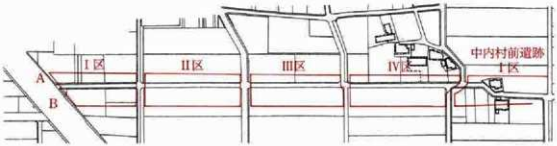
遺跡地は、圃場整備により100m単位で東西南北に農道及び市道が走り、基盤の目状に整然と区画され、遺跡内にも農道及び市道が東西南北に走る。

発掘調査に際して、この農道及び市道により分断された範囲を細分し、南北道路を調査区の境に利用し、藤川左岸部より東に向かってⅠ区・Ⅱ区・Ⅲ区・Ⅳ区に分けた。（第4図参照）

本遺跡の調査範囲は、表面積で21,370m²程であったが、調査において浅間・榛名両火山噴火火山灰層に埋もれた面など複数面の遺構調査面が検出された。このことから、各面毎に調査を終了させ、最終的には表面積の倍の44,102m²の調査を行うこととなった。（第1章第4節「遺跡の基本土層」参照）



第3図　西善尺司遺跡　周辺地域字図（昭和43年前橋市計画図S=1/500）



第4図　西善尺司遺跡　調査区図（S=1/2000）

２．発掘調査の経過

《平成９年度》

発掘調査は、平成９年10月より調査担当者として２名で大型掘削機械（ユンボ）を入れ、Ⅰ区より表土掘削を開始し、事務所用地の整地建設を行い、本調査の準備を進めた。その後、10月中旬より発掘作業員を入れた調査を開始した。

10月31日に日本道路公団、県文化財保護課、事業団と前橋市の４者により調整会議が行われた。

協議事項として、工事計画ではⅠ区西側の藤川に架かる橋梁部分の工事を渇水期に完了させたいとの意向により、工事最小範囲で右岸側20m部分の明け渡しが必要との案が示された。協議の結果、調査もその部分を最優先に進めることとなった。優先部分の調査は、平成10年１月に終了させることができ、同月末に明け渡しを行った。また、Ⅰ区南東部に一部未解決の用地が488㎡程残っていたが、平成10年１月下旬に解決し、調査が開始できた。

その他、同日の会議に同席した前橋市より、北関東自動車道路線北側に前橋市（以下：市）が側道を計画しており、その部分の発掘調査を市で行う予定が示され、11月に市の文化財担当者と調査方法等について打ち合わせをした。

調査については、９年度中にⅠ区・Ⅱ区の調査を進め、10年度にⅢ区・Ⅳ区へ移行していく予定であったが、Ⅰ区・Ⅱ区境付近に台地が広がり、遺構の重複が激しいため思うように進まなかった。

平成10年１月は記録的な大雪に見舞われ、作業を中止する日があった。また、１月より集落及び方形周溝墓群の調査に入り、作業員を増員し調査に当たり、３月に担当者１名を加え３名で調査を進めた。

《平成10年度》

調査体制を２班相当に増班し、担当者４名と発掘作業員を増やし、平成９年度からの継続でⅠ区・Ⅱ区に入り、Ⅲ区についても調査を開始した。

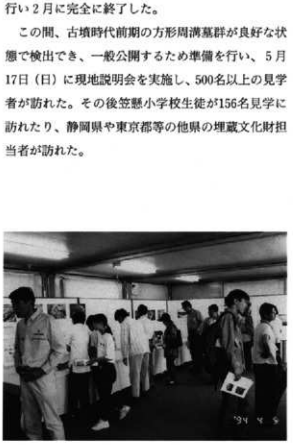
４月当初、藤川際の部分が拡張されその部分の緊急調査を行った。

５月以降調査は予定通り進み、８月末にはⅠ区・Ⅱ区・Ⅲ区の調査を終了させ明け渡しを行える予定となったが、一部Ⅰ区からⅡ区にかけての台地上を東西南北に走る農道下に遺構が密集する状況があるため、公団と協議し８月以降の農道閉鎖後の短期間で調査を行えることとなった。Ⅰ区からⅢ区の調査については、９月に終了させることができた。

９月以降は、Ⅳ区と中内村前遺跡Ⅰ区の調査に入り、その間何度か文化財側と公団側との会議がもたれ、調査工程と工事工程の調整が行われた。

12月25日にⅣ区の調査を終了させ西善尺司遺跡の調査が終了した。その後、埋め戻しや事務所解体を行い２月に完全に終了した。

この間、古墳時代前期の方形周溝墓群が良好な状態で検出でき、一般公開するため準備を行い、５月17日（日）に現地説明会を実施し、500名以上の見学者が訪れた。その後笠懸小学校生徒が156名見学に訪れたり、静岡県や東京都等の他県の埋蔵文化財担当者が訪れた。



発掘調査日誌抄

《平成９年度》

10月６日(月)　西善尺司遺跡調査開始。須田・坂口がⅠ-Ａ区藤川左岸の表土掘削と遺構確認にあたる。

10月13日(月)　齋藤・利岡、福島久保田遺跡調査班が合流する。齋藤・須田で本格的な調査を開始する。

10月16日(木)　Ⅰ-Ａ区全体を表土掘削し、Ⅰ区西台地では平安時代の住居跡・方形周溝墓、低地ではAs-Ｂ下水田を検出した。

10月20日(月)　低地中央部をトレンチ調査する。Hr-FA、As-Cの一次堆積層を確認し、As-Ｂ水田下に埋没谷があることを確認した。

10月23日(木)　Ⅰ-Ａ区に引き続きⅠ-Ｂ区の表土掘削を行い、As-Ｂ下水田を検出した。しかし、一部未買収地があり調査に着手できない範囲がある。また方形周溝墓・住居・土坑等の発掘を開始した。

10月31日(金)　前橋市教育委員会との調整会議が開かれた。隣接する北側側道部分について、市教委が11月中旬より着手し、既に表土掘削が終わっている藤川部分については双方で遺構を分けることとした。遺構は、市教委が住居、事業団が方形周溝墓とし、今後またがる遺構については、そのつど調整することとする。市教委調査分の側道は、プレハブ前(駐車場)も砂石を剥ぎ、明け渡す。

11月18日(火)　前橋市教育委員会(山武考古学研究所)測道部分発掘調査開始。

11月25日(火)　山武発掘、一時終了。

12月11日(木)　Ⅱ-Ｂ区の表土掘削を行う。

12月26日(金)　年内調査終了。

１月５日(月)　調査再開。

１月７日(水)　藤川橋梁工事着手。前橋市教育委員会、測道発掘再開。

１月20日(火)　Ⅰ-Ｂ区未買収地が解決。調査に着手する。

１月26～28日(月～水)　Ⅰ-Ａ区藤川護岸部分、緊急に調査を行う。舗装除去後、土坑・掘立柱建物・溝等を確認。調査終了後公団へ明け渡し。

２月中旬～４月中旬　Ⅰ・Ⅱ区の住居群の調査を行う。

３月２日(月)　石田　真合流。年度末までの１ヶ月間、Ⅰ・Ⅱ区の住居群の調査に参加する。

《平成10年度》

４月１日(水)　西善尺司遺跡２班体制になり、作業員も増員する。西善尺司遺跡Ⅰ(齋藤　利岡・須田　貞幸)、西善尺司遺跡Ⅱ(桜井　美枝・石川　雅俊)となる。

４月上～下旬　Ⅲ区As-Ｂ下水田調査。

４月20日(月)　Ⅰ・Ⅱ区道路下調査開始。

４月22日(水)　Ⅳ-Ｂ区表土掘削。

４月23日(木)　Ⅳ-Ｂ区表土掘削。南側部分のみで調査日程の関係により一時中断。

５月12日(火)　大胡町立滝久保小学校、社会科見学のため来跡。

５月13日(水)　公団との会議。

５月14日(水)　大胡町立滝久保小金丸分校の６年生が見学。
またこの日、前橋市役所記者クラブにて、西善尺司・徳丸仲田遺跡の方形周溝墓・縄文時代草創期土器について記者発表。

５月16日(土)　西善尺司遺跡現地説明会を開催。見学者数500人を越える。

５月22日(金)　東京都埋文見学。

６月２日(火)　笠懸町立笠懸小学校、五十嵐教頭・大川先生以下156名(６年)見学。

６月３～５日(水～金)　事業団断任職員研修。

６月４日(木)　古環境研究所(早田氏)来跡。テフラ同定・プラント・オパール分析のサンプリング。

６月９日(火)　パレオ・ラボ(松葉氏)樹種同定のサンプリング。

６月15日(月)　Ⅰ-Ｂ区明け渡し。

６月19日(金)　静岡埋文調査研究所、佐野五十三氏来跡。

７月６日(月)　芦屋市教委文化財課、森岡秀人氏来跡。

７月８日(木)　中村前遺跡Ⅰ区、表土剥ぎ。

８月３日(月)　高崎女子校２年生　羽鳥さん現場体験。

８月10日(月)　中内村前Ⅰ区、表土剥ぎ。

８月18～21日(火～金)　Ⅰ・Ⅱ区道路下表土剥ぎ。

９月１日(火)　Ⅳ-Ａ区表土掘削。

９月９日(木)　道路下終了。Ⅰ-Ａ区埋め戻し。

９月11日(金)　中内村前Ⅰ区、住宅跡地表土掘削。遺構確認。

９月24日(木)　Ⅳ-Ｂ区表土剥ぎ。Ⅳ区館跡を調査。

11月12日(木)　行程会議。

11月24日(火)　中内村前Ⅰ区、公団明け渡し。

12月22日(火)　Ⅳ-Ｂ区埋め戻し。

12月25日(金)　Ⅳ-Ａ区東側埋め戻し後、公団へ引き渡し。

《平成11年度》

１月８～29日　Ⅳ区を中心に発掘を進める。また旧石器試掘トレンチ調査を行う。

１月29日(金)　現場作業終了。

２月２日(火)　西善尺司遺跡Ⅳ区引き渡し。

２月５日(金)　西善尺司遺跡全調査終了。

第３節　調査の方法

１．グリッドの設定

当遺跡では、国家座標を用いて遺構及び出土遺物の位置等を表し、図化及び取り上げ作業を行った。

当初は、北関東自動車道関連遺跡で使用されている国家座標のＸ軸、Ｙ軸座標値の下３桁併記を考えたが、集落遺跡の調査であり、遺構外出土遺物等の出土位置を示す場合や土器註記等で数字が並びすぎるため従来のアルファベットと数字の併記で表すグリッドを設置することとした。

調査工程では、藤川際のＩ区より調査を開始し、順次西に向かい調査を進めていく工程を組んだが、グリッド設定に当たり、国家座標Ｘ軸・Ｙ軸の進行方向である南から北、東から西方向に進む座標値と同一方向に進む表示とした。

グリッド起点は、本遺跡と中内村前遺跡Ｉ区が調査範囲であったため、中内村前遺跡Ｉ区がカバーできる範囲で起点を決めた。

グリッド呼称については、５ｍを最小単位として方眼を組み、基点を南東隅に置いた。

座標基点は、Ｘ軸＝37.150

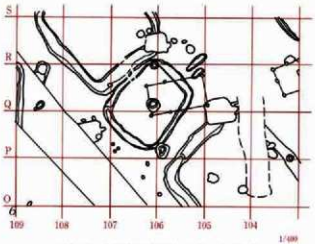
Ｙ軸＝-63.450

とし、

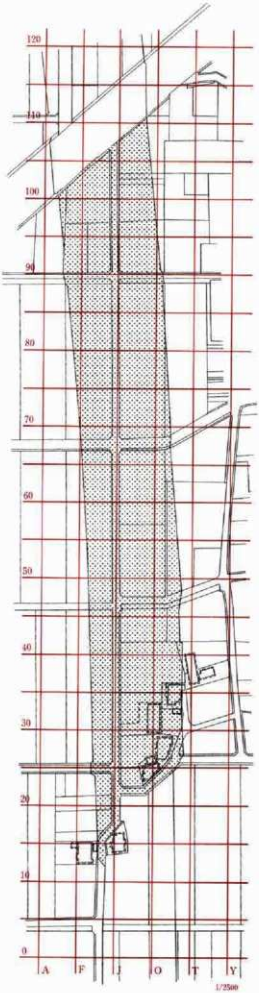
Ｘ軸＝アルファベットのＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ……

Ｙ軸＝数字の１・２・３・４……

を用いて、南東隅を基点とした。



第５図　西善尺司遺跡　グリッド設定図

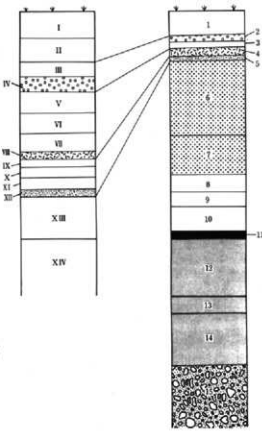


第4節　遺跡の基本土層

西善尺司遺跡は前橋台地の東南端に位置している。本遺跡周辺では、昭和40年代に圃場整備が行われ、発掘前は北西から南東にかけて緩やかに傾斜する水田地帯であったが、今回の調査により平安時代頃までは低地と台地が入り組む複雑な地形であることが確認された。以下本遺跡の基本土層について概観していくが、低地部と台地部では基本土層が異なるため個別に述べてゆく。

台地部　台地部は主に水成堆積と考えられるローム・粘質土・礫層で構成されている。主な遺構確認面は黄褐色ローム（6層）の上面である。現地表から20cmほどの表土を除去するとAs-B（2層）が一次堆積しているが、上層は攪拌されておりⅣ区では検出できなかった。灰褐色ローム（7層）下層にはAs-YP（9・10層）が一次堆積していた。直下に泥炭（11層）が堆積しており、木片が出土した。なお9層上層にはAs-YP二次堆積層（8層）が確認され、隣接する徳丸仲田遺跡では縄文草創期の遺物が出土している。土層から台地部は一定の水流がある低湿地が、概ね7層堆積頃より徐々に離水し形成されたと考えられる。

低地部　低地部は黄褐色ローム堆積後、開析された小谷である。開析後は黒泥が堆積する比較的水流の緩やかな地形であったと考えられる。低地部からはAs-B（Ⅱ層）、Hr-FA（Ⅷ層）・As-C（Ⅹ層）のそれぞれ一次堆積層を確認した。Hr-FA・As-B層直下ではそれぞれ水田を検出したが、As-C直下では水田耕作は行われていない。Ⅴ～Ⅶ層は洪水起源による堆積と考えられるが一次堆積ではなく、耕作の継続により数回の洪水砂を絶えず攪拌しつつ形成された地層と考えられる。



低地部

Ⅰ　現代の耕作土
Ⅱ　As-Bを多く含む砂質土
Ⅲ　As-B（一次堆積）
Ⅳ　As-B下水田耕作土
Ⅴ　灰～褐灰色土
Ⅵ　灰褐色土
Ⅶ　暗灰～暗灰褐
Ⅷ　Hr-FA（一次堆積）
Ⅸ　Hr-FA下水田耕作土
Ⅹ　As-Cを含む黒色土
Ⅺ　黒泥
Ⅻ　As-C（一次堆積）
XIII　黒泥
XIV　暗褐色粘土層（礫を含む）

台地部

1　現代の耕作土
2　As-B（一次堆積）
3　As-B下水田耕作土
4　灰褐色粘質土（Hr-FA・泥流起源の褐色土を含む）
5　暗褐色砂質土（As-Cを含む）
6　黄褐色ローム
7　灰白色ローム
8　As-YP（二次堆積）
9　As-YPアッシュ
10　As-YPパミス
11　泥炭層
12　暗褐色粘土層
13　暗褐色砂層
14　褐色粘土層
15　礫層

第6図　西善尺司遺跡　基本土層概念図

第2章　遺跡の環境

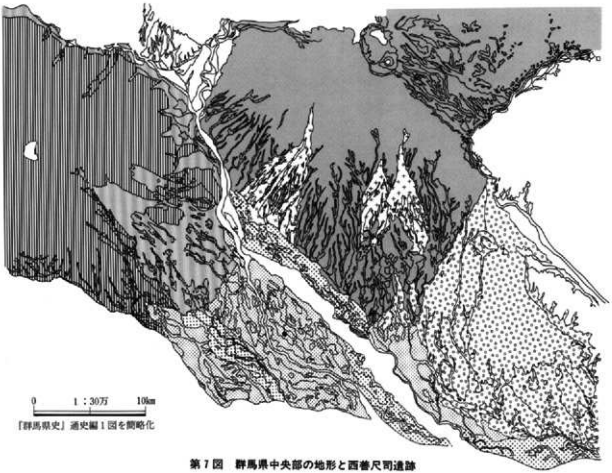
1．地理的環境

西善尺司遺跡は、県北の赤城山と榛名山の山麓の間から利根川が関東平野に流れ出した所に広がる緩傾斜の台地に立地する（第7図）。この台地は「前橋台地」と呼ばれ、現在、前橋市や高崎市といった群馬県の中心地域が立地しているが、古代においても上野国府がおかれるなど重要な地域であった。

前橋台地の形成　前橋台地の形成は「前橋泥流」と呼ばれる浅間山の山体崩壊による岩屑なだれに起因する。その発生年代は約2万年前と考えられている。泥流堆積直後から、流水による浸食が始まったようであるが、上流の流域面積の広い利根川などは急速に深い谷を形成していったものの、前橋泥流堆積面上に水源をもつ小河川は硬く締まった泥流堆積物を彫り込むことができず網状に流れ、深い谷を形成することはなかった。

現利根川右岸では、陣馬岩屑なだれと同一事件で堆積したと考えられる相馬ヶ原扇状地が形成され、榛名山東南麓の地形は一変した。その堆積年代は1.4万年前と推定される。このときの堆積物により、当時の利根川（古利根川）も広瀬川低地帯に変流したものと想定されている。その後の前橋台地では、浸食された窪地に前橋泥炭層が形成された。このことから当時の前橋台地の環境は湿地であったといえる。

以上のような度重なる泥流の堆積、河川による浸食、その後の湿地化という前橋台地の形成過程は長い間人間生活にとっては不適切な土地であった。



第7図　群馬県中央部の地形と西善尺司遺跡

利根川の変遷　現在の利根川は前橋台地をほぼ二分する形で南流している。しかし、利根川は前橋台地形成時から数度の変遷を経ていることが近年分かっている。

当初、利根川(古利根川)は現在の井野川付近を南流していたと考えられる。相馬ヶ原扇状地を形成した陣馬岩屑なだれの堆積により、それまでの河道が埋まり、赤城山よりに押しやられ広瀬川低地帯の方に流路を変えたことは既に述べた。その後、利根川は現在の河道に移るが、変流した年代や要因は未だはっきりしない。現在のところ、天文年間の洪水による河川争奪が原因とする説が最も有力視されている。しかし人工的に開削された可能性も残されている。

西善尺司遺跡の地形　西善尺司遺跡は、このように形成された前橋台地の東南端に立地する。本遺跡は前橋市市街地の南東約4kmに位置し、市域の南東部にあたる。遺跡の南側は佐波郡玉村町に接している。標高は約74m程である。本遺跡周辺は圃場整備が進み一面の水田地帯になっているが、発掘調査の結果平安時代頃までは小谷が網流し、台地部と低地部が入り組む複雑な地形を形成していることが明らかになった。

本遺跡で確認された2本の小谷は黒泥で埋まっており、同層からは縄文時代中期頃の遺物が少量ながらも出土していることから、少なくとも縄文時代中期頃には谷は浸食から堆積へと変わっていたと考えられる。小谷はその後As-C、Hr-FAといった数度の降灰と度重なる洪水等により、As-B降下時の平安時代末期頃までにはほとんど埋まってしまう。

現在は群馬県の中心地域が立地する前橋台地であるが、本格的な人間活動が見られるのは弥生末～古墳時代初頭以降からである。本遺跡でも弥生時代の遺構は検出されず、As-C降下後の古墳時代前期に、方形周溝墓群が形成され、同時に低地部では水田耕作が行われたことがプラント・オパール分析の結果、判明している。

しかし近年、藤川を挟んで隣接する徳丸仲田遺跡では縄文時代草創期の遺物が出土しており、また本遺跡でも縄文時代早～中期と考えられる石器製作址が検出された。安定した生活環境か否かは今後の出土例にもよるが、前橋台地における人間活動が少なくとも縄文時代にまでさかのぼることを示唆するものとして注目される。

名　称	略　称	給源火山	噴出年代
浅　間　A　軽　石	As-A	浅間山	A.D.1783
浅　間　B　軽　石	As-B	浅間山	A.D.1108
榛名二ッ岳伊香保テフラ	Hr-FP	榛名山	6世紀中葉
榛名二ッ岳渋川テフラ	Hr-FA	榛名山	6世紀初頭
浅　間　C　軽　石	As-C	浅間山	3世紀後半
浅間一板鼻黄色軽石	As-YP	浅間山	1.3～1.4万年前

第8図　西善尺司遺跡で確認された示標テフラ

参考文献

『群馬県史』通史編1原始古代Ⅰ　1990
『前橋市史』通史編1原始古代中世　1987

第2節　歴史的環境

西善尺司遺跡が立地する前橋台地東部は、前橋市街地の南に広がる水田地帯である。本節では西善尺司遺跡を理解するために西は利根川、東は広瀬川低地帯により区切られた地域と玉村町の一部を併せた前橋台地東部（概ね旧郡の那波郡）の歴史的環境について述べていきたい。

旧石器～縄文時代　前橋台地では、旧石器の遺跡は確認されていない。縄文時代の遺跡は、下斉田・滝川A遺跡（2）、滝川C遺跡（3）、六供中京安寺遺跡（4）などで縄文時代の遺物が表面採集される程度で、本格的な遺構の検出は少ないようである。これは当時の前橋台地の地理的環境が人類生活に不適であったためと考えられていたが、近年西善尺司遺跡に隣接する徳丸仲田遺跡で縄文時代草創期の土器と石器群が出土し、また本遺跡でも縄文時代前～中期と考えられる石器集中部が検出されている。今後の資料の増加に注目したい。

弥生時代　前橋台地東部では、弥生時代の遺跡はほとんど確認されていない。このことは新保田中村前遺跡や日高遺跡などの立地する前橋台地西部と対照的である。現在まで一万田遺跡（5）で検出されている弥生時代後期の再葬墓が遺構として確認できるのみである。

古墳時代　古墳時代になると遺跡数が急激に増加する。前期では群馬県内最古段階の定型化した古墳である前橋天神山古墳（18）・前橋八幡山古墳（19）が造墓される。またほぼ同時期に本遺跡（1）を含み、櫛島川端（6）・公田池尻（7）・福島稲荷木遺跡（9）などの集落が開始される。中期では遺跡数が減少し、櫛島・川端遺跡（6）・公田池尻遺跡（7）で集落が検出されたにとどまる。また松原Ⅲ遺跡（17）では石製模造品の工房址が確認されている。後期では、金冠塚（23）・天川二子山（24）古墳などが築造され、低地部ではHr-FA・Hr-FP下水田が検出されるがまとまった集落の検出は以外に少ない。

奈良・平安時代　奈良時代では、遺跡数がやや増加し生川遺跡（8）、後閑団地遺跡（14）、六供下堂木遺跡（15）などで集落が検出されている。特筆すべきは砂町遺跡（11）で検出された道路跡である。直線的で両側に側溝を持ち、130mにわたって確認された。この道路跡は、高崎情報団地遺跡や牛堀・矢ノ原ルートにより推定される東山道ルート上にあたっており、今後の研究成果に注目したい。

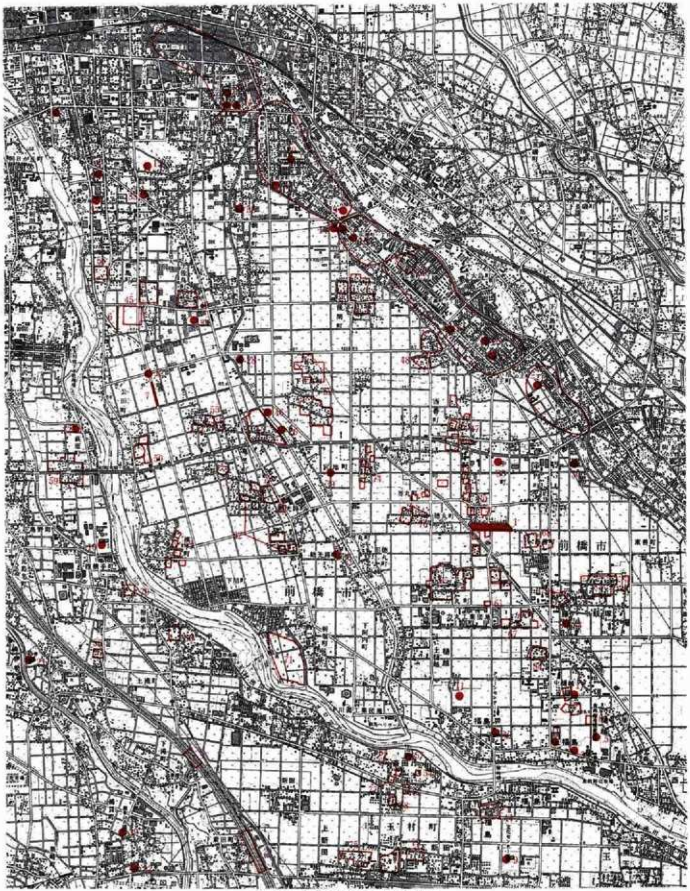
平安時代になるとさらに遺跡数が増加する。前述の遺跡だけでなく、前田遺跡(30)、木ノ宮遺跡(31)、神人村遺跡（32）などほとんどの微高地上に集落が拡大していく。低地部ではAs-B下水田が検出されるようになる。この頃の畦はほぼ南北を向いており、条里制の痕跡をみることができる。

中・近世　前橋台地東部の低地帯は、県内でも環濠遺構が密集している地域の一つである。現在でも亀里環濠遺構群（55）の天神屋敷では二重に囲繞する堀をみることができる。西善尺司遺跡は旧西善環濠遺構群（須田屋敷）(80）の範囲内にあり、本遺跡で検出された館跡はいずれも未発見のものであった。築造時期や築造者については不明な点が多く、南玉館（原武屋敷）や観照寺屋敷などは平安期に遡る伝承をもつものもあるがはっきりしない。田口下屋敷(54)、萩原城（69）、力丸城（65）、新堀城（71）などおおむね戦国期に築造されたものが多い。

近世では、天明3（1783）年、浅間山の大噴火に伴う火山灰と泥流により覆われた遺跡が多く見つかっている。特に利根川が大きく東に蛇行し、その攻撃面にあたる玉村地域で顕著である。上福島に位置する柄田遺跡では田の草取り時についた足跡が良好に残っており、稲の間を蛇行状に歩く様子が確認できた。

参考文献

『前橋市史』通史編1原始古代中世　1987
『玉村町史』通史編　上巻　1992
『群馬県の中世城館跡』　1990



第9図　前橋台地東部の遺跡分布図

前橋台地東部の主な遺跡

No.	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳時代						奈良	平安	As-B	中近世	As-A	備考
						前期	As-C	中期	後期	Hr-FA	Hr-FP						
1	西善尺司遺跡	前橋市 西善町		○		○	As-C 降下後	○	○				○	○	○		
2	下青田・滝川A遺跡	高崎市 青田町		○		○							○				
3	滝川C遺跡	高崎市 上滝町		○		○							○				
4	六供中宮安寺遺跡	前橋市 六供町		○		○			○				○		○		
5	一万田遺跡	佐波郡 玉村町 福島			○								○				再葬墓
6	樽島・川端遺跡	前橋市 樽島町				○	As-C 降下後	○	○	○	○		○	○	○		
7	公田池尻遺跡	前橋市 上佐鳥町				○	As-C 降下後			○			○	○			
8	生川遺跡	前橋市 南町				○		○	○			○	○				
9	福島福間木遺跡	佐波郡 玉村町 上福島				○						○	○	○	○		
10	西横手遺跡	前橋市 西横手町				○				○				○			
11	砂町遺跡	佐波郡 玉村町 上福島				○							○				東山道。古墳時代前期の木橋。
12	公田東遺跡	前橋市 公田町				○											
13	萩原遺跡遺跡	前橋市 萩原町				○				○	○					○	復旧調
14	後閑遺跡遺跡	前橋市 後閑町				○						○	○				
15	六供下宮本遺跡	前橋市 六供町				○				○		○	○	○			
16	山王若宮遺跡	前橋市 山王町				○			○								
17	松原田遺跡	佐波郡 玉村町 植木				○		○	○				○				石製模造品工房址
18	前橋天神山古墳	前橋市 広瀬町				○											
19	前橋八幡山古墳	前橋市 朝倉町				○											
20	朝倉II号墳	前橋市 朝倉町				○											円墳
21	元島名将軍塚古墳	高崎市				○											
22	不動山古墳	高崎市 綿貫町						○									前方後円墳
23	金冠塚古墳	前橋市 山王町								○							前方後円墳
24	天川二子山古墳	前橋市 文京町								○							前方後円墳
25	大塚北古墳	前橋市 山王町								○							
26	川曲遺跡	前橋市 下佐鳥町								○							
27	県立文書館遺跡	前橋市 文京町								○					○		
28	下佐鳥遺跡	前橋市 下佐鳥町								○							
29	綿貫観音山古墳	高崎市 綿貫町								○							
30	前田遺跡	前橋市 東善町											○	○			
31	木ノ宮遺跡	前橋市 広瀬町											○				
32	神人村遺跡	佐波郡 玉村町 福島											○				
33	藤川前遺跡	佐波郡 玉村町 藤川前												○			
34	上佐鳥中原前遺跡	前橋市 上佐鳥町												○			
35	六供下宮本田遺跡	前橋市 六供町												○			
36	西田遺跡	前橋市 親光団町												○			
37	中大門遺跡	前橋市 六供町												○			
38	西三俣遺跡	前橋市 中内町												○			
39	宮地中田遺跡	前橋市 宮地町												○			
40	金免遺跡	佐波郡 玉村町 福島												○			
41	苑前町遺跡	佐波郡 玉村町 上福島												○			
42	前橋城址（亀里町内城）	前橋市 亀里町													○16C		三輪石丹
43	前守廻り遺跡	前橋市 朝倉町													○		

No.	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳時代									中近世	As-A	備考
						前期	As-C	中期	後期	Hr-FA	Hr-FP	奈良	平安	As-B			
44	上福島の砦	佐賀郡玉村町 福島													○		福島元連　郡波氏一族。
45	福島屋敷	前橋市 上佐鳥町													○		福島氏
46	頭町内城遺跡	前橋市 亀里町													○		
47	西善寺廃遺構群	前橋市 西善町													○		6か所の遺構。
48	山王廃寺集落	前橋市 山王町													○		惣堀、別に２か所の廃寺跡。
49	中沢屋敷	前橋市 上佐鳥町													○		金屋製に関連あり。
50	二公田廃寺遺構群	前橋市 公田町													○		
51	後閑廃寺集落	前橋市 後閑町													○		惣堀。５か所の廃寺跡。
52	下佐鳥廃寺集落	前橋市 下佐鳥町													○		数多くの宅地が共有の堀で囲まれている。
53	朝倉廃寺遺構群	前橋市 朝倉町													○		
54	田口下屋敷	佐賀郡玉村町 倉田													○16C		田口の新編用とする。
55	亀里廃寺遺構群	前橋市 亀里町													○		天神屋敷は二重堀で保存良好。
56	江原屋左衛門屋敷	高崎市 上滝町													○16C末		江原屋左衛門
57	田口下屋敷跡	佐賀郡玉村町 芥田													○		
58	上條島屋敷	前橋市 條島町													○16C		牛込氏
59	萩原城	高崎市 萩原町													○16C		萩原地蔵。
60	後閑大屋敷	前橋市 広瀬町													○		
61	東力丸廃寺遺構群	前橋市 力丸町													○		
62	鶴光路亀里廃寺遺構群	前橋市 鶴光路亀里町													○		堀、14か所の廃寺遺構。
63	温井西屋敷	佐賀郡玉村町 倉田													○		温井弥兵衛か？
64	温井東屋敷	佐賀郡玉村町 倉田													○		温井弥兵衛か？
65	力丸城	前橋市 力丸町													○15･16C		力丸氏
66	田口屋敷	高崎市 中島町													○16C		田口業拍
67	横尺東廃寺遺構群	前橋市 徳光町													○		近年開寺埋める。
68	西善寺廃遺構群	前橋市 西善町													○		天神のものは、西井源神屋となる。
69	横手廃遺構群	高崎市 横手町													○近世？		防水の小型遺構。
70	新居屋敷	高崎市 横手町													○		新井喜左衛門
71	新郷城(郷土城)	前橋市 新郷町													○16C		郡氏(郡氏館城？)利根川の氾濫で消滅。
72	岡田屋敷	前橋市 亀里町													○		
73	藤川廃寺集落	佐賀郡玉村町 藤川													○		
74	宮宮地廃寺遺構群	前橋市 宮地町													○		
75	与穴屋敷	佐賀郡玉村町 与穴分													○～天正末期		早川与穴は和田与穴
76	屠丸東廃寺遺構群	前橋市 屠丸町													○		
77	町田屋敷	佐賀郡玉村町 倉田													○		町田氏
78	石原屋敷	佐賀郡玉村町 倉田													○		石原氏　寛文の頃石原左右衛門はここの住かりか。
79	玉村館	佐賀郡玉村町 下新田													○～享徳４年		近世、伊奈半十郎陣屋となる。
80	日西寺廃遺構群(聖屋敷)	前橋市 西善町													○16C		須田氏　天正10年、北条氏間柳城はここか。
81	阿左美館	佐賀郡玉村町 横越													○13～16世紀		藤原那波氏　百軍館。花代塚あり。
82	田村屋敷	佐賀郡玉村町 倉田													○		田村甚兵衛・田村甚右衛門
83	新塚廃遺構群(聖屋敷)	佐賀郡玉村町 新塚													○天正年間		宇津木氏　惣堀も認められる。
84	中横越屋敷	佐賀郡玉村町 横越													○		
85	(阿左美廃寺遺構群)	佐賀郡玉村町 横越													○		
86	天川居館	前橋市文京(天川)町													○		S 56年一部発掘調査。

第3章 調査の内容

第1節 遺跡の概要

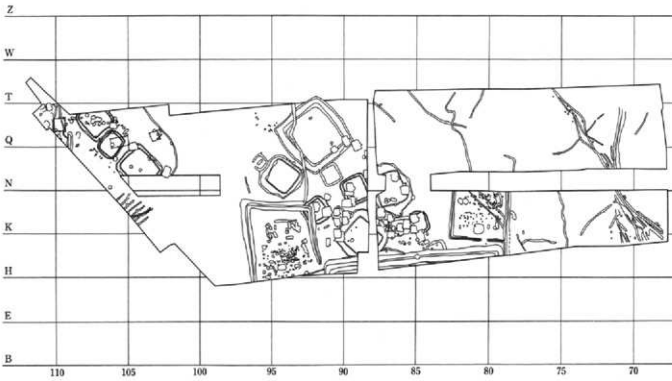
西善尺司遺跡では、縄文時代から近世に至るまでの多くの遺構・遺物が検出された。本章では、検出された遺構・遺物を縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中・近世に時代区分し掲載する。また低地部に関しては別に項を立て述べる。本節では、西善尺司遺跡全体についての概要を述べる。

縄文時代(第2節) 縄文時代に属する明確な遺構は検出されなかったが、唯一Ⅲ区で石器製作跡と考えられる石器の集中部を1ヶ所検出した。石器集中部は5×6mの範囲に、総点数77点の石器が分布していた。石材構成は黒色頁岩が主体である。土器を伴わないため遺構の時期については断定し得ないが、チャート製の石鏃が1点出土しておりその形態から縄文時代前～中期と考えられる。

なお、本遺跡では旧石器時代の調査として、各調査区の微高地を試掘した。地表下約1.8～2.0m付近に浅間―板鼻黄色軽石(As-YP)の一次堆積層を確認した。下位には泥炭層が形成されており、中から自然木を検出したが、旧石器時代の遺構・遺物は検出されなかった。

古墳時代(第3節) 古墳時代の遺構は、方形周溝墓14基、竪穴住居2軒、井戸1基、土坑10基、溝3条、溝状遺構1基を検出した。

方形周溝墓群は遺跡内を流れる2筋の小谷に挟まれた狭い微高地上に群集していた。中でも6号方形周溝墓は、周溝を含めた規模は20mを越える大規模なものである。7号方形周溝墓では中央に主体部と考えられる土壙を検出した。検出した方形周溝墓の全ては、3世紀後半に降下したと考えられる浅間C軽石(As-C)を多く含む黒色土によって埋まっており、埋没土と出土した土器から方形周溝墓群の造営時期はAs-C降下後の古墳時代前期(4世紀前半～中葉)と考えられる。



奈良・平安時代(第4節)　奈良・平安時代の遺構は、竪穴住居46軒、掘立柱建物、溝、土坑等を検出した。

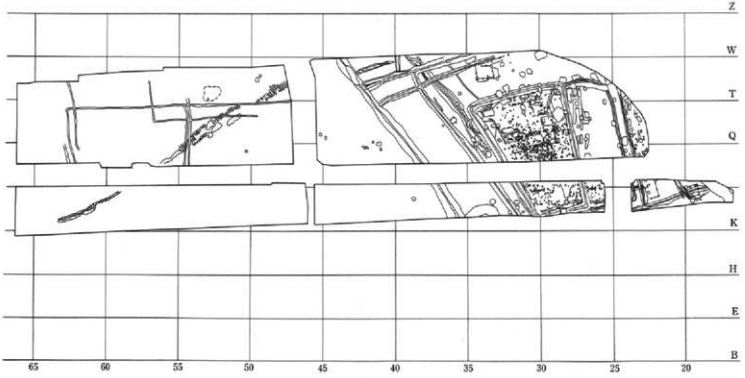
平安時代の住居群は、西台地と特に中央台地に集中している。住居は、20～30cmの掘り込みを持ち、東壁に竈を設置する当該時期に典型的な住居形態である。出土した土器から集落の継続期間は8世紀後半～10世紀後半頃までである。

中・近世以降(第5節)　中近世以降の遺構は、館4軒、井戸27基、火葬墓2基、掘立柱建物、溝、土坑等を検出した。

Ⅳ区4号館は、四辺を堀で囲繞しておりその規模は北辺約34m・東西辺約42m・南辺推定約19mと本遺跡最大である。堀の深さは最大で幅2.5m・深さ1.5mの断面V字形で、いわゆる薬研堀である。堀断面の土層観察から内部に土塁があったと考えられる。15軒程の掘立柱建物が想定できるが、堀と同時期であるかはっきりしない。館の性格・造営主体などは不明である。供伴する遺物もほとんどなく、築造年代は不明である。なお、館内部からは200以上を越える土坑・柱穴等を検出した。

低地部(第6節)　Ⅰ区とⅡ区ではそれぞれ2筋の小谷を検出し、As-C、榛名―二ッ岳降下火山灰(Hr-FA)、浅間B軽石(As-B)の一次堆積層を確認した。As-C層下では水田は検出されなかったが、Hr-FA層下からは極小区画水田を、As-B層下では条里制水田を検出した。本遺跡では、開田当初は小谷内部の狭い範囲で行われていた水田耕作が、漸次台地部へと拡大していく様子が確認できた。

以上、西善尺司遺跡は縄文～中・近世に至る複合遺跡であり、また台地と低地部の両方を調査することができた希な遺跡である。今まで発掘例の少なかった前橋台地東部地域の様相を示す一例となる遺跡であろう。



第10図　西善尺司遺跡　全体図

第2節 縄文時代の遺構と遺物

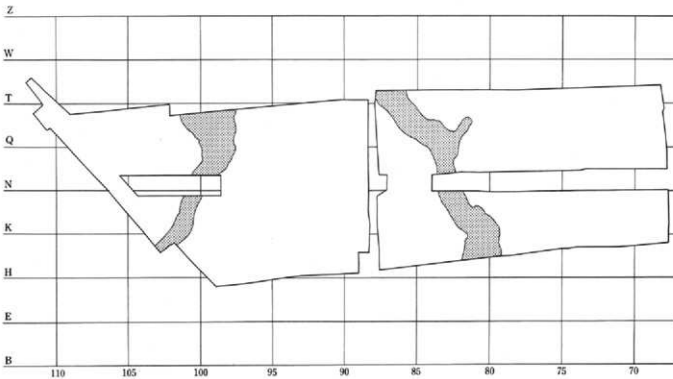
1．概要

本遺跡は、前橋台地の末端部に位置している。遺跡地周辺は、昭和40年代の圃場整備によって一面の水田地帯となっているが、本来は、水田が営まれる低地と、集落の立地する微高地が混在する景観であった。

調査区内は、大きく低地と微高地部分に分けられる。Ⅰ区からⅡ区の西側にかけて微高地が広がり、Ⅰ区西側には狭い谷が南北に入る。Ⅱ区にはやや幅の広い低地が広がっており、Ⅲ区からⅣ区にかけては再び微高地となる。Ⅱ区の低地部分では、浅間C軽石（以下As-C）が認められ、その下位には厚く泥炭層が堆積している。長く湿地のような環境にあったものと考えられる。一方、Ⅰ区西側の低地では、As－C下の泥炭層下は砂礫層となっており、古い河道と考えられる。現在、本遺跡の西側には端気川が流れており、その古い流路の一つであろうか。微高地では、浅間－板鼻黄色軽石（以下As-YP）が堆積していたが、その下位は砂やシルトの互層になっており、一部泥炭層も認められた。As－YP層の直上でも水流による攪乱を受けた痕跡があり、しばしば河川の氾濫に見舞われるような環境であった。ただし、隣接する徳丸仲田遺跡で発見された草創期の石器製作趾や、本遺跡Ⅲ区の石器集中部の存在から、縄文時代初頭までには、安定した微高地となっていたようである。

ここでは、縄文時代に属する明確な遺構は発見されていない。唯一、Ⅲ区の微高地上で、石器製作趾と考えられる石器の集中部が見つかっているだけである。ただし、当該期の遺物は、Ⅰ区西側の旧河道と、その東側、Ⅰ区からⅡ区の西側にかけて広がる微高地を中心に出土している。水流による円磨もさほど受けておらず、近隣の地域における縄文時代遺跡の存在を示唆している。

なお、微高地では旧石器の試掘調査を行ったが、遺物は出土しなかった。



２．石器集中部

Ⅲ区中央付近の北側に所在する。５×６ｍ程の範囲に、合計81点の石器が分布していた。

石器の分布していた地点は、比較的幅の広い微高地上にある。北から南に向かってごく緩やかに傾斜しているが、集中部のあたりで傾斜がややきつくなっているようである。

石器は、As－Ｃ混じりの黒色土を除去した段階で発見された。中央部に分布が集中しており、周辺は疎らである。出土層位は２層で、最大20cm程の上下差をもって出土したが、大半は10cm程の範囲に納まる。平面分布、垂直分布から見て、全て同時期の遺物と判断される。

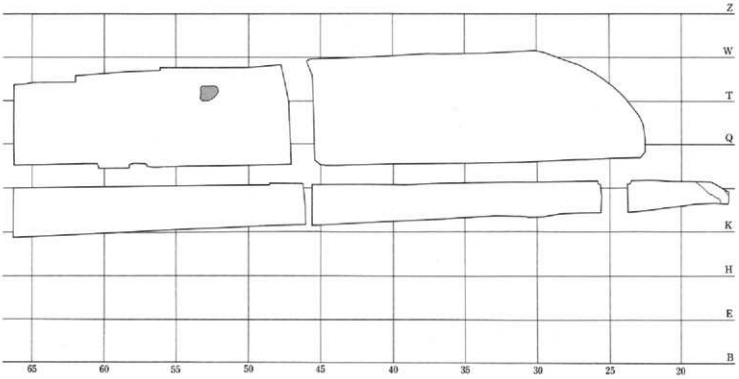
遺物は石器のみで、土器の共伴はない。全81点の内訳は、石鏃、敲石各１点、石核４点、二次加工ある剥片３点、剥片44点、砕片28点である。

石鏃は、チャート製の凹基無茎鏃で、両面前面を丁寧に調整してある（第12図１）。分布の周辺部からの出土で、製作に関連する剥片や砕片類はなく、完成した状態で遺跡外から搬入されたものである。敲石も周辺部からの出土である。

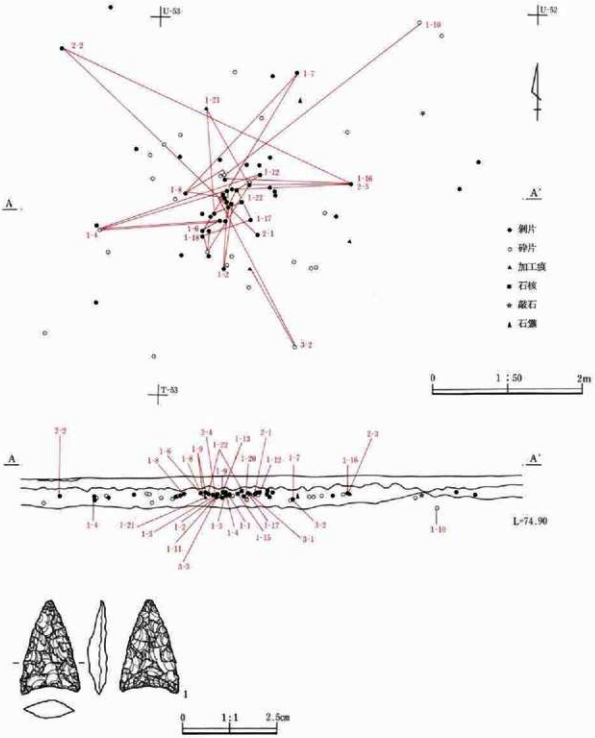
この他の石核と剥片類は、すべて同一母岩に含まれる。石材は黒色頁岩。全79点中、29点が接合し、３つのまとまりに復元することができた。以下、各接合資料について述べる。

接合資料－１（第13～15図）

原石
└
分割
├ 1
└ 2－3－4 ┬ 5－6－7－8＋9＋10－11
　　├ 13－14 ┬ 15－＊
　　└ 12 ┘
＊ ┬ 17－18－19 ┬ 20－21－22
　　└ 16 ┘



第11図　西善尺司遺跡　縄文時代遺構概念図



第12図 西善尺司遺跡 石器集中部と出土遺物

本資料は、3点の石核（11、15、22）と剥片19点、合計22点からなる。接合状態での大きさは、長さ19.2㎝、幅12.4㎝、厚さ6.6㎝。大きく2個体に分けられるが、一方に属するのは1の剥片のみである。1の打面が分割面で、同一個体の他の部分は確認できなかった。遺跡外に搬出されたものと思われる。もう一方の個体では、分割面を打面として複数の剥片を剥離（2、3）、その後打面と作業面を入れ替えて複数の剥片を剥離した後、再び打面と作業面を戻して複数の剥片を剥離（5～11、13）。以後、同様の工程

を繰り返し（14、15、16～22）、石核は遺跡外に持ち出される。剥離された剥片も、かなりの量が搬出されている。

大型の剥片のうち、11、15、22の石核を含む個体では、遺跡内で剥片剥離を行っている。15と22では、剥片の表裏を打面と作業面として設定し、交互に入れ替えながら小型の剥片を剥離する。残核は、チョッピングトゥール状になる。剥片、石核ともに遺跡内に残され、どちらも積極的にトゥールの素材として利用している痕跡はない。

また、２の剥離以前に、個体の表面側で、右側面を打面として、12を含む複数の剥片が剥離されている。一連の剥離と思われるが、11、13、14との厳密な前後関係は不明である。

接合資料－２（第16・17図）

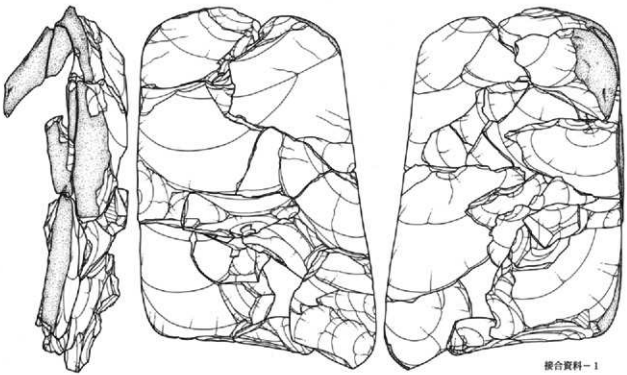
分割礫？－１－（打面・作業面転移）－２－３－４

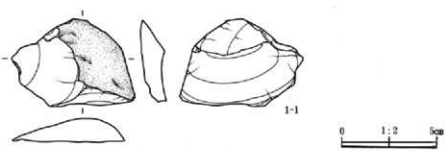
剥片４点からなる。素材は分割礫と思われ、１を剥離した後に打面と作業面を転移し、複数の剥片を剥離している（２～４）。石核は遺跡外に持ち出される。

接合資料－３（第17図）

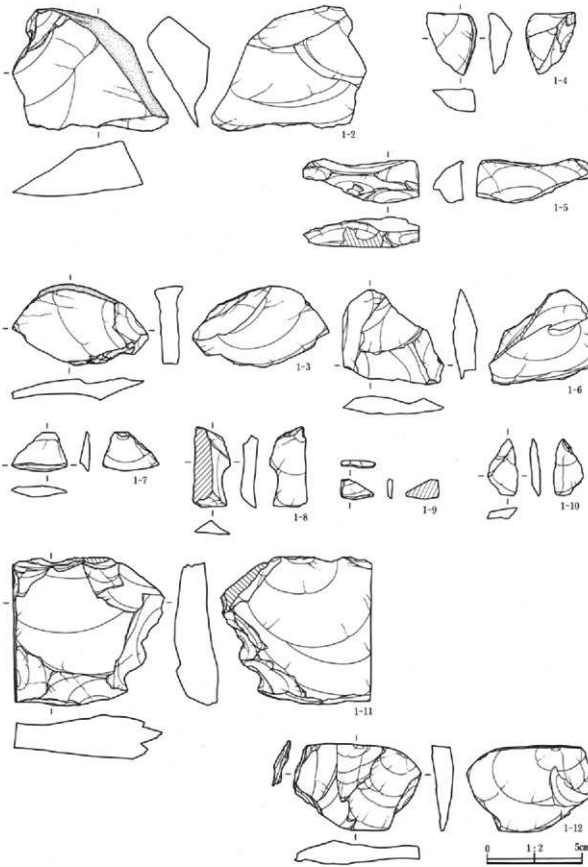
分割礫？－１－（大型剥片剥離）－２－３

石核１点と剥片２点からなる。素材は板状の分割礫と思われる。打面と作業面を交互に入れ替えながら剥片を剥離（1）、大型の剥片を別個体として小型の剥片剥離を行っている（2）。石核は遺跡内に廃棄

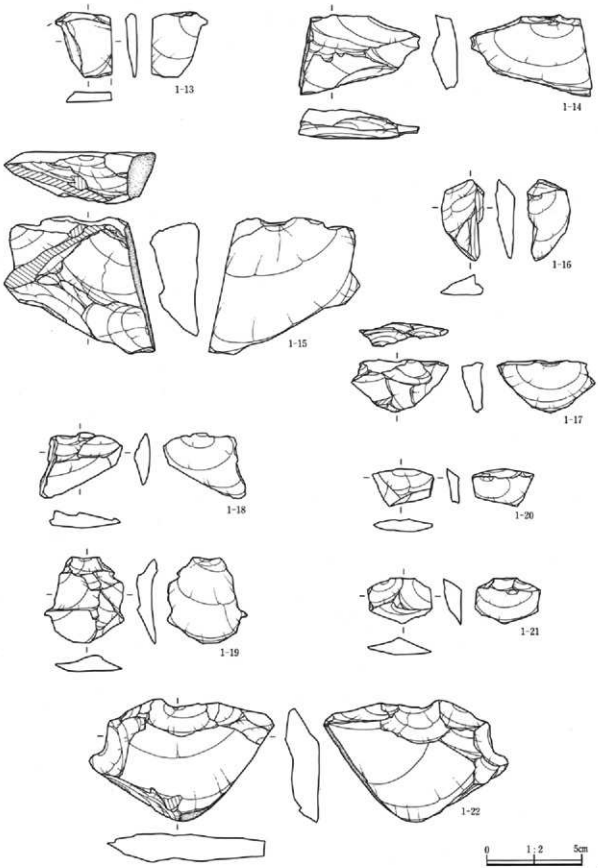




第13図　接合資料-1(1)



第14図　接合資料-1(2)



第15図　接合資料-1(3)

される (3)。接合資料－1と同様の剥片剥離工程を示し、同一個体から剥離された剥片や大本の石核は遺跡外に持ち出されている。

このような接合資料の状況から、遺跡内における剥片剥離工程について考察する。

接合資料に残された自然面の状況から、原石の形状は角のとれた柱状とわかる。この原石を輪切りにするように分割し、それぞれの個体において剥片剥離を行っている。板状に分割された個体では、初めに平坦な分割面を打面として設定した後、打面と作業面を交互に入れ替えながら剥片を剥離。石核は、チョッピングトゥール状を呈するものと考えられる。剥片類は、すべて同一母岩であるにもかかわらず、接合率は36.7%と決して高くない。接合資料にも抜けている部分がかなりあることから、分割された個体や剥片の大半が遺跡外へ持ち出されたものと考えられる。遺跡に残されたもののうち、大型の剥片については別個体として小型の剥片を剥離、石核は廃棄される。この際にも、大型の剥片剥離と同様の工程を示す。大型、小型の剥片ともに調整加工を施されるものはなく、トゥールを製作した痕跡は認められない。

以上から、ここでの作業は、単独の母岩を持ち込んで、トゥールの素材となる剥片を集中的に剥離していたことがわかる。剥片剥離工程は母岩の分割と素材生産のみで、製品作製までの一貫した石器製作は行われておらず、生産された剥片は遺跡外に搬出されている。おそらく、遺跡周辺の小河川から原石を採取し、トゥールの素材として利用可能な剥片のみを集落に持ち帰ったのであろう。

3．縄文時代遺構外出土遺物

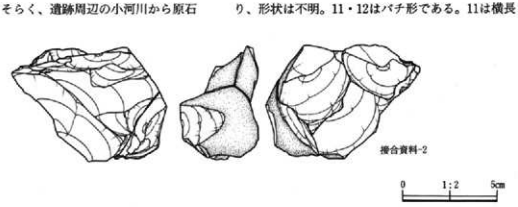
Ⅰ区からⅡ区にかけての微高地を中心に、縄文時代の遺物が出土している（第18図）。

1～4は縄文土器である。いずれも小破片であり、全体の形状や文様構成は不明確であるが、主に中期の深鉢形土器と判断できる。いずれもⅠ区から見つかっている。

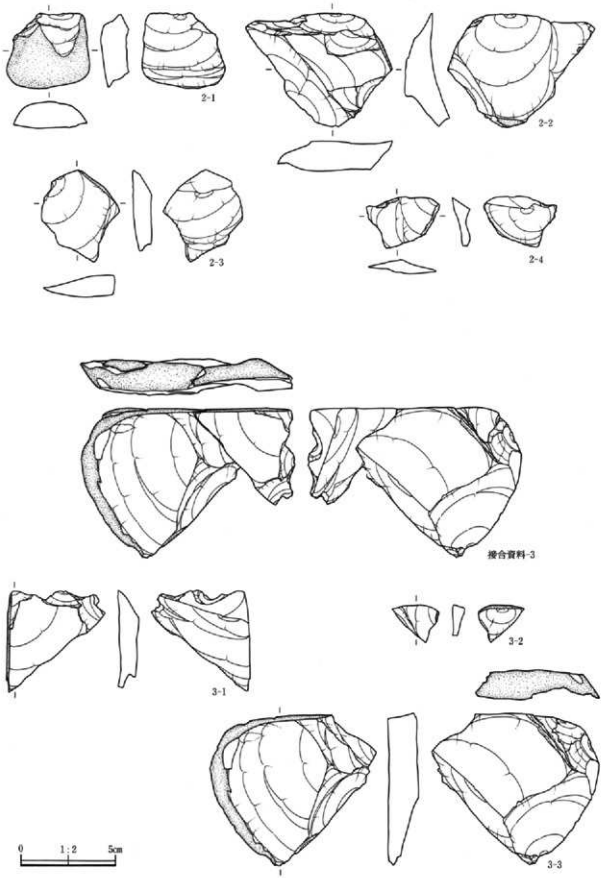
5～7は石鏃である。いずれも表裏全面を丁寧に調整されている。5は凸基有茎鏃であるが、茎部を欠損している。石材は黒曜石。6は凹基有茎鏃で先端部欠損。石材は黒色頁岩。7は凸基有茎鏃で、茎部を欠損する。石材は黒色頁岩。5はⅣ区、他はⅠ区からの出土である。

8～10はスクレイパー。8は薄手の横長薄片の打面側に調整を加えて刃部を作出している。石材は黒色頁岩である。9は縦長薄片の左側裏面に、やや不規則な調整を加えている。石材は黒色頁岩。10は、薄手の横長剥片のほぼ全周に調整を加え、器体端部の裏面に、急角度の刃部を作出している。刃部には再調整が施され、器体の長さを減じている。石材は灰色安山岩。8はⅠ区、9はⅣ区、10がⅡ区からの出土である。

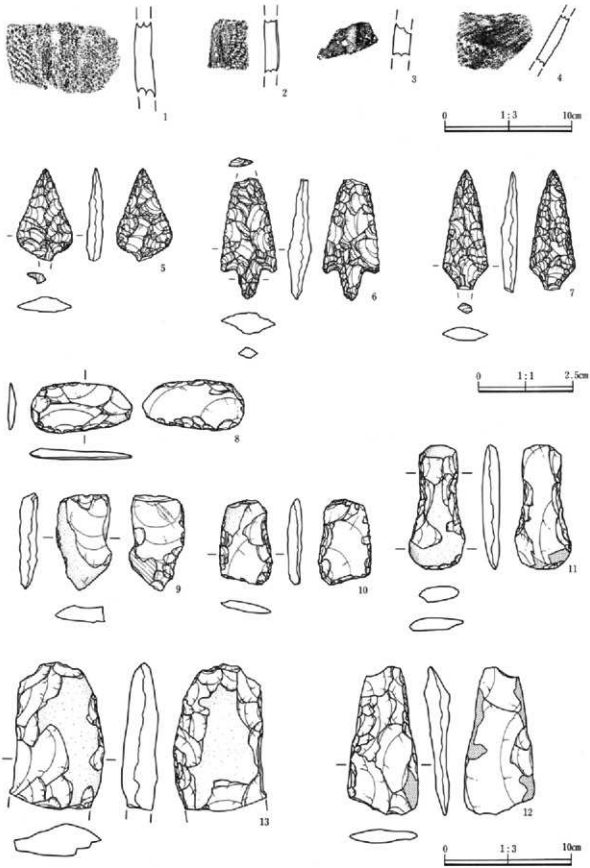
11～13は打製石斧である。13は刃部を欠損しており、形状は不明。11・12はバチ形である。11は横長



第16図　接合資料-2



第17図　接合資料-2・3



第18図 遺構外出土遺物

剝片を素材とし、表面に自然面を残す。調整は側辺両面と刃部に施され、両側がやや内側に湾曲するように整形される。刃部の裏面に、使用による摩耗がみられる。石材は細粒安山岩。Ⅱ区出土。12は、器体の両側に主に調整が施される。刃部側が薄い素材剝片の形状を生かし、刃部にはほとんど調整が加えられない。全体に摩耗しているが、刃部付近と基部の裏面両側に特に強い摩耗が認められる。石材は灰色安山岩。Ⅰ区出土。13は、偏平な円礫を素材とする。調整加工は周辺部に限られ、表裏両面に自然面を残す。石材は硬質泥岩。Ⅰ区出土。

以上の遺物は、土器の他は明確に所属時期を特定できるものはない。概ね、土器と同じ中期の所産と考えて矛盾がないものと思われる。ただし、Ⅰ区出土の２点の石鏃（６・７）については、形状からより古い年代が与えられる可能性がある。隣接する徳丸仲田遺跡で草創期の遺物が出土していることから、同時期の遺物とも考えられよう。

石器集中部出土石器観察表

番号	種　類 器　種	出土状況 残存状況	寸　法 (cm、g)	石　材	特　　徴
1	石鏃	石器集中部 完形	長 2.30 幅 1.30 厚 0.40 重 1.34	チャート	凹基無茎鏃。表裏全面に細かな調整加える。

縄文時代遺構外出土遺物観察表

番号	種　類 器　種	出　土 位　置	寸　法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備　考
1	縄文土器	K・L 85～87 グリッド	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔 ②　－ ③　－	外面に縄文施文。半截竹管による沈線あり。	体部破片
2	縄文土器	Ⅰ区 表面採集	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔 ②　－ ③　－	縄文施文あり。	体部破片
3	縄文土器	Ⅰ-B区 J-89 グリッド	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔 ②　－ ③　－	摩耗が激しく、調整不明。	体部破片
4	縄文土器	1号住居 埋設土中	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔 ②　－ ③　－	摩耗が激しく、調整不明。	体部破片

番号	種　類 器　種	出土状況 残存状況	寸　法 (cm、g)	石　材	特　　徴
5	石鏃	S-40グリッド 一部欠損	長 2.50 幅 1.50 厚 0.60 重 0.97	黒曜石	突基有茎鏃。表裏全面に細かな調整を施す。茎部欠損。
6	石鏃	12号住居 一部欠損	長 3.20 幅 1.50 厚 0.60 重 1.99	黒色頁岩	凹基有茎鏃。表裏全面に細かな調整加える。先端を一部欠損。
7	石鏃	6号方周 一部欠損	長 3.20 幅 1.30 厚 0.50 重 1.24	黒色頁岩	突基有茎鏃。長さに比して幅の狭い、細身の形状呈する。表裏全面に細かな調整施す。茎部欠損。
8	スクレイパー	K-77グリッド 完形	長 8.10 幅 4.10 厚 0.90 重 28.00	黒色頁岩	横長の剝片を素材とし、表裏両端に調整加え刃部作出。刃部わずかに摩耗。
9	スクレイパー	Ⅳ区S-26グリッド、完形	長 7.60 幅 4.50 厚 1.40 重 53.00	黒色頁岩	縦長剝片を素材とする。器体左側の腹面に、やや不規則な調整加え刃部作出。刃部にわずかな摩耗認められる。
10	スクレイパー	遺構外－３ 完形	長 6.70 幅 4.20 厚 1.20 重 28.00	灰色 安山岩	横長剝片素材。器体両側の表裏と先端裏面に調整加える。先端の調整は、やや急角度になっている。
11	打製石斧	Ⅱ区倒木痕 完形	長 9.80 幅 4.40 厚 1.40 重 66.00	細粒輝石 安山岩	剝片を素材とし、両側の両面に調整加える。刃部は丸く広がり、撥形の形状を呈する。刃部付近に摩耗認められる。
12	打製石斧	Ⅰ区包含層 完形	長 11.70 幅 5.60 厚 2.00 重100.00	灰色 安山岩	剝片素材。両側両面に調整。側辺が先端部に向かって直線的に広がる。全体に摩耗激しいが、刃部付近が顕著。
13	打製石斧	L-91グリッド 刃部欠損	長 11.60 幅 7.50 厚 2.50 重264.00	硬質泥岩	整状の円礫を素材とし、周辺両面に粗い調整加える。刃部欠損。

石器集中部 石器属性表

遺物No	器種	重量(g)	掲載No	石材	X座標	Y座標	Z座標	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)
1	欠番	欠番		黒色頁岩	37246.08	63715.81	74.462			
2	剥片	4.21		黒色頁岩	37246.22	63715.83	74.478			
3	砕片	0.28		黒色頁岩	37246.88	63715.67	74.496	1.4	1.0	0.2
4	砕片	1.41		黒色頁岩	37247.18	63715.78	74.485	3.3	2.6	1.2
5	剥片	3.10		黒色頁岩	37246.84	63714.70	74.514	4.4	2.3	0.3
6	剥片	20.00		黒色頁岩	37246.84	63714.34	74.542	3.4	1.6	0.6
7	砕片	1.80	接1-19	黒色頁岩	37246.89	63714.36	74.542	2.6	2.0	0.6
8	剥片	122.00	接1-2	黒色頁岩	37246.68	63714.14	74.507	6.5	8.3	3.3
9	砕片	0.10		黒色頁岩	37246.72	63714.09	74.540	1.0	0.7	0.2
10	砕片	0.31		黒色頁岩	37246.84	63714.04	74.515	1.7	1.0	0.2
11	RF	26.09	接3-1	黒色頁岩	37246.67	63713.84	74.516	5.3	5.3	1.1
12	砕片	2.09	接3-2	黒色頁岩	73245.64	63713.19	74.472	2.0	2.4	0.6
13	砕片	2.25		黒色頁岩	37246.69	63712.98	74.502	2.7	5.2	1.2
14	砕片	0.52		黒色頁岩	37246.70	63712.92	74.500	1.7	1.0	0.2
14−1	砕片	0.31		黒色頁岩	37246.70	63712.92	74.500	1.2	0.8	0.4
15	RF	13.15	接1-17	黒色頁岩	37247.04	63712.48	74.520	5.2	2.8	1.1
16	砕片	1.17		黒色頁岩	37247.42	63712.81	74.512	2.2	1.6	0.3
17	剥片	5.37		黒色頁岩	37247.38	63712.65	74.532	2.8	2.5	0.8
18	剥片	21.26	接2-3	黒色頁岩	37247.80	63712.46	74.548	4.8	4.2	1.1
18−1	剥片	2.06	接1-16	黒色頁岩	37247.80	63712.46	74.548	4.3	2.2	1.1
19	剥片	3.50		黒色頁岩	37247.75	63711.02	74.556	2.8	2.3	0.5
20	剥片	40.87		黒色頁岩	37248.10	63710.78	74.538	7.7	4.3	1.2
21	敲石	407.00		不明	37248.76	63711.52	74.522			
22	砕片	0.62		黒色頁岩	37248.48	63712.52	74.535	1.6	1.4	0.3
23	石鏃	1.34		チャート	37248.90	63713.14	74.510	2.5	1.6	0.5
24	剥片	15.47		黒色頁岩	37249.22	63713.53	74.496	4.2	4.0	0.7
25	砕片	0.86		黒色頁岩	37248.66	63713.66	74.528	2.2	1.0	0.3
26	剥片	2.49		黒色頁岩	37248.14	63713.54	74.564	3.7	1.6	0.4
27	剥片	6.96		黒色頁岩	37248.04	63713.68	74.530	4.1	2.8	0.7
28	剥片	43.22	接1-12	黒色頁岩	37247.92	63713.67	74.562	4.6	6.7	1.3
29	剥片	3.38		黒色頁岩	37247.74	63713.54	74.526	3.6	1.9	0.7
30	剥片	4.12		黒色頁岩	37247.68	63713.48	74.556	2.9	2.6	0.4
31	剥片	3.86		黒色頁岩	37247.64	63713.46	74.555	3.3	2.2	0.5
32	剥片	31.70	接2-1	黒色頁岩	37247.12	63713.70	74.522	4.0	4.4	1.5
33	剥片	33.73	接1-6	黒色頁岩	37247.32	63713.78	74.544	6.0	4.5	1.3
34	剥片	7.07	接1-13	黒色頁岩	37247.30	63714.12	74.546	3.4	3.0	0.6
35	剥片	20.64	接1-5	黒色頁岩	37247.30	63714.20	74.518	2.3	6.2	1.6
36	剥片	12.90	接1-19	黒色頁岩	37247.16	63714.34	74.548	4.6	4.2	1.1
37	剥片	11.40	接1-18	黒色頁岩	37247.09	63714.41	74.526	3.5	4.4	0.8
38	剥片	15.74		黒色頁岩	37247.16	63714.43	74.544	5.0	5.4	1.3
39	剥片	10.58		黒色頁岩	37247.35	63714.32	74.526	5.1	2.9	0.7
39−1	剥片	6.47		黒色頁岩	37247.35	63714.32	74.526	4.3	1.8	0.7
40	剥片	3.30		黒色頁岩	37247.39	63714.28	74.530	2.5	2.1	0.5
40−1	剥片	0.77	接1-22	黒色頁岩	37247.39	63714.28	74.530	1.8	0.7	0.6
41	剥片	10.22	接1-4	黒色頁岩	37247.39	63714.42	74.532	3.1	2.4	1.2
42	剥片	6.27	接1-8	黒色頁岩	37247.66	63714.64	74.526	4.2	2.0	0.9
43	剥片	38.74	接1-14	黒色頁岩	37247.48	63714.08	74.516	4.3	6.4	1.6
44	剥片	5.45		黒色頁岩	37247.53	63714.04	74.524	3.5	1.5	0.9
44−1	剥片	0.61		黒色頁岩	37247.53	63714.04	74.524	2.0	1.0	0.4
45	剥片	13.49		黒色頁岩	37247.56	63714.11	74.518	4.7	3.1	0.7
46	石核	208.90	接1-11	黒色頁岩	37247.60	63714.14	74.530	7.8	8.0	2.3
47	石核	141.19	接3-3	黒色頁岩	37247.64	63714.16	74.512	8.0	8.8	1.6
48	剥片	37.32	接1-3	黒色頁岩	37247.69	63714.10	74.532	4.3	7.2	1.5
49	剥片	39.10	接1-1	黒色頁岩	37247.70	63714.04	74.530	6.8	4.7	1.4
50	石核(?)	146.65	接1-15	黒色頁岩	37247.70	63713.98	74.520	7.3	8.1	2.7
51	石核	111.80	接1-22	黒色頁岩	37247.55	63713.91	74.536	6.5	9.8	1.8
52	剥片	4.70	接1-20	黒色頁岩	37248.78	63713.82	74.520	2.0	3.2	0.7
53	砕片	0.54		黒色頁岩	37247.82	63713.82	74.514	1.8	0.8	0.4

遺物No	器種	重量(g)	掲載No.	石材	X座標	Y座標	Z座標	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)
54	剥片	6.65	撥2－4	黒色頁岩	37247.84	63714.14	74.500	2.7	3.9	0.9
55	砕片	0.97		黒色頁岩	37247.90	63714.18	74.518	2.1	1.3	0.5
56	砕片	0.73	撥1－9	黒色頁岩	37247.91	63714.14	74.516	1.0	1.8	0.4
57	剥片	8.94		黒色頁岩	37248.04	63713.85	74.504			
58	剥片	4.99		黒色頁岩	37248.11	63714.20	74.498	2.8	2.7	0.6
59	砕片	0.54		黒色頁岩	37247.58	63714.80	74.474	1.9	1.1	0.2
60	砕片	1.68		黒色頁岩	37248.16	63715.13	74.526	2.8	1.6	0.5
61	砕片	0.24		黒色頁岩	37247.84	63715.09	74.528	1.4	0.5	0.3
62	剥片	3.02		黒色頁岩	37248.24	63715.31	74.524	3.4	1.6	0.6
63	剥片	73.45	撥2－2	黒色頁岩	37249.57	63716.30	74.495	6.0	7.8	2.4
64	剥片	8.42		黒色頁岩	37248.13	63714.74	74.505	3.6	2.6	0.7
65	砕片	0.66		黒色頁岩	37248.43	63714.73	74.506	1.6	0.9	0.4
66	砕片	1.29		黒色頁岩	37249.24	63714.02	74.512	2.1	1.6	0.3
67	砕片	1.52		黒色頁岩	37245.80	63716.50	74.418	2.5	1.8	0.6
68	砕片	2.19		黒色頁岩	37248.30	63714.94	74.488	2.2	1.5	0.7
69	砕片	2.26	撥1－10	黒色頁岩	37249.94	63711.57	74.482	3.0	1.6	0.6
70	ＦＲ	5.91	撥1－21	黒色頁岩	37248.78	63714.39	74.482	2.4	3.4	1.0
71	砕片	0.98		黒色頁岩	37245.50	63715.06	74.419	1.7	1.5	0.5
72	剥片	3.78		黒色頁岩	37247.24	63715.82	74.447	3.0	2.1	0.7
73	砕片	0.64		黒色頁岩	37249.77	63711.28	74.350	1.7	1.6	0.3
74	剥片	2.87	撥1－7	黒色頁岩	37249.27	63713.19	74.470	2.9	2.0	0.6
75	砕片	2.25		黒色頁岩	37246.77	63713.20	74.452	2.5	1.6	0.5
76	剥片	1.81		黒色頁岩	37250.11	63715.66	74.478	2.4	2.0	0.3
77	砕片	0.97		黒色頁岩	37246.42	63713.80	74.465	1.4	1.5	0.5
77－1	砕片	0.30		黒色頁岩	37246.42	63713.80	74.465	1.3	1.0	0.2

※ ＦＲ：二次加工のある剥片

第3節 古墳時代の遺構と遺物

1．概 説

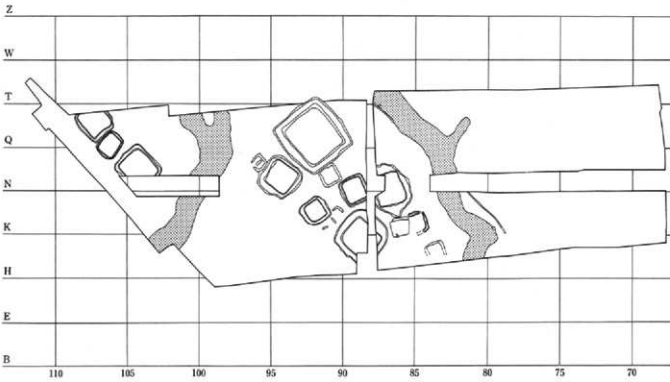
古墳時代の西善尺司遺跡の地形は、小谷が網流し台地と低地が入り組む複雑な地形となっている。遺構は台地部と低地部から検出されているが、特にⅠ・Ⅱ区の台地部に集中している。

台地部からは、方形周溝墓14基、竪穴住居2軒、井戸1基、土坑10基、溝3条、溝状遺構1基、低地部からは、As-C下谷とHr-FA下水田を検出した。なお、As-C下水田とHr-FA下水田については第6節低地部の遺構と遺物を参照されたい。

方形周溝墓群は、西谷右岸に3基、西谷と東谷に挟まれた狭小な台地に11基検出された。概ね北東に主軸をあわせ、2基を1単位として、平行する周溝中央部を連結させる群集のタイプを成している。周溝は全周するするものがほとんどであるが、7号方形周溝墓は隅が一部切れていた。規模は20mを越えるものから5m程の小さいものまで様々である。すべての方形周溝墓は3世紀後半に降下した浅間C軽石(As-C)を多く含む黒色土によって埋没しており、As-Cの一次堆積は認められなかった。よって方形周溝墓の造墓時期は、As-C降下後の4世紀前半から中葉頃と考えられる。このことは出土した土器とも矛盾しない。

竪穴住居は、2軒検出された。方形周溝墓群に非常に隣接しており、2度の重複が認められた。2軒ともAs-Cを含む黒色土で埋没しており、下層の住居の年代ははっきりしないが、上層の住居の年代は出土遺物からも4世紀前半～中葉に求められる。概ね方形周溝墓の造営期間と一致しており、その立地と併せて興味深い。38号住居からは畿内系土器が出土している。

土坑の分布はⅣ区に集中する傾向にある。Ⅳ-A区102号土坑は、長軸3.12m、短軸1.86mの規模を持つ。埋没土にはAs-Cを多く含む黒色土が含まれている。下層からS字甕が出土しており、4世紀中葉の遺構と考えられる。



Ⅳ-A区115土坑は直径約1.30mの規模をもつ。埋没土中から土師器模倣坏が出土し、6世紀後半の遺構と考えられる。

溝は東谷で検出されている。Ⅱ－B区13号溝は、東谷左岸の縁辺部を谷の地形に沿って南流している。出土遺物から、6世紀後半頃の古墳時代後期には既に掘削・使用されていたと考える。

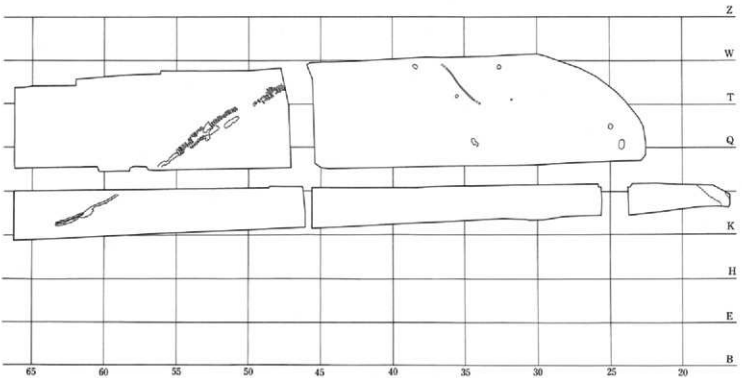
溝状遺構はⅢ区で検出されている。遺構の性格についてははっきりしない。しかし、埋没土には多量のAs-Cが含まれており、また出土した若干の土器片から、As-C降下前後の古墳時代前期の遺構であるとの調査担当者の所見を得た。

風倒木痕は、調査時には遺構の性格が不明であり、風倒木痕と考えて調査を行った。その後、Ⅲ区で溝状遺構が検出され、遺構の形状や埋没土から同様の遺構であると考えられる。埋没土にはAs-Cがレンズ上に堆積していた。埋没土からは樽式土器甕が出土している。

西善尺司遺跡では、As-C降下後の古墳時代前期を契機に、集落や方形周溝墓、水田耕作などが開始される。これは本遺跡のみならず、前橋台地東部の周辺遺跡についても同様である。

このことは、本遺跡北方約1.5kmに位置する県内最古の前方後方墳である前橋八幡山古墳、同じく県内最古の定型化した前方後円墳である前橋天神山古墳の造墓時期と概ね一致しており、初期大型墳の造墓と周辺地域の開発が読みとれる。

なお、古墳時代中期の顕著な遺構や遺物は、検出されていない。また古墳時代後期の遺構は、Hr-FA降下時の6世紀前半では、低地部から水田は検出されるが、台地上の遺構は大変希薄である。



第19図　西善尺司遺跡　古墳時代遺構概念図

2．住 居

II-B区37号住居

位 置 J・K-85・86　　**写 真** PL5～7

形 状 一辺を南北方向にする大形隅丸正方形を呈する。周壁は直線的に掘られている。規模は、長軸・短軸ともに5.4mである。

面 積 25.6m²　　**方 位** N－14°－W

重 複 38号住居を掘り込んでいる。

埋没土 As-Cを含む黒色土・黒褐色土で埋まっていた。埋没土には多くの焼土・炭化材が含まれていた。特に床面近くには焼土とローム粒が広がり、上層には住居の構築材と考えられる炭化材が出土した。

床 面 削平のため住居の掘り込みは浅く、遺構確認面から約16cm掘り込んで構築面とする。構築面は凸凹しており中央がやや低い。北壁中央部とP2付近に床下土坑を検出した。この面に厚さ約10cmの貼床を施し生活面とする。深さは6cmである。生活面は平坦で硬く締まっていた。

炉 住居中央ややP4寄りに炉と考えられる施設を検出した。焼土の残存状況が悪く範囲は明確ではなかったが、付近から礫が1点出土しておりこれが炉の南端とも考えられる。

周 溝 北西隅から北東隅・東壁中央の一部・南東隅に幅14～20cm・深さ約8cmの周溝を検出した。西壁では重複のため検出できず、南壁でははっきりしなかった。周溝の埋没土からは土器片・礫がまとまって出土した。

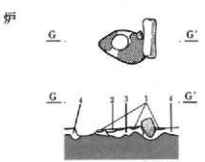
貯蔵穴 検出されなかった。

柱 穴 4本の主柱穴を検出した。各柱穴は住居の対角線上に位置する。規模は以下のとおりである。

P1　直径 60×34cm　深さ 50cm
P2　直径 35×23cm　深さ 64cm
P3　直径 40×40cm　深さ 56cm
P4　直径 32×30cm　深さ 46cm

遺 物 100点余りの遺物が出土している。遺物は北側に集中する傾向にある。S字状口縁台付甕(1)、土師器高坏(2)・器台(3)は底面からまとまって出土した。(2)は畿内系の高坏である。炉の周囲からは用途不明の石製品(5)が出土している。

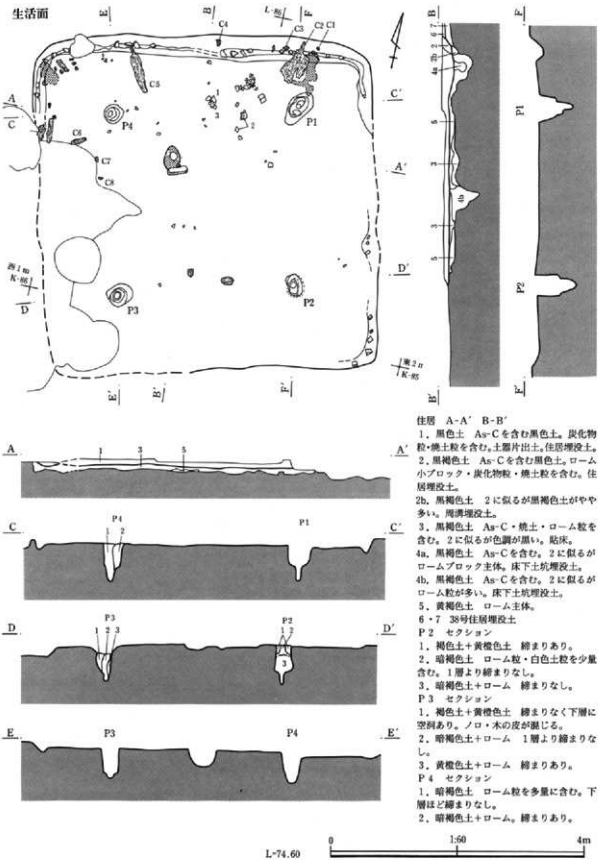
所 見 出土遺物から、古墳時代前期（4世紀中葉）の焼失家屋と考えられる。



炉 G-G'
1．暗褐色土　白色土粒・焼土粒を極少量含む。やや締まりあり。
2．焼土ブロック。使用面。
3．褐色土＋ロームブロック　焼土粒を中央に多く含む。締まりあり。
4．2層に似るが焼土粒が含まれない。2層とは漸移的に変化。貼床。

0　1:30　1m

第20図 II-B区37号住居炉



住居　A-A′　B-B′

1．黒色土　As-Cを含む黒色土。炭化物粒・焼土粒を含む。土器片出土。住居埋没土。

2．黒褐色土　As-Cを含む黒色土。ローム小ブロック・炭化物粒・焼土粒を含む。住居埋没土。

2b．黒褐色土　2に似るが黒褐色土がやや多い。周溝埋没土。

3．黒褐色土　As-C・焼土・ローム粒を含む。2に似るが色調が黒い。貼床。

4a．黒褐色土　As-Cを含む。2に似るがロームブロック主体。床下土坑埋没土。

4b．黒褐色土　As-Cを含む。2に似るがローム粒が多い。床下土坑埋没土。

5．黄褐色土　ローム主体。

6・7　38号住居埋没土

P２　セクション

1．褐色土＋黄橙色土　締まりあり。

2．暗褐色土　ローム粒・白色土粒を少量含む。1層より締まりなし。

3．暗褐色土＋ローム　締まりなし。

P３　セクション

1．褐色土＋黄橙色土　締まりなく下層に空洞あり。ノロ・木の皮が混じる。

2．暗褐色土＋ローム　1層より締まりなし。

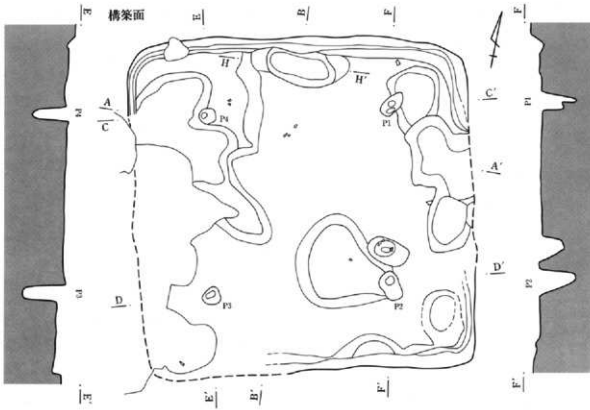
3．黄橙色土＋ローム　締まりあり。

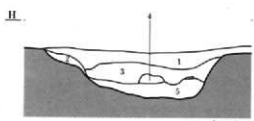
P４　セクション

1．暗褐色土　ローム粒を多量に含む。下層ほど締まりなし。

2．暗褐色土＋ローム。締まりあり。

第21図　II-B区37号住居生活面



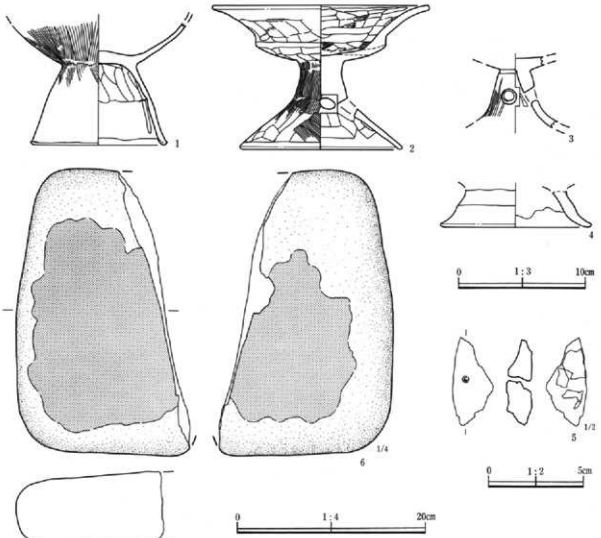


床下土坑 H-H'

1. 黒褐色土 ローム粒・白色土粒(As-C)を多く含む。締まりあり。焼土・炭を少量含む。
2. 黄褐色土 ロームブロック主体。黒褐色土を含む。締まりあり。
3. 黒褐色土＋ロームブロック 2層に似るが、ロームブロックが多い。締まりあり。
4. 黒褐色土 焼土ブロックを多く含む。締まりややなし。
5. 黄灰色土 ロームブロック主体。土質粗く、もろい。

0 1:30 1m

第22図 II-B区37号住居構築面



第23図　II－B区37号住居出土遺物

II－B区37号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 S字状口縁 台付甕	北東隅 床上 +0.6cm	口径　－ 底径　10.4 器高　－	①酸化焔②純い橙 ③粗細砂・角閃石・赤色鉱物粒を含む。	外面　体部下位斜縦方向ハケメ。台部上位斜縦方向ハケメ後一部ナデ消し、矢羽状にする。下位ナデ。 内面　体部下位ナデ。接合部砂粒充填。台部上位指ナデ。下位ナデ。端部折り返し。	体部下位～台部残存
2	土師器 高坏	北東隅 床上 +10cm	口径 16.9 底径 12.4 器高 11.4	①酸化焔②純い黄橙 ③粗細砂・角閃石・白・赤色鉱物粒を含む。	外面　坏部ハケメ後、ナデ。口縁部横ナデ。面を持つナデ。柱状～裾部縦方向細かい（12本/cm）ハケメ後、裾部横ナデ。透孔３カ所（直径1.2cm）あり。内面　坏部細かい横方向ハケメ後、口縁部横ナデ。柱状部、柱実。裾部ハケメ・指頭による調整。裾部横ナデ。	口～脚部2／3残存
3	土師器 器台	北東隅 床上 +10cm	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②純い橙～褐③細砂・角閃石・赤色鉱物粒を含む。	外面　受部ナデ。脚部細かい縦方向荒磨き。３分割の位置に透孔３カ所（直径1.2cm）あり。 内面　上位荒ナデ。中位絞り痕有り。下位ナデ。	脚部破片
4	土師器 台部？	南東隅 床直 堀方床直	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②純い橙 ③粗細砂・角閃石・白色鉱物粒を含む。	外面　台部横ナデ・指頭による調整。 内面　台部横ナデ。煤付いる。	台部破片
5	石製品 不明石製品	炉周辺 破片	長　－　幅　－ 厚　－　重　9.33	凝灰質 シルト岩	破損のため形状不明。中央部に表面からの穿孔有り。	
6	石製品 台石	炉内 2／3残存	長 30.0　幅　－ 厚　7.3　重 7890.0	粗粒輝石 安山岩	盤状の円礫。表裏に使用による摩耗がみられる。器体右側３分の１ほどを欠く。炉石に転用されていた。	

II-B区38号住居

位　置　K・L-85・86　　写　真　PL7・8

形　状　重複のためはっきりしないが、短辺を南北方向にする大形隅丸長方形を呈すると考えられる。周壁は中央部がやや外に膨む。規模は、長軸5.7m・短軸4.9mである。

面　積　計測不能　　方　位　N－8′－W

重　複　II-B区37号住居に掘り込まれている。

埋没土　炭化材・焼土・As-Cを多く含む黒色土で埋まっていた。特に床面には焼土・灰が広がっており、上層には住居の構築材と考えられる炭化材が放射状に出土した。樹種同定の結果、全てクヌギ節であることが判明した。(第4章第3節参照)

床　面　検出した範囲では、遺構確認面から15cm掘り込んで構築面とする。この面に約8cmの貼床を施し生活面とする。深さは7cmと浅い。

炉　残存する範囲では検出されなかった。

周　溝　残存する範囲では、北西隅から南東隅にかけて幅14cm・深さ約5cmの周溝を検出した。

柱　穴　4本の主柱穴を検出した。各柱穴は住居の対角線上に位置する。規模は、以下のとおりである。

P1　直径 42×38cm　深さ 54cm

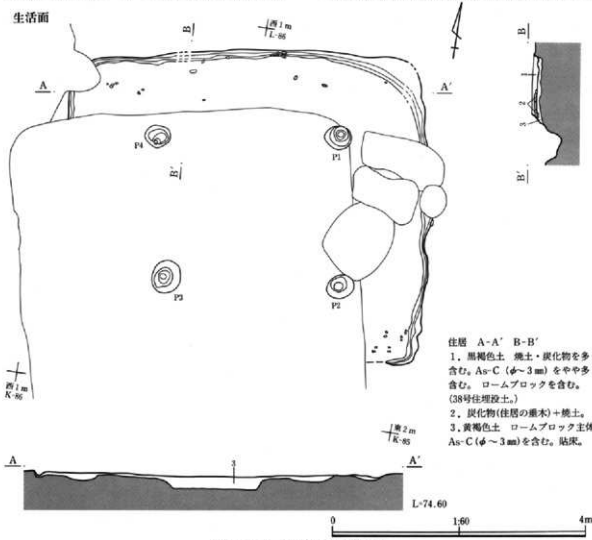
P2　直径 44×38cm　深さ 52cm

P3　直径 50×46cm　深さ 61cm

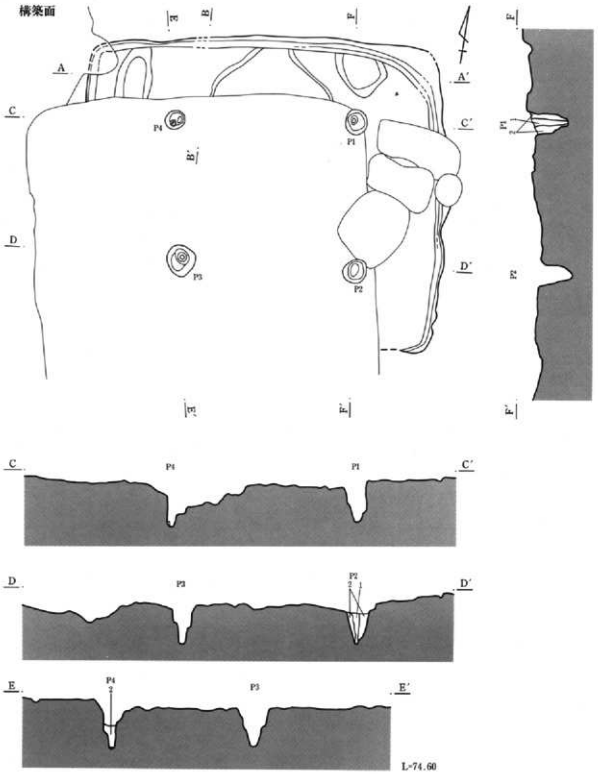
P4　直径 40×34cm　深さ 60cm

遺　物　30点ほどの遺物が出土した。石製品(1～6)は北壁中央の壁際からまとまって出土した。土器は小破片で図化出来なかった。

所　見　埋没土と重複する遺構から、As-C降下後の古墳時代前期(4世紀前半)の焼失家屋と考えたい。



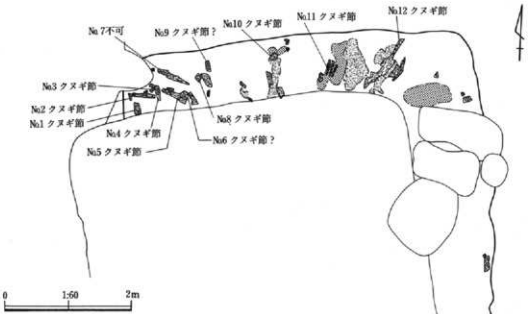
第24図　II-B区38号住居生活面



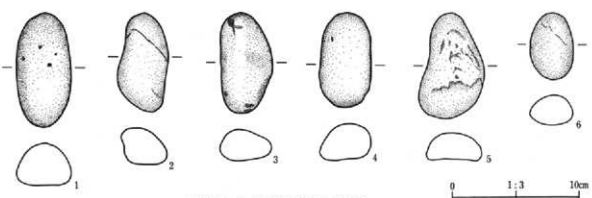
P１・２・４
１．黒色土　黒色土主体。ロームブロックを含む。締まり弱い。柱根。
２．明黄褐色土　ローム・シルトブロック（φ10～50mm）を斑状に多く含む。
　　黒色土を少量含む。柱の埋土。

0　1:60　4m

第25図　II－B区38号住居構築面



第26図 II-B区38号住居炭化材出土状況



第27図 II-B区38号住居出土遺物

II-B区38号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量 (cm、g)	石材	特徴
1	石製品 こもあみ石	北東隅 周溝内 完形	長 9.0 幅 4.3 厚 3.4 重 193.0	閃緑岩	棒状の小型の円礫。加工痕、使用痕ともに認められない。表面に煤付着。
2	石製品 こもあみ石	北東隅 周溝内 完形	長 7.8 幅 4.1 厚 2.9 重 131.0	ひん岩	棒状の小型の円礫。加工痕、使用痕ともに認められない。
3	石製品 こもあみ石	北東隅 周溝内 完形	長 8.0 幅 4.1 厚 2.5 重 110.0	粗粒輝石安山岩	棒状の小型の円礫。加工痕、使用痕ともに認められない。
4	石製品 こもあみ石	北東隅 底面直上 完形	長 7.5 幅 4.0 厚 2.7 重 135.0	流紋岩	棒状の小型の円礫。加工痕、使用痕ともに認められない。
5	石製品 こもあみ石	北東隅 周溝底面直上 完形	長 8.3 幅 5.2 厚 2.1 重 120.0	粗粒輝石安山岩	棒状の小型の円礫。加工痕、使用痕ともに認められない。
6	石製品 こもあみ石	北東隅 周溝内 完形	長 5.3 幅 3.4 厚 2.4 重 59.0	砂質頁岩	棒状の小型の円礫。加工痕、使用痕ともに認められない。

３．方形周溝墓

１号方形周溝墓

位　置　Ｏ・Ｐ-102～105、Ｑ-104

写　真　ＰＬ９　　**重　複**　なし

長軸方位　Ｎ－43°－Ｅ

形　状　南隅は調査の安全上一部発掘できず、また北隅付近から方台部中央にかけて後世の攪乱を受けておりはっきりしないが、対角線を南北にする方形を呈すると考えられる。

方台部　長軸11.3×短軸9.88mの長方形と考えられる。盛り土は残存していなかったが、周溝の土層観察からは周溝掘削直後の割と短期間に方台部側からロームを含む土の流入がみられ、盛り土があったと考えられる。

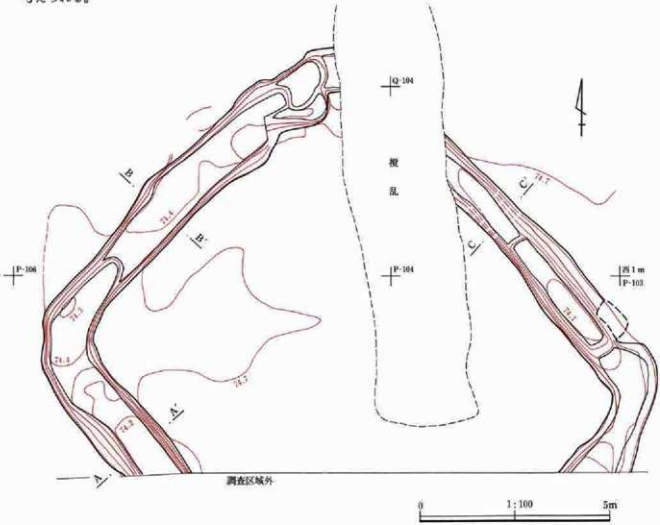
周　溝　検出した範囲では全周していた。規模は上幅1.65～0.95m・下幅1.18～0.42mで、幅は比較的一定している。深さは最も深い北東辺東隅寄りで0.62m、他は約0.38mである。底面は平坦で部分的に掘削時の残土が貼床状に埋め戻してあり、よく踏み締められていた。

主体部　検出されなかった。

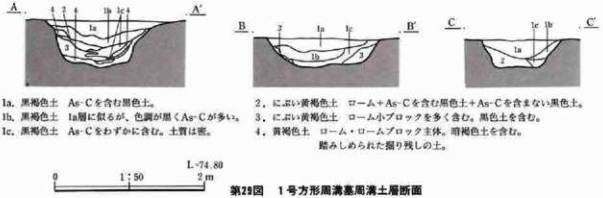
遺　物　なし

埋没土　周溝はAs-Cを含む黒褐色土で埋まっていた。

所　見　出土遺物がなく時期については断定し得ないが、埋没土からAs-Ｃ降下後の古墳時代前期（４世紀代）の遺構と考えたい。



第28図　１号方形周溝墓



1a. 黒褐色土　As-Cを含む黒色土。
1b. 黒褐色土　1a線に似るが、色調が黒くAs-Cが多い。
1c. 黒褐色土　As-Cをわずかに含む。土質は密。
2. にぶい黄褐色土　ローム+As-Cを含む黒色土+As-Cを含まない黒色土。
3. にぶい黄褐色土　ローム小ブロックを多く含む。黒色土を含む。
4. 黄褐色土　ローム・ロームブロック主体。暗褐色土を含む。
踏みしめられた掘り残しの土。

第29図　1号方形周溝墓周溝土層断面

2号方形周溝墓

位　置　P・Q・R-105～107

写　真　PL9

重　複　北西辺中央部が3号方形周溝墓と接している。土層観察からは新旧関係を判断出来なかった。

長軸方位　N－36°－E

形　状　対角線を南北する北東－南西方向に伸びた長方形を呈する。

方台部　長軸7.3×短軸6.15mの長方形である。盛り土は残存していなかった。

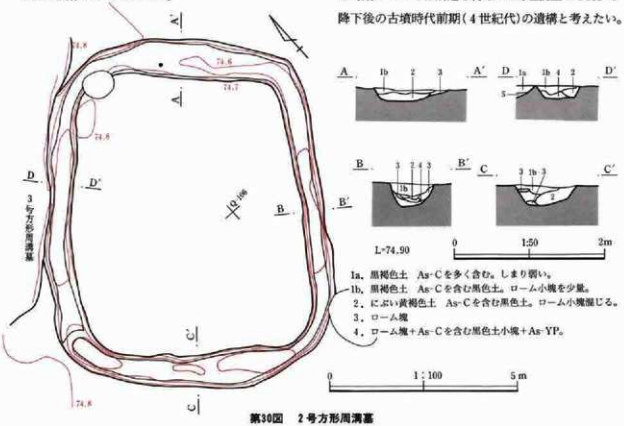
周　溝　周溝は全周する。規模は上幅1.60～0.43m、下幅0.85～0.22mで、北東・南西辺中央はやや外へ拡がるが、北西・南東辺は一定している。深さは0.32～0.28mで、底面は平坦である。

主体部　検出されなかった。

埋没土　周溝はAs-Cを多く含む黒褐色土によって埋まっていた。

遺　物　なし

所　見　出土遺物がなく、また新旧関係も不明なため時期については断定し得ないが、埋没土からAs-C降下後の古墳時代前期(4世紀代)の遺構と考えたい。



1a. 黒褐色土　As-Cを多く含む。しまり弱い。
1b. 黒褐色土　As-Cを含む黒色土。ローム小塊を少量。
2. にぶい黄褐色土　As-Cを含む黒色土。ローム小塊混じる。
3. ローム塊
4. ローム塊+As-Cを含む黒色土小塊+As-YP。

第30図　2号方形周溝墓

3号方形周溝墓

位　置　Q-106～108、R・S-105～108

写　真　PL9・10

重　複　南東辺中央部で2号方形周溝墓と接している。土層観察からは新旧関係を判断出来なかった。

形　状　北隅が一部調査区域外のため全体の形状ははっきりしないが、対角線を東西にする方形を呈すると考えられる。

長軸方位　N－40°－E

方台部　長軸9.60×短軸8.75mのほぼ正方形と考えられる。盛り土は残存していなかったが、周溝の土層観察から周溝掘削直後の割と短期間に方台部側からロームを含む土の流入がみられ、盛り土があったと考えられる。

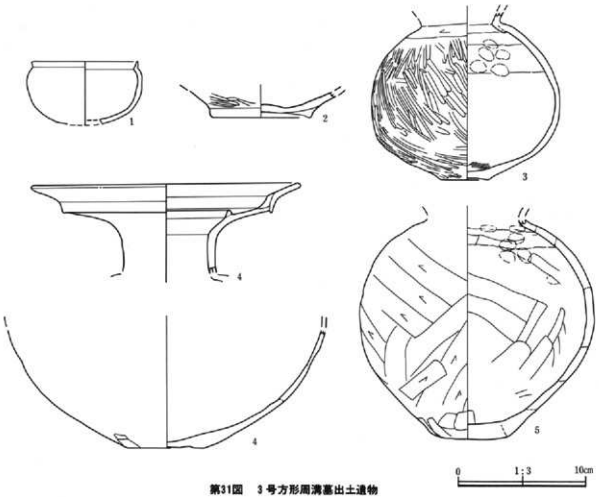
周　溝　検出した範囲では全周していた。規模は上幅1.75～0.64m・下幅1.30～0.22mで、2号方形周溝墓と接する南東辺がやや幅広く、東隅は狭いやや不整形を呈している。深さは北東・南西辺中央で0.50mと最も深く、他は0.30m程で底面は平坦である。

主体部　検出されなかった。

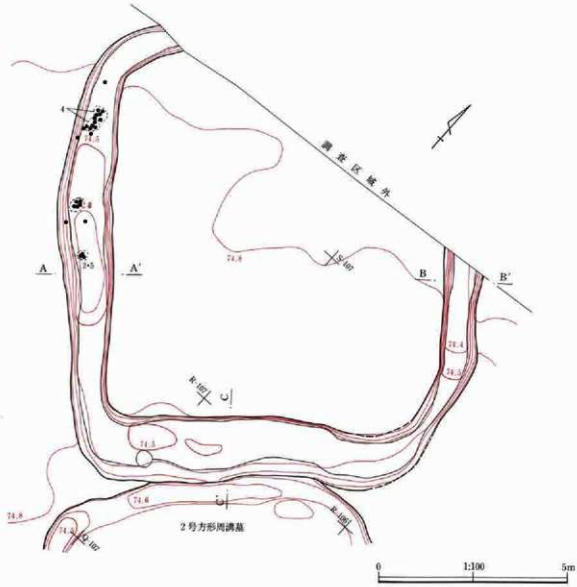
埋没土　周溝はAs-Cを含む黒褐色土によって埋まっていた。

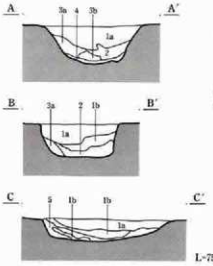
遺　物　遺物は17点出土した。そのうち図化し得たのは5点である。遺物は南西辺に集中する傾向にある。二重口縁壺(4)は口縁内部に突帯をもち、底部には焼成前に開いていた孔を粘土で塞いだ痕が残る。床面からまとまって出土した。土師器壺(3・5)は底面から30cm程上位で出土した。(3)は外面を縦方向に磨くやや丁寧な作りであるが、(5)は器形が歪み、胎土には砂礫が多く篦削り痕も明瞭で粗製である。

所　見　出土遺物から、古墳時代前期(4世紀後半)の遺構と考えられる。



第31図　3号方形周溝墓出土遺物





1a．黒褐色土　As-Cを含む黒色土。As-YP・土器片・ローム粒を含む。
1b．黒褐色土　As-Cをわずか含む。締まりややあり。
2．にぶい黄褐色土　ローム小ブロックを多量に含む。As-Cを含む黒色土を含む。壁の崩落土か？。
3a．褐色土　As-Cを含まない黒色土＋ローム小ブロック。
3b．褐色土　As-Cを含まない黒色土を多く含む。
4．にぶい黄橙色土　ローム主体。As-Cを含まない黒色土小ブロックを含む。
5．灰黄褐色土　ローム粒とAs-Cを含む黒色土が縞状に堆積。やや締まる。

0　1:50　2m

第32図　3号方形周溝墓

3号方形周溝墓出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 鉢?	埋没土	口径 (8.4) 底径 － 器高 －	①酸化焔②橙 ③粗砂・チャート・角閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。体～底部ナデか? 内面 口縁～底部横ナデ。	口～底部1／4残存
2	土師器 甕	南西辺 ＋26.8cm	口径 － 底径 7.8 器高 －	①酸化焔②純い黄橙 ③粗砂・角閃石・赤色鉱物粒を含む。	外面 胴部下位細かい横方向篦磨き。底部ナデ。 内面 胴部下位～底部ナデ。	底部破片
3	土師器 甕	南西辺 ＋32cm	口径 － 底径 3.7 器高 －	①酸化焔②純い黄橙 ③粗砂・角閃石・赤色鉱物粒を含む。	外面 頸部横ナデ。体部ハケ調整後、上～中位斜縦方向篦磨き、下位横方向篦磨き。底部篦ナデ。 内面 頸～胴部上位指ナデ。指頭痕による調整。中位ナデ。下位～底部クモの巣状ハケメ。	口縁部欠損
4	土師器 二重口縁壺	西隅 ＋4cm	口径 21.0 底径 6.0 器高 －	①酸化焔・軟質 ②橙 ③細礫・チャート・赤・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外反する口縁部一段目端部に二段目を垂直に接合。接合部を粘土紐により下垂させる。 外面 口縁部横ナデ。体部下位篦ナデか。底部粘土充塡の痕明瞭。黒斑あり。赤色塗彩か。 内面 口縁部一段目中位に粘土紐を貼り付け突帯とする。横ナデ。体～底部ナデ。	口縁・体部下位のみ残存
5	土師器 甕	南西辺 ＋26.8cm	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔②明赤褐 ③粗砂・赤・白色鉱物粒・長石・角閃石を多く含む。	外面 体部斜縦方向篦削り後磨き。底部篦ナデか。黒斑あり。 内面 胴部上位指ナデ・指頭による調整。輪積痕あり。体部中位～底部縦方向篦ナデ。	胴～底部1／2残存

4号方形周溝墓

位　置　K・M-91・92、L-91～93

写　真　PL11・12　　**重　複**　なし

長軸方位　N－35°－E

形　状　中世館により一部削平され、全体の形状ははっきりしないが、対角線を南北にする方形を呈すると考えられる。

方台部　長軸6.33×短軸6.04mの正方形である。盛り土は残存していなかった。

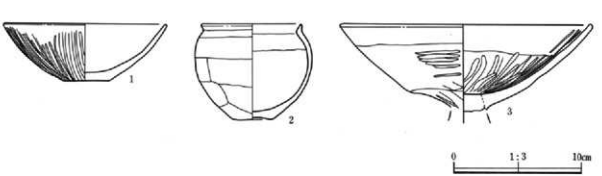
周　溝　残存した範囲では全周していた。規模は上幅1.76～0.84m・下幅1.56～0.5mで、幅は比較的一定している。深さは0.44～0.34mである。底面は平坦で、掘削時の残土が貼床状に埋め戻してあり、よく踏み締められていた。

主体部　検出されなかった。

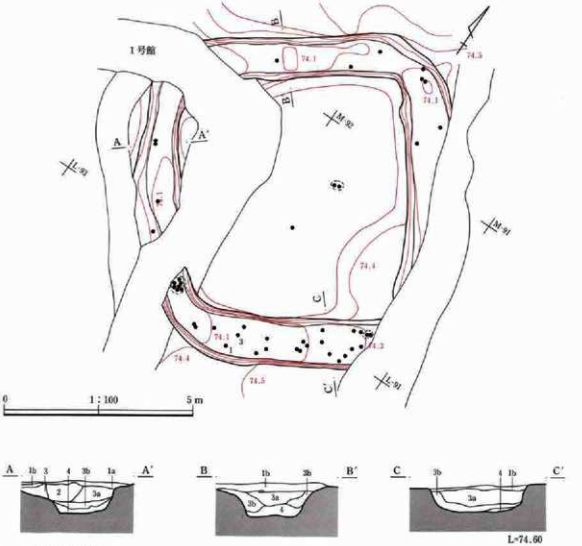
埋没土　As-Cをやや含む暗褐色粘質土によって埋まっていた。

遺　物　遺物は120点余りが出土している。ほとんどが小破片で図示し得たのは3点である。出土は南東辺に集中する傾向にある。土師器鉢(1)は平底から開くタイプで、外面に縦方向の篦磨きが施されている。土師器鉢(2)は平底で湾曲する体部から口縁部が小さく外反する。焼成はやや軟質である。土師器高坏(3)は屈折脚高坏の坏部であると考えられる。いずれも底面から10～30cm上位から出土した。

所　見　出土遺物から、古墳時代前期（4世紀後半）の遺構と考えられる。



第33図　4号方形周溝墓出土遺物



1a. As-Bを多量に含む。
1b. As-Bを含む黒色土　1a層に似るが、As-B少なく粘性あり。
2. 暗褐色粘質土　土坑覆土か?
3a. 暗褐色粘質土　As-Cを含む。粘性ややあり。あまり黒くない。
3b. 暗褐色粘質土　地山灰白粘土小ブロック・黄色粘質土小ブロックを含む。
4. 灰白色粘土ブロック+黄褐色シルトブロック+褐色粘土ブロック。(溜内残土)

第34図　4号方形周溝墓

4号方形周溝墓出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 鉢?	南調 +11.2cm	口径(12.8) 底径 3.5 器高 4.5	①酸化焔 ②橙 ③粗細砂・白・赤色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ・体部荒ナデ後、縦方向篦磨きか?黒斑あり。底部丁寧なナデ。 内面 口縁部横ナデ。体~底部荒ナデ後、ナデ・指頭による調整。	口~底部1/3残存
2	土師器 鉢?	北西辺 +31.1cm	口径 8.1 底径 3.2 器高 7.6	①酸化焔・軟質 ②淡橙 ③粗細砂・輝石を多く含む。	外面 口縁部横ナデ。体~底部横方向篦ナデか。黒斑あり。赤色塗彩か。内面 口縁部横ナデ。体~底部ナデ。体部上位輪積痕あり。	口縁部一部欠損
3	土師器 高坏	南調 +11.5cm	口径 19.8 底径 − 器高 −	①酸化焔 ②純い橙 ③粗細砂・角閃石・赤色粘土粒を含む。	外面 坏部ハケメ後、ナデ・指頭による調整・口縁部横ナデ。横方向篦磨き。 内面 坏部ハケメ後、ナデ・口縁部横ナデ。放射状篦磨き。	坏部のみ残存

5号方形周溝墓

位　置　M-93～95、N・O-92～95、P-93～96

写　真　PL12・13

重　複　北西辺中央部で7号方形周溝墓と接している。土層観察からは新旧関係を判断出来なかった。

長軸方位　N－54°－E

形　状　対角線を南北にする方形を呈しているが、南東・南西・北西辺各中央部が外に膨らんでおり、全体の形状はやや不整形である。

方台部　長軸9.16×短軸8.82mの正方形である。盛り土は残存していなかったが、周溝の土層観察から周溝掘削直後の割と短期間に方台部側からロームを含む土の流入がみられ盛り土があったと考えられる。

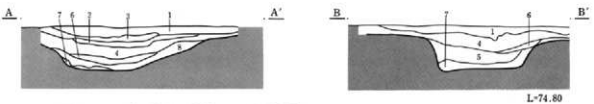
周　溝　周溝は全周する。規模は上幅3.10～1.03m・下幅2.20～0.56mで北東辺は比較的一定であるが、北西辺から南東辺中央にかけて幅広い。深さは0.60～0.24mである。底面は平坦で、掘削時の残土が貼床状に埋め戻してあり、よく踏み締められていた。

主体部　検出されなかった。

埋没土　As-Cをやや多く含む黒褐色土によって埋まっていた。中位にHr-FAが一次堆積していた。

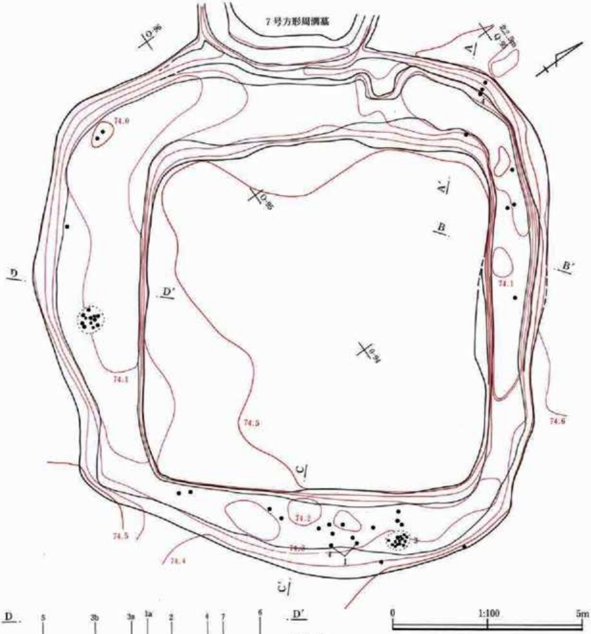
遺　物　遺物は90点余り出土した。そのうち図化し得たのは5点である。出土は南東・南西辺に集中する傾向にある。土師器甕（1）は体部上位に横位縄文が施されている。その系譜は弥生土器に連なると考えられる。底面からの出土である。小型丸底壺（3）はやや粗製ではあるが、底部に焼成前の穿孔がある。パレス壺（5）は口縁部のみの出土である。内面には沈線により綾杉文が施され、赤色塗彩の痕が残る。S字状口縁台付甕（4）はヘラ削り後ハケメが施されており、群馬に在地化したS字甕の特徴を持つ。

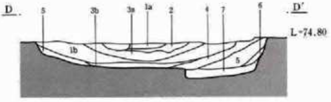
所　見　埋没土と出土遺物から、古墳時代前期（4世紀中葉）の遺構と考えられる。



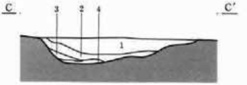
1．灰黄褐色土　As-B下水田耕作土。粘性強い。As-Bを少量含む。
2．Hr-FA層　一次堆積層。
3．にぶい黄褐色土　Hr-FA層の2次堆積。（上からの流れ込み）
4．黒褐色土　As-Cを含む黒色土。ローム小ブロック含む。粘性あり。
5．黒褐色土　As-Cを含む黒色土。ロームブロック・褐灰色シルト・粘質土小ブロックを含む。
6．黒褐色土　As-Cを含む黒色土＋褐灰色粘質土。
7．黄色ロームブロック＋灰白シルト質粘質土＋褐灰色。（掘り残しの残土）
8．暗褐色土　ローム漸移層に似た土。As-Cを含む。

第35図　5号方形周溝墓土層断面





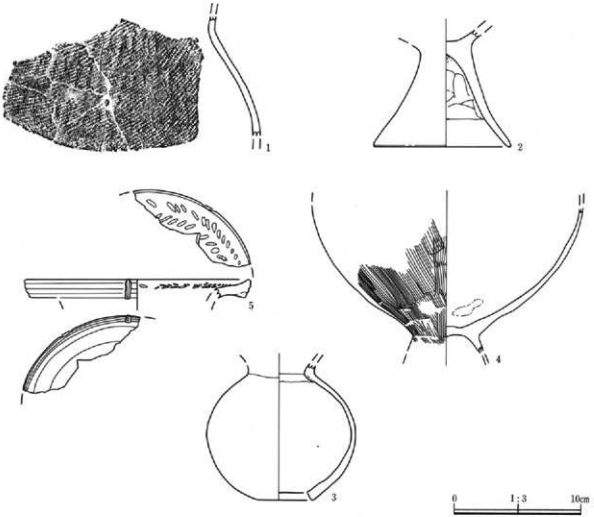
1a．褐灰色土 As-Cを含む。
1b．褐灰色土 As-Cを含む。粘性強い。
2．灰色土 As-Cを多量に含むザラついた土。
3a．褐灰色粘質土 ノロ状の堆積。水性堆積。
3b．褐灰色粘質土 ノロ状の堆積。ローム含む。（水性堆積）
4．にぶい黄褐色 ローム漸移層＋黒褐色土。細砂を含む。（壁崩落土）
5．黄褐色 ローム漸移層＋黒褐色土。細砂混じり。（壁崩落土）
6．にぶい黄褐色土 4層に似るが、As-YPに似た細砂を含む。（壁崩落土）
7．ローム＋As-YP状・褐灰色土小塊。（人為的埋土）



1．黒色土 As-Cを含む黒色土。
2．にぶい黄褐色土 ローム小塊含む。上部からの流入。
3．暗褐色土 2層に似る。黒色土が多くローム小塊含む。
4．ロームブロック＋3層塊。（人為的埋土）

0 1：50 2m

第36図 5号方形周溝墓



第37図　５号方形周溝墓出土遺物

５号方形周溝墓出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 （器形・文様の特徴）	残存状態 備考
1	土師器 壺	南東辺 床面直上	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②明赤褐 ③赤色鉱物粒多い。 粗細粒・角閃石・長石を含む。	外面　胴部縦文施文。 内面　体部ナデ。	体部上位破片
2	土師器 高坏？	堆積土	口径(10.6) 底径　－ 器高　－	①酸化焔・軟質②浅黄③白色鉱物粒・粗細砂・角閃石を含む。	外面　脚部筒ナデ後、縦方向筒磨き。裾部横ナデ。 内面　坏部ナデ。脚部横方向筒ナデ後ナデ・指頭による調整。裾部横ナデ。	脚部1／2残存
3	土師器 小型丸底壺 （底部穿孔）	南東辺 底面直上	口径　－ 底径（4.4） 器高　－	①酸化焔・軟質 ②淡橙　③粗細砂・赤・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　体部調整不明瞭。底部は焼成前穿孔。体部下位に黒斑あり。 内面　頸部指頭による調整。体部筒ナデ後、ナデ。	口縁部欠損
4	土師器 S字状口縁 台付甕	散乱 ＋10cm	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔　②橙③粗細粒・赤・白色鉱物粒を含む。	外面　体部下位筒削り後、斜縦方向ハケメ。台部矢羽状ハケメ。内面　体部筒ナデ。台部内面指ナデ。砂礫の充填あり。	体部下位2／3残存
5	土師器 パレス壺	北隅 ＋49cm	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔 ②減い橙　③粗細砂・チャート・角閃石をやや多く含む。	外面　口縁端部筒状工具による３条の沈線。口縁部径を4分割する位置に棒状付文あり。口縁端部下端粘土紐貼り付けにより下垂。赤色塗彩。 内面　筒状工具による鋸状の指突文。	口縁部破片

6号方形周溝墓

位　置　O-90～93、P-89～94、Q・R-89～94、S-90～93、T-91～92　　**写　真**　PL13～16

重　複　南東隅で8号方形周溝墓と接している。土層観察から新旧関係を判断することは出来なかった。

長軸方位　N－40°－E

形　状　対角線を南北にする方形を呈する。

方台部　長軸13.18×短軸11.58mの正方形を呈する。盛り土は残存していないが周溝の土層観察から周溝掘削後の割と短期間に方台部側からロームを含む土の流入がみられ、盛り土があったと考えられる。

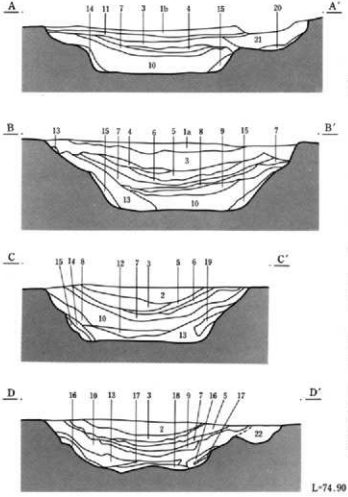
周　溝　周溝は全周する。規模は上幅2.80～1.80m、下幅2.12～0.65mで、各辺中央部がやや幅広い。深さも各辺中央部が0.70mと低く、東・南隅がやや高い。底面は平坦で整っていた。

主体部　検出されなかった。

埋没土　As-Cを含む黒褐色土によって埋まっていた。中位にはHr-FAが、上位にはAs-Bが堆積していた。

遺　物　遺物は縄文時代～中世までの総数1400点余りが出土した。そのうち図化したのは21点である。遺物の分布は南東辺・南西辺に集中している。土師器壺(1～12・13・15・17・18)は破片資料も含めると16点と多く出土している。(17)は焼成前に底部穿孔が施してある。また二重口縁壺(6)は軟質で、周溝内外側に集中して出土した。S字状口縁台付甕(16)は窓部付近からの出土である。

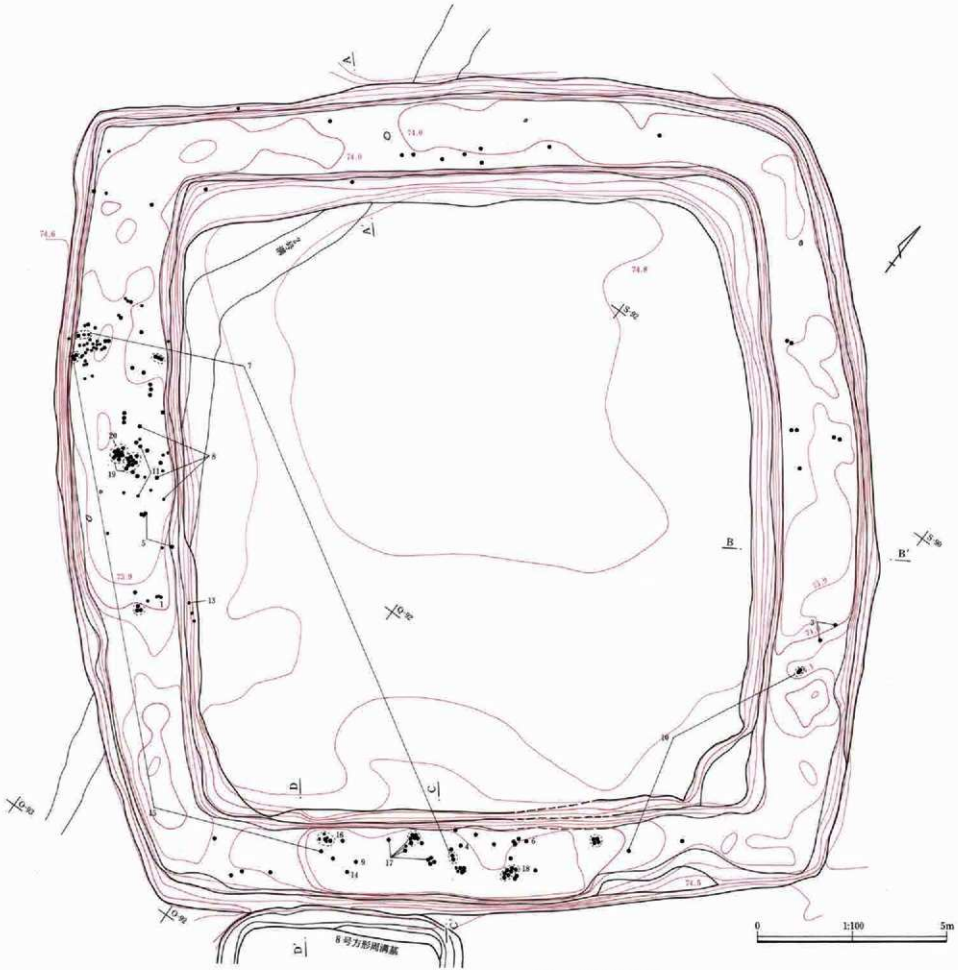
所　見　本遺跡方形周溝墓群最大の規模を持ち、周溝を含めた規模は20mを越える。埋没土と出土遺物から、古墳時代前期（4世紀後半）の遺構と考えられる。



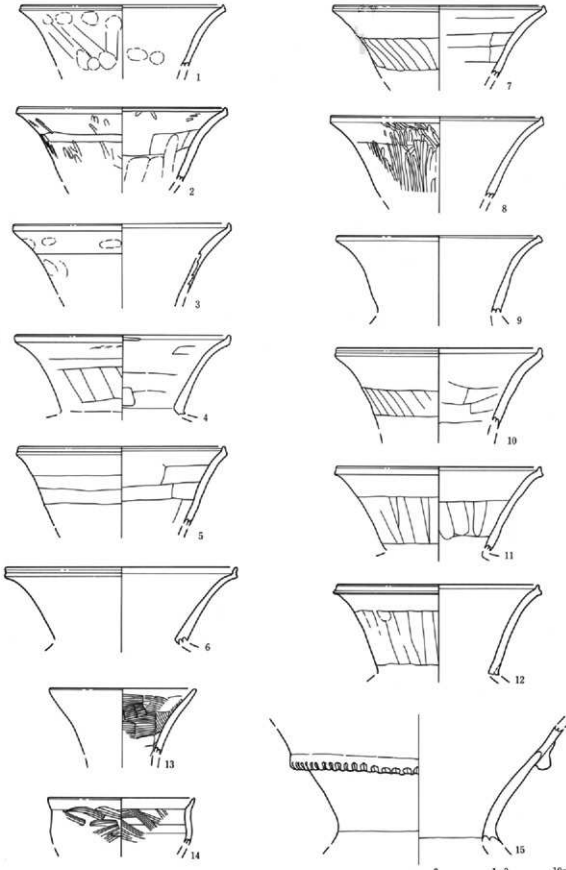
1a. 褐色土　As-B塊を多く含む。
1b. 暗褐色土　As-Bを若干含む。締まり良。
2. 暗褐色土　ローム・白色軽石粒(Hr-FP?)を若干含む。やや砂質。締まり良。
3. 黒褐色土　ローム粒・白色軽石粒を若干含む。
4. 褐色土　ローム粒・白色軽石を含む。締まり良。
5. 黒褐色土　2層に似るが、黒みが強く夾雑物少ない。
6. 暗褐色土　やや砂質。
7. 灰黄褐色砂質土　Hr-FA主体。
8. 黒褐色土　やや砂質。
9. 暗褐色土　As-Cを含む黒色土。地山黄褐色土をわずかに含む。粘性あり。
10. 黒褐色土　ローム粒を若干含む。やや砂質。（墳丘の崩落土）
11. 暗褐色土　白色軽石(FP?)若干含む。締まり良。
12. 黒色土　しまり良。粘性強い。
13. 暗褐色土　ローム塊（φ5～15mm）を少量含む。やや砂質。
14. 黒褐色土　ローム粒を若干含む。やや砂質。
15. 暗褐色土　ローム塊を含む。やや砂質。
16. にぶい黄褐色土　ローム塊＋As-Cを含む黒色土。（壁崩落土）
17. 黒色粘質土　土質均質。（滞水によるノロ？）
18. 褐灰色土　シルト質。地山白色粘土を含む。
19. 黄褐色土　ローム塊主体。（壁崩落土）
20・21. 2号溝埋没土。
22. 8号方形周溝墓埋没土。

0　1:50　2m

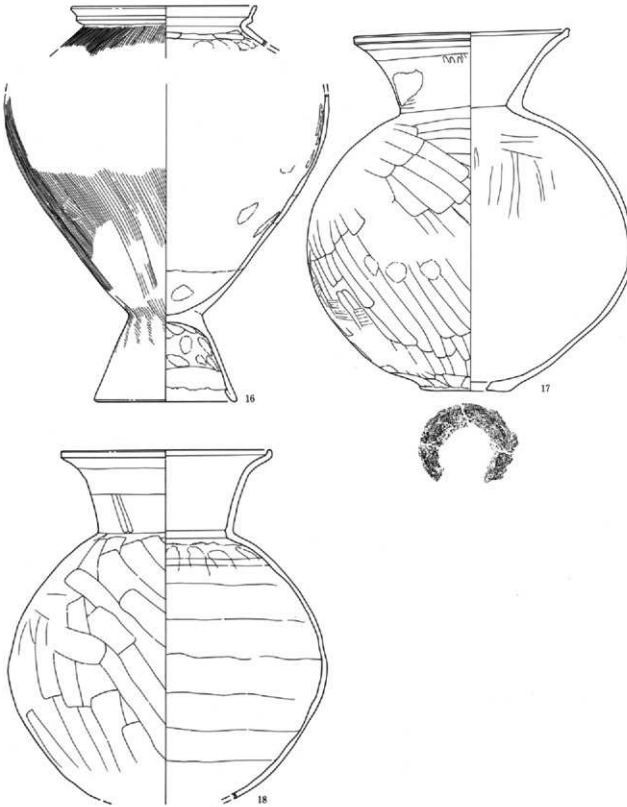
第38図　6号方形周溝墓土層断面



第39図　8号方形周溝墓



第40図　6号方形周溝墓出土遺物(1)



第41図 6号方形周溝墓出土遺物(2)

6号方形周溝墓出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 壺	南西辺 +25cm	口径(15.9) 底径　－ 器高　－	①酸化焔②橙 ③粗細砂・赤色鉱物粒を含む。	外面　口唇部受け口状。浅い沈線が巡る。口縁部斜縦方向ナデ後、横ナデ。上位指頭による調整。 内面　口縁部横ナデ。	口縁部破片
2	土師器 壺	埋設土	口径(16.4) 底径　－ 器高　－	①酸化焔②浅黄橙 ③赤色鉱物粒・角閃石・粗細砂を含む。	外面　口唇部受け口状。口縁部縦方向ナデ後、上位横ナデ。頸部横ナデ。 内面　口縁部横ナデ後、指ナデ・指頭による調整。	口縁部破片
3	土師器 壺	北東辺 +21.5cm	口径(16.9) 底径　－ 器高　－	①酸化焔②鈍い橙 ③粗細砂・角閃石・赤色鉱物粒を含む。	外面　口唇部受け口状。口縁部斜縦方向ナデ後、上位横ナデ。指頭による調整。 内面　口縁部横ナデ。	口縁部破片
4	土師器 壺	南東辺 10cm	口径(17.0) 底径　－ 器高　－	①酸化焔②橙 ③細砂・角閃石を含む。	外面　口唇部受け口状。口縁部縦方向ナデ後、上位横ナデ。頸部横ナデ。 内面　口縁部横ナデ。	口縁部破片
5	土師器 壺	南西辺 +14.5cm	口径(16.2) 底径　－ 器高　－	①酸化焔②淡橙 ③赤色鉱物粒・角閃石・粗細砂を含む。	外面　口唇部受け口状。口縁部縦方向ナデ後、横ナデ。 内面　口縁部横ナデ。	口縁部破片
6	土師器 壺	南東辺 +14.5cm	口径(10.6) 底径　－ 器高　－	①酸化焔②鈍い黄橙 ③粗細砂・角閃石・赤色鉱物粒を含む。	外面　口唇部はわ上げ。沈線が巡る。口縁部縦方向ナデ後、上位横ナデ・指頭による調整。 内面　口縁部横ナデ。	口縁部破片
7	土師器 壺	散乱 17.5cm	口径(16.6) 底径　－ 器高　－	①酸化焔②橙 ③粗細砂・角閃石を含む。	外面　口唇部受け口状。口縁部縦方向ナデ後、上位横ナデ・指頭による調整。頸部横ナデ。 内面　口縁部横ナデ。	口縁部破片
8	土師器 壺	南西辺 18.7cm	口径(16.8) 底径　－ 器高　－	①酸化焔②鈍い橙 ③粗細砂・雲母を含む。	外面　口唇部受け口状。浅い沈線が巡る。口縁部縦方向ナデ後、上位横ナデ。頸部接合部横ナデ。 内面　口縁部横ナデ。指頭による調整。	口縁部破片
9	土師器 壺	南隅 +15.5cm	口径(15.8) 底径　－ 器高　－	①酸化焔②橙 ③粗細砂・赤色鉱物粒を含む。	外面　口唇部受け口状。面取り。横ナデか。 内面　口縁部横ナデか。	口縁部破片
10	土師器 壺	東隅 2～33cm	口径(16.1) 底径　－ 器高　－	①酸化縁②浅黄橙 ③細砂・角閃石を含む。	外面　口唇部はわ上げ状。浅い沈線が巡る。縦方向ナデ後、横ナデ。頸部横ナデ。 内面　口縁部横ナデ。	口縁部破片
11	土師器 壺	南西辺 －10.5～ 14.5cm	口径(16.0) 底径　－ 器高　－	①酸化焔②浅黄橙 ③細砂・角閃石を含む。	外面　口唇部はわ上げ状。浅い沈線が巡る。縦方向ナデ後、上位横ナデ。 内面　口縁部縦方向ナデ後、横ナデ。	口縁部破片
12	土師器 壺	南西辺 +5.5cm	口径(15.8) 底径　－ 器高　－	①酸化焔②鈍い褐 ③粗細砂・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口唇部はわ上げ。口縁部縦方向ナデ後、上位横ナデ。 内面　口縁部横ナデ。	口縁部破片
13	土師器 壺	南西辺 +15cm	口径(11.5) 底径　－ 器高　－	①酸化焔②浅黄橙 ③粗細砂・角閃石・赤色鉱物粒を含む。	外面　端部丸くおさめる。口縁部縦方向ナデ後、口唇部横ナデ。 内面　口縁部ハケメ後、口唇部横ナデ。	口縁部破片
14	土師器 鉢？	南隅 6.1cm	口径(11.6) 底径　－ 器高　－	①酸化焔②鈍い黄橙 ③粗細砂・チャート・角閃石・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部上位不連続な斜横方向ハケメ。中位横方向ハケメ。 内面　口縁部ハケメ後、横ナデ。体部不定方向ハケメ。やや煤けている。	口縁部破片
15	土師器 二重口縁壺	散乱 +26.6cm	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔　②明褐 ③粗細砂・赤色鉱物粒を含む。	外面　調整不明。口縁端部欠損。口縁部折返し。二段目下端部箆状工具による指突文。 内面　調整不明。黒斑あり。	口～頸部のみ残存
16	土師器 S字状口縁 台付甕	南隅 +15cm	口径(14.8) 底径　－ 器高　－	①酸化焔 ②浅黄 ③粗細砂・角閃石・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。頸部調整あり。体部上位斜縦方向ハケメ。台部矢羽状ハケメ。 内面　口縁部横ナデ。体部上位指頭による調整・ナデ。台部内面砂粒充填。端部折返し。	口縁部、体部中位～台部残存
17	土師器 壺 (底部穿孔)	南東辺 －3.5cm	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔 ②浅黄橙 ③粗細砂・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口唇部はわ上げ。口縁部横ナデ。体部斜縦方向荒ナデ後ナデ。底部焼成後穿孔。 内面　口縁部横ナデ。体部上位指頭による調整。下位横方向ナデ。	口～底部2/3残存
18	土師器 壺	南西辺 0cm	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔 ②灰白 ③細砂・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口唇部受け口状。口縁部横ナデ。体部斜縦方向荒ナデ。底部欠損。 内面　口縁部横ナデ。体部上位指ナデ・指頭による調整。下位ナデ。	口～体部2/3底部穿孔の可能性あり

7号方形周溝墓

位　置　O・P-95・96

写　真　PL17・18

重　複　南東辺で5号方形周溝墓と接している。土層観察から新旧関係を判断することは出来なかった。

長軸方位　N－41°－E

形　状　対角線を南北にする方形を呈する。

方台部　長軸3.80×短軸3.64mの正方形である。盛り土は残存していなかった。

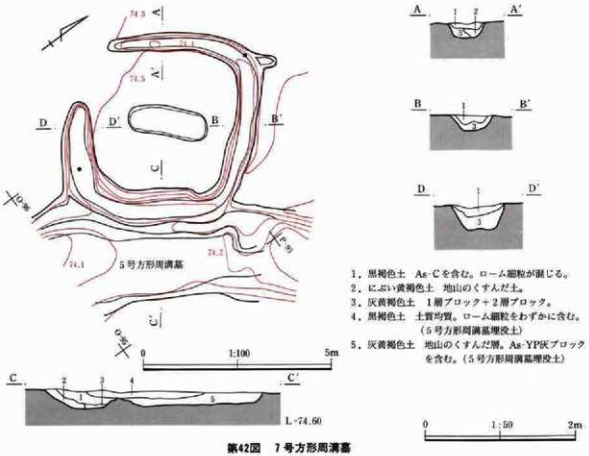
周　溝　周溝は西隅が一部切れ、北隅がやや突出する。規模は上幅0.95～0.40m、下幅0.56～0.22m、深さ0.31～0.19mである。底面は平坦であった。

主体部　方台部中央に埋葬主体部と考えられる土壙を1基検出した。主体部は長軸を周溝墓と同方位にとる。規模は長軸2.03、短軸0.64m、深さ0.11mである。底部には炭化物層が一部広がっていた。同定のためリン・カルシウム分析を行ったが良好な結果が得られなかった(第4章第4節参照)。

埋没土　As-C・ローム細粒を含む黒褐色土によって埋まっていた。

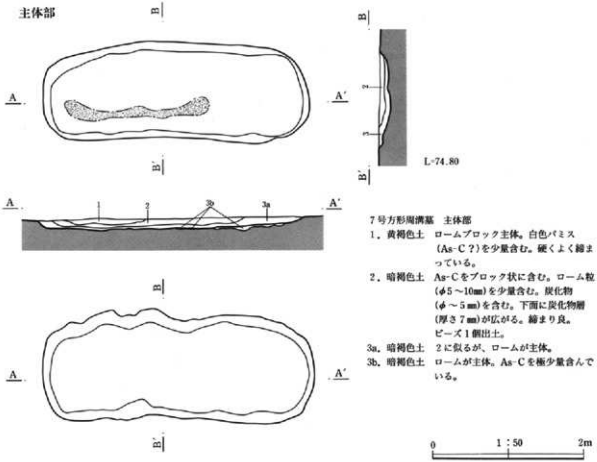
遺　物　遺物は62点出土している。いずれも小破片で図化し得たのは2点のみである。土師器壺(1)は底部の破片である。主体部の埋没土中からは、青緑色のビーズが1点出土した。

所　見　本方形周溝墓群で唯一主体部が検出された。埋没土と出土遺物から古墳時代前期（4世紀中葉～後半）の遺構と考えられる。



1．黒褐色土　As-Cを含む。ローム細粒が混じる。
2．にぶい黄褐色土　地山のくずれだ土。
3．灰黄褐色土　1層ブロック＋2層ブロック。
4．黒褐色土　土質均質。ローム細粒をわずかに含む。（5号方形周溝墓埋没土）
5．灰黄褐色土　地山のくずれだ層。As-YP(K)ブロックを含む。（5号方形周溝墓埋没土）

第42図　7号方形周溝墓



第43図　7号方形周溝墓主体部と出土遺物

7号方形周溝墓出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 （器形・文様の特徴）	残存状態 備考
1	土師器 壺？	南隅 ＋23cm	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②明黄褐色 ③粗砂・赤色鉱物粒を含む。	外面　体部下位ハケメ後、ナデ。 内面　体部不連続横方向の粗い(4本/cm)ハケメ。底部不連続横方向の細かい(9～10本/cm)ハケメ。	体部下位のみ残存。
2	ガラス ビーズ	主体部 埋設土	直径　0.4 長さ　0.4 厚さ		青緑色。中央部穿孔。	完形

8号方形周溝墓

位　置　N・O-90・91

写　真　PL18

重　複　北西辺で6号方形周溝墓と接している。土層観察から新旧関係を判断することは出来なかった。

長軸方位　N－29°－E

形　状　対角線を南北にする方形を呈する。

方台部　長軸5.55×短軸5.16mの正方形である。盛り土は残存していないが周溝の土層観察によると周溝掘削直後の割と短期間に方台部側からロームを含む土の流入がみられ、盛り土があったと考えられる。

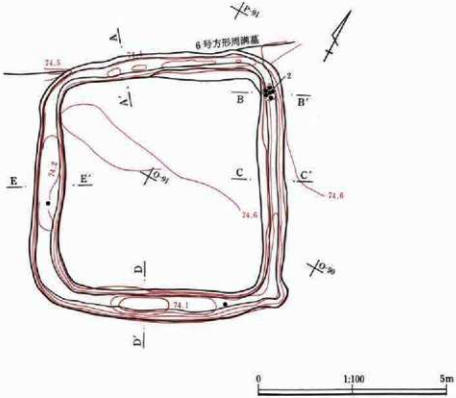
周　溝　周溝は全周する。規模は上幅0.84～0.40m、下幅0.58～0.15m、深さ0.44～0.24mである。各辺の中心部がやや深い。底面は掘削時の残土が貼床状に埋め戻してあり、よく踏み締められていた。

主体部　検出されなかった。

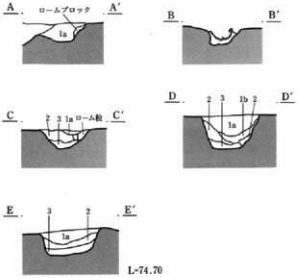
埋没土　As-Cを含む黒色土によって埋まっていた。

遺　物　遺物は6点出土している。そのうち2点を図化した。小形丸底鉢(1)は焼成も良く、細かい縦方向ヘラミガキが丁寧に施されている。土師器壺(2)は北隅の底面から横倒しの状態で出土した。

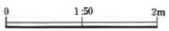
所　見　出土遺物から古墳時代前期（4世紀中葉）の遺構と考える。

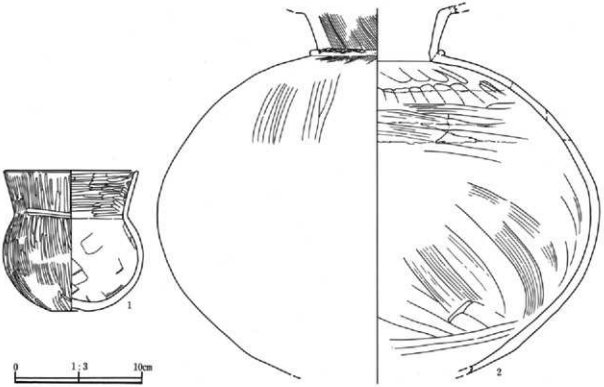


第44図　8号方形周溝墓



1a．黒色土　As-Cを含む黒色土。締まりやや弱い。
　　フカフカした土。
1b．黒色土　As-Cを含む黒色土をわずかに含む。
2．黒褐色土　As-C・ローム小ブロックを含む。
3．ロームブロック＋２層小ブロック（人為的埋土）





第45図　８号方形周溝墓土層断面と出土遺物

８号方形周溝墓出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 （器形・文様の特徴）	残存状態 備考
1	土師器 小型丸底壺	埋没土	口径 10.4 底径 3.0 器高 11.1	①酸化焔・硬質 ②明赤褐 ③粗砂・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口～底部丁寧なナデ後、縦方向丁寧な篦磨き。底部くぼみ底。体部下位に黒斑あり。 内面　口縁部丁寧なナデ後、横方向丁寧な篦磨き。体～底部ナデ。底部に黒斑あり。	口縁部一部欠損。
2	土師器 壺	北東隅 ＋5cm	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔 ②橙③粗砂・赤・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　頸部ハケメ。体～底部ハケメ後、縦方向篦磨き。頸部粘土紐張り付け後、篦状工具による制突。 内面　頸部ナデ。体部上位指ナデ・指頭による調整。中位～下位ハケメ（７本/単位）による調整。	口～体部1/2欠損

9号方形周溝墓

位　置　L・M・N・O-85～87

写　真　PL19

重　複　なし

長軸方位　N－17°－E

形　状　西隅付近が一部調査区域外ではっきりしないが、形状は不定形である。

方台部　長軸10.90×短軸9.35mの長方形である。盛り土は残存していないが、周溝の土層観察によると周溝掘削直後の割と短期間に方台部側からロームを含む土の流入がみられ、盛り土があったと考えられる。

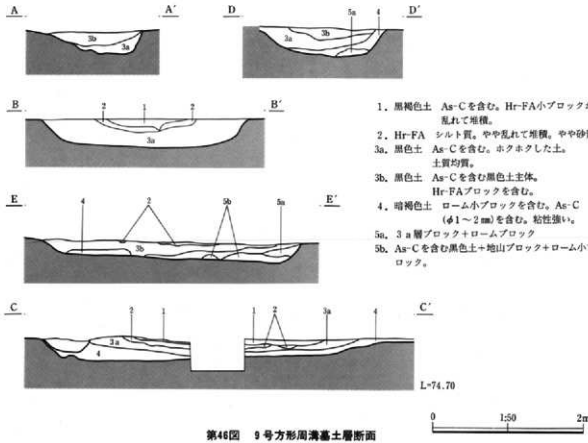
周　溝　検出した範囲では全周していた。規模は上幅4.66～0.92m、下幅4.66～0.40m、深さ0.40～0.24mで、各辺の中央部分が大きく外に膨らむ。特に南東・北西辺中央部が著しい。四隅の幅は狭い。

主体部　検出されなかった。

埋没土　As-Cを含む黒褐色土によって埋まっていた。また周溝上位にHr-FAが1次堆積していた。

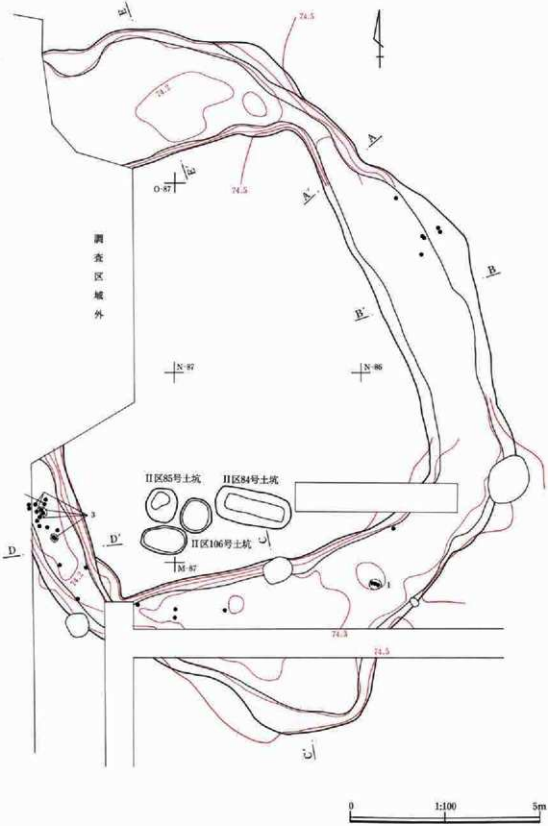
遺　物　遺物は70点余り出土した。いずれも小破片で図化し得たのは3点である。分布は南西辺に集中する傾向にある。(1)は土師器高坏の坏部と考えられる。S字状口縁台付甕(2・3)には頸部調整が認められる。

所　見　他の方形周溝墓と形状が異なる点が注意される。また37・38号住居とも隣接している。埋没土と出土遺物から古墳時代前期（4世紀後半）の遺構と考える。

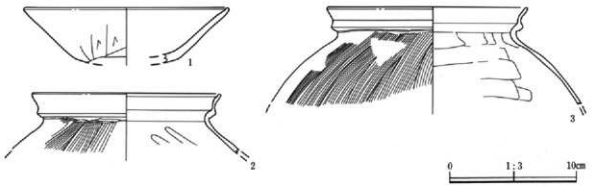


1．黒褐色土　As-Cを含む。Hr-FA小ブロックが乱れて堆積。
2．Hr-FA　シルト質。やや乱れて堆積。やや砂質。
3a．黒色土　As-Cを含む。ホクホクした土。土質均質。
3b．黒色土　As-Cを含む黒色土主体。Hr-FAブロックを含む。
4．暗褐色土　ローム小ブロックを含む。As-C（φ1～2mm）を含む。粘性強い。
5a．3a層ブロック＋ロームブロック
5b．As-Cを含む黒色土＋地山ブロック＋ローム小ブロック。

第46図　9号方形周溝墓土層断面



第47図　9号方形周溝墓



第48図 9号方形周溝墓出土遺物

9号方形周溝墓出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 高坏	南東辺 +21cm	口径(16.2) 底径 － 器高 －	①酸化焔②浅黄橙③粗細砂・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	内外面 坏部筒ナデ後、ナデ。口縁部横ナデ。	坏部破片
2	土師器 S字状口縁 台付甕	南西辺 +11cm 接合多数	口径 14.8 底径 － 器高 －	①酸化焔②純い黄橙③粗細砂・赤・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。頸部調整あり。胴部上位筒削り後、斜め縦方向ハケメ(8本/単位)。 内面 口縁部横ナデ。体部上位ナデ・縦方向指ナデ。	口～体部1/4残存 3と同一個体の可能性あり
3	土師器 S字状口縁 台付甕	南西辺 +10cm	口径(15.8) 底径 － 器高 －	①酸化焔 ②純い橙 ③粗細砂・赤・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。頸部調整あり。胴部上位斜縦方向ハケメ。 内面 口縁部横ナデ。体部上位ナデ・指ナデ。	口～体部破片 2と同一個体の可能性あり

10号方形周溝墓

位 置 I-89・90、J-88～90、K-87～90、L-87～89 **写 真** PL20～23

長軸方位 N－47°－E

重 複 北西辺中央部で13号方形周溝墓と接していると推定されるが、遺構による重複のため確認できなかった。

形 状 南隅付近が平安時代の溝に壊され全体の形状ははっきりしないが、対角線を東西にする方形を呈すると考えられる。

方台部 長軸11.5×短軸10.6mの正方形である。盛り土は残存していないが周溝の土層観察によると、周溝掘削直後の割と短期間に方台部側からロームを含む土の流入がみられ、盛り土があったと考える。

周 溝 検出した範囲では、全周していた。規模は、上幅3.3～1.98m・下幅2.6～1.6m、深さ0.6～0.36mである。底面は平坦であった。

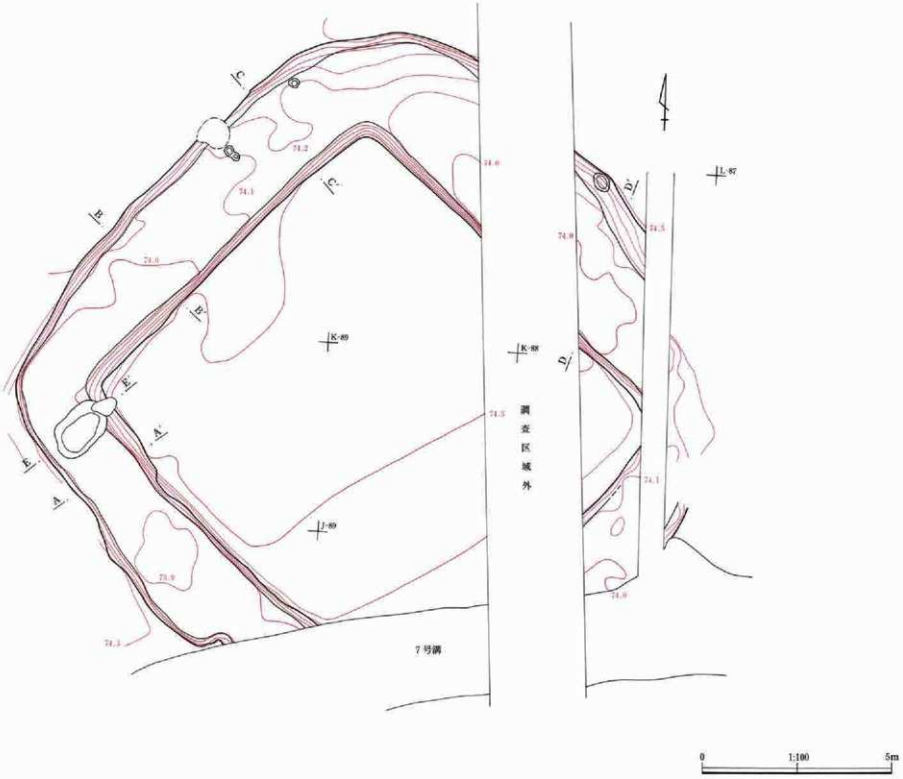
周溝内土坑 西隅付近の周溝底面から土坑を1基検出した。規模は長径1.70m・短径1.05m・深さ0.35mである。主にロームブロックで埋まっており、炭化物も認められた。人為的な埋没土と考えられる。土坑内からの出土遺物はなかった。

主体部 検出されなかった。

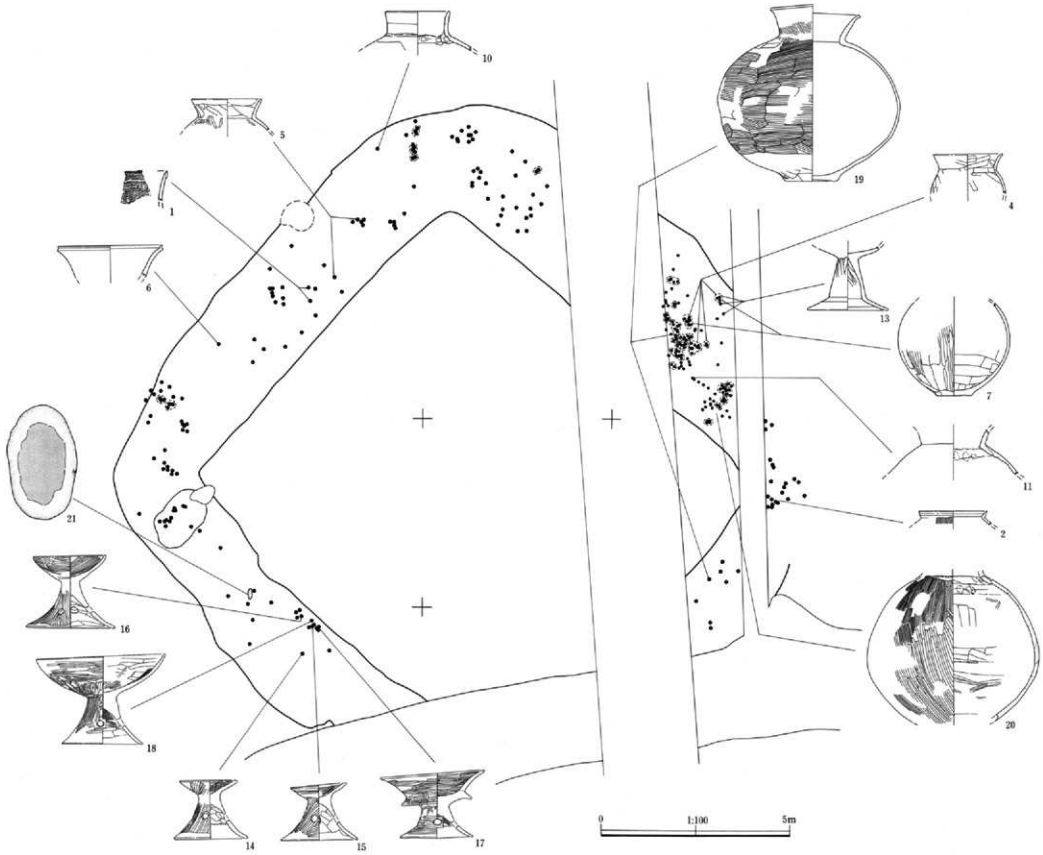
埋没土 周溝はAs-Cを含む黒褐色土によって埋まっていた。上位にはHr-FAが堆積していた。

遺 物 縄文～平安時代の遺物を含め総数約840点が出土している。遺物の分布は全体に散在しているが、北東辺中央部に特に集中している。(1)は樽式土器甕の口縁部分である。土師器高坏(18・19)と土師器器台(15・16・17)は南西辺方台部際からまとまって出土した。いずれも赤色塗彩がしてあり、丁寧に磨かれている。石製品(21)は中央部が擦られている。いずれも底面からの出土である。

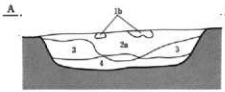
所 見 埋没土と出土遺物から古墳時代前期（4世紀後半）の遺構と考えられる。

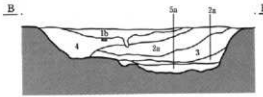


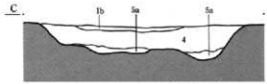
第49図　10号方形周溝墓

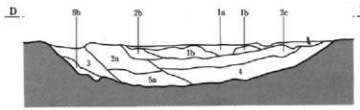


第50図　10号方形周溝墓遺物出土位置図









1a．暗褐色土　Hr-FA塊（φ3～10mm）を含む。焼土（φ～3mm）を極少量含む。

1b．Hr-FA　一次堆積層。

2a．暗褐色土　As-C（φ5～10mm）を含む。ローム（φ～5mm）をやや多く含む。

2b．暗褐色土　2a層に似るが、ローム粒少なくHr-FAを少量含む。

2c．暗褐色土　2b層に似るが、Hr-FAが少なく黒色が強い。

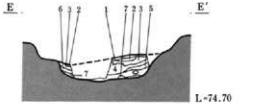
3．暗褐色土　2a層に似るが、ローム粒少ない。遺物を少量含む。

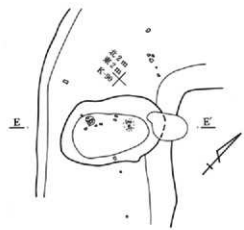
4．暗黒色土　As-Cを含む。黒色土が主体。

5a．ロームブロック＋黒色土。

5b．5aに似るが、ロームが少ない。

L=74.70　0　1:50　2m





10号方形周溝墓　周溝内土坑

1．褐色土　地山ローム多く含む。

2．黒褐色土　ローム粒・炭化物粒をわずかに含む。

3．褐色土　地山ロームブロック多量に含む。

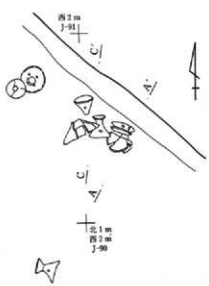
4．黒褐色土　ローム粒をわずかに含む。粘性弱い。

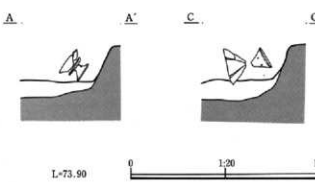
5．暗褐色土　ローム粒を少量含む。炭化物粒わずかに含む。粘性弱い。

6．黒褐色土　ローム粒を少量含む。粘性弱い。

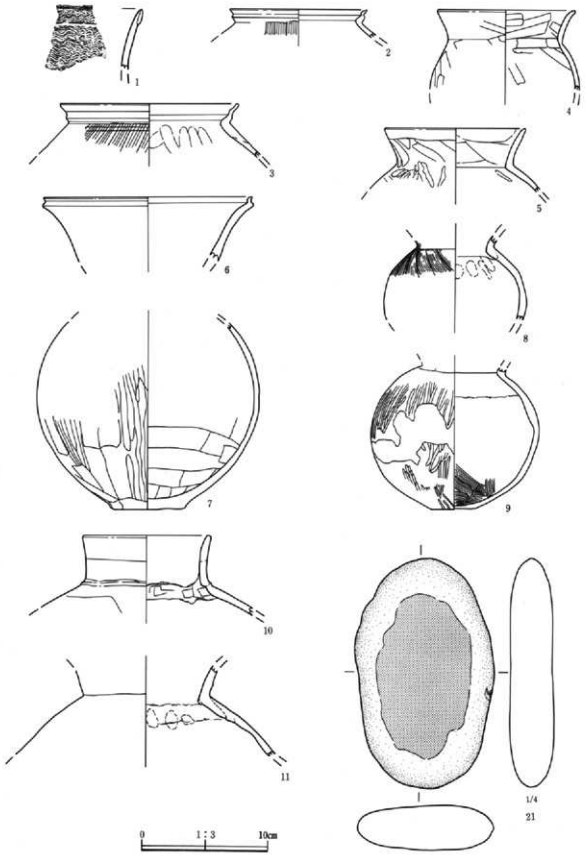
7．褐色土　ロームブロック主体。粘性弱い。

0　1:50　2m

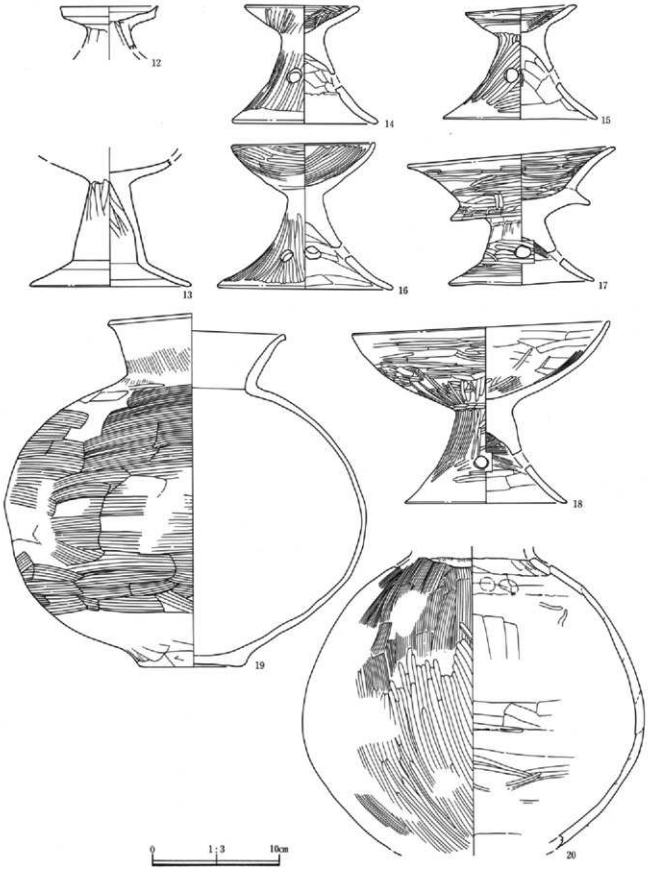




第51図　10号方形周溝墓土層断面と周溝内土坑



第52図 10号方形周溝墓出土遺物(1)



第53図　10号方形周溝墓出土遺物(2)

10号方形周溝墓出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③粘土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	弥生土器 壷	北西辺 +18cm	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔②橙 ③細砂・白色鉱物粒 ・角閃石を含む。	外面 折り返し口縁。口縁部1単位6本の櫛描廉状文を3段以上施す。黒斑あり。 内面 口縁部横方向篦ナデ。	口縁部破片
2	土師器 S字状口縁 台付甕	東隅 +10cm	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔②暗褐 ③白色鉱物粒・細砂 を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部上位斜縦方向ハケメ。 内面 口縁部横ナデ。体部ナデか。	口縁部破片 調整不明瞭
3	土師器 S字状口縁 台付甕	西隅 +9cm	口径(14.4) 底径 － 器高 －	①酸化焔②灰白～灰黄③白色鉱物粒・細砂を含む。	外面 口縁部横ナデ。頸部調整あり。体部篦削り後、斜縦方向ハケメ。 内面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。	口縁部破片
4	土師器 甕	北東辺 +2～23cm 破片多数	口径 11.0 底径 － 器高 －	①酸化焔②純い黄橙 ③白・赤色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ・指頭による調整。体部ナデ。黒斑あり。内面 口縁部ハケメ後、横ナデ。体部指ナデ・指頭による調整。	口～体部上位 残存
5	土師器 甕	北西辺 +23cm	口径 11.0 底径 － 器高 －	①酸化焔②灰黄褐 ③粗細砂・白・赤色鉱物粒を含む。	外面 口～体部ハケメ後、口縁部横ナデ。体部ナデ。黒斑あり。内面 口縁部横ナデ。体部上位ナデ・指頭による調整。	口～体部上位 残存
6	土師器 壺	北西辺 +38cm	口径(16.4) 底径 － 器高 －	①酸化焔②淡赤橙 ③細砂・角閃石を含む。	外面 口縁部はね上げ状。明瞭に段を持つ。口縁部横ナデ。 内面 口縁部縦方向指ナデ後、横ナデ。	口縁部破片
7	土師器 壺	北東辺 +20～48cm 接合多数	口径 － 底径 5.8 器高 －	①酸化焔②淡黄 ③細砂・白・赤色鉱物粒を含む。	外面 体～底部篦ナデ後、ナデか。 内面 体～底部篦ナデ。	体～底部1/4 残存
8	土師器 小型 丸底壺?	南東辺 +20cm	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔②純い橙 ③粗細砂・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面 頸～体部上位ハケメ後、ナデ。黒斑あり。 内面 体部上位指ナデ・指頭による調整。	体部上位1/3 残存
9	土師器 壺	西隅土坑 +51cm	口径 － 底径 3.5 器高 －	①酸化焔②浅黄橙③粗細砂・赤・白鉱物粒を含む。	外面 口縁部欠損。体～底部丁寧な篦磨き。 内面 体部上～中位ナデ。中位～底部ヌモの巣状のハケメ。	体部のみ残存
10	土師器 壺	北隅 +16cm	口径(10.0) 底径 － 器高 －	①酸化焔②浅黄橙 ③白・赤色鉱物粒・粗細砂・角閃石含む。	外面 口縁部横ナデ。頸部粘土紐貼付け。体部篦ナデ。 内面 口縁部横ナデ。頸部指ナデ・指頭による調整。接合痕明瞭。体部ナデ。	口～体部上位 破片
11	土師器 壺	北東辺 +5cm	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔②純い橙 ③粗細砂・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部篦ナデか。 内面 口縁部横ナデ。体部ナデ・指頭による調整。輪積痕明瞭。	体部上位破片
12	土師器 器台	東隅 +9cm	口径 (7.4) 底径 － 器高 －	①酸化焔②明赤褐 ③粗細砂・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面 坏受部横ナデ。 内面 坏受部ナデ。	坏受部破片
13	土師器 高坏	北東辺 +32cm	口径 － 底径(12.8) 器高 －	①酸化焔・硬質 ②橙③白色鉱物粒・細砂を含む。	外面 坏部下位篦ナデ後ナデ。脚部縦方向篦磨き。脚端部横ナデ。 内面 坏部ナデ。脚部絞り目明瞭。裾部横ナデ。	脚部のみ残存
14	土師器 器台	南西辺 +6cm	口径 9.0 底径 11.7 器高 9.3	①酸化焔②淡赤橙 ③粗細砂・赤粒・白色鉱物粒を含む。	外面 坏部ナデ後丁寧な篦磨き。口縁部横ナデ。脚部篦ナデ後、縦方向篦磨き。裾部横ナデ。ほぼ3分割の位置に透孔。赤色塗彩。黒斑あり。内面 坏部篦磨き。脚部篦ナデ・指ナデ。裾部横ナデ。黒斑あり。	ほぼ完形
15	土師器 器台	南西辺 +13cm	口径 7.7 底径 12.0 器高 8.7	①酸化焔 ②黄橙 ③粗細砂・赤・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面 受部横方向篦磨き。口縁部横ナデ。脚部篦ナデ後、縦方向篦磨き。裾部横ナデ。透孔をほぼ4分割の位置に穿孔後、1ヵ所を粘土で埋め3ヵ所とする。赤色塗彩。黒斑あり。内面 受部横方向篦磨き。口縁部横ナデ。脚部指頭による調整。裾部横ナデ。	完形
16	土師器 高坏or器台	南西辺 +15cm	口径 11.3 底径 13.8 器高 11.5	①酸化焔②橙 ③粗細砂・角閃石・赤・白色鉱物粒を含む。	外面 受部ナデ後斜め横方向篦磨き。脚部ナデ後丁寧な縦方向篦磨き。裾部横ナデ。ほぼ4分割の位置に透孔。全体の1/2に黒斑あり。内面 受部放射状篦磨き。脚部篦ナデ。裾部横ナデ。	ほぼ完形
17	土師器 高坏	南西辺 +11cm	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔 ②赤 ③粗細砂・白色鉱物粒を含む。	外面 坏部ハケメ、ナデ後丁寧な横方向篦磨き。口縁部横ナデ。脚部ハケメ、ナデ後、丁寧な縦方向篦磨き。裾部横ナデ。4分割の位置に透孔。坏・裾部に黒斑あり。赤色塗彩。 内面 坏部パケメ・ナデ後、丁寧な横方向篦磨き。脚部ハケメ。裾部横ナデ。坏部黒斑。	完形

18	土師器 高坏	南西辺 ＋17cm	口径 19.7 底径 12.3 器高 13.9	①酸化焔 ②明黄褐 ③粗細砂・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　坏部ハケメ、ナデ後、丁寧な横方向筆磨き。下位丁寧な縦方向筆磨き。口縁部横ナデ。脚部ハケメ後、縦方向筆磨き。裾部横ナデ。４分割の位置に透孔。口縁・裾部に黒斑あり。赤色塗彩 内面　坏部ハケメ、ナデ後、筆磨き。口縁部横ナデ。脚部ハケメ。裾部横ナデ。坏部黒斑あり。	ほぼ完形
19	土師器 壷	北東～南東辺 －５～33cm 散乱	口径 13.8 底径 8.4 器高 27.6	①酸化焔 ②明赤褐 ③粗細砂・角閃石・白・赤色鉱物粒・雲母を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部ハケメ後、ナデ。底部不定方向筆ナデ。黒斑あり。内面　口縁部横ナデ。体部上位指ナデ・指頭による調整。中位～下位筆ナデ。底部ハケメ後、ナデ・指頭による調整。	体部中位一部欠損
20	土師器 壷	北東辺 ０～15cm 破片多数	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②鈍い橙 ③粗細砂・赤・白色鉱物粒・角閃石含む。	外面　体部上位ハケメ。下位筆ナデ後、丁寧な縦方向筆磨き。黒斑あり。内面　体部上位指ナデ・指頭による調整。中位～底部筆ナデ。内面煤付ている。	口縁部欠損 体～底部2／3残存
21	白石	南西辺　＋4cm 完形	長 24.2　幅　14.2 厚　4.8　重 2821.6	粗粒輝石	盤状の円礫。表裏に使用による摩耗がみられる。	

11号方形周溝墓

位　置　Ⅰ・J-82～84　　**写　真**　PL23

重　複　検出された範囲ではなし。

長軸方位　N－67°－E

形　状　中世館に壊されており、全体の形状ははっきりしないが、対角線を北東方向にする方形を呈すると推定される。

方台部　残存部分で4.62×2.4m以上である。盛り土は残存していないが周溝の土層観察によると、周溝掘削直後の割と短期間に方台部側からロームを含む土の流入がみられ、盛り土があったと考えられる。

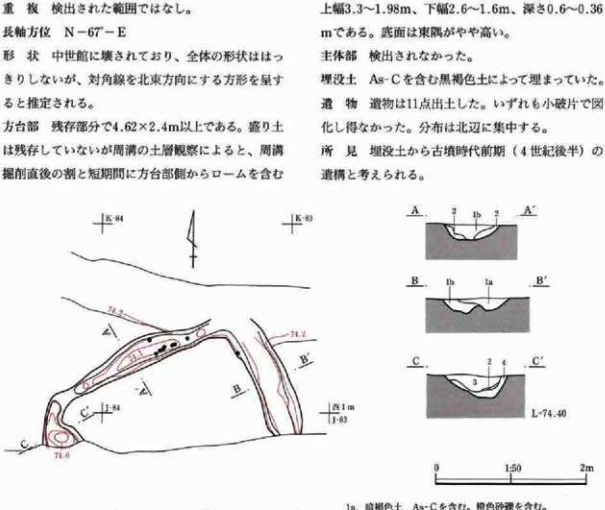
周　溝　検出した部分では全周していた。規模は、上幅3.3～1.98m、下幅2.6～1.6m、深さ0.6～0.36mである。底面は東隅がやや高い。

主体部　検出されなかった。

埋没土　As-Cを含む黒褐色土によって埋まっていた。

遺　物　遺物は11点出土した。いずれも小破片で図化し得なかった。分布は北辺に集中する。

所　見　埋没土から古墳時代前期（４世紀後半）の遺構と考えられる。



1a．暗褐色土　As-Cを含む。橙色砂礫を含む。
1b．暗褐色土　1a層に似るが、As-Cを含む黒色土が多い。
2．橙色土　砂礫に黒色土がわずかに混じる。
3．黒色土　As-Cを含む。ホクホクした土。
4．ロームブロック＋黒色土。

第54図　11号方形周溝墓

12号方形周溝墓

位　置　L-89、M・N-88～90、O-88・89

写　真　PL24・25

重　複　検出した範囲ではなし。

長軸方位　N－22°－E

形　状　南東隅が一部調査区域外であるためはっきりしないが、対角線を南北にする方形を呈すると考えられる。

方台部　長軸7.75×短軸6.95mのほぼ正方形である。盛り土は残存していなかった。

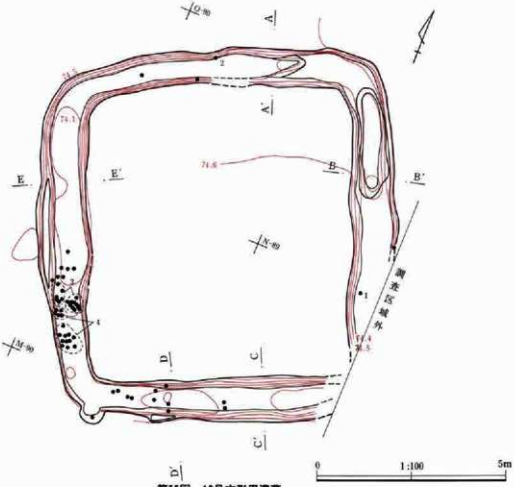
周　溝　検出した範囲では全周していた。溝の規模は上幅1.4～0.8m・下幅0.84～0.40mである。深さは0.9～0.4mである。底面は北西辺～南西辺中央部・北東辺の一部が低い。一部貼り床状に踏み固められていた。

主体部　検出されなかった。

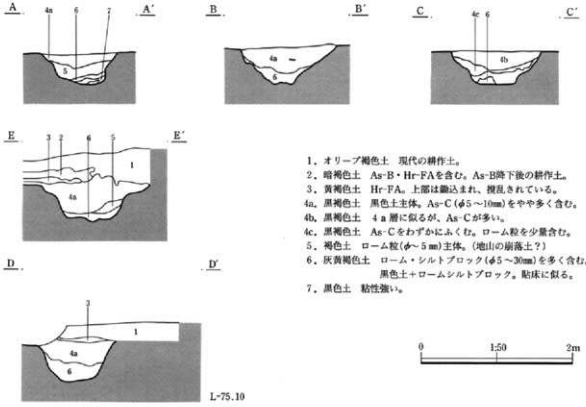
埋没土　As-Cを含む黒褐色土によって埋まっていた。上位にはHr-FAが一次堆積していた。

遺　物　遺物165点出土した。分布は南西辺中央から南隅にかけて集中していた。土師器壺（3・4）は底面から、破砕した状態で出土した。いずれも底面からの出土である。(5)は土師器壺で口縁部は欠損しているが跳ね上げもしくはつまみ上げの口縁部をもつものと考えられる。小型丸底壺(4)は完形で出土した。

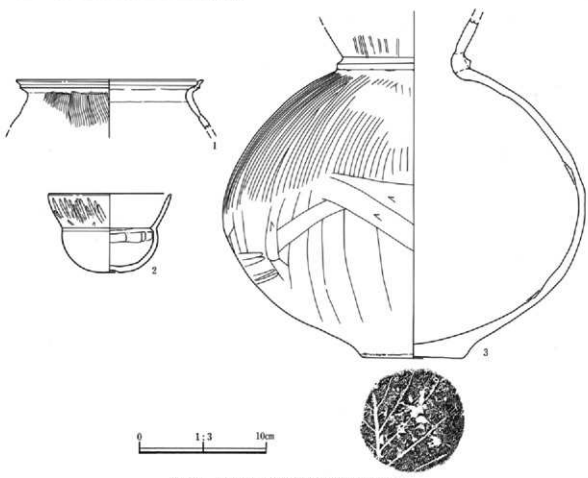
所　見　埋没土と出土遺物から古墳時代前期（4世紀後半）の遺構と考えられる。



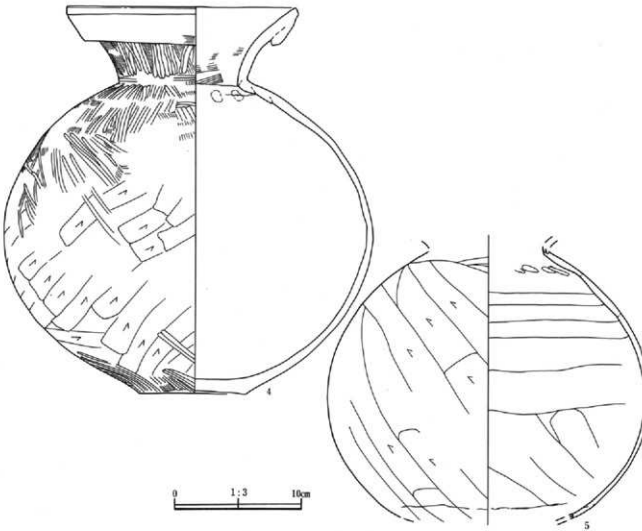
第55図　12号方形周溝墓



1．オリーブ褐色土　現代の耕作土。
2．暗褐色土　As-B・Hr-FAを含む。As-B時下後の耕作土。
3．黄褐色土　Hr-FA。上部は撹乱され、攪乱されている。
4a．黒褐色土　黒色土主体。As-C（φ5～10mm）をやや多く含む。
4b．黒褐色土　4a層に似るが、As-Cが多い。
4c．黒褐色土　As-Cをわずかにふくむ。ローム粒を少量含む。
5．褐色土　ローム粒（φ～5mm）主体。（地山の崩落土？）
6．灰黄褐色土　ローム・シルトブロック（φ5～30mm）を多く含む。
　　黒色土＋ロームシルトブロック。貼床に似る。
7．黒色土　粘性強い。



第56図　12号方形周溝墓土層断面出土遺物(1)



第57図 12号方形周溝墓出土遺物(2)

12号方形周溝墓出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 S字状口縁 台付甕	南東辺 底面直上	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔②橙 ③粗細砂・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部斜縦方向ハケメ。 内面 口縁部横ナデ。体部指ナデ・指頭による調整。	口縁部破片
2	土師器 小型丸底 土器	北西辺 底面直上	口径 9.6 底径 1.5 器高 6.3	①酸化焔②橙 ③粗細粒・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面 口～体部ナデ後、口縁部横ナデ。体部縦方向篦磨き。底部扉み底。黒斑あり。 内面 口縁部横ナデ。体部ナデ。	完形
3	土師器 壺	南西辺 底面直上	口径 － 底径 8.0 器高 －	①酸化焔②橙 ③細礫・粗細砂・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面 口～体部置ナデ後縦方向篦磨き。頸部粘土紐貼り付け。底部木葉痕あり。 内面 口縁部横ナデ。体部上位指頭による調整。中位～底部置ナデ後ナデ。	口縁部欠損
4	土師器 二重口縁壺	南西辺 底面直上	口径 18.2 底径 8.6 器高 30.6	①酸化焔 ②橙 ③粗細砂・赤・白色鉱物粒多く含む。	外面 口縁部折返し。口～体部ハケメ後、口縁部横ナデ。頸～体部丁寧な篦磨き。底部置ナデ。赤色塗彩か。黒斑あり。内面 口縁部ハケメ後横ナデ。体部上位縦方向指ナデ・指頭による調整。輪積み痕あり。体部中位～底部置ナデ後ナデ。	体部中央一部欠損
5	土師器 壺	埋投土	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔②橙 ③粗細砂・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面 体部斜縦方向篦ケズリ後ナデか。 内面 体部横方向ナデ。	体部破片

13号方形周溝墓

位　置　L-89・90グリッド　　**写　真**　PL26

重　複　10号方形周溝墓と接する可能性があるが、遺構の重複が激しく確認できなかった。

長軸方位　N－44°－E

形　状　遺構の重複が激しく全体の形状ははっきりしないが、対角線を南北にする方形を呈すると推定される。

方台部　検出した範囲では長軸3.85×短軸3.66mの方形であると推定される。盛り土は残存していなかった。

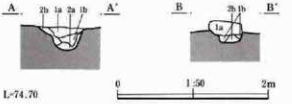
周　溝　規模は上幅0.77～0.4m、下幅0.43～0.24m、深さ0.3～0.28mである。東隅が一部切れていた可能性があるが重複が激しく不明である。

主体部　検出されなかった。

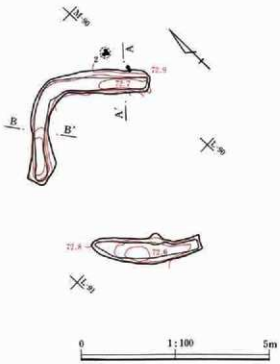
埋没土　As-Cを含む黒色土によって埋まっていた。

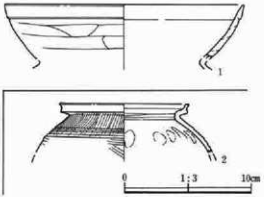
遺　物　遺物は50点出土したがいずれも小破片で図化し得たのは2点である。(1)は器種不明である。外面はヘラケズリ調整で折返口縁をもつ。またS字状口縁台付甕 (2)は周溝外からの出土である。出土時に付近を丁寧に調査したが遺構が検出されなかった。しかし胴部だけでなく台部も検出されており、現位置を保っていたと考えられることから本遺構に掲載した。東海地域のS字甕B類古墳期の特徴を持ち、オリジナルに近い。

所　見　埋没土と出土遺物から古墳時代前期の遺構と考えられる。



1a、黒色土　As-Cを含む黒色土。
1b、黒色土　1a層＋ローム小ブロック。
2a、As-Cを含む黒色土　ローム小ブロックを含む。
2b、2a層に似るが、ロームブロックが多い。





第58図　13号方形周溝墓と出土遺物

13号方形周溝墓出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①成形 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 器種不明	埋没土	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔②黄褐 ③粗細砂を含む。白色鉱物粒が目立つ。	外面　口縁部折り返し。横方向篦ナデか。 内面　横方向篦ナデか。	口縁部破片
2	土師器 S字状口縁 台付甕	周溝外 北東辺 上場付近	口径(10.0) 底径 － 器高 －	①酸化焔　②褐～鈍い黄褐③粗細砂・角閃石・白色鉱物粒・石英を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部斜縦方向ハケメ。上位横ハケメ。中位やや乱れた斜横方向ハケメ。 内面　口縁部横ナデ。頸部ハケメ。体部上位縦方向指ナデ・指頭による調整。	口～体部破片

14号方形周溝墓

位　置　K・L-84・85　　**写　真**　PL26

重　複　検出した範囲ではなかった。

長軸方位　N－11°－E

形　状　後世の遺構による攪乱のため、全体の形状は不明であるが、一辺を南北にする方形を呈すると推定される。

方台部　検出した範囲では、長軸5.75×短軸4.80mの正方形である。盛り土は残存していなかった。

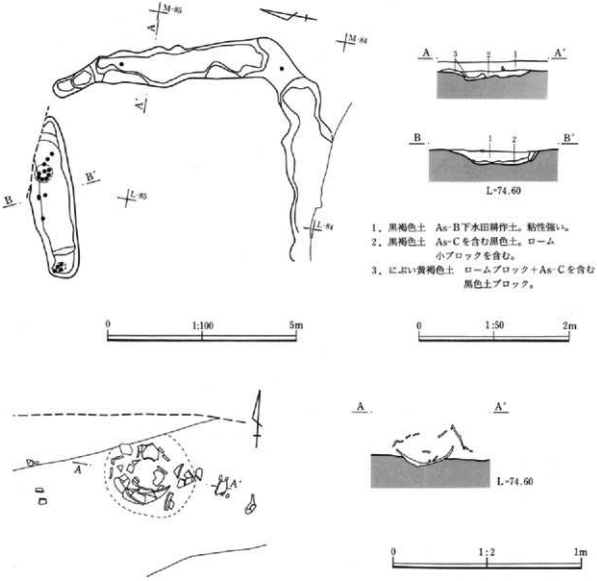
周　溝　残存する範囲では北東隅が一部切れているが、削平が著しいため判断できない。規模は上幅0.90～0.34m、下幅0.60～0.22m、深さ0.24～0.18mである。底面は凸凹しており、四隅が高い。

主体部　検出されなかった。

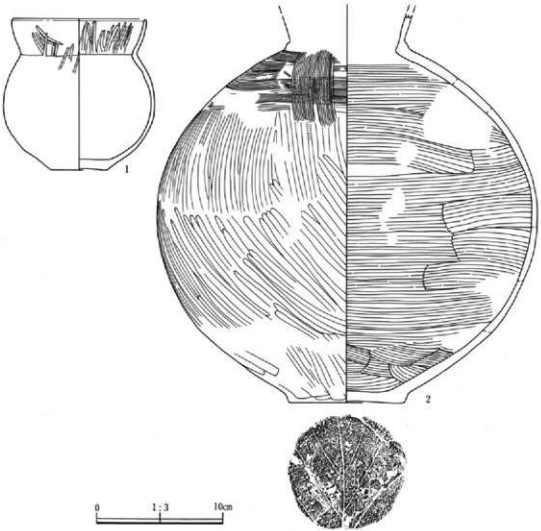
埋没土　As-C・ロームブロックを含む黒色土によって埋まっていた。

遺　物　遺物は30点ほど出土している。分布は北辺に集中していた。土師器壺(2)は外面ハケメ調整後丁寧に縦方向のヘラミガキを施し、胴部上位に細かく鋭いハケメを装飾的に用いている。小形丸底鉢(1)は粗製である。いずれも底面からの出土である。

所　見　埋没土と出土遺物から古墳時代前期（4世紀後半）の遺構と考えられる。



第59図　14号方形周溝墓と遺物出土状況



第60図　14号方形周溝墓出土遺物

14号方形周溝墓出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 小型壺	北西辺 床面直上	口径 10.6 底径 4.4 器高 12.0	①酸化焔 ②純い黄橙 ③粗細砂・白・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口～底部置ナデ後ナデか？底部剥離のため調整不明。黒斑あり。 内面　口縁部横ナデ後縦方向荒磨き。体～低部ナデ。全体に黒く煤けている。	口縁部2／3欠損
2	土師器 壺	北西辺 ＋4cm	口径　－ 底径 9.5 器高　－	①酸化焔 ②純い橙 ③粗細砂・角閃石・赤・白色鉱物粒を含む。	外面　口～体部ハケメ後縦方向荒磨き。体部上位細かい（13本／cm）横方向クシメを3段施文した後、残存部分で3ヵ所に縦方向クシメを装飾的に施す。黒斑あり。底部木葉痕あり。 内面　口縁部横ナデ。体～底部横方向ハケメ。	口縁部欠損 体部1／3残存

4．井 戸

Ⅳ-A区25号井戸

位 置 T-35　　写 真 なし

重 複 なし

形 状 平面形は楕円形、断面形は逆台形を呈する。

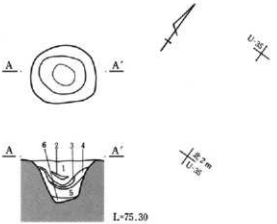
規 模 長径1.01m 短径0.79m

底 面 遺構確認面から0.64m掘り込んで底面となる。底面はほぼ平坦であるが、西側がやや低い。底面の標高は74.57mである。

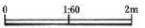
埋没土 ローム・As-Cを含む黒褐色土で埋まっていた。中位には粘質土が堆積していた。

遺 物 出土遺物はなかった。

所 見 調査時には中位の粘質土が水成堆積によるものとし、井戸と判断して調査を行った。埋没土からAs-C降下後の古墳時代前期(4世紀代)の遺構と考えられる。



1．黒褐色土 白色軽石(As-C)を多く含む。ローム粒を少量含む。
2．黒色土 軽石を若干含む。粘性あり。
3．黒褐色土 As-Cをわずかに含む。比較的均質な粘質土。
4．暗褐色土 ローム粒・As-Cをわずかに含む。粘性あり。
5．黒褐色土 ローム粒・As-Cをごくわずかに含む。粘性あり。
6．灰色シルト 土質均質。細粒。粘性弱い。



第61図 Ⅳ-A区25号井戸

5．土 坑

Ⅰ-B区124号土坑

位 置 K-61　　写 真 なし

重 複 近・現代の溝(非掲載)に掘り込まれている。

形 状 重複のため不明であるが、検出した範囲では平面形は溝状を呈する。断面形は逆台形を呈する。

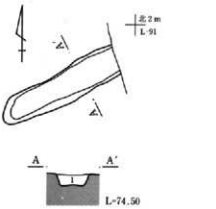
規 模 検出した範囲では長さ2.0m幅0.50mである。

底 面 遺構確認面から0.14m掘り込んで底面となる。底面は平坦である。

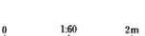
埋没土 As-Cを含む暗褐色土で埋まっていた。

遺 物 出土遺物はなかった。

所 見 重複によりはっきりしないが、未確認の方形周溝墓の一部と考えられる。埋没土からAs-C降下後の古墳時代前期(4世紀代)の遺構と考られる。



1．暗黒褐色土 As-C(φ5mm)をやや多く含む。ローム粒を少量含む。



第62図 Ⅰ-B区124号土坑

II-B区128号土坑

位　置　J-86　　写　真　PL27　重　複　なし

形　状　平面は楕円形、断面は擂り鉢形を呈する。

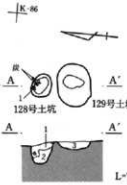
規　模　長径0.37m、短径0.31mである。

底　面　遺構確認面から0.27m掘り込んで底面となる。底面は擂り鉢状に中央が緩やかに窪む。

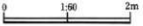
埋没土　As-Cを含む黒色土で埋まっていた。

遺　物　台付甕脚部(1)が出土した。

所　見　埋没土と出土遺物から、As-C降下後の古墳時代前期(4世紀代)の遺構と考られる。



1．黒色土　As-Cが混じる。焼土粒・炭化物粒を含む。
2．黒褐色土　ローム小ブロックを多く含む。
3．黒褐色土　ローム細粒・As-Cに似る白色軽石粒を含む。



第63図　II-B区128・129号土坑出土遺物

II-B区128号土坑出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 台付甕	+14.2cm	口径　－ 底径　5.0 器高　－	①酸化焔 ②鈍い黄橙 ③細砂を含む。	外面　台部置ナデ後、縦方向細かい篦磨き。 内面　篦削り後、細かい篦磨き。	台部のみ

II-A区132号土坑

位　置　S-87　　写　真　PL27

重　複　なし

形　状　平面は楕円形、断面は浅擂鉢状を呈する。

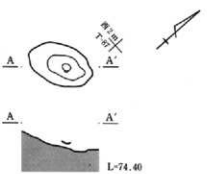
規　模　長径1.06m　短径0.62m

底　面　遺構確認面から0.3m掘り込んで底面となる。

埋没土　埋没土の記載なく不明。

遺　物　土師器甕(1)が出土した。

所　見　II-A区低地右岸の縁辺部に位置する。出土遺物から古墳時代前期(4世紀代)の遺構と考えたい。



第64図　II-A区132号土坑と出土遺物

II-A区132号土坑出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 壺	埋没土	口径　－ 底径　6.0 器高　－	①酸化焔 ②鈍い橙③粗細砂・ 雲母・角閃石を含む。	外面　体部下位置ケズリ、底部置ナデか。 内面　体部下位～底部置ナデ。	底部破片

Ⅳ-A区55号土坑

位　置　T-31

写　真　PL27

重　複　中近世の遺構と重複。

形　状　平面は円形、断面は擂り鉢形を呈する。

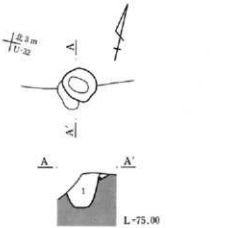
規　模　直径0.53m

底　面　遺構確認面から0.50m掘り込み底面となる。

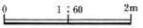
埋没土　As-Cを含む黒色土で埋まっていた。

遺　物　出土遺物はなかった。

所　見　埋没土からAs-C降下後の古墳時代前期(4世紀代)の遺構と考られる。



1．黒色土　As-Cを含む黒色土・ロームをわずか含む。土質均質。ややベタついた土。



第65図　Ⅳ-A区55号土坑

Ⅳ-A区122号土坑

位　置　Q-34　　写　真　PL27

重　複　中近世の遺構と重複。

形　状　不明。

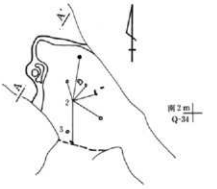
規　模　検出した範囲では1.60×1.40mの規模である。

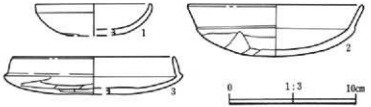
底　面　遺構確認面から0.10m掘り込んで底面となる。

埋没土　埋没土の記載なし。

遺　物　土師器坏が3点出土した。遺物は概ね2時期に別れ、(2)(3)が本遺構に伴うと考える。

所　見　出土遺物から古墳時代前期(6世紀後半)の遺構と考たい。





第66図　Ⅳ-A区122号土坑と出土遺物

Ⅳ-A区122号土坑出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土位置	寸法 (cm)	①成成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	埋没土	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔②橙 ③細砂・角閃石・赤色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部横方向翼ナデか？ 内面 口縁部横ナデ。体～底部ナデ。	口～体部破片
2	土師器 坏	埋没土	口径 13.9 底径 － 器高 4.1	①酸化焔②灰白 ③粗細砂・角閃石・赤色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。底部翼削り。 内面 口縁部横ナデ。体～底部ナデ。	口～底部2/3残存
3	土師器 坏	埋没土	口径(12.9) 底径 － 器高 (3.0)	①酸化焔②明赤褐 ③細砂・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。底部翼削り。 内面 口縁部横ナデ。底部ナデ。	口～底部1/4残存

Ⅳ-Ａ区100号土坑

位　置　R-24･25　**写　真**　ＰＬ28　**重　複**　なし

形　状　平面は長方形、断面は逆台形を呈する。

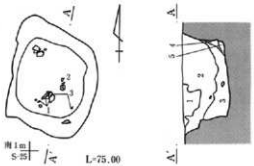
規　模　長径1.58m　短径1.41m

底　面　遺構確認面から0.72m掘り込んで底面となる。底面は平坦であった。

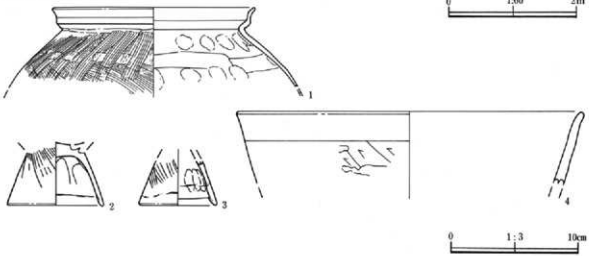
埋没土　上層は黒褐色土、下層はAs-Ｃをわずかに含む黒褐色粘質土で埋まっていた。

遺　物　出土遺物は20点である。分布は底面付近に集中している。Ｓ字状口縁台付甕（１・２・３）が底面から出土した。

所　見　埋没土と出土遺物から、As-Ｃ降下後の古墳時代前期（４世紀代）の遺構と考えられる。



1．暗灰色砂質土　２層ブロック・ローム粒・白色軽石（As-Ｃ？）を含む。
2．黒褐色土　暗灰色土ブロック・白色軽石（As-Ｃ？）を含む。
3．黒褐色粘質土　白色軽石（As-Ｃ）をわずかに含む。
4．暗褐色土　ローム粒を少量含む。
5．黒褐色粘質土　白色軽石を含まない。



第67図　Ⅳ-Ａ区100号土坑と出土遺物

Ⅳ-Ａ区100号土坑出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 （器形・文様の特徴）	残存状態 備考
1	土師器 Ｓ字状口縁 台付甕	底面直上	口径(16.0) 底径　－ 器高　－	①酸化焔　②灰褐 ③細細砂・角閃石・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。頸部調整あり。体部斜縦方向ハケメ。 内面　口縁部横ナデ。体部ナデ・指頭による調整。	口～体部上半破片
2	土師器 Ｓ字状口縁 台付甕	+5.5cm	口径　－ 底径 (7.6) 器高　－	①酸化焔　②褐灰 ③細細砂・角閃石・赤色鉱物粒を含む。	外面　台部ナデ後、矢羽状ハケメ。内外面煤付着。 内面　台部指ナデ。裾部折返し。	台部破片 １と同一個体か？
3	土師器 Ｓ字状口縁 台付甕	底面直上	口径　－ 底径　6.2 器高　－	①酸化焔　②灰白 ③細砂・角閃石を含む。	外面　台部ナデ後、矢羽状ハケメ。 内面　台部指頭による調整。裾部折返し。	台部破片
4	土師器 器種不明	埋没土	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②純い赤褐 ③細細砂・角閃石・白・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部縦方向置削り？後ナデか？ 内面　丁寧な横ナデ。	口縁部破片

Ⅳ-A区102号土坑

位　置　P・Q-24　　写　真　PL28

重　複　なし

形　状　平面は隅丸長方形を呈する。断面は逆台形であるが、西側中位に段がある。

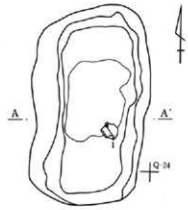
規　模　長径3.12m、短径1.86m

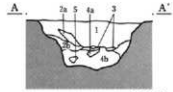
底　面　遺構確認面から0.76m掘り込んで底面となる。底面は中央がやや窪む。

埋没土　上層はAs-Cを含む黒色土で埋まっていた。下層は黒色土とロームブロックがやや乱れて堆積していた。

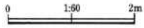
遺　物　出土遺物は6点である。図化したのは1点である。底面から10cmほど上位でS字状口縁台付甕(1)が出土した。

所　見　埋没土と出土遺物から、As-C降下後の古墳時代前期(4世紀代中葉)の遺構と考えられる。





1．黒色土　As-Cを含む黒色土。
2a．黒褐色土　1層に似るが、ローム粒・軽石粒を含む。
2b．黒褐色土　1層に似るが、ローム小ブロックを含む。
3．にぶい黄褐色土　粘性強く踏み締まっている。ロームやや変色。
4a．灰褐色土・黒褐色土・細かいローム小ブロック。
4b．4a層に似るが、粗い。
5．ローム・地山層ブロック。



第68図　Ⅳ-A区102号土坑と出土遺物

Ⅳ-A区102号土坑出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 S字状口縁 台付甕	+10.5cm	口径(14.2) 底径 － 器高 －	①酸化焔②暗褐 ③細砂・角閃石・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部篦削り後斜縦方向ハケメ。煤付着。 内面　口縁部横ナデ。体部ナデ・指頭による調整。	口～体部1/2 残存

Ⅳ-Ａ区131号土坑

位　置　Ｖ-32　　写　真　ＰＬ28

重　複　２つの小ピットと重複している。

形　状　平面は隅丸方形、断面は擂り鉢形を呈する。

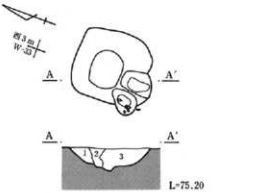
規　模　長径1.30m　短径1.14m

底　面　遺構確認面から0.35m掘り込み底面となる。

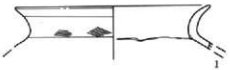
埋没土　As-Ｃを含む黒色土で埋まっていた。

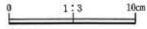
遺　物　出土遺物は13点である。いずれも小破片である。

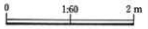
所　見　埋没土と出土遺物から、As-Ｃ降下後の古墳時代前期（４世紀代）の遺構と考えられる。



1．黒色土　As-Ｃ混りの土。
2．焼土ブロック＋灰褐色ブロック（攪乱？）
3．黒褐色土　黄褐色土＋ローム、ザクザクした土。







第69図　Ⅳ-Ａ区131号土坑と出土遺物

Ⅳ-Ａ区131号土坑出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 （器形・文様の特徴）		残存状態 備考
1	土師器 甕	埋没土	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②鈍い橙 ③粗細砂・角閃石・赤色鉱物粒を含む。	内外面	口縁部ハケメ後、横ナデ。体部ハケメ。	口縁部破片

Ⅳ-Ａ区115号土坑

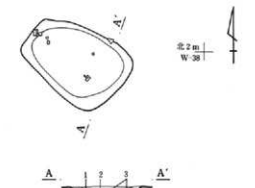
位　置　Ｖ-38　写　真　ＰＬ29　重　複　なし

形　状　平面は不整形な長方形、断面は浅擂り鉢形を呈する。　規　模　長径1.60m　短径1.14m

底　面　遺構確認面から0.18m掘り込み底面となる。

埋没土　上層は洪水に起因すると考えられる細砂で埋まっていた。　遺　物　出土遺物は６点である。土師器坏（１・２）は埋没土からの出土である。

所　見　埋没土と出土遺物から、古墳時代後期（６世紀後半）の遺構と考えられる。



1．灰褐色砂質土　砂主体。白色パミス（As-Ｃ？）を含む。
（洪水起源による水成堆積）
2．暗黒褐色土　所々に細砂が層位的に堆積。締まり良く硬い。シルト質。
3．暗黄褐色土　ロームブロック（φ10～50mm）を多く含む。

第70図　Ⅳ-Ａ区115号土坑と出土遺物

Ⅳ-A区115号土坑出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	埋没土	口径 12.6 底径 － 器高 3.7	①酸化焔②橙 ③細砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。坏部横方向篦削り。 内面　口縁部横ナデ。坏部ナデ。	口縁部一部欠損
2	土師器 坏	埋没土	口径(15.1) 底径 － 器高 －	①酸化焔②橙 ③細砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。段差あり。坏部篦削り。 内面　口縁部横ナデ。坏部ナデ。	口縁部破片

Ⅱ-B区158号土坑

位　置　K-79　　写　真　PL29

重　複　なし

形　状　平面は楕円形、断面は浅擂り鉢形を呈する。

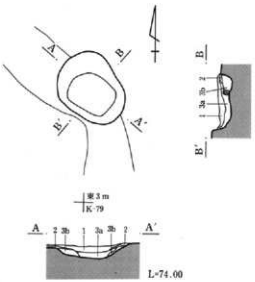
規　模　長径1.19m　短径0.88m

底　面　遺構確認面から0.30m掘り込み底面となる。

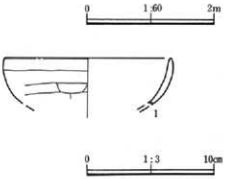
埋没土　褐灰色シルト質土・As-Cの二次堆積層で埋まっていた。

遺　物　出土遺物は3点である。いずれも小破片で図化し得たのは1点のみであった。土師器坏(1)は上層から出土した。埋没土中からは木片も出土した。いずれも自然木であった。

所　見　Ⅱ-A区低地底面の傾斜変換点付近で、Hr-FA下水田耕作土の下層から検出された。出土遺物や埋没土の層位から、As-C降下後の古墳時代の遺構と考えられる。



1．黒色粘土　Hr-FA下水田耕作土。黒泥。
2．As-Cの二次堆積　上層からの流入。
3a．褐灰色シルト質粘土　土質均質。
3b．褐灰色シルト質粘土　3aに似るが、粘性強くロームブロックを含む。



第71図　Ⅱ-B区158号土坑と出土遺物

Ⅱ-B区158号土坑出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	埋没土	口径(13.0) 底径 － 器高 －	①酸化焔②橙 ③粗細砂・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体～底部篦削り。 内面　口縁部横ナデ。体～底部ナデ。	口縁部破片

6．溝

II-B区13号溝

位　置　K・L-79、L・M-80、M-81

写　真　PL.80　　重　複　3号館より古い。

規　模　上幅0.43～0.20m　下幅0.20m

　　深さ0.07m　調査長　17.8m

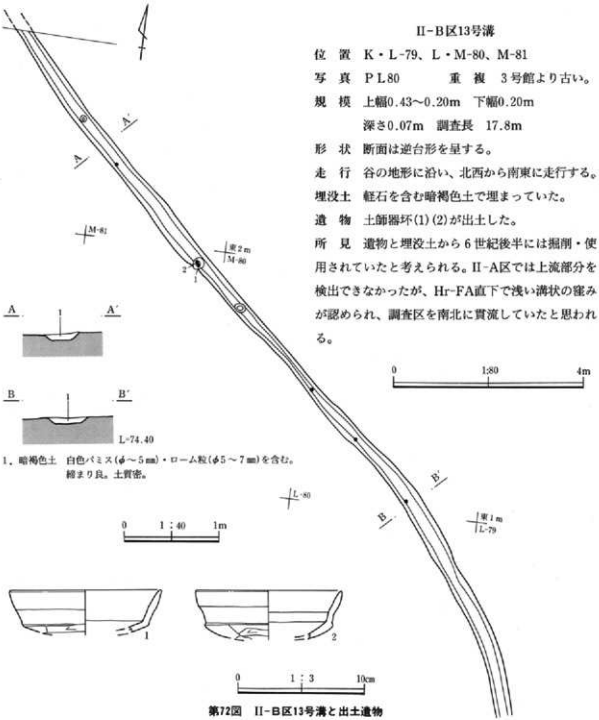
形　状　断面は逆台形を呈する。

走　行　谷の地形に沿い、北西から南東に走行する。

埋没土　軽石を含む暗褐色土で埋まっていた。

遺　物　土師器坏(1)(2)が出土した。

所　見　遺物と埋没土から6世紀後半には掘削・使用されていたと考えられる。II-A区では上流部分を検出できなかったが、Hr-FA直下で浅い溝状の窪みが認められ、調査区を南北に貫流していたと思われる。



第72図　II-B区13号溝と出土遺物

II-B区13号溝出土遺物観察表

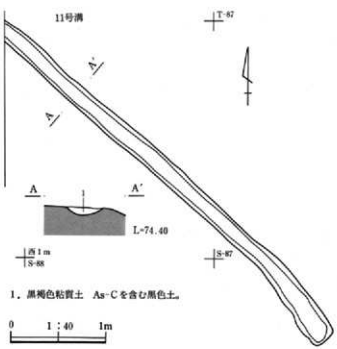
番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	埋没土	口径 (3.4) 底径　－ 器高　－	①酸化焔②橙～浅黄橙③細砂・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。坏部横方向箆削り。 内面　口縁部横ナデ。坏部ナデ。	口縁部破片
2	土師器 坏	埋没土	口径 (12.0) 底径　－ 器高　－	①酸化焔②浅黄橙③細砂・角閃石・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。坏部横方向箆削り。 内面　口縁部横ナデ。坏部ナデ。	口縁部破片

II-A区11号溝

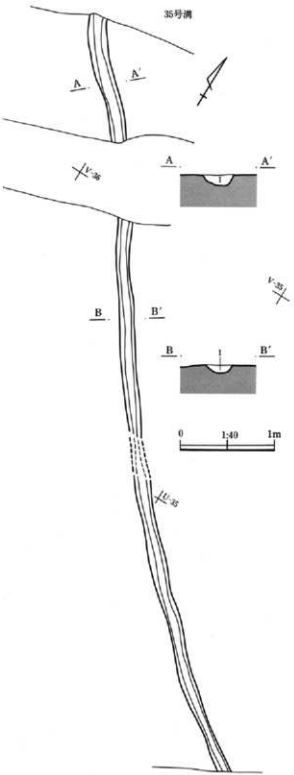
位　置　R・S-86、S-87　　写　真　PL29
重　複　単独で占地する。
規　模　幅0.58～0.35m　深さ0.07m
　　調査長4.7m
形　状　断面は浅擂鉢形を呈する。
走　行　谷の地形に沿い北西から南東に走行する。
埋没土　As-Cを多く含む黒色土で埋まっていた。
遺　物　出土遺物はなかった。
所　見　埋没土から古墳時代前期の遺構と考えられる。

IV-A区35号溝

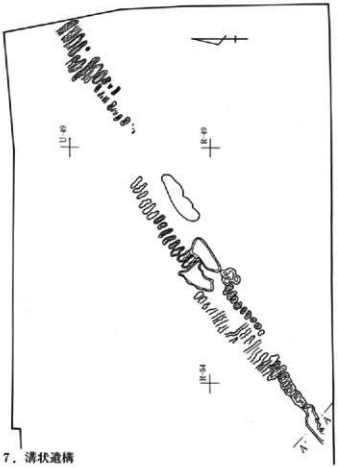
位　置　T-34、T・U・V-35　　写　真　PL29
重　複　中世堀より古い。
規　模　幅0.37～0.25m　深さ0.16m
　　調査長1.64m
形　状　断面形状は浅擂鉢形を呈する。
走　行　北北西から南南東へ走行する。
埋没土　As-Cを含む黒色土で埋まっていた。
遺　物　出土遺物はなかった。
所　見　埋没土から、古墳時代前期の遺構と考えられる。

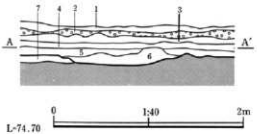


第74図　II-A区11号溝

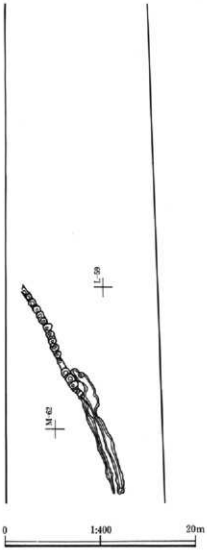


第73図　IV-A区35号溝





1．現代の地表土
2．As-B
3．黒灰色粘質土　上層に鉄分の沈着層あり。締まり良。
　　(As-B下水田耕作土)
4．灰褐色粘質土　白色軽石(Hr-FP?)を含む。締まり良。
5．暗黒褐色砂質土　As-Cを含む。
6．暗灰褐色砂質土　As-Cを少量含む。溝状遺構の埋没土。
7．灰褐色粘質土　ローム上層。



第75図　Ⅲ区溝状遺構(1)と土層断面

7．溝状遺構

位　置　Ⅲ区を対角線に横断　写　真　PL29・30

重　複　Ⅲ区1～5号溝(中世)に掘り込まれている。

規　模　調査長93.7m　上幅0.55～0.33m

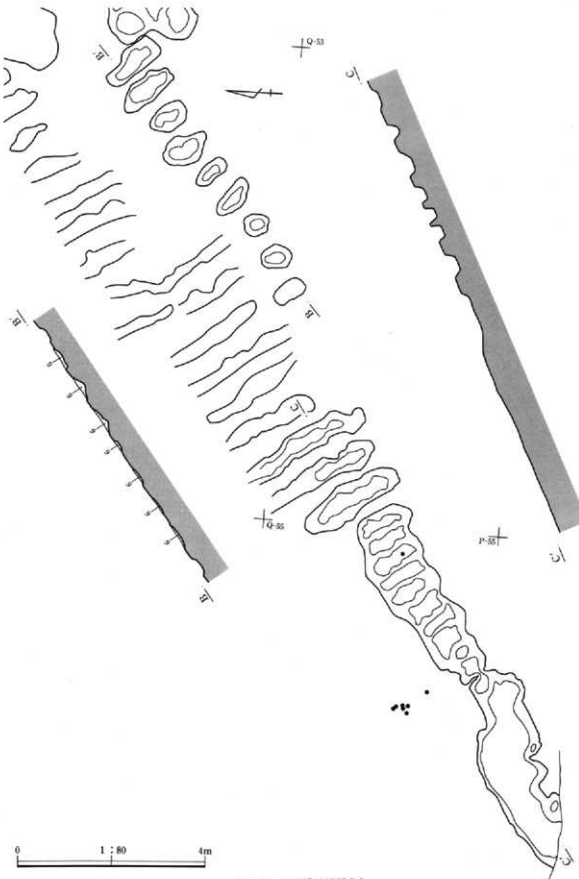
　　深さ0.11～0.03m　下幅0.25～0.12m

形　状　平面形は、Ⅲ－A区では北西方向に伸びる連続した溝で構成されている。途中で合流しⅢ－B区では一本の溝状になるが、底面は平坦ではなく小規模な土坑が連続する布堀状を呈する。断面形は浅擂鉢状である。　　走　行　N－55°－E

埋没土　As-Cを多く含む砂質土で埋まっていた。

遺　物　礫・土師器小破片が出土した。

所　見　調査時には溝状遺構として調査したが、遺構の性格については不明である。年代ははっきりしないが、小破片ながらも出土した土師器片は古墳時代前期であり、層位的にも矛盾のないことから古墳時代前期の遺構という調査所見を得た。



第76図 III区溝状遺構(2)

8．その他

風倒木痕

位　置　P-72　　写　真　PL30

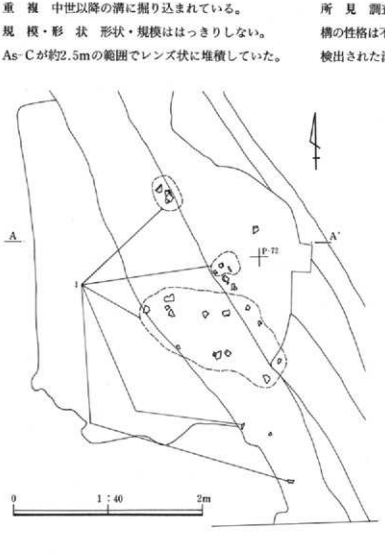
重　複　中世以降の溝に掘り込まれている。

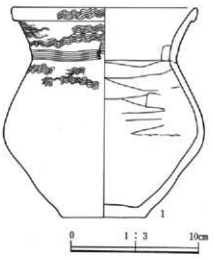
規　模・形　状　形状・規模ははっきりしない。As-Cが約2.5mの範囲でレンズ状に堆積していた。

埋没土　As-Cを非常に多く含む。

遺　物　弥生土器甕(1)を検出した。

所　見　調査時には風倒木痕として調査したが、遺構の性格は不明である。遺構の拡がりからII-A区で検出された溝状遺構と同一の遺構と考えられる。出土した甕は樽式土器で本遺跡における弥生から古墳時代の遺物の中でもっとも古い特徴をもつ。





1．黒褐色土　As-Cを含む黒色土。
2a．砂礫層　(17号溝埋没土)
2b．黒褐色土＋砂
3．黒褐色土　細砂をわずかに含む。
4．As-C　(2次堆積)
5．にぶい黄褐色粘質土（地山）
6．黄褐色ローム

第77図　風倒木痕と出土遺物

風倒木痕出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	弥生土器 甕	散乱 埋没土	口径(14.4) 底径 (6.2) 器高 16.7	①酸化焔 ②鈍い褐色～黒 ③粗細砂を含む。	外面　口縁部折返し。口縁～体部上半ナデ成形後不連続な波状文を施す。頸部櫛状文を施す。体部下半横方向荒磨きか。底部荒ナデ。内面　口縁部横ナデ。体～底部横方向荒ナデ。内面煤付着。	口～底部2/3残存 樽式土器

第4節 奈良・平安時代の遺構と遺物

1．概　要

奈良・平安時代の地形は、前代までと同様、台地に2筋の小谷が網流する起伏のある地形であるが、小谷がだんだん埋没していき、台地との比高差が少なくなっていった。低地部には水田耕作が継続し、台地部には集落が展開していた。

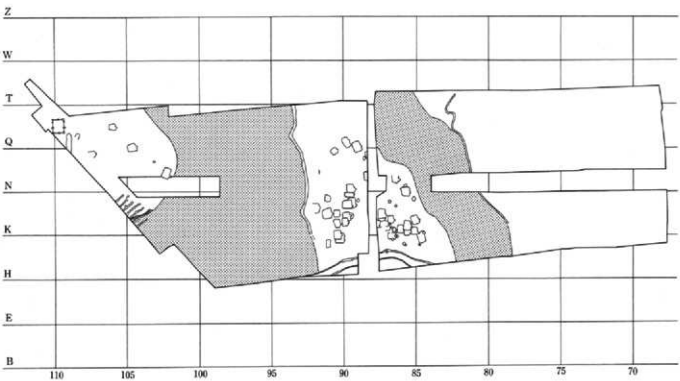
検出された遺構は、竪穴住居46軒、掘立柱建物1軒、井戸12基、土坑21基、溝10本、畠1基である。低地部からは、As-B下水田を検出した。

竪穴住居は、Ⅰ区西谷右岸や、西谷と東谷に挟まれた台地上、Ⅳ区に分布している。特に西谷と東谷に挟まれた台地上に集中しており、Ⅲ区では検出されなかった。8世紀代の住居は、Ⅳ区に分布する傾向にある。竪穴住居の形態は、掘り込みを持ち、底面に貼り床を行って調整し、東壁に竈を設置する当該時期に典型的な住居形態である。西善尺司遺跡における平安時代の集落は、8世紀後半に開始されるが、8世紀末から9世紀初頭にかけて、一時遺構数が減少する。9世紀中葉に再び増加し9世紀後半～10世紀前半にはピークを迎える。その後は徐々に減少しながら、10世紀中葉頃まで継続していく。

掘立柱建物は、Ⅰ区西谷右岸に1軒のみ検出された。2間×2間の南北棟建物で北側に庇がつく。出土遺物はほとんどなかったが、柱穴の埋没土が本遺跡の特徴的な奈良・平安時代の埋没土で埋まっていたため当該時期と判断した。

溝は、谷の縁辺部とⅣ区で検出した。中でもⅠ・Ⅱ区7号溝は、集落群の南に位置し、一部のみの検出であるが、調査長40m、最大幅3.13m、深さ0.83mの大規模な溝である。土層観察から2～3度の変遷が見られる。多量の土器が出土し、その年代から、集落とほぼ同時期の9世紀中葉頃には掘削・使用していたと考えられる。

Ⅰ-A・B区2号溝やⅣ-A区27・29・30・37号溝では、黄褐色の砂層が確認されている。各遺構から出土している遺物の年代も、ほぼ一致しており8世



紀後半の洪水と考えられる。

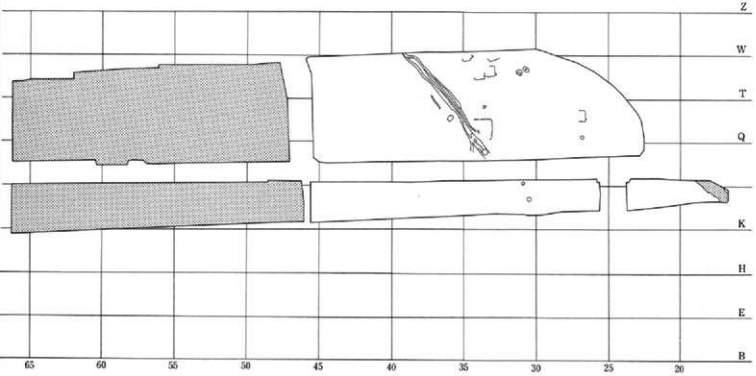
井戸は、Ⅰ・Ⅱ区の集落付近と特にⅣ区に集中して検出された。Ⅳ-A区21号井戸は、直径1.87m、深さ2.06mの規模で、9世紀後半の遺構と考えられる。出土遺物は330点ほどあり、そのうち3点に「嶋」「叶」「士」と書かれた墨書土器が出土した。

土坑は、Ⅰ・Ⅱ区・Ⅳ区の竪穴住居周辺に散在して分布している。Ⅲ区では検出されなかった。Ⅱ-B区98号土坑は、直径0.88m、深さ0.22m程の小さな土坑であるが、須恵器坏と共に鉄製刀子が出土した。

畠は、Ⅰ-B区西谷右岸の台地で検出された。一部のみではあるが、列状の溝が8本検出された。推定される畝幅は、1.66～2.24mと考えられる。これは、畝間の溝の下半部を検出したに過ぎないのではあるが、水田域に隣接しており、集落周辺の土地利用の一例を示している。年代については、本遺跡の奈良・平安時代に特徴的な埋没土によって埋まっており、土層観察からも矛盾がないことから当該時期の遺構とした。

低地部では、同時期にパックする火山灰や洪水層がないため、水田遺構そのものは検出できない。しかし、プラント・オパール分析から水田耕作の継続を確認した。また遺構から、Ⅱ区では13号溝が6世紀後半、さらに台地上の9号溝が8世紀末～9世紀の遺構であり、水田域の拡大に伴い水路を漸次台地上に掘削していく様子が確認できる。

平安時代末期の天仁元(1108)年に降下した浅間B軽石(As-B)降下時には、小谷がほぼ埋まりⅠ・Ⅱ区全面にさらに水田が展開する。また新たにⅢ区台地上にも拡大している。区画は埋没した谷の細かな起伏に規制され、やや変則ではあるが概ね方形を基本とし、畦は東西南北を指向していることから、条里水田の様相を呈している。詳細は、「第6節　低地部の遺構と遺物」を参照にされたい。



第78図　西善尺司遺跡　奈良・平安時代遺構概念図

2．住　居

Ⅰ-A区1号住居

位　置　P・Q-104　　**写　真**　PL31

形　状　長軸を東西にする超小形不整四角形を呈する。北壁ははっきりしない。周壁は、北・東壁が外にやや膨らんでいるが、他は直線的に掘られている。四隅は丸い。規模は、長軸3.1m・短軸2.6mである。

面　積　7.12m²　　**方　位**　N－79°－E

重　複　1号方形周溝墓を掘り込んでいる。

埋没土　白色軽石粒・ロームを含む灰褐色土で埋まっていた。

床　面　上部から削られたため住居の掘り込みは浅く、遺構確認面から3cm掘り込んでそのまま床面とする。貼床は方形周溝墓と重複する部分にのみ一部に施されていた。床面は硬く締まり平坦である。

竈　東壁のほぼ中央に設置されていた。住居の壁より内側に竈袖が若干張り出す形態の竈で、向かって右側では13cm程袖の基部が残存していた。焚口幅は48cmである。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。燃焼部奥の壁は良く焼けており、底面に灰層が拡がっていた。煙道部は壁から外へ47cm突出していた。

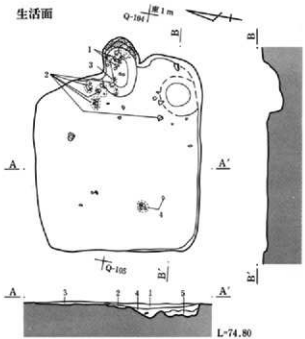
周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　記録不備のため平面形態がはっきりしないが、長軸推定66cm、短軸推定60cm、深さ13cmの円形の貯蔵穴が検出された。

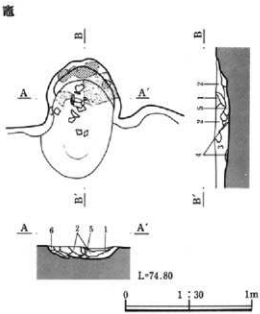
柱　穴　検出されなかった。

遺　物　出土遺物は60点余りである。ほとんどが小破片であった。竈内からは土師器坏(1)、土師器台付甕(3)の台部が、竈前では土師器甕(1)が出土した。いずれも床面直上からの出土である。

所　見　出土遺物から平安時代(9世紀後半)の住居と考えられる。



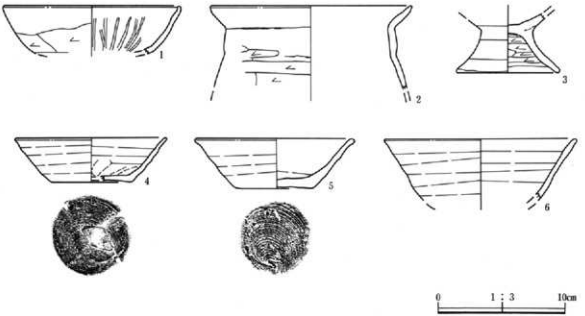
住居　A-A'
1．灰褐色土　As-Cに似た軽石粒を含む。ローム小ブロックあり。
2．ロームブロック＋As-Cを含む黒色土。
3．灰褐色土　ローム粒＋As-Cを含む黒色土。硬化面。(床面)
4．ロームブロックとAs-Cを含む黒色土が入り混じる。
　上面硬くしまる。(貼り床)
5．4層に似るが、各ブロックが大きい。



竈　A-A'　B-B'
1．暗褐色土　ローム粒・焼土粒をわずかに含む。
2．黄褐色土　ロームブロック＋1層ブロック・焼土小ブロック。
　(竈天井部の崩落土)
3．暗褐色土　As-Cの白色軽石粒・ローム小ブロック・焼土粒を含む。
4．黒色灰
5．暗褐色土　焼土粒・灰が混じる。ローム粒を含む。
6．焼土ブロック＋粘土ブロック

0　1:60　2m

第70図　Ⅰ-A区1号住居



第80図　Ⅰ-A区1号住居出土遺物

Ⅰ-A区1号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	竈内 埋設土 −4.6cm	口径(14.0) 底径 − 器高(3.8)	①酸化焔 ②橙③粗細砂・白色鉱物粒・雲母・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部横方向箆削り。 内面　口縁部横ナデ。体～底部丁寧な箆ナデ後、放射状箆磨き。	暗文土師器
2	土師器 甕	北東隅 床下 −1.1cm	口径(16.0) 底径 − 器高 −	①酸化焔 ②純い褐 ③細砂・雲母・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部上位横方向箆削り。 内面　口縁部横ナデ。体部上半横方向ナデ。	口縁部破片
3	土師器 台付甕	竈内 埋設土 +5cm	口径 − 底径 − 器高 −	①酸化焔 ②純い橙 ③細砂・白色鉱物粒・雲母を含む。	外面　底部箆削り。脚部横ナデ。 内面　横ナデ。	脚部のみ
4	須恵器 坏	中央 床下 −2.5cm	口径 12.8 底径 6.3 器高 3.5	①還元焔 ②純い黄橙 ③粗細砂・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。内外面黒斑あり。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部指頭痕有。	口～底部3／4
5	須恵器 坏	北東隅 床下 −1.5cm	口径(12.7) 底径 5.6 器高 3.9	①還元焔 ②純い黄橙③粗細砂・雲母を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。内外面黒斑あり。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	体～底部
6	須恵器 坏	南東隅 床下 −4.4cm	口径 15.2 底径 − 器高 −	①還元焔②灰白 ③粗細砂・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～体部破片

I-A区2号住居

位　置　R-105・106

写　真　PL32

形　状　長軸を東西にする超小形長方形を呈する。南東以外は隅が丸い。規模は、長軸2.4m・短軸2.0mである。

面　積　4.17㎡　　**方　位**　N－89°－E

重　複　3号方形周溝墓を掘り込んでいる。

埋没土　灰・焼土粒を含む黒褐色土で埋まっていた。

床　面　上部から削られており掘り込みは浅い。遺構確認面から8cm掘り込んで、そのまま床面とする。貼床はない。

竈　東壁の中央やや南寄りに設置されていた。住居の壁より内側に竈袖が張り出さない形態の竈で、焚口幅は63cmである。燃焼部には顕著な焼土・灰は確認できなかった。底面は平坦で煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。煙道部は壁から外へ40cm突出していた。

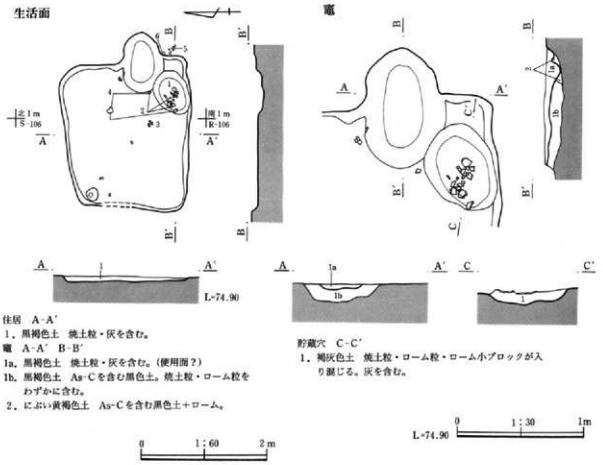
周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　南東隅の東壁からやや離れたところに、長軸71cm、短軸53cm、深さ9cmの楕円形の貯蔵穴と考えられる土坑を検出した。焼土・ローム粒・灰・土器片を含む褐灰色土で埋っていた。

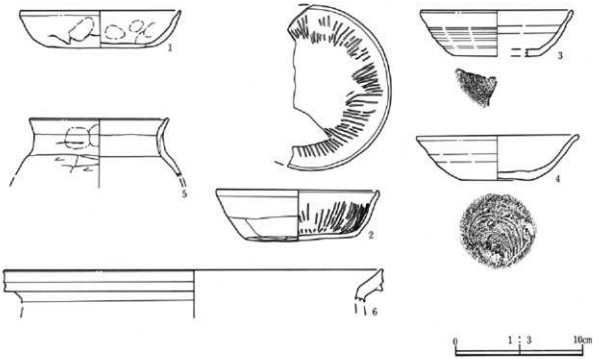
柱　穴　検出されなかった。

遺　物　出土遺物は50点余りである。ほとんどが小破片であった。貯蔵穴内からは土師器坏（2・3）が出土している。(2)は床面直上の破片と接合関係にある。（4・5）は須恵器坏で床面直上から出土している。(1)の土師器甕と(7)の須恵器甕は竈付近の出土で住居外の出土だが、攪乱によって現位置に移動したと判断し、この遺構の所属とした。

所　見　出土遺物から平安時代（9世紀後半）の住居と考えられる。



第81図　I-A区2号住居



第82図　Ⅰ-A区2号住居出土遺物

Ⅰ-A区2号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③粘土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	貯蔵穴内 +6cm	口径 12.4 底径 (8.4) 器高 3.0	①酸化焔②純い褐色 ③粗細砂・白色鉱物粒・雲母・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。接合痕有。体部指ナデ（いわゆる型痕）。底部篦削り。やや雑な整形。歪みあり。 内面　口～体部横ナデ。底部丁寧なナデ。指頭痕有。	口～底部1/3残存
2	土師器 坏	貯蔵穴内 +6cm	口径 12.9 底径 (9.0) 器高 4.0	①酸化焔②純い橙 ③粗細砂・角閃石・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ後指押さえ。体部横方向篦削り。底部篦削り。 内面　口～底部丁寧な指ナデ後、放射状篦磨き。	口～底部1/2残存 明文土師器
3	須恵器 坏	中央 床上 +7.4cm	口径(12.0) 底径 6.8 器高 3.6	①還元焔 ②褐灰色 ③粗細砂・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。内外面底部酸化気味。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部破片
4	須恵器 坏	中央 床上 +1.2cm	口径 12.7 底径 5.2 器高 3.5	①酸化焔気味②純い橙③細礫・白色鉱物粒・チャート含む。赤色鉱物粒目立つ。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	1/3残存
5	土師器 甕	遺構外 床上 +2.5cm	口径 10.9 底径 － 器高 －	①酸化焔②明赤褐 ③粗細砂・雲母・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部上位横方向篦削り。頸部指頭痕・接合痕有。 内面　口縁部～体部上半横方向篦ナデ。	口縁部破片
6	須恵器 甕	遺構外 床上 +2.5cm	口径(30.0) 底径 － 器高 －	①還元焔②灰 ③粗細砂・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。端部篦状工具による回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。	口縁部破片

Ⅰ-A区3号住居

位　置　N-101・102、O-101・102

写　真　PL32・33

形　状　長軸を南北にする小形長方形を呈する。周壁はほぼ直線的に掘られている。南東隅は角張っているが他は丸い。規模は、長軸3.6m・短軸2.5mである。

面　積　8.44m²　　**方　位**　N－111°－E

重　複　溝に掘り込まれている。

埋没土　ロームブロックを含む暗褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認面から20cm掘り込んで構築面とする。構築面は凸凹しており北側がやや高い。この面に厚さ10cmの貼床を施し床面とする。底面には竈ととを中心に南東隅にかけて灰層が拡がっていた。住居西辺の壁際に焼土が集中していた。

竈　東壁の中央やや南寄りに設置されていた。住居の壁より内側に竈袖が張り出さない形態の竈で、焚口幅は50cmである。竈の残存状況は良好で、燃焼部の壁は良く焼けており、底面には灰が拡がっていた。煙道部は残存する範囲で、壁から外へ104cm、燃焼部からは30cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部へ緩やかに傾斜していた。

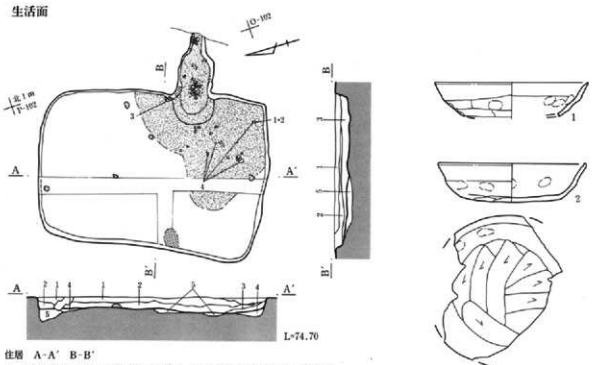
周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　検出されなかった。

柱　穴　検出されなかった。

遺　物　出土遺物は20点である。遺物の分布は竈を中心に灰層の広がりとほぼ一致している。竈内からは図化し得なかったが、土師器甕が出土している。(1・2)の土師器坏、(3・4)の須恵器坏は床面直上の出土である。

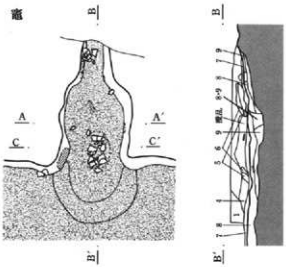
所　見　出土遺物から平安時代(9世紀前半)の住居と考えられる。



住居　A-A'　B-B'

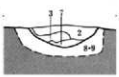
1．As-Cを含む黒色土＋褐灰色ブロック。2層との境に灰堆積。(一括埋土)
2．褐灰色土　ロームブロックをわずかに含む。粘性強い。
3．褐灰色土　2層に似るがロームブロック多く、褐色土ブロックが混じる。
4．黄褐色ローム　褐灰色土が混じる。(貼床)
5．黄褐色ロームのくすんだ層。(貼床)

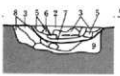
第83図　Ⅰ-A区3号住居と出土遺物(1)

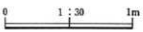


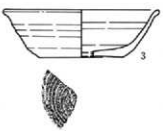
竈　A-A'　B-B'　C-C'

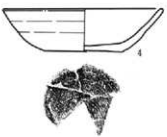
1．As-Cを含む黒色土＋ロームブロック＋褐灰色ブロック。
2．暗褐色土　As-Cと考えられるφ1～2mmの細粒軽石・ローム粒・焼土粒を含む。
3．暗褐色土　ロームブロック＋褐色粘質土ブロック。焼土・小ブロックを含む。(天井崩落土)
4．褐灰色土　ロームブロックをわずかに含む。粘性強い。
5．焼土
6．ロームブロック主体。
7．青灰色灰　使用面。
8．暗褐色土　ローム小ブロック・焼土粒を含む。粘性強い。(竈の貼床)
9．にぶい黄褐色土　ロームブロック主体。焼土・暗褐色ブロックを含む。(竈の貼床)











第84図　Ⅰ-A区3号住居竈と出土遺物(2)

Ⅰ区3号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	東南隅 床上 +3.1cm	口径 12.2 底径 － 器高 (2.6)	①酸化焔 ②鈍い橙 ③粗細砂・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部横方向指ナデ・指押さえ。底部荒削り。やや雑な整形。 内面　口～底部指ナデ。指頭痕有。	口～底部1／4 残存
2	土師器 坏	東南隅 床上 +3.1cm	口径 11.5 底径 (8.0) 器高 3.1	①酸化焔 ②鈍い橙 ③粗細砂・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部荒削り。 内面　口縁部横ナデ。体～底部丁寧なナデ。指頭痕有。	口～底部2／3 残存
3	須恵器 坏	東南隅 床上 +1.6cm	口径 12.7 底径 6.2 器高 3.5	①還元焔②灰③粗細砂・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部3／4 残存
4	須恵器 坏	竈前 床上 +0.3cm	口径(12.4) 底径 (6.7) 器高 3.8	①還元焔 ②灰 ③細礫・赤・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1／4 残存

I-B区4号住居

位　置　P-107

写　真　PL33・34

形　状　西壁を削平されているため、全体の形状ははっきりしないが、長軸を東西にする超小形長方形を呈すると推定される。検出した範囲では、周壁は直線的に掘られ、隅は丸い。規模は、長軸2.3m以上・短軸2.2mである。

面　積　5.12m²

方　位　N−77°−E

重　複　なし。

埋没土　焼土粒・炭化物粒・白色軽石を含む暗褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認時には既に床面が削平されていた。確認されたのは貼り床から構築面にかけてである。遺構確認面から7cm掘り込んで構築面とする。構築面はほぼ平坦である。この面に部分的に厚さ3cm以上の貼床を施し床面としたと推定される。

竈　東壁のほぼ中央に設置されていた。竈袖がほとんど張り出さない形態の竈で、焚口幅は50cmである。燃焼部の覆土には灰・焼土・炭化材が多く含まれていた。煙道部は壁から外へ47cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。

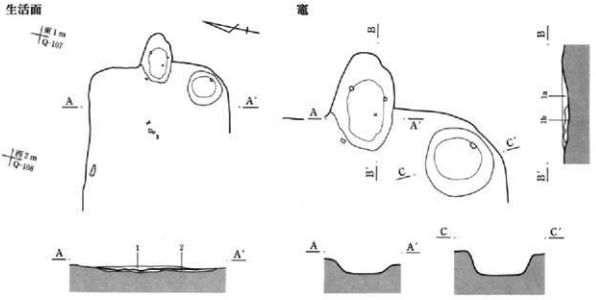
周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　南東隅に直径57cm、深さ19cmの円形の貯蔵穴を検出した。埋没土からは少量の土器片が出土した。

柱　穴　検出されなかった。

遺　物　出土遺物はなかった。

所　見　遺物もなく年代については判断しかねるが、埋没土と住居の平面形態から平安時代の住居と考えられる。



住居　A-A'
1．黒色土　As-Cに似た軽石粒を含む。ロームブロックが混じる。貼床。床面は削平されている。
2．黒色土　As-Cを含む。地山か？

竈　A-A'　B-B'
1a．ロームブロック＋青灰色灰・焼土ブロック・炭化物を含む。
1b．1a層に似るが、ロームブロックが多い。

L=79.40　0　1:60　2m　　L=79.40　0　1:30　1m

第85図　I-B区4号住居

I－A区5号住居

位　置　P・Q－88・89　　**写　真**　PL34・35

形　状　現代の側溝とトレンチによって一部壊されているが、対角線をほぼ南北にする小形長方形を呈する。周壁は直線的に掘られている。四隅は丸い。規模は、長軸3.5m・短軸2.6mである。

面　積　9.06㎡　　**方　位**　N－66°－E

重　複　6号方形周溝墓を掘り込んでいる。

埋没土　焼土粒・炭化物粒・白色軽石を含む暗褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認面から28cm掘り込んで構築面とする。構築面は凸凹しており北西隅・中央・北東隅が土坑状に低く掘り込まれていた。この面に部分的に厚さ6cmの貼床を施し床面とする。床面までの深さは22cmである。床面は平坦で、硬く締まりあった。

竈　東壁の中央やや南寄りに設置されていた。住居の壁より内側に竈袖がやや張り出す形態の竈で、右袖は18cm、左袖は14cm程の基部が残存していた。右袖芯には棒状の礫が直立して使用されていた。また右袖前に直径20cmのピットを検出しており、竈袖芯を抜いた痕跡の可能性がある。焚口幅は57cmである。燃焼部の壁は良く焼けて焼土化しており、底面には灰が拡がっていた。煙道部は壁から外へ44cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。

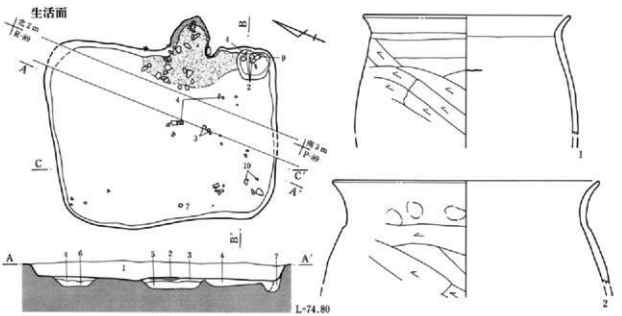
周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　南東隅に長径53cm、短径40cm、深さ40cmのほぼ不整円形の貯蔵穴を検出した。貯蔵穴内からは土師器甕(3)が出土した。

柱　穴　検出されなかった。

遺　物　出土遺物は80点余りである。分布は竈・貯蔵穴に集中し、他は南側に散在している。竈内からは土師器甕(3・5)と須恵器羽釜(9)が、貯蔵穴からは土師器甕(2・4)が出土した。

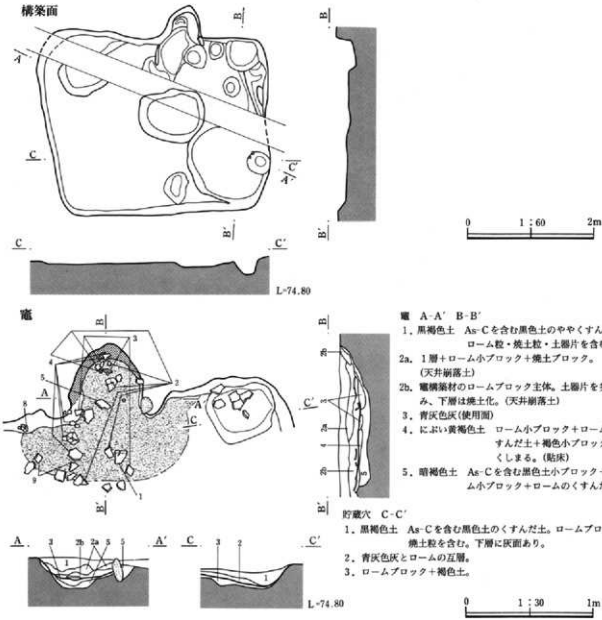
所　見　出土遺物から平安時代(10世紀前半)の住居と考えられる。



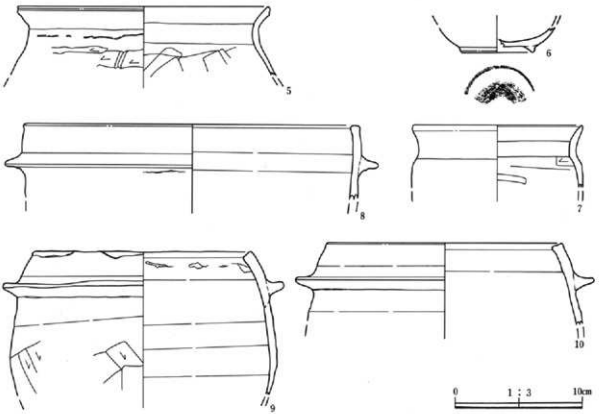
住居　A－A′

1. 住居埋没土。
2. ロームのくすんだ土。ローム小ブロック＋焼土ブロックが混じる。(竈天井崩落土)
3. ロームブロックを含む。ロームもしくはAs－Cを含む。黒色土等が入り混じる。硬くしまる。(床の硬化面)
4. 黒褐色土　ローム小ブロック＋黒色土・暗褐色土。(貼床)
5. ロームブロック＋黒褐色ブロック＋暗褐色ブロック。一括埋土。やや締みしまる。(貼床)
6. ロームブロック主体。暗褐色土ブロックが混じる。(貼床)
7. 黒色土　As－C含まない。フカフカした土。(貼床)

第86図　I－A区5号住居と出土遺物(1)



第87図 Ⅰ-A区5号住居と出土遺物(2)



第88図　Ⅰ－A区5号住居出土遺物(3)

Ⅰ区5号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 甕	竈 +14.5cm	口径(16.4) 底径 － 器高 －	①酸化焔③橙③粗細砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部上位斜横方向箆削り。 内面　口縁部横ナデ。体部横方向箆ナデ。	口縁部破片
2	土師器 甕	貯蔵穴内 +10cm	口径(21.0) 底径 － 器高 －	①酸化焔②明褐③粗細砂・角閃石・雲母を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部上位横方向箆削り。 内面　口縁部横ナデ。体部横方向箆ナデ。	口縁部破片
3	土師器 甕	中央 床 －1.4cm	口径 20.2 底径 － 器高 －	①酸化焔③橙③細礫・赤・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。頸部輪積痕・指頭痕有り。体部上位横方向箆削り。下位斜縦方向箆削り。 内面　口縁部横ナデ。体部横方向箆ナデ。	口～体部上位1／3残存
4	土師器 甕	中央 床下 －1.4cm	口径 22.0 底径 － 器高 －	①酸化焔②黄い橙③細礫・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部上位横方向箆削り。下位斜縦方向箆削り。 内面　口縁部横ナデ。体部横方向箆ナデ。	口～体部1／3残存
5	土師器 甕	竈 +8.2cm	口径 19.8 底径 － 器高 －	①酸化焔②明赤褐③粗細礫・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。頸部輪積痕有り。体部上位横方向箆削り。 内面　口縁部横ナデ。体部横方向箆ナデ。	口縁部破片
6	須恵器 高台付椀	竈 +15.4cm	口径 － 底径 5.5 器高 －	①還元焔②灰白③細礫・白色鉱物粒を含む。	外面　体部回転ナデ。底部調整不明。付高台。 内面　体～底部回転ナデ。	体～底部破片 器面の荒れ顕著
7	土師器 甕	北東隅 床上 +9.4cm	口径 13.2 底径 － 器高 －	①酸化焔②明赤褐③細礫・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部上位横方向箆削り。 内面　口縁部横ナデ。体部横方向箆ナデ。	口～体部破片 器面の荒れ顕著
8	須恵器 羽釜	竈	口径 － 底径 － 器高 －	①還元焔②灰白③粗細砂を含む。	外面　口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口縁部破片
9	須恵器 羽釜	竈 +12.7cm	口径(17.0) 底径 － 器高 －	①還元焔②灰白③粗細砂・赤・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。下位縦方向箆削り。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口～体部上位破片
10	須恵器 羽釜	南西隅 床下 －7.2cm	口径(18.5) 底径 － 器高 －	①還元焔②灰白③粗細礫・角閃石・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口縁部破片

I-B区6号住居

位　置　L・M-91・92　　**写　真**　PL35

形　状　1号館によって西壁を壊されているため全体の形状ははっきりしないが、長軸を東西にする小形長方形を呈すると推定される。周壁の北壁・南壁は直線的に掘られているが、東壁は外に膨らんでいる。検出された二カ所の隅は丸い。規模は、長軸3.3m・短軸2.4m以上である。

面　積　6.60m²(残存部分)　**方　位**　N－91°－E

重　複　4号方形周溝墓を掘り込み、1号館に掘り込まれている。

埋没土　白色軽石・ロームブロックを含む黒褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認面から18cm掘り込んで構築面とする。竈手前は土坑状に掘り窪めている。この面をほぼそのまま床面とするが、南側には部分的に貼り床を施していた。

竈　東壁のほぼ中央に設置されていた。住居の壁より内側にほとんど竈袖が張り出さない形態の竈で、焚口幅は50cmである。左袖部分にはピットを検出しており、袖心材を抜き取った痕の可能性がある。煙道部は壁から外へ41cm突出していた。燃焼部は中央部が高くやや凸凹しており、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。

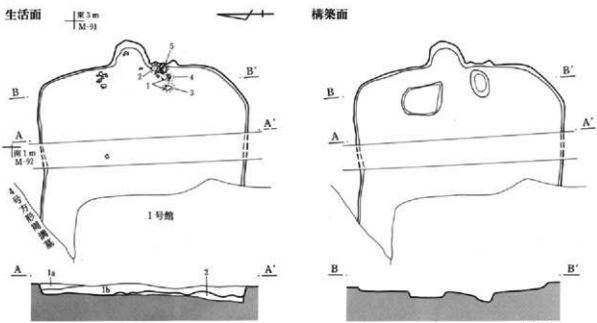
周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　検出されなかった。

柱　穴　検出されなかった。

遺　物　出土遺物は41点である。分布は竈左袖部分に集中している。(1・2・3)は須恵器坏、(5)は須恵器高台付椀、(4)は灰釉陶器坏の破片である。

所　見　出土遺物から平安時代(10世紀前半)の住居と考えられる。



住居　A-A'
1a. 黒褐色土　As-Cに似た軽石粒・ローム小ブロックを含む。住居埋没土らしくない。
1b. 黒褐色土　As-Cに似た軽石粒・ローム粒を含む。周辺の漸移層と類似。
2. ロームブロック＋As-Cを含む黒色土灰黄褐色土　砂質。

0　1:60　2m

第89図　I-B区6号住居

竈　A-A′　B-B′
1．暗褐色土　ローム小ブロック粒・炭化物を含む。
2．青灰色灰層　焼土粒・炭化物を含む。(使用面)
3．ロームブロック主体。(天井崩落土)
4．ローム小ブロック・褐色小ブロックが互層に堆積。上層は硬くしまる。(貼床)
5．ロームブロック

L=74.70

0　1：30　1m

0　1：3　10cm

第98図　Ⅰ-B区6号住居竈と出土遺物

Ⅰ-B区6号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)外面	残存状態 備考
1	須恵器 (高台付)椀	ピット内 床下 −1.5cm	口径 14.6 底径 − 器高 −	①還元焔②灰白 ③細礫・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部欠損 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口〜体部1／3
2	須恵器 坏	竈側 床上 +8.5cm	口径 12.9 底径 6.0 器高 4.2	①還元焔②鈍い黄橙 ③細・中礫・白色鉱物粒・雲母を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面　口縁部横ナデ。体〜底部回転ナデ。	ほぼ完形
3	須恵器 坏	竈側 床下 −0.5cm	口径 13.5 底径 6.0 器高 4.2	①還元焔②明褐灰〜灰白③細砂・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面　口縁部横ナデ。体〜底部回転ナデ。	口〜底部1／4 残存
4	灰釉陶器 坏	竈側 床上 +8.5cm	口径(15.0) 底径 − 器高 −	①還元焔②鈍い橙 ③細砂・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。ハケ塗りか。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口縁部破片
5	須恵器 高台付椀？	竈側 床下 +7.9cm	口径 − 底径 6.7 器高 −	①酸化焔気味②鈍い橙③細砂・角閃石を含む。	外面　口縁部欠損。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。底部器壁がやや厚め。 内面　体〜底部回転ナデ。	口縁部欠損 他完形

Ⅰ-B区7号住居

位　置　K-90　　**写　真**　PL36・37

形　状　現代の攪乱により西辺を壊されているが、長軸を東西にする小形長方形を呈すると考えられる。周壁は直線的に掘られている。検出された3か所の隅は丸い。規模は長軸2.7m・短軸2.3mである。

面　積　5.08m²(残存部分)　**方　位**　N－92°－E

重　複　13号方形周溝墓を掘り込んでいる。

埋没土　白色軽石・ロームブロック・土器片を含む暗褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認面から19cm掘り込んでそのまま床面とする。床面は平坦であった。

竈　東壁の中央やや南寄りに設置されていた。住居の壁より内側にほとんど袖が張り出さない形態の竈で、焚口幅は55cmである。竈左袖部分に棒状礫が直立した状態で検出され、袖心材と考える。煙道部は壁から外へ63cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。記録できなかったが、竈底面には貯蔵穴にかけて灰層が広がっていた。

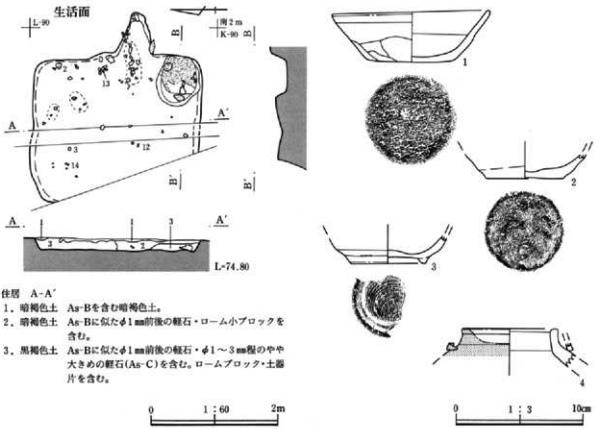
周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　南東隅に長軸81cm、短軸61cm、深さ18cmの楕円形の貯蔵穴を検出した。貯蔵穴の底面には灰層が堆積していた。

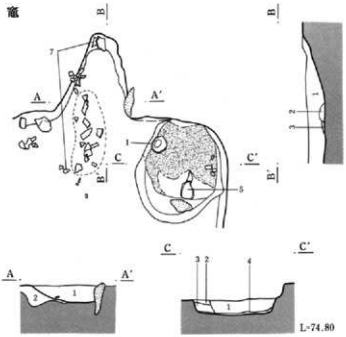
柱　穴　検出されなかった。

遺　物　遺物は300点ほど出土している。いずれも小破片でそのうち14点を図化した。分布は床面全体に散乱している。竈内からは土師器甕(7)、貯蔵穴内からは土師器坏(1)・須恵器高台付椀(5)が出土している。土錘(12・13・14)はほぼ床面直上から出土した。(4)は須恵器短頸壺の口縁部破片と考えられる。重ね焼き時の高台部が釉着していた。

所　見　出土遺物から平安時代(10世紀前半)の住居と考えられる。



第91図　Ⅰ-B区7号住居と出土遺物(1)



竈　A-A'　B-B'

1．暗褐色土　焼土粒・ローム粒・ブドウ色の斑点が混じる。

2．灰＋ローム＋焼土混在。(天井崩落土)

3．2層に似るが、ローム含まない。炭化物粒を含む。灰層の上部。

4．竈貼床

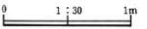
貯蔵穴　C-C'

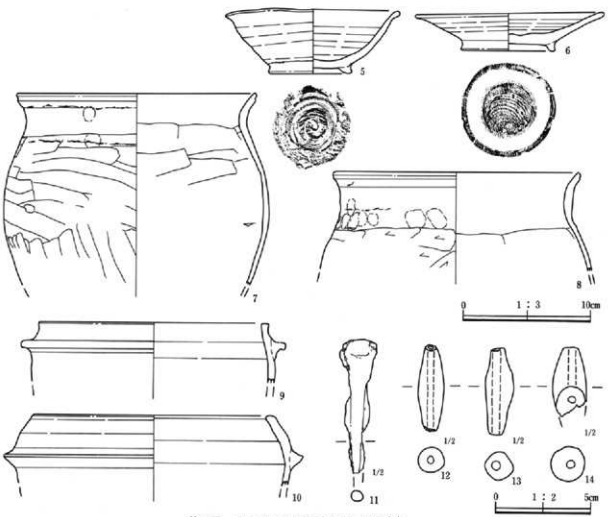
1．暗褐色土　As-Cのくすんだ層。ローム小ブロック・炭化物粒・焼土粒を含む。(埋没土)

2．暗褐色土　1層に似るが、ロームブロックが多く、炭化物粒・焼土粒を含む。(埋没土)

3．暗褐色土　1層に似る。底面に灰層あり。

4．灰　底面に拡がって堆積。(使用面)





第92図　Ⅰ-B区7号住居竈と出土遺物(2)

Ⅰ-B区7号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	貯蔵穴内	口径 12.4 底径 6.8 器高 4.0	①酸化気味②純い橙 ③粗細砂・白色鉱物粒・角閃石・雲母含む。	外面 口縁部横ナデ。体部上位指ナデ・指押さえ。下位横方向荒削り。底部荒削り後ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体～底部ナデ。	ほぼ完形 須恵器模倣坏か
2	須恵器 坏	北東隅 床上 +6.9cm	口径 － 底径 － 器高 6.1	①還元焔②灰白 ③粗細砂・白色鉱物粒・雲母を含む。	外面 口縁部欠損。体部回転ナデ。底部右回転糸切り後ナデか。 内面 体～底部回転ナデ。	底部破片
3	須恵器 高台坏椀	北西隅 床上 +11.8cm	口径 － 底径 5.8 器高 －	①還元焔②黄灰③細礫・角閃石を含む。	外面 体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面 体～底部回転ナデ。	底部破片
4	須恵器 短頸壺？	埋設土	口径 (7.4) 底径 － 器高 －	①還元焔②灰白③白色鉱物粒を含む。	外面 回転ナデ。釉付着。重ね焼時の高台痕着。 内面 回転ナデ。	口縁部破片
5	須恵器 高台坏椀	貯蔵穴内 +2.1cm	口径 13.9 底径 6.2 器高 5.1	①酸化気味②灰赤③細礫・白色鉱物粒・雲母を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面 口縁部横ナデ。体～底部横ナデ。	高台部欠損
6	須恵器 高台坏皿	中央 床上 +7.8cm	口径 14.8 底径 7.4 器高 3.0	①還元焔②橙③粗細礫・白色鉱物粒・雲母を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部3/4残存
7	土師器 甕	竈内 −1.9cm	口径 18.8 底径 － 器高 －	①酸化焔②橙③粗細砂・角閃石・赤・白色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。頸部輪積み痕・指頭痕有り。体部上位横方向荒削り。下位斜縦方向荒削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向荒ナデ。	口～体部1/2残存
8	土師器 甕	竈内 床上 −8.3cm	口径 19.2 底径 － 器高 －	①酸化焔②橙③粗細砂・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。頸部輪積み痕・指頭痕有り。体部上位横方向荒削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向荒ナデ。	口～体部上半1/2残存
9	須恵器 羽釜	北東隅 床上 +6.9cm	口径 － 底径 － 器高 －	①還元焔②純い黄褐③粗細砂・白色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位弱い回転ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。煤付着。	口縁部破片
10	須恵器 羽釜	中央 床上 +7.9cm	口径 － 底径 － 器高 －	①還元焔②灰黄褐③粗細砂・白・赤色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口縁部破片
11	鉄製品 釘？	埋設土	長さ 7.2 最大径 2.4		先端部が一部欠損。釘か？	
12	土製品 土錘	西側 床上 +3.9cm	長さ 4.5 最大径 1.4 孔径 0.3	①酸化焔②褐灰③白色鉱物粒・角閃石を含む。	中央が膨らむ筒形。体部外面指頭による整形。孔は直線的。小口は直線的に切れている。	完形
13	土製品 土錘	竈前 床直	長さ 4.6 最大径 1.4 孔径 0.5	①酸化焔②明赤褐③粗細砂・白色鉱物粒を含む。	中央が膨らむ筒形。体部外面指頭による整形。孔は直線的。小口は直線的に切れている。	完形
14	土製品 土錘	北西隅 床上 +2.3cm	長さ － 最大径 1.8 孔径 0.4	①酸化焔②明赤褐③粗細砂・白色鉱物粒・角閃石を含む。	中央が膨らむ筒形。体部外面指頭による整形。孔は直線的。小口は直線的に切れている。	1/2残存

I－B区8号住居

位　置　L－88・89、M－89・90

写　真　PL37・38

形　状　現代の撹乱により南東隅を壊されているが、長軸を東西にする小形長方形を呈すると考えられる。周壁は直線的に掘られている。北西隅は丸いが、他の2カ所は角張っている。規模は長軸3.2m・短軸2.9mである。

面　積　8.38m²　　**方　位**　N－90°－E

重　複　15号住居を掘り込んでいる。

埋没土　炭化物・焼土を多く含む黒褐色土で埋まっていた。底面付近からは、炭化材が放射状に検出された。

床　面　遺構確認面から20cm掘り込んで掘り方とする。中央部に床下土坑2基を検出した。この面に2～3cmの貼り床を施し床面とする。床面は平坦であった。

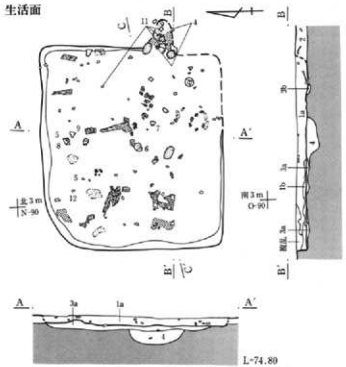
竈　東壁の中央やや南寄りに設置されていた。住居の壁より内側にほとんど袖が張り出さない形態の竈で、焚口幅は40cmである。両袖には礫が竈袖心材として使われていた。燃焼部はよく焼けており、底面には灰層が広がっていた。煙道部は壁から外へ50cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。

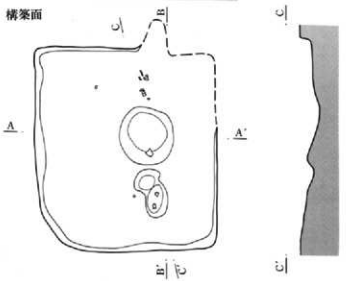
周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　検出されなかった。

遺　物　出土遺物は221点である。そのうち12点を図化した。分布は竈を中心に全体に散乱している。須恵器高台付椀(8)は床面直上からの出土である。鉄製品(12)は埋没土からの出土である。刀子の破片と考えられる。

所　見　出土遺物から平安時代（10世紀後半）の焼失住居と考えられる。





住居　A－A'　B－B'

1a．黒褐色土　As－Cを含む黒色土。炭化物・焼土粒・土器片を多く含む。

1b．黒褐色土　炭化物層下。しまりやや強い。

2．暗褐色土　1a層に似るが、焼土粒が多い。

3a．暗褐色土　As－Cを含む黒色土のくすんだ層。炭化物を含む。

3b．暗褐色土　炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。

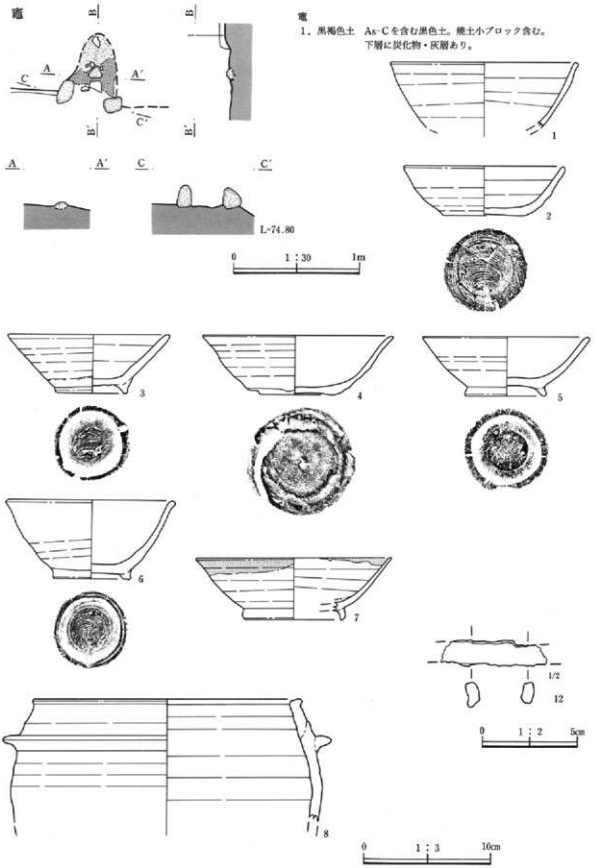
4．黒褐色土　ロームブロックを斑状に含む。焼土・炭化物粒を含む。

0　1：60　2m

第93図　I－B区8号住居

竈

1. 黒褐色土　As-Cを含む黒色土。焼土小ブロック含む。
下層に炭化物・灰層あり。



第94図　I-B区8号住居竈と出土遺物(1)

第95図　Ⅰ-B区8号住居出土遺物(2)

Ⅰ-B区8号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 椀	遺構外	口径　－ 底径　－ 器高　－	①還元焔②鈍い黄 ③粗細砂・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口縁部破片
2	須恵器 坏	北西隅 埋投土	口径 12.5 底径　6.4 器高　4.0	①還元焔②灰白 ③粗細砂・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	ほぼ完形
3	須恵器 高台付椀	遺構外	口径 12.6 底径　5.3 器高　4.7	①酸化焔気味②鈍い黄橙③粗細砂・赤色鉱物粒・雲母を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	完形
4	須恵器 高台付椀	竈内 埋投土	口径 14.9 底径 (6.0) 器高　4.7	①酸化焔・軟質②浅黄橙③細礫・赤・白色鉱物色を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右？回転糸切り。無調整。付高台。高台一部欠損。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部2／3 残存 高台部欠損
5	須恵器 高台付椀	北西隅 埋投土	口径 12.9 底径　6.2 器高　4.7	①酸化焔②鈍い黄橙③赤色鉱物粒が目立つ。粗細砂を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1／2
6	須恵器 高台付椀	中央 床面直上	口径 13.0 底径　6.0 器高　6.2	①還元焔　②鈍い黄橙③粗細砂・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1／2 残存
7	灰釉陶器 高台付椀	中央 埋投土	口径 (15.4) 底径 (7.2) 器高　4.9	①還元焔　②灰白 ③白色鉱物粒を少量含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。付高台。 釉は浸け掛け。 内面　口～底部回転ナデ。	口～底部1／2 残存
8	須恵器 羽釜	北西隅 埋投土	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔気味 ②橙 ③細礫を含む。	外面　口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口縁部破片
9	須恵器 羽釜	北西隅 埋投土	口径　－ 底径　－ 器高　－	①還元焔②鈍い黄橙 ③粗細砂・角閃石・白色鉱物を含む。	外面　口縁部横ナデ。鍔横ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ調整。	口縁部破片
10	須恵器 羽釜	竈前 11.3 掘方	口径　－ 底径　－ 器高　－	①還元焔②橙 ③粗細砂・赤・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口縁部破片
11	須恵器 羽釜	竈内 埋投土	口径 (17.8) 底径　－ 器高　－	①還元焔②橙 ③粗細砂・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口～体部1／2
12	鉄製品 刀子？	埋投土	長さ (6.0) 幅　1.4 厚さ　0.6		断面三角形。両端部が欠損。	

I-A区9号住居

位　置　P-90　　写　真　PL39

形　状　長軸を東西にする超小形不整四角形を呈する。周壁の掘り込みはしっかりしているが、各辺は歪んでいる。規模は、長軸2.3m・短軸2.2mである。

面　積　3.92m²　　方　位　N−55°−E

重　複　6号方形周溝墓を掘り込んでいる。

埋没土　白色軽石・ロームブロックを多く含む黒褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認面から16cm掘り込んで構築面とする。中央が床下土坑状に掘り窪めてあった。この部分を人為的に埋め、そのまま床面とする。床面は平坦であった。

竈　東壁中央やや南寄りに設置されていた。住居の壁より内側にほとんど袖が張り出さない形態の竈で、焚口幅は50cmである。煙道部は壁から外へ59cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。

また竈前に礫群が出土した。周囲には焼土・灰・ロームブロックが多くみられ、検出できなかった重複した住居の竈である可能性がある。

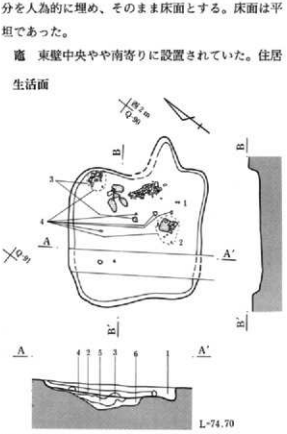
周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　検出されなかった。

遺　物　出土遺物は17点である。分布は竈右袖前・北東隅・南と各遺物がまとまって出土した。

所　見　遺構が重複している可能性があるが、遺物に時期差がみられないため、出土遺物から平安時代(9世紀後半)の住居と考えたい。

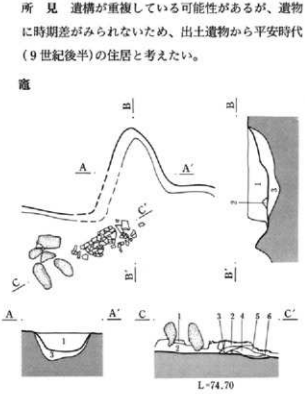
生活面



住居　A-A'

1. 褐灰色土　As-Cと考えられる白色軽石細粒(φ1〜2mm)・ローム小ブロック粒・褐色小ブロック(焼土状)を概に含む。
2. 多量のローム小ブロック＋褐色ブロック＋As-Cを含む黒色土小ブロック。(人為的埋土)
3. 褐灰色土　ローム粒を含む。粘性ややあり。締まりあり。
4. ローム小ブロック・灰色シルト・褐色土が交互にラミナ状堆積。(使用面)
5. 褐灰色土　褐灰色土＋褐色小ブロック。ローム大小ブロックを含む。
6. ロームブロック＋褐灰色ブロック＋As-Cを含む黒色土ブロック。

竈



竈　A-A'　B-B'

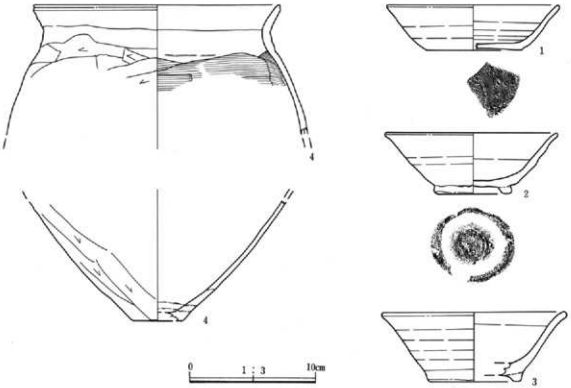
1. 暗褐色土　As-Cを含む。ローム粒・焼土粒・炭化物粒をわずかに含む。
2. 黒灰＋炭化物＋焼土粒。
3. 黒褐色土　As-Cを含む黒色土。

C-C'

1. 暗褐色土　ローム粒・軽石粒(As-C？)を斑点状に含む。
2. ローム大小ブロックと1層がブロック状に混じる。
3. 焼土小ブロック＋1層・炭化物粒。
4. 焼土
5. 灰・炭化物層。
6. 褐灰色土　焼土・炭化物粒をわずかに含む。

0　1:60　2m　　0　1:30　1m

第96図　I-A区9号住居



第97図　Ⅰ－A区9号住居出土遺物

Ⅰ－A区9号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 坏	南東隅 床上 ＋7.3cm	口径(13.6) 底径 (7.6) 器高　3.5	①還元焔②灰 ③粗細砂・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部破片
2	須恵器 高台付椀	中央 床上 ＋4.7cm	口径 13.5 底径　5.5 器高　4.8	①還元焔②淡黄 ③細礫・赤・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口縁一部欠損
3	須恵器 高台付椀	北東隅 床上 ＋2cm	口径(14.4) 底径 (7.0) 器高　5.5	①還元焔②淡黄 ③粗細砂・赤・白色鉱物粒・雲母を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部欠損。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1／3残存
4	土師器 甕	竈前～北東隅床上 ＋8cm	口径 19.5 底径　4.0 器高　－	①酸化焔 ②鈍い赤褐 ③粗細砂・赤・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部上位横方向箆削り。下位斜縦方向箆削り。底部箆削り。 内面　口縁部横ナデ。体部横方向箆ナデ。	体部欠損

I－A区10号住居

位　置　P－89、Q－89・90　　**写　真**　PL39・40

形　状　長軸を南北にするやや不整形な小形長方形を呈する。周壁の南・北壁はほぼ直線的だが、北・西壁はやや外に膨らみ不整形である。掘り込みはしっかりしている。四隅は丸い。規模は、長軸3.6m・短軸2.4mである。

面　積　7.79m²　　**方　位**　N－64°－E

重　複　6号方形周溝墓を掘り込んでいる。

埋没土　ロームブロック・As-C・土器片を多く含む暗褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認面から16cm掘り込んで、そのまま床面とするが、薄い貼床が部分的に施してあり、構築面から遺物が少量出土した。

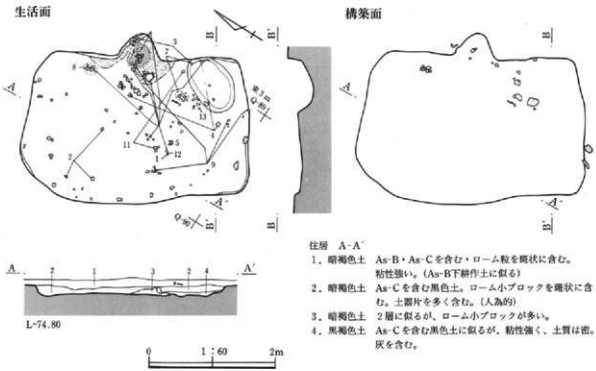
竈　北東壁中央に設置されていた。住居の壁より内側にほとんど袖が張り出さない形態の竈で、焚口幅は55cmである。煙道部は壁から外へ40cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。燃焼部底面は良く焼けて焼土化しており、また灰層が堆積していた。

周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　南東隅に長径96cm、短径60cm、深さ22cmの楕円形の貯蔵穴と考えられる土坑を検出した。東壁には接しているが、南壁からは離れて設置されている。底面は擂鉢状である。土器片・ロームブロックを含む暗褐色土で埋まっていた。

遺　物　出土遺物は180点余りである。いずれも小破片で、そのうち14点を図化した。分布は竈周辺を中心に床面全体に散乱していた。土師器甕(10)は竈からの出土である。器壁が厚く、口縁部が崩れた「コ」の字状を呈している。また須恵器高台付椀(7)は、酸化焔気味の焼成と粗雑な高台部の調整がこの時期の特徴を良く表している。いずれも床面直上からの出土である。(8)は底部が欠損しているが小形の台付甕と思われる。鉄製品(14)は構築面からの出土である。

所　見　出土遺物から平安時代(10世紀前半)の住居と考えられる。



住層　A-A'

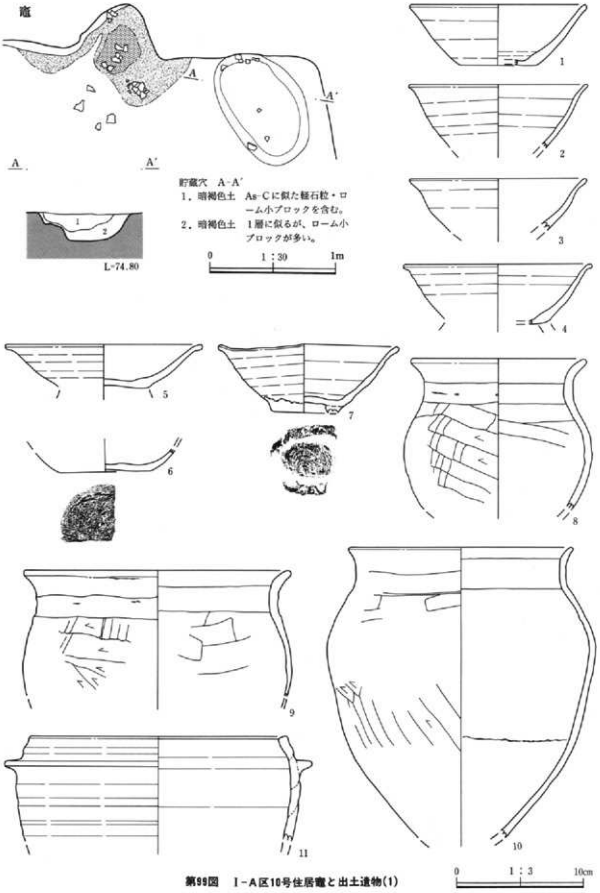
1．暗褐色土　As-B・As-Cを含む・ローム粒を斑状に含む。粘性強い。(As-B下耕作土に似る)

2．暗褐色土　As-Cを含む黒色土。ローム小ブロックを斑状に含む。土器片を多く含む。(人為的)

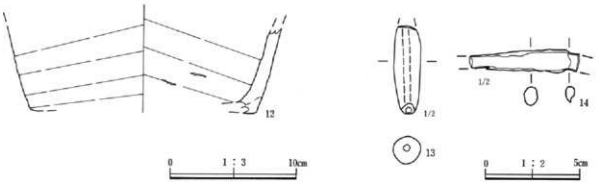
3．暗褐色土　2層に似るが、ローム小ブロックが多い。

4．黒褐色土　As-Cを含む黒色土に似るが、粘性強く、土質は密。灰を含む。

第98図　I－A区10号住居



第99図　Ⅰ-A区10号住居竈と出土遺物(1)



第100図 Ⅰ－A区10号住居出土遺物(2)

Ⅰ－A区10号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③粘土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 (高台付)椀	中央 床上 +17cm	口径(13.8) 底径 (6.0) 器高 4.7	①酸化気味②鈍い橙 ③細砂・赤・白色鉱物粒を含む。	外面 口～体部回転ナデ。底部調整不明。高台欠損。 内面 口～底部回転ナデ。	口～底部1/4 残存 高台部欠損
2	須恵器 (高台付)椀	北西隅 床上 +14cm	口径(13.8) 底径 － 器高 －	①還元焔②暗青灰 ③細礫・白色鉱物粒が目立つ。	外面 口～体部回転ナデ。底部調整不明。 内面 口～底部回転ナデ。	口縁部破片
3	須恵器 (高台付)椀	竈内 －3cm	口径(13.8) 底径 － 器高 －	①還元焔②黄灰 ③粗細砂・白色鉱物粒を含む。	外面 口～体部回転ナデ。 内面 口～底部回転ナデ。	口縁部破片
4	須恵器 椀	貯蔵穴内 +8.6cm	口径(14.6) 底径 － 器高 4.7	①酸化焔②鈍い赤褐 ③粗細砂を含む。	外面 口～体部回転ナデ。底部調整不明。 内面 口～底部回転ナデ。	破片 底部欠損
5	須恵器 椀	中央 床上 +1.8cm	口径 15.3 底径 － 器高 3.5	①酸化焔気味②鈍い橙③細砂・赤・白色鉱物粒を含む。	外面 口～体部回転ナデ。底部調整不明。 内面 口～底部回転ナデ。	口～底部破片
6	須恵器 高台付椀	遺構外 床面直上	口径 － 底径 － 器高 －	①還元焔 ②灰白 ③粗細砂・角閃石・チャートを含む。	外面 底部回転糸切り(回転方向不明)。 内面 回転ナデ。	底部破片
7	須恵器 高台付椀	竈前 床下 －3cm	口径 14.4 底径 5.2 器高 5.4	①酸化焔気味②鈍い褐③粗細砂・赤色鉱粒・角閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部3/4 残存
8	土師器 甕	北東隅 床上 1堀方	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔②赤褐 ③粗細砂・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篦削り。下位斜縦方向篦削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篦ナデ。	口縁部破片
9	土師器 甕	竈内 床面直上	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔②赤褐 ③粗細砂・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篦削り。下位斜縦方向篦削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篦ナデ。	口縁部破片
10	土師器 甕	竈内 床面直上	口径(17.6) 底径 － 器高(23.0)	①酸化焔②明赤褐 ③粗細砂・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篦削り。下位斜縦方向篦削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篦ナデ。	口～体部1/2 残存。外面炭化物付着
11	須恵器 羽釜	中央 床上 +2.8cm	口径(20.2) 底径 － 器高 －	①還元焔②鈍い黄橙 ③粗細砂・白色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口縁部破片
12	須恵器 甕?	中央 床上 +15cm	口径 － 底径(17.4) 器高 －	①還元焔②褐灰 ③粗細砂・白色鉱物粒を含む。	外面 体部回転ナデ。底部調整不明。 内面 体部回転ナデ。	底部破片
13	土製品 土錘	南東隅 床上 +1.6cm	長さ 4.2 最大径1.4 孔径 0.3	①酸化焔②橙 ③細砂・角閃石を含む。	中央が膨らむ筒形。体部外面指頭による整形。孔は直線的。小口は直線的に切れているが一部欠損。	完形
14	鉄製品 刀子	埋設土 堀方	長さ (5.4) 幅 1.0 厚さ 0.6		両端部欠損。一方が細い。刀子の一部か。	

Ⅰ-B区11号住居

位　置　L-90・91　　**写　真**　PL41

形　状　調査時に4号方形周溝墓を先に発掘してしまったため住居中央部について不明であるが、長軸を南北にする小形長方形を呈していたと考えられる。周壁は直線的に掘られている。四隅は角張る。規模は、長軸3.4m・短軸2.9mである。

面　積　8.86m²　　**方　位**　N－77°－E

重　複　4号方形周溝墓を掘り込んでいる。

埋没土　As-Cを含む暗褐色土で埋まっていた。地山との区別がつきにくい埋没土であった。

床　面　遺構確認面から20cm掘り込んでそのまま床面とするが、竈燃焼部は深く掘り込まれていた。この部分を埋め竈の使用面としている。

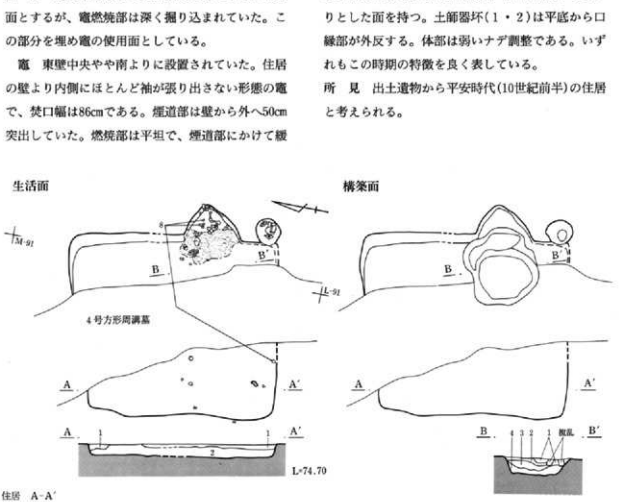
竈　東壁中央やや南よりに設置されていた。住居の壁より内側にほとんど袖が張り出さない形態の竈で、焚口幅は86cmである。煙道部は壁から外へ50cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。燃焼部は良く焼けており、底面には灰層が堆積していた。

周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　南東隅に長径20cm、短径10cm、深さ10cmで円形の土坑を検出した。住居の範囲外であるが、本住居は南東隅の範囲がはっきりせず、また竈と貯蔵穴内出土遺物（8・9）が接合関係をもつことから本住居に伴う遺構の可能性がある。

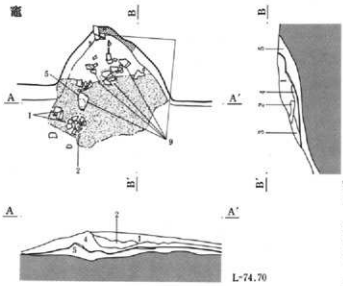
遺　物　出土遺物は120点余りである。そのうち9点を図化した。竈内から土師器甕(8)と須恵器羽釜(9)が出土した。(8)は器壁が厚く、口縁部は崩れた「コ」の字状を呈する。(9)は口縁部がやや内傾し、しっかりとした面を持つ。土師器坏（1・2）は平底から口縁部が外反する。体部は弱いナデ調整である。いずれもこの時期の特徴を良く表している。

所　見　出土遺物から平安時代(10世紀前半)の住居と考えられる。



第101図　Ⅰ-B区11号住居

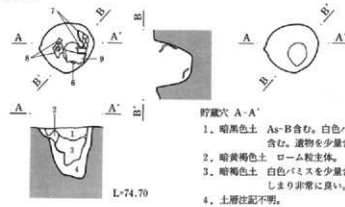
竈



竈 A-A' B-B'

1. 暗褐色土 As-Cのくすんだ層。焼土粒をわずかに含む。
2. にぶい黄褐色土 天井崩落土。砂質。
3. 暗青灰色灰 使用面。
4. 黒褐色土 灰・炭化物・焼土粒含む。1層に似るが色調がやや暗い。
5. 掘り方

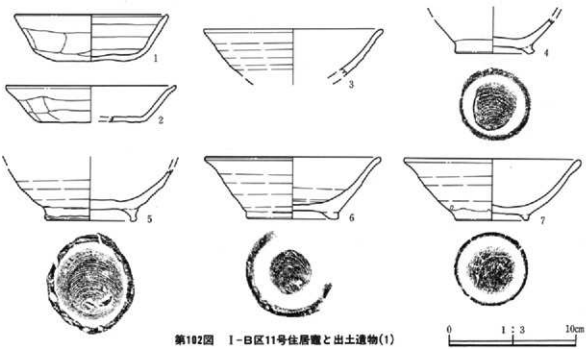
貯蔵穴



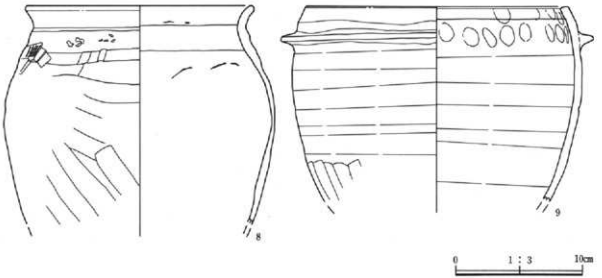
貯蔵穴 A-A'

1. 暗黒色土 As-B含む。白色パミスを多く含む。遺物を少量含む。
2. 暗黄褐色土 ローム粒主体。
3. 暗褐色土 白色パミスを少量含む。しまり非常に良い。
4. 土層注記不明。

0 1:30 1m



第102図 I-B区11号住居竈と出土遺物(1)



第103図　Ⅰ-B区11号住居出土遺物(2)

Ⅰ-B区11号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	竈前 床上 +1.2cm	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②鈍い橙 ③白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部ナデか？ 内面　口～体部横ナデ。底部ナデ。指頭痕あり。	口～底部2/3 残存
2	土師器 坏	竈前 床上 +1.2cm	口径(13.4) 底径(8.0) 器高　2.9	①酸化焔②鈍い橙 ③明細砂・角閃石・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部箆削り後、一部ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体～底部丁寧なナデ。	口～底部1/3 残存
3	須恵器 椀	床下土坑 埋没土	口径 14.0 底径　－ 器高　－	①酸化焔②鈍い橙 ③粗細砂・白色鉱物粒・チャートを含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口縁部破片
4	須恵器 高台付椀	竈内 埋没土	口径　－ 底径　5.8 器高　－	①還元焔②灰白 ③細砂・白色鉱物粒を含む。	外面　体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　体～底部回転ナデ。	底部破片
5	須恵器 高台付椀	竈内 +4.7cm	口径　－ 底径　6.8 器高　－	①還元焔②灰白 ③細礫を含む。	外面　体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。高台部篦当て痕あり。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	体～底部破片
6	須恵器 高台付椀	遺構外 貯蔵穴	口径 13.7 底径　6.5 器高　5.0	①還元焔②灰白 ③粗細砂・赤色鉱物粒・雲母を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　体～底部回転ナデ。	口～底部3/4 残存
7	須恵器 高台付椀	遺構外 貯蔵穴	口径 13.8 底径　5.6 器高　4.9	①還元焔②灰白③粗細砂・角閃石・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	ほぼ完形
8	土師器 甕	竈内 +5.2cm	口径(17.6) 底径　－ 器高(23.0)	①酸化焔 ②明赤褐 ③粗細砂・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部上位横方向箆削り。下位斜縦方向箆削り。 内面　口縁部横ナデ。体部横方向箆ナデ。	口～体部1/3 残存
9	須恵器 羽釜	竈内 +3.7cm	口径(20.0) 底径　－ 器高　－	①還元焔②灰 ③粗細砂・白・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。下位縦方向箆削り。 内面　口縁部横ナデ。指頭痕有り。体部回転ナデ。	口～体部1/3 残存

I－B区12号住居

位　置　K・L－89・90　　**写　真**　PL42

形　状　一部重複しているが、竈の軸線を東西にする超小形正方形を呈すると考えられる。周壁はほぼ直線的に掘られており、隅は角張る。規模は、長・短軸ともに2.5mである。

面　積　6.40m²　　**方　位**　N－86°－E

重　複　13号住居に掘り込まれている。

埋没土　多量のローム小ブロック・土器片を含む黒褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認面から38cm掘り込んで構築面とする。構築面の起伏が激しいが、中央が高く周囲が低い。この面に厚さ約10cmの貼床を施し床面とする。床面の深さは26cmである。

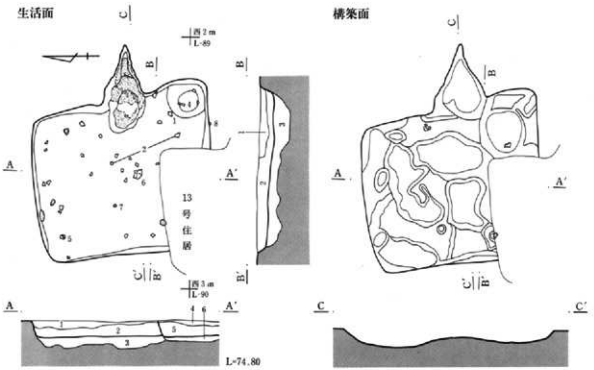
竈　東壁中央やや南よりに設置されていた。住居の壁より内側にほとんど竈袖が張り出さない形態の竈で、焚口幅は60cmである。煙道部は壁から外へ85cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。燃焼部から煙道にかけて灰が底面に堆積していた。

周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　南東隅に長径58cm、短径52cm、深さ16cmで円形の貯蔵穴を検出した。焼土・ローム粒を含む黒褐色土で埋まっており、土器片が出土した。

遺　物　出土遺物は180点余りである。そのうち8点を図化した。分布は全体に散在している。床面からの出土は少ない。須恵器高台付椀(3)は、高台の調整が粗雑である。須恵器羽釜(6)は口縁部が内傾し、端部を丸くおさめる。

所　見　出土遺物から平安時代(10世紀前半)の住居と考えられる。



住居　A-A'　B-B'

1．黒褐色土　As-Cを含む黒色土。ローム粒・焼土粒を含む。

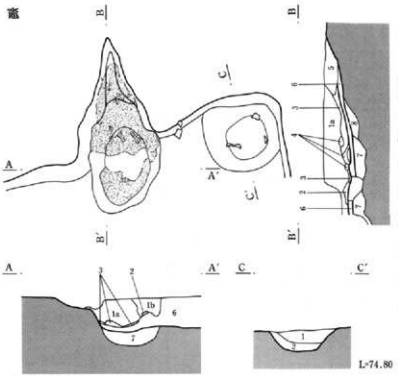
2．黒褐色土　ローム小ブロックを多量に含む。土器片が混じる。(一括埋土)

3．As-Cを含む黒色土＋ローム大小ブロック。

4・5・6　13号住居埋没土

0　1:60　2m

第104図　I－B区12号住居



竈　A-A'　B-B'

1a．暗褐色土　As-Cを含む黒色土のくすんだ土。ローム粒・小ブロック・黒褐色土小ブロックが強じる。(人為的埋土)

1b．暗褐色土　As-Cを含む黒泥土のくすんだ土。ローム粒をわずかに含む。

2．にぶい黄橙色土　灰白粘土。部分的に焼土化。(天井崩落土)

3．暗青灰色灰層

4．赤褐色土　焼土ブロック。

5．暗褐色土　ロームブロックを含む。As-Cを含む黒色土のくすんだ土。

6．黒褐色土＋ローム小ブロック　焼土ブロック・灰が互層に堆積。(使用面)

7．ロームブロックを多量に含む。黒色土ブロック・焼土粒が強じる。(竈の砧床)

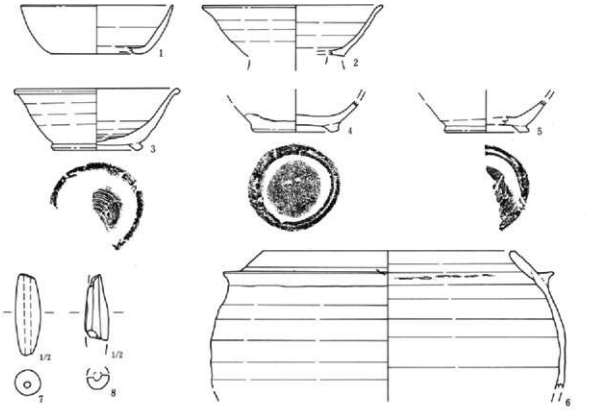
8．焼土粒を上面に含む。ロームブロックを少量を含む。

貯蔵穴　C-C'

1．黒褐色土　焼土粒・ローム粒を斑状に含む。As-Cを含む黒色土のくすんだ土。

2．ロームブロック＋焼土粒。土器片を含む。

0　1：30　1m



0　1：2　5cm

第105図　I-B区12号住居竈と出土遺物

0　1：3　10cm

I－B区12号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	竈前 床上 +13cm	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔②橙 ③粗細砂を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部指ナデ。 内面　口～底部ナデ。	口縁部破片
2	須恵器 (高台付)椀	中央 床上 +16cm	口径(14.4) 底径 － 器高 －	①酸化焔気味 ②鈍い褐 ③粗細砂・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部回転糸切り(回転方向不明)。無調整。付高台。高台部欠損。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部2／3残存 高台部欠損
3	須恵器 高台付椀	中央 床上 +16cm	口径 12.6 底径 6.4 器高 4.9	①還元焔②灰 ③赤色鉱物粒・角閃石・雲母を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1／3残存
4	須恵器 高台付椀	埋設土	口径 － 底径 5.7 器高 －	①還元焔②灰白 ③赤色鉱物粒・角閃石・雲母を含む。	外面　体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　体～底部回転ナデ。	底部破片
5	須恵器 高台付椀	北西隅 床上 +11cm	口径 － 底径 5.8 器高 －	①酸化焔気味②橙 ③粗細砂・赤色鉱物粒を含む。	外面　体部回転ナデ。底部右？回転糸切り。無調整。付高台。 内面　体～底部回転ナデ。	底部破片
6	須恵器 羽釜	中央 床上 +5.2cm	口径 － 底径 － 器高 －	①還元焔②黄橙 ③粗細砂・角閃石・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口～体部破片
7	土製品 土錘	中央 床上 +19.3cm	長さ 4.3 最大径1.3 孔径 0.4	①酸化焔 ②褐灰 ③細砂を含む。	中央が膨らむ筒形。体部外面指頭による整形。孔は直線的。小口は直線的に切れている。	ほぼ完形
8	土製品 土錘	遺構外 床下 －7cm	長さ － 最大径1.2 孔径 0.4	①酸化焔 ②黒灰 ③細砂を含む。	中央が膨らむ筒形。体部外面指頭による整形。孔は直線的。小口は直線的に切れている。	破片

I－B区13号住居

位　置　K・L－89・90　　**写　真**　PL43

形　状　長軸を南北にする超小形長方形を呈する。周壁はほぼ直線的に掘られている。四隅は丸い。規模は長軸2.7m・短軸2.1mである。

面　積　5.02m²　　**方　位**　N－81°－E

重　複　10・13号方形周溝墓を掘り込んでいる。

埋没土　As－C・ロームブロックを含む黒褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認面から30cm掘り込んで構築面とする。構築面は凸凹していたが、重複する南東部分では方形周溝墓埋没土と貼床が似ており、はっきり検出できなかった。中央やや北西より床下土坑を1基検出した。この面に厚さ約10cmの貼床を施し床面とする。床面は平坦で硬く締まっていた。深さは21cmである。

竈　東壁中央に設置されていた。住居の壁より内側に袖がやや張り出す形態の竈で、焚口幅は80cmである。煙道部は壁から外へ68cm突出していた。燃焼部は平坦である。底面には灰層が部分的に拡がっていた。

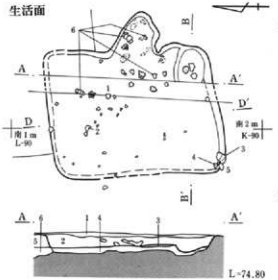
周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　南東隅に長径58cm、短径40cm、深さ40cmで楕円形の貯蔵穴を検出した。

遺　物　出土遺物は300点余りである。埋没土からの出土が多く、いずれも小破片で図化し得たのは7点である。遺物は竈を中心に東側と南西隅に分布している。床面直上のものは少なかった。灰釉陶器椀(3)は小さく外反する口縁部とやや崩れた三日月高台をもつ。釉は刷毛塗りである。

所　見　出土遺物から平安時代(10世紀前半)の住居と考えられる。

生活面



住居　A-A'

1．にぶい黄褐色土　As-A・As-Bを含む。現代の耕作による攪乱。

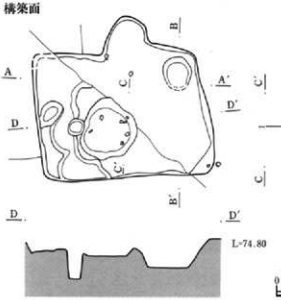
2．黒褐色土　As-Cを含む黒色土。ローム小ブロックを斑点状に含む。

3．黄褐色土ロームブロック主体。床の硬化面。

4．As-Cを含む黒色土。ロームブロックを多量に含む。(貼床)

5・6　12号住居埋没土。

構築面



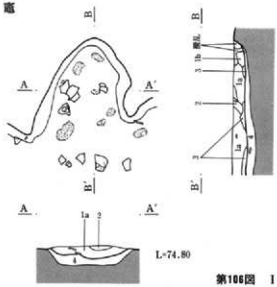
床下土坑　C-C'

1．黄褐色ローム主体。床上の硬化面。

2．As-Cを含む黒色土＋多量のロームブロック。

0　1:60　2m

竈



竈　A-A'　B-B'

1a．黒褐色土　As-Cを含む黒色土。ローム・焼土粒・炭化物粒あり。

1b．1a層に似るが、焼土粒・炭化物粒をわずかに含む。

2．にぶい黄褐色土　ロームのくずれだ土。焼土小ブロックを含む。(天井崩落土)

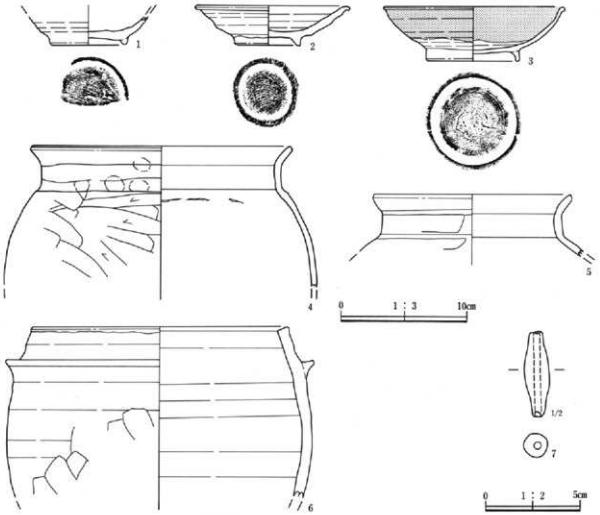
3．黒色土　灰・焼土粒を含む。灰層に近い。

4．掘り方。

5・6　12号住居埋没土。

第106図　I-B区13号住居

0　1:30　1m



第107図 Ⅰ-B区13号住居出土遺物

Ⅰ区13号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 高台付椀	中央 床上 +36.6cm	口径 － 底径 5.8 器高 －	①還元焔②灰 ③細礫・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面 体部回転ナデ。底部右？回転糸切り。無調整。付高台。 内面 体～底部回転ナデ。	底部破片
2	須恵器 皿	南西隅 床下 +1.7cm	口径(12.4) 底径 5.0 器高 3.2	①酸化焔気味②純い橙③赤色鉱物粒・角閃石・雲母を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部2/3 残存
3	灰釉陶器 高台付椀	南西隅 床上 +23.5cm	口径 14.1 底径 7.0 器高 5.4	①還元焔②灰白 ③白色鉱物粒を含む。	ハケ塗り。	ほぼ完形
4	土師器 甕	南西隅 床上 +27.5cm	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔②純い赤褐 ③粗細砂・白色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。頸部輪積み痕・指頭痕有り。体部上位横方向箆削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向箆ナデ。	口～体部破片
5	土師器 甕	南西隅 床上 +27.5cm	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔②純い赤褐 ③白色鉱物粒・細砂を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向箆削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向箆ナデ。	口縁部破片
6	須恵器 羽釜	竈～竈前 散乱	口径 － 底径 － 器高 －	①還元焔②灰白 ③粗細砂・白色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。下位縦方向箆削り。 内面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口～体部破片
7	土製品 土錘	中央 堀方 －13cm	長さ 4.5 最大径1.4 孔径 0.4	①酸化焔②黒灰 ③細砂を含む。	中央が膨らむ筒形。体部外面指頭による整形。孔は直線的。小口一部欠損	小口一部欠損

I－B区14号住居

位　置　L－90

写　真　PL44

形　状　長軸を南北にする超小形正方形を呈する。掘り込みは浅く、周壁は東壁がやや外に膨らむが、他はほぼ直線的に掘られている。四隅は丸い。規模は、長軸2.4m、短軸2.1mである。

面　積　4.69m²

方　位　N－91°－E

重　複　10・13号方形周溝墓を掘り込んでいる。

埋没土　As-C・焼土・炭化物・土器片を含む暗褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認面から20cm掘り込んで構築面とする。構築面は部分的に土坑状や溝状に掘り窪められていた。この面に厚さ約10cmの貼床を施し床面とする。床面の深さは10cmである。床面は平坦で、良く締まっていた。

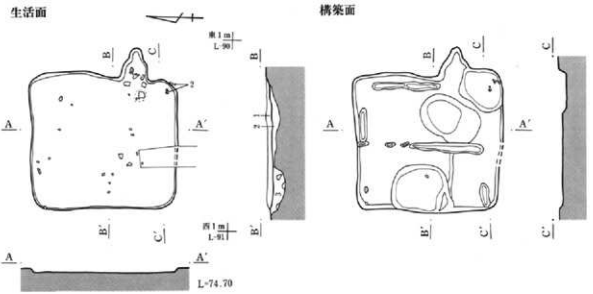
竈　東壁中央やや南よりに設置されていた。住居の壁より内側にやや袖が張り出す形態の竈で、焚口幅は40cmである。煙道部は壁から外へ50cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。部分的に焼土化していた。

周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　検出されなかった。

遺　物　遺物は4点を図化した。分布は竈に集中する。土師器甕(3)は口縁部の器壁が厚く、崩れた「コ」の字状を呈する。須恵器羽釜(4)は口縁部が内傾し、しっかりした面を持つ。

所　見　出土遺物から平安時代(10世紀前半)の住居と考えられる。



住居　B-B'

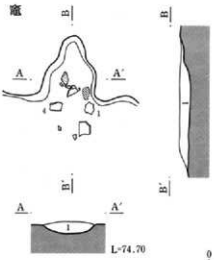
1．暗褐色土　As-Cを含む黒色土。土器片を含む。ややくすんだ色調。焼土粒・炭化物粒をわずかに含む。

2．黒褐色土　As-Cを含む黒色土。土質均質。締まり・粘性あり。

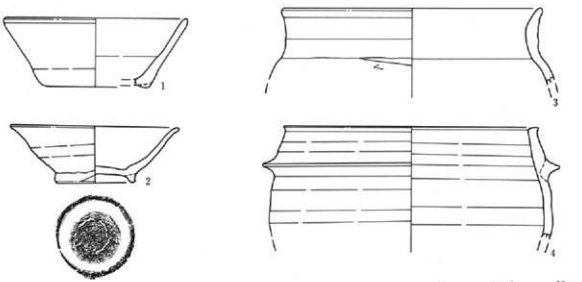
3．黒褐色土　As-C＋ローム小ブロック。焼土粒をわずかに含む。(一括埋土)

0　1:60　2m

第108図　I－B区14号住居



竈 A-A' B-B'
1．黒褐色土 住居埋設土1層に似るが、焼土粒・小ブロック・炭化物粒を含む。



第109図 Ⅰ-B区14号住居竈と出土遺物

Ⅰ-B区14号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 高台付椀	竈内 ＋7cm	口径(14.2) 底径 － 器高 －	①酸化焔②純い橙 ③粗細砂・赤色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部回転ヘラ切り(回転方向不明)。無調整。付高台か。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口縁部破片 高台部欠損
2	須恵器 高台付椀	貯蔵穴内 ＋1.5cm	口径 13.1 底径 6.0 器高 4.5	①還元焔②灰白 ③粗細砂・赤色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部回転ヘラ切り。無調整。付高台。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部3／4残存
3	土師器 甕	北東隅 床上 ＋5cm	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔②純い橙 ③粗細砂・角閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向箆削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向箆ナデ。	口縁部破片
4	須恵器 羽釜	竈内 ＋5cm	口径 － 底径 － 器高 －	①還元焔②明黄褐 ③粗細砂を含む。	外面 口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位弱い回転ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口縁部破片

Ⅰ-B区15号住居

位　置　L-89・M-89　　写　真　PL45

形　状　一部重複と攪乱のため、全体の形状は不明である。東壁がやや外に膨らんでいるが、他の2辺はほぼ直線的に掘られている。検出された二隅は丸い。規模は、長軸3.5mである。

面　積　計測不可　　方　位　N－89°－E(竈)

重　複　8号住居に掘り込まれている。

埋没土　As-Cを含む黒褐色土で埋まっていた。

床　面　彫り込みは浅く、遺構確認面から12cm掘り込んで構築面とする。構築面中央に床下土坑を1基検出した。この面に厚さ約4cmの貼床を施し床面とする。床面の深さは8cmである。床面は平坦で、硬く締まっていた。竈から貯蔵穴にかけて灰層が拡がっていた。

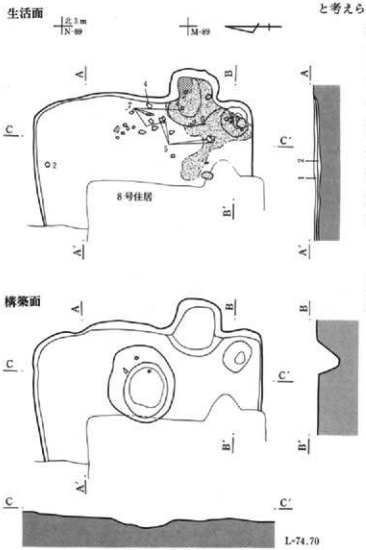
竈　東壁中央やや南よりに設置されていた。住居の壁より内側にやや竈袖がほとんど張り出さない形態の竈で、焚口幅は64cmである。煙道部は壁から外へ44cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。燃焼部は良く焼けており、底面には灰層が堆積していた。

周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　南東隅に長径48cm、短径44cm、深さ32cmで円形の貯蔵穴を検出した。底面に竈から続く灰層が堆積していた。焼土・炭化物・ローム小ブロックを含む黒褐色土で埋まっており、土器片・竈の構築材と考えられる褐灰色粘土ブロックが出土した。

遺　物　遺物は50点余りである。そのうち7点を図化した。分布は竈前と貯蔵穴付近に集中している。須恵器羽釜(6)は(5)と同一個体と考えられる。面を持ち内傾する口縁部に、体部下位に縦方向篦削りを施す。(7)は口縁部が直立することから、甑の可能性もある。

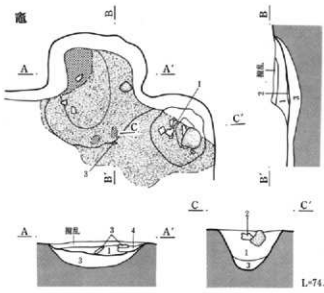
所　見　出土遺物から平安時代(10世紀後半)の住居と考えられる。



住居　A-A'
1．黒褐色土　As-Cを含む黒色土のくすんだ土。
2．黒褐色土　As-Cを含む黒色土。ローム小ブロックを斑状に含む。硬くしまる。(貼床)

0　1:60　2m

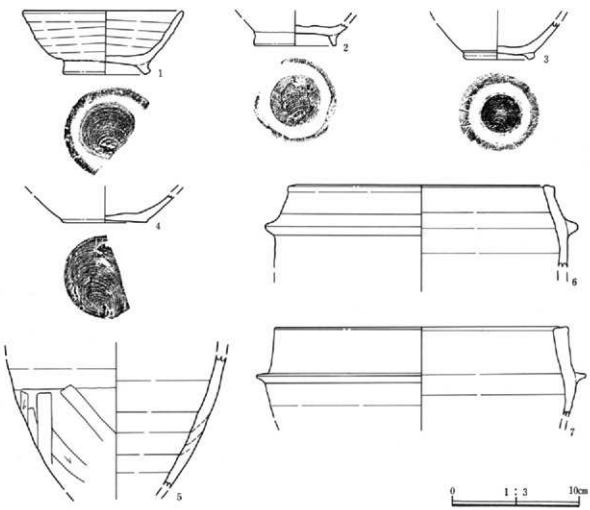
第110図　Ⅰ-B区15号住居



竈 A-A' B-B'
1. 暗褐色土 焼土小ブロックを斑状に含む。炭化物粒・炭を含む。
2. 黒色土 As-Cを含む黒色土。焼土粒をわずかに含む。
3. 暗褐色土 焼土ブロック主体。
4. 暗褐色土 ローム小ブロック・焼土粒を含む。
(天井崩落土)

貯蔵穴 C-C'
1. 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒・ローム小ブロックを含む。
2. 褐灰色ブロック 焼土粒をわずかに含む。竈構築材か?
3. 暗褐色土 ローム小ブロックを含む。炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。粘性ややあり。

0 1:30 1m



第111図 Ⅰ-B区15号住居竈と出土遺物

Ⅰ-B区15号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 高台付椀	堆積土	口径 12.8 底径 6.3 器高 5.0	①還元焔 ②灰白 ③細砂を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1/2残存
2	須恵器 高台付椀	北東隅 床下 −5.5cm	口径 − 底径 6.2 器高 −	①酸化焔②灰白 ③粗細砂・角閃石を含む。	外面　体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　体～底部回転ナデ。	底部破片
3	須恵器 高台付椀	竈内 +11.5cm	口径 − 底径 5.0 器高 −	①還元焔②灰白 ③粗細砂を含む。	外面　体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　体～底部回転ナデ。	底部破片
4	須恵器 坏	竈前 床下 −1.5cm	口径 − 底径 6.0 器高 −	①還元焔②灰 ③粗細砂・白色鉱物粒・チャートを含む。	外面　体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面　体～底部回転ナデ。	底部破片
5	須恵器 羽釜	竈前 床下 −8.3cm	口径 − 底径 − 器高 −	①還元焔②鈍い橙 ③粗細砂・赤色鉱物粒を含む。	外面　体部上位鋭い回転ナデ。下位緩方向鋭い箆削り。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	体部破片
6	須恵器 羽釜	貯蔵穴内 −16.5cm	口径 − 底径 − 器高 −	①還元焔②鈍い橙 ③粗細砂・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口縁部破片
7	須恵器 羽釜(甑?)	竈前 床下 −2.4cm	口径 − 底径 − 器高 −	①還元焔 ②黄灰 ③粗細砂を含む。	外面　口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口縁部破片

Ⅰ-B区16号住居

位　置　J-90・91

写　真　PL46

形　状　現代の攪乱により東・西辺が壊され、全体の形状は不明である。現存する規模は、長軸2.8mである。

面　積・方　位　計測不可

重　複　現代の溝に掘り込まれている。

埋没土　ローム小ブロックを含む黒褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認面から5cm掘り込んで構築面とする。構築面は土坑状に掘り窪めていた。この面に厚さ約2cm前後の貼床を施し床面とする。床面の深さは3cmである。床面は平坦で、中央部分が特に硬く締まっていた。

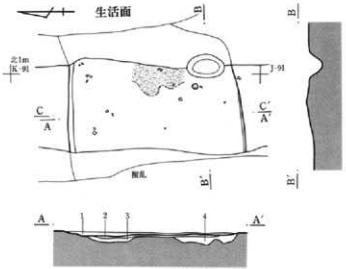
竈　竈は検出できなかったが、灰層の分布から東壁中央付近に設置されていたと考えられる。

周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　南東隅に楕円形の貯蔵穴を検出した。残存した範囲での規模は長径60cm、短径40cm、深さ30cmである。ローム小ブロック・褐灰色土を含む黒褐色土で埋まっていた。

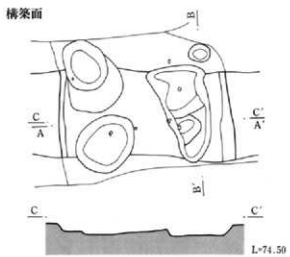
遺　物　出土遺物は66点であるが、50点以上が古墳時代の遺物で、本住居に伴うと考えられる遺物は数点である。そのうち1点を図化した。土師器甕(1)は、崩れた「コ」の字状口縁の特徴をもち、器壁も厚い。

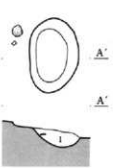
所　見　出土遺物から平安時代(10世紀前半)の住居と考えられる。



住居 A-A'
1. 黒褐色土 ローム小ブロックを含む。
一部中央貼床状に締まる。
2. 暗褐色土 くすんだAs-Cを含む黒色土。焼土粒・炭化物粒を含む。上面やや締まる。(床面)
3. ロームブロック+ぶい黄褐色土。
4. 暗褐色土 炭化物・焼土粒を含む。(床下土坑)

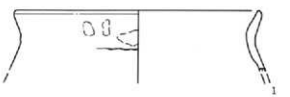
0 1:60 2m





貯蔵穴 A-A'
1. 黒褐色土 ローム小ブロック+褐灰色土+ぶい黄褐色土。

0 1:30 1m



0 1:3 10cm

第112図 I-B区16号住居と出土遺物

I-B区16号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①成成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 甕	中央 −3.6cm 覆土	口径 − 底径 − 器高 −	①酸化焔②橙 ③粗砂・白色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。指頭による調整。 内面 口縁部横ナデ。	口縁部破片

Ⅰ-B区17号住居

位　置　J・K-90

写　真　PL46

形　状　西辺が削られているため全体の形状ははっきりしないが、長軸を東西にする超小形長方形を呈すると考えられる。周壁はほぼ直線的に掘られている。四隅は丸い。規模は、長軸3.2m、短軸2.5mである。

面　積　7.37m²

方　位　N－91°－E

重　複　18号住居を掘り込んでいる。

埋没土　As-C・焼土・灰を含む黒褐色土で埋まっていた。

床　面　掘り込みは浅く、遺構確認面から9cm掘り込んでそのまま床面とする。床面は平坦で、硬く締まっていた。

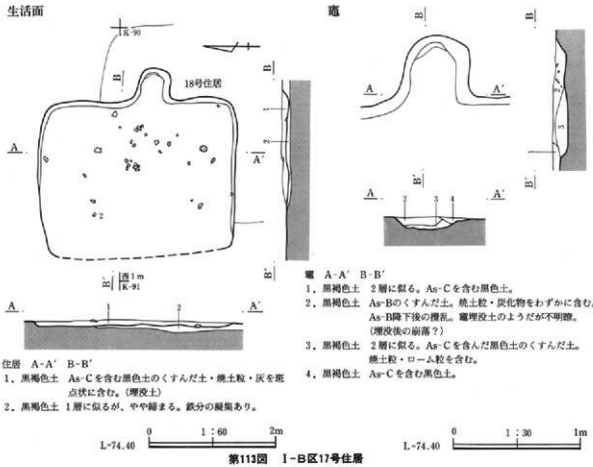
竈　東壁中央に設置されていた。住居の壁より内側にほとんど袖が張り出さない形態の竈で、焚口幅は45cmである。煙道部は壁から外へ49cm突出していた。燃焼部はやや起伏があり、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。

周　溝　検出されなかった。

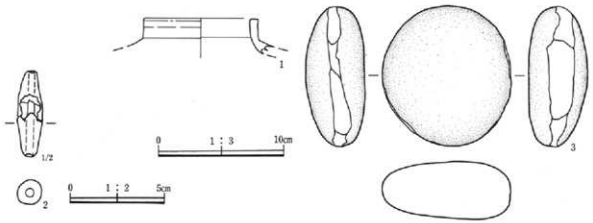
貯蔵穴　検出されなかった。

遺　物　出土遺物は145点である。いずれも小破片で、そのうち図化し得たのは3点であった。分布は中央部に疎らに散在している。石製品(3)は扁平な礫の周囲が摩滅している。摩滅部分の観察から金属器によるものと考えたい。

所　見　出土遺物が少なく年代は判断し得ないが、形態や18号住居より新しいことから平安時代(10世紀前半以降)の住居と考えたい。



第113図　Ⅰ-B区17号住居



第114図 I-B区17号住居出土遺物

I-B区17号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 有蓋短頸壺	埋没土	口径 － 底径 － 器高 －	①還元焔・硬質②灰 ③粗細砂・白色鉱物粒を含む。	外面 口～体部回転ナデ。 内面 口～体部回転ナデ。	口縁部破片
2	土製品 土錘	中央 床上 +2.5cm	長さ 4.6 最大径1.4 孔径 0.4	①酸化焔②褐灰 ③細砂を含む。	外面指頭による整形。孔は直線的。小口は直線的に切れている。	体部中央欠損

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	寸法 (cm、g)	石材	特徴
3	石製品 不明石製品	南東隅床下 -0.5cm 完形	長 11.5 幅 10.2 厚 4.8 重 790	石英閃緑岩	円盤状の円礫。側面のほぼ全周に、工具によると思われるはつり痕がめぐる。

I-B区18号住居

位　置　J-89・90　K-90

写　真　PL47

形　状　短軸を東西にする小形正方形を呈する。周壁はほぼ直線的に掘られている。南西隅は角張っているが、他の三隅は丸い。規模は長軸3.4m、短軸3.2mである。

面　積　9.53m²　　**方　位**　N－92°－E

重　複　17号住居に掘り込まれている。

埋没土　As-C・焼土・灰を含む黒褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認面から4cm掘り込んでそのまま床面とする。床面は平坦である。

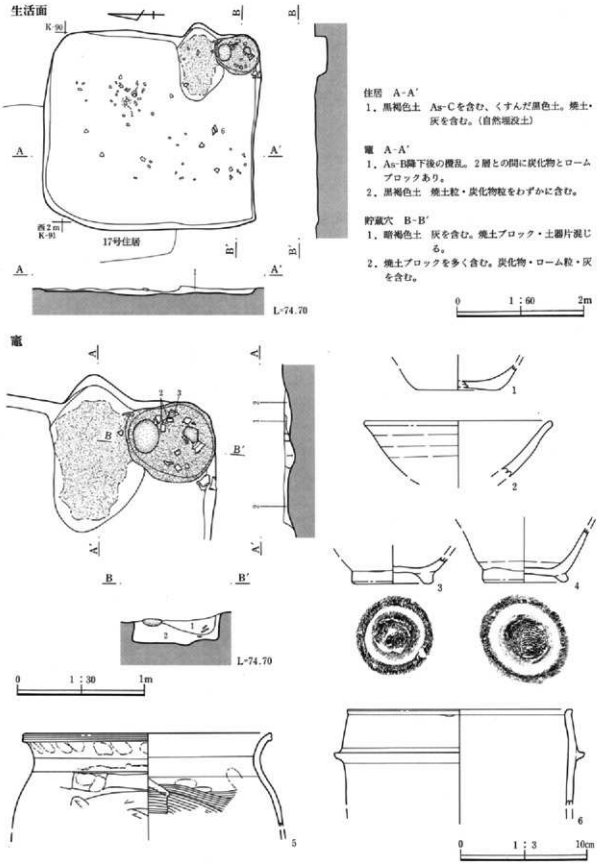
竈　東壁中央やや南よりに設置されていた。住居の壁より内側にほとんど袖が張り出さない形態の竈で、焚口幅は50cmである。煙道部は壁から外へ26cm突出していた。燃焼部は起伏があり、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。灰層が堆積していた。

周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　南東隅に貯蔵穴と考えられる土坑を検出した。竈と非常に接近しており位置がやや不自然であるが、埋没土に違いが見られず、重複も確認できなかった。また貯蔵穴の立ち上がりが住居と一体化していたため、ここでは貯蔵穴として取り扱う。焼土・炭化物・灰・ロームで埋まっており、内部から礫・土器が出土した。

遺　物　出土遺物は100点余りである。貯蔵穴内・中央部付近にまとまって分布している。(2)は口縁部の形態から甕の可能性がある。

所　見　出土遺物から平安時代(10世紀前半)の住居と考えられる。



第115図　Ⅰ-B区18号住居と出土遺物

I－B区18号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 坏	北東隅 床上 ＋4cm	口径 － 底径 － 器高 －	①還元焔 ②灰 ③粗細砂を含む。	外面 体部回転ナデ。底部調整不明。 内面 体から底部回転ナデ。	底部破片
2	須恵器 (高台付)椀	貯蔵穴内 床下 －15cm	口径 － 底径 － 器高 －	①還元焔②灰褐 ③粗細砂・赤色鉱物粒・角閃石・雲母を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～体部破片
3	須恵器 高台付椀	貯蔵穴内 床下 －10.7cm	口径 － 底径 6.0 器高 －	①還元焔 ②灰褐 ③赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面 体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	底部破片
4	須恵器 高台付椀	北東隅 床上 ＋5cm	口径 － 底径 6.2 器高 －	①還元焔②灰白 ③粗細砂・赤色鉱物粒・雲母を含む。	外面 口縁部欠損。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面 体～底部回転ナデ。	体～底部破片
5	土師器 甕	南東隅 床上 ＋37.7cm	口径(19.4) 底径 － 器高 －	①酸化焔 ②鈍い赤褐 ③粗細砂・角閃石・赤色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。頸部輪積み痕・指頭痕有り。体部上位横方向箆削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向箆ナデ。	口縁部破片
6	須恵器 甕?	南隅 床上 ＋3cm	口径 － 底径 － 器高 －	①還元焔 ②灰白 ③粗細砂・赤色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。蹄横ナデ。体部上位回転ナデ。全体に薄手。 内面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口縁部破片

I－B区19号住居

位　置　M-89　　**写　真**　PL48

形　状　北半分が道路下のため調査できず、その後に行われた道路下調査でも39号住居との重複のため範囲が確定できなかった。残存する範囲から長軸を東西にする小形長方形を呈すると考えられ、その規模は東西3.1m、南北1.4mである。

面　積　計測不可　　**方　位**　N－94°－E

重　複　39号住居に掘り込まれている。

埋没土　As-C・土器片・鉄分の凝集層を含む黒褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認面から10cm掘り込んで構築面とする。この面に約5～6cmの貼床を施し床面とする。床面の深さは5cm程である。

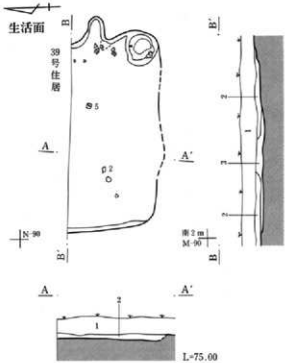
竈　東壁中央に設置されていたと考えられる。住居の壁より内側に袖がやや張り出す形態の竈で、左袖には10cmの基部が残っていた。焚口幅は40cmである。煙道部は壁から外へ37cm突出していた。燃焼部にはやや起伏があり、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。

周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　南東隅に直径52cm、深さ18cmで円形の貯蔵穴を検出した。ロームを含む暗褐色土、炭化物を含む黒褐色土によって埋まっていた。

遺　物　出土遺物は34点である。遺物は竈前・貯蔵穴内・中央部にそれぞれ疎らに分布している。そのうち6点を図化した。灰釉陶器椀(4)は三日月高台の面影はとどめるが、釉は浸け掛けで口縁部の返りもやや小さい。貯蔵穴からの出土である。

所　見　出土遺物から平安時代(10世紀中葉)の住居と考えられる。

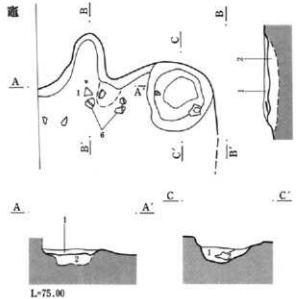


住居　A-A'　B-B'

1．現代の耕作土

2．As-A・As-Bを含む。鉄分の凝集あり。

3．黒褐色土　As-Cを含む黒色土。土器片・ローム粒を含む。



竈　A-A'　B-B'

1．にぶい黄褐色土　ローム粒、焼土ブロックを含む。上層から著しく攪乱されている。

2．黒褐色土　焼土を含む。

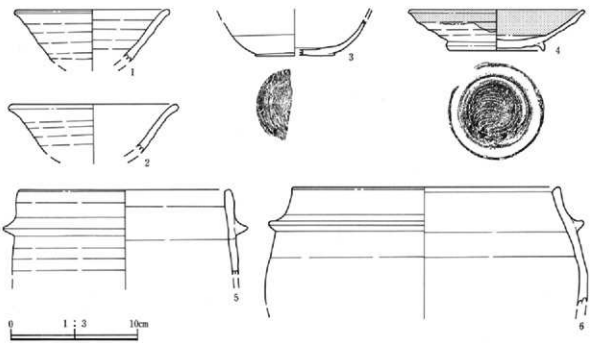
貯蔵穴　C-C'

1．暗褐色土　ロームブロックをわずかに含む。

2．黒褐色土　炭化物を含む。

0　1：60　2m

0　1：30　1m



第116図　Ⅰ-B区19号住居と出土遺物

Ⅰ-B区19号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 (高台付)椀	竈内 床面直上	口径 － 底径 － 器高 －	①還元焔②純い黄橙 ③粗細砂・赤色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口縁部破片
2	須恵器 高台付椀	中央 床上 ＋7.5cm	口径 － 底径 － 器高 －	①還元焔 ②淡黄 ③粗細砂・赤色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口縁部破片
3	須恵器 坏	埋設土 掘り方	口径 － 底径 － 器高 －	①還元焔 ②純い黄橙 ③粗細砂・白色鉱物粒を含む。	外面 体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面 体～底部回転ナデ。	底部破片
4	灰釉陶器 高台付椀	中央 床上 ＋1cm	口径(13.6) 底径 7.5 器高 3.3	①還元焔 ②灰白 ③白色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。釉浸け掛け？ 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部2／3 残存
5	須恵器 甕？	中央 床上 ＋1cm	口径 － 底径 － 器高 －	①還元焔②灰 ③粗細砂・角閃石・赤色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口縁部破片
6	須恵器 羽釜	竈内 ＋0.5cm	口径(16.6) 底径 － 器高 －	①還元焔②灰白 ③粗細砂・赤・白色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口縁部破片

Ⅱ-B区20号住居

位　置　J・K-85

写　真　PL48

形　状　他住居との重複のため、全体の形状ははっきりしないが、長軸を東西にする小形長方形を呈すると考えられる。周壁はほぼ直線的に掘られている。残存した範囲での規模は長軸2.1m、短軸1.8m以上である。

面　積　計測不可

方　位　N－91°－E

重　複　26・29・31号住居に掘り込まれている。

埋設土　ローム・焼土・炭化物・白色軽石を含む暗黄褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認面から18cm掘り込んで構築面とする。中央部がやや低く、やや南側に床下土坑を1基検出した。この床下土坑を部分的に埋めそのまま床面とする。床面は平坦で硬く締まっていた。

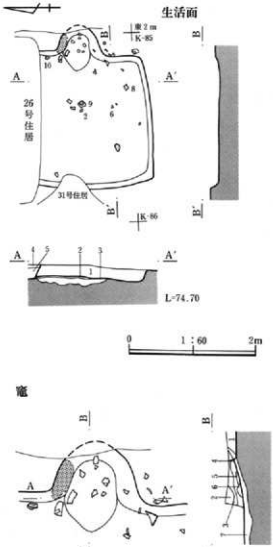
竈　東壁中央に設置されていた。住居の壁より内側にほとんど袖が張り出さない形態の竈で、焚口幅は41cmである。煙道部は29号住居に掘り込まれており、残存する範囲では壁から外へ45cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。

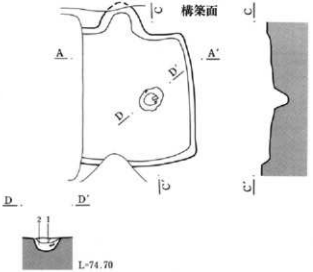
周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　検出されなかった。

遺　物　出土遺物は180点である。そのうち図化したのは10点である。土師器甕(4)はやや崩れた「コ」の字状口縁である。土師器坏(3)は湾曲して立ち上がる体部に、内外面に縦方向のヘラミガキが施されている。須恵器高台付椀(6～10)はいずれも焼成は酸化焔気味である。粗雑な高台部の成形に省略化が見て取れる。

所　見　出土遺物から平安時代(9世紀後半)の住居と考えられる。





住居　A-A'

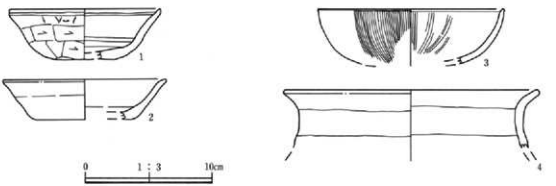
1．暗黄褐色土　ローム粒(φ5mm)・白色軽石を少量含む。焼土・炭化物を含む。色調やや暗い。(26住埋設土)
2．暗黒褐色土　上部に炭化物・灰層あり。締まり非常に良い。(床の硬化面)
3．暗黄褐色土　1層に似るがロームブロック(φ10～50mm)が多い。焼土(φ10mm)を含む。
4・5　26号住居埋設土。

竈　A-A'　B-B'

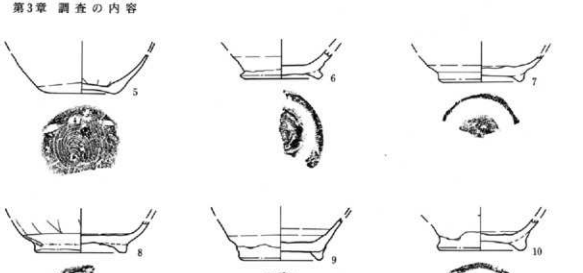
1．暗褐色土　29号住居埋設土。
2．褐色土　白いパミスを少量含む。焼土・炭化物を少量含む。
3．赤褐色土　焼土をブロック状に多く含む。灰を多く含む。(燃焼部)
4．暗褐色土　焼土・炭化物を少量含む。
5．灰色土　灰が主体。焼土を少量含む。(使用面)
6．褐色土　3に似るが、焼土がやや少ない。
7．黒褐色土　白色パミス(φ1～5mm)を含む。(堀方)

床下土坑　D-D'

1．褐色土＋焼土　白色軽石粒を含む。焼土が東側に集中する。締まりあり。
2．黒褐色土　ローム粒・ロームブロックを多く含む。白色軽石と焼土を極少量含む。2層がブロック状に堆積。1層よりも締まりない。



第117図　II-B区20号住居と出土遺物(1)



第118図 II-B区20号住居出土遺物(2)

II-B区20号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	竈前 床上 +6.9cm	口径 12.0 底径 — 器高 4.0	①酸化焔②明褐③粗 細砂・白色鉱物粒・ 角閃石・雲母を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部上位上半無調整。下半横 方向篦削り後指ナデ・指押さえ。下位横方向篦削り。 底部調整不明。内面 口～底部横ナデ。	口～底部破片 須恵器模倣坏 か。
2	須恵器 坏	中央 床上 +5.5cm	口径 — 底径 8.0 器高 3.2	①酸化焔気味②鈍い 橙③粗細砂・赤色鉱 物粒・雲母を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右？回転糸 切り。無調整。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部破片
3	土師器 坏	竈内 埋没土	口径 — 底径 — 器高 —	①酸化焔②鈍い褐 ③白色鉱物粒・角閃 石を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部丁寧なナデ後、磨擦き。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ後、磨擦 き。	口～体部破片
4	土師器 甕	竈内 +4.8cm	口径 — 底径 — 器高 —	①酸化焔②明赤褐 ③細砂・角閃石・白 色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。頸部指頭による調整。 内面 口縁部横ナデ。	口縁部破片
5	土師器 坏	遺構外 床上 +4.5cm	口径 — 底径 6.0 器高 —	①酸化焔②鈍い橙③ 粗細砂・赤色鉱物粒・ 角閃石・雲母を含む。	外面 口縁部欠損。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。 無調整。置台で板あり。 内面 体～底部回転ナデ。	底部破片
6	須恵器 高台付椀	中央 床上 +6.2cm	口径 — 底径 — 器高 —	①酸化焔気味 ②灰褐③粗細砂・雲 母を含む。	外面 体部回転ナデ。底部回転糸切り(回転方向不明)。 無調整。付高台。 内面 体～底部回転ナデ。	底部破片
7	須恵器 高台付椀	遺構外竈付 近・床上 +2.3cm	口径 — 底径 6.2 器高 —	①酸化焔②鈍い橙 ③粗細砂・赤・白色 鉱物粒を含む。	外面 体部回転ナデ。底部回転糸切り(回転方向不明)。 無調整。付高台。 内面 体～底部回転ナデ。	底部破片
8	須恵器 高台付椀	南東隅 床上 +10.2cm	口径 — 底径 7.0 器高 —	①酸化焔気味②明赤 褐③粗細砂・赤色鉱 物粒を含む。	外面 体部回転ナデ。底部回転糸切り(回転方向不明)。 無調整。付高台。 内面 体～底部回転ナデ。	体～底部破片
9	須恵器 高台付椀	中央 床上 +15.7cm	口径 — 底径 6.1 器高 —	①還元焔②灰白 ③粗細砂・赤色鉱物 粒・角閃石を含む。	外面 体部回転ナデ。底部右？回転糸切り。無調整。 付高台。 内面 体～底部回転ナデ。	体～底部破片
10	須恵器 高台付椀	竈前 床上 +13.3cm	口径 — 底径 6.6 器高 —	①還元焔②鈍い黄橙 ③粗細砂・白・赤色 鉱物粒を含む。	外面 体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付 高台。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	底部破片

II-B区21号住居

位　置　M・N-85・86　　**写　真**　PL49・50

形　状　長軸を東西にする超小形正方形を呈する。周壁はほぼ直線的に掘られている。四隅は丸く、北西隅がやや突出している。規模は長軸3.1m、短軸2.8mである。

面　積　7.52m²　　**方　位**　N－90°－E

重　複　147号土坑を掘り込んでいる。

埋没土　焼土・炭化物・ロームブロックを含む暗黄褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認面から一番深いところで42cm掘り込んで構築面とする。構築面は凸凹していた。この面に19cmほどの貼床を施し床面とする。床面はほぼ平坦であるが中央部がやや窪んでいた。

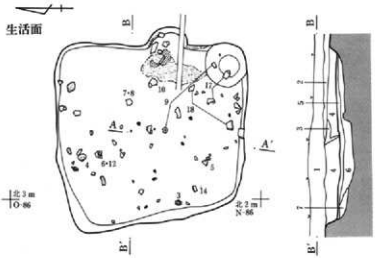
竈　東壁中央やや南よりに設置されていた。住居の壁より内側にほとんど袖が張り出さない形態の竈で、焚口幅は60cmである。煙道部は壁から外へ28cm突出していた。燃焼部の壁が一部焼けて焼土化しており、底面から竈前にかけて灰層が拡がっていた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。

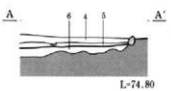
周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　南東隅に直径75cm、深さ20cmで円形の貯蔵穴を検出した。ロームブロック・焼土・灰・炭化物を含む黒色土で埋まっていた。

遺　物　出土遺物は141点である。遺物は竈から床面全体に分布している。そのうち18点を図化した。灰釉陶器（7・8・9）はいずれも釉は浸け掛けで、やや崩れた三日月高台の特徴をもつ。土師器甕(10)は「コ」の字状口縁の面影はなく、器壁も厚い。土師器坏高台付椀(4)はやや酸化焔気味の焼成と高い高台をもつ。須恵器羽釜(12・13・14・15)は口縁部が内傾し、しっかりとした面をもつ。破片資料であるが口縁の形態からもいくつかのバラエティーある。(11)は口縁部が直立することから甑と考えられる。

所　見　出土遺物から平安時代(10世紀前半)と考えられる。

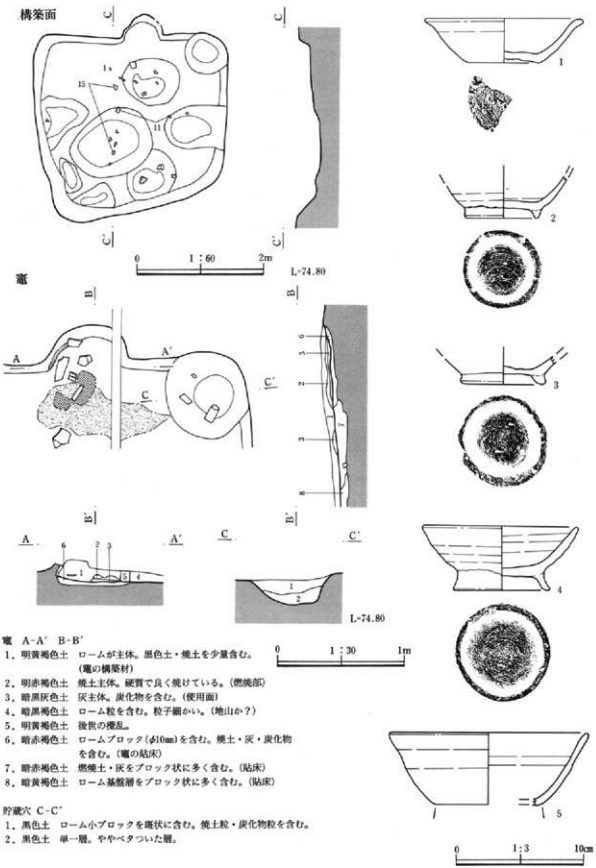




住居　A-A'　B-B'
1．現代の耕作土
2．As-B
3．攪乱
4．暗黄褐色土　粘土・炭化物を少量含む。ローム粒をブロック状に少量含む。
5．黒色土　As-Cを含む黒色土。ローム粒、焼土粒をわずかに含む。
6．ロームブロック＋焼土粒小ブロック＋炭化物。
7．にぶい黄褐色土　As-Cを含む黒色土＋ロームブロック。

0　1：60　2m

第119図　II-B区21号住居



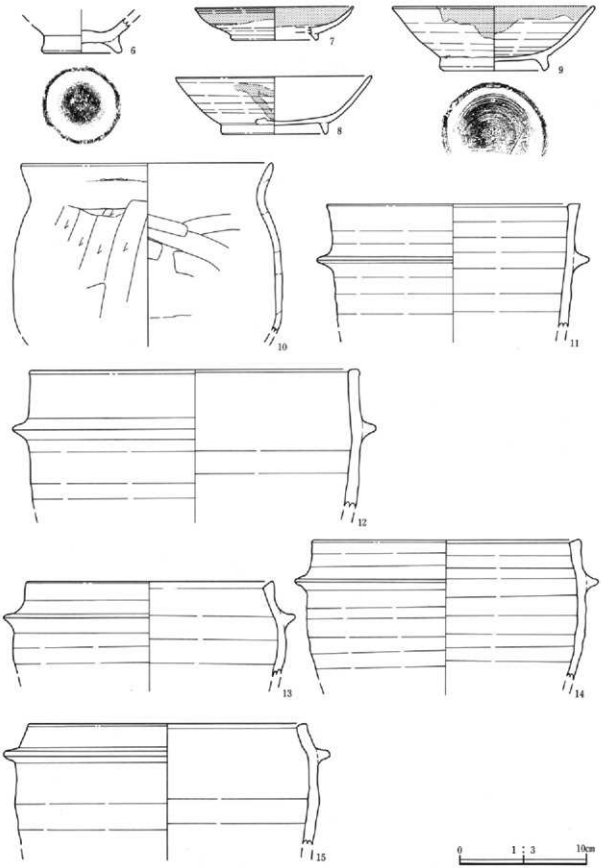
竈 A-A' B-B'

1. 明黄褐色土 ロームが主体。黒色土・焼土を少量含む。(竈の構築材)
2. 明赤褐色土 焼土主体。硬質で良く焼けている。(燃焼部)
3. 暗黒灰色土 灰主体。炭化物を含む。(使用面)
4. 暗黒褐色土 ローム粒を含む。粒子細かい。(地山か?)
5. 明黄褐色土 後世の攪乱。
6. 暗赤褐色土 ロームブロック(φ10mm)を含む。焼土・灰・炭化物を含む。(竈の貼床)
7. 暗赤褐色土 燃焼土・灰をブロック状に多く含む。(貼床)
8. 暗黄褐色土 ローム基盤層をブロック状に多く含む。(貼床)

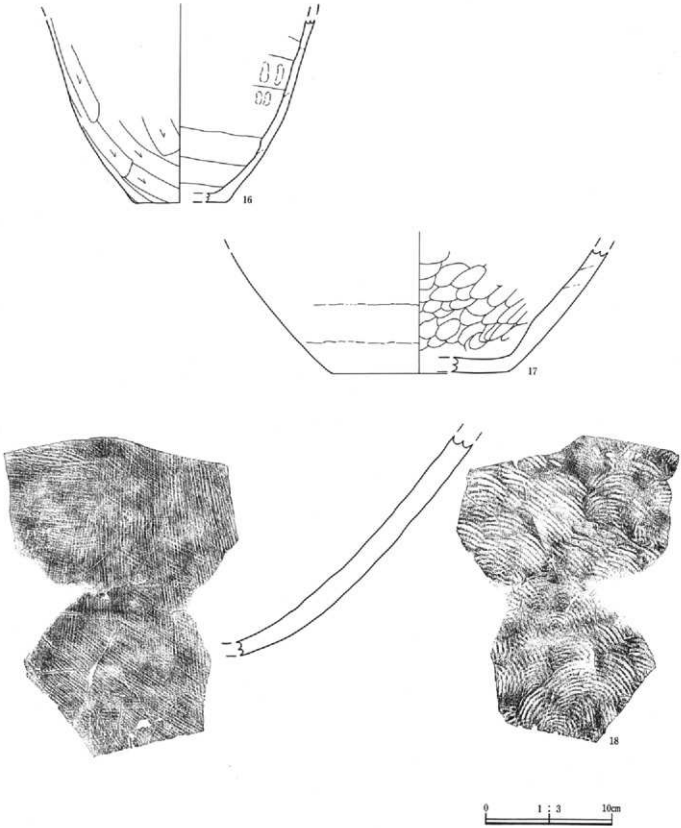
貯蔵穴 C-C'

1. 黒色土 ローム小ブロックを斑状に含む。焼土粒・炭化物粒を含む。
2. 黒色土 単一層。ややベタついた層。

第120図 II-B区21号住居と出土遺物(1)



第121図　II-B区21号住居出土遺物(2)



第122図 II-B区21号住居出土遺物(3)

II-B区21号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 (高台付) 椀	北東隅 床面直上	口径(12.0) 底径(5.5) 器高　－	①還元焔②灰白 ③粗細砂・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。高台欠損か？ 内面　口～底部回転ナデ。	口～底部1/4残存
2	須恵器 高台付椀	中央 床上 +0.7cm	口径　－ 底径　5.5 器高　－	①還元焔②灰黄 ③粗細砂・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部欠損。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　体～底部回転ナデ。	体～底部破片
3	須恵器 高台付椀	西側 床上 +14cm	口径　－ 底径　6.2 器高　－	①酸化焔気味②灰白 ③粗細砂・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部欠損。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　体～底部回転ナデ。	底部破片
4	須恵器 高台付椀	北西隅 床上 +5cm	口径 12.3 底径　5.1 器高　7.5	①還元焔②灰黄褐 ③粗細砂・角閃石・白色鉱物粒が目立つ。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部左回転糸切り。無調整。付高台。高台ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	ほぼ完形
5	須恵器 (高台付)椀	南西隅 床上 +6.8cm	口径　－ 底径　－ 器高　－	①還元焔②褐灰 ③粗細砂・白・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口～体部破片
6	須恵器 高台付椀	北西隅 床上 +4.5cm	口径　－ 底径　5.9 器高　－	①還元焔②褐灰 ③粗細砂・赤色鉱物粒・雲母を含む。	外面　体部回転ナデ。底部回転糸切り(回転方向不明)。無調整。付高台。 内面　体～底部回転ナデ。	底部破片
7	灰釉陶器 高台付椀	中央 床上 +1cm	口径 12.4 底径　6.6 器高　2.6	①還元焔②灰白 ③白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部調整不明。付高台。施釉付掛け。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1/3残存
8	灰釉陶器 高台付椀	中央 床上 +1cm	口径(15.6) 底径　8.2 器高　4.6	①還元焔②灰白 ③白色鉱物粒少量含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部回転篦削り。付高台。施釉付掛け。内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。軸内面全体に付着。	口～底部1/3残存
9	灰釉陶器 高台付椀	堀役土 中央 床上	口径 16.0 底径　8.0 器高　5.1	①還元焔 ②灰 ③白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部回転篦削り。付高台。施釉付掛け。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1/2残存
10	土師器 甕	竈前 床上 +7.9cm	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②橙 ③粗細砂・角閃石・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。頸部輪積み痕あり。指頭による調整。体部上位横方向篦削り。下位斜縦方向篦削り。 内面　口縁部横ナデ。体部横方向篦ナデ。	口～体部破片
11	須恵器 甑か？	北東隅 床上 +14cm	口径　－ 底径　－ 器高　－	①還元焔 ②灰白 ③粗細砂を含む。	外面　口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口～体部破片
12	須恵器 羽釜or甑	北西隅 +4.5cm	口径　－ 底径　－ 器高　－	①還元焔②灰白 ③粗細砂・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。 内面　口～体部回転ナデ。	口～体部破片
13	須恵器 羽釜	中央 床上 +4cm	口径(19.4) 底径　－ 器高　－	①還元焔②橙～純い橙③粗細砂・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口～体部破片
14	須恵器 羽釜	南西隅 床下 －1cm	口径　－ 底径　－ 器高　－	①還元焔 ②純い黄橙③粗細砂・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口～体部破片
15	須恵器 羽釜	竈前 床下掘方 －9.2cm	口径　－ 底径　－ 器高　－	①還元焔②純い橙 ③細礫・粗細砂を含む。	外面　口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位弱い回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口縁部破片
16	須恵器 羽釜	貯蔵穴内 +2.4cm	口径　－ 底径　7.3 器高　－	①還元焔②灰黄 ③粗細砂・赤色鉱物粒を含む。	外面　体部下位縦方向篦削り。底部篦削り。 内面　体部回転ナデ・指頭による調整。輪積み痕明瞭に残る。	体～底部1/4残存
17	須恵器 甕	貯蔵穴内 +4.9cm	口径　－ 底径(14.0) 器高　－	①還元焔②純い黄褐～褐灰。 ③粗細砂・白色鉱物粒を含む。	外面　体部下位平行タタキ後ナデ。底部篦ナデ。輪積み痕有り。 内面　体部下位粘土紐積み上げ後横ナデ。指頭による調整。底部横ナデ。	底部破片
18	須恵器 (大型)甕	東南隅 床上 +6cm	口径　－ 底径　－ 器高　－	①還元焔②灰褐③細砂・赤・黒色鉱物粒を含む。	外面　体部タタキ。 内面　当て具痕。(青海波)	体部下位破片

II-B区22号住居

位　置　K・L-86　　写　真　PL51・52

形　状　長軸を東西にする超小形長方形を呈する。周壁はほぼ直線的に掘られている。四隅は丸い。規模は長軸2.7m、短軸1.9mである。

面　積　4.88㎡　　方　位　N－93°－E

重　複　24号住居を掘り込んでいる。

埋没土　ほぼ床面まで削平されており、埋没土については不明である。

床　面　遺構確認面から最深部で約40cm掘り込んで構築面とする。構築面は凸凹しており部分的に深く掘り込まれている。床下土坑が5基検出された。その面に貼床を施し床面とする。床面の深さは5cmである。床面は平坦で硬く締まっていた。

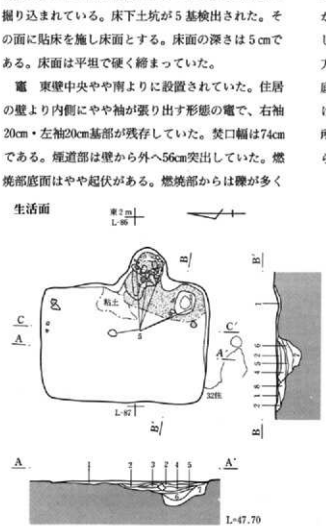
竈　東壁中央やや南よりに設置されていた。住居の壁より内側にやや袖が張り出す形態の竈で、右袖20cm・左袖20cm基部が残存していた。焚口幅は74cmである。煙道部は壁から外へ56cm突出していた。燃焼部底面はやや起伏がある。燃焼部からは礫が多く出土し、竈の構築材であったと考えられる。燃焼部奥と竈前に焼土が分布していた。煙道部にかけては緩やかに傾斜していた。燃焼部から貯蔵穴にかけて灰層が拡がっていた。

周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　南東隅に直径38cm、深さ9cmで不整形の貯蔵穴を検出した。上層は灰・焼土・炭化物で、下層はにぶい黄褐色土で埋まっていた。

遺　物　出土遺物は80点余りである。分布は竈に集中している。そのうち図化したのは5点である。土師器無頸壺(1)は内外面とも黒色処理後、細かい磨きが施されている。須恵器羽釜(5)は口縁部が内傾し、しっかりとした面をもつ。体部下位は回転ナデ後縦方向のヘラケズリが施されている。(4)は灰釉陶器の底部破片である。高台は崩れた三日月形で、釉は浸け掛けである。

所　見　出土遺物から平安時代(10世紀後半)と考えられる。



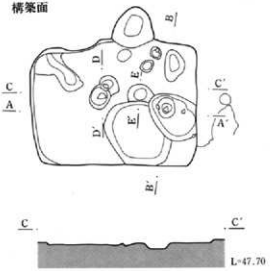
住居　A-A'　B-B'

1. 暗褐色土　ロームブロックをやや多く含み、締まり良い。(床面)
2. 暗褐色土　1に似るが色調が黒い。ローム小ブロックを若干含む。
3. ロームブロック主体。暗褐色土を含む。
4. 黒褐色土　ロームブロックを少量含む。炭化物をやや多く含む。
5. ロームブロック主体。締まり非常に良い。
6. 黒褐色土　ロームブロック・炭化物をやや多く含む。締まり弱い。
7. ロームブロックと黒褐色土をほぼ同量含む。締まりは普通。
8. 黒褐色土　ロームブロックを多く含む。7に似るが、ややロームが少ない。

0　1:60　2m

第123図　II-B区22号住居生活面

構築面

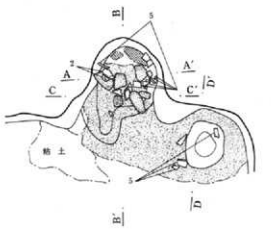


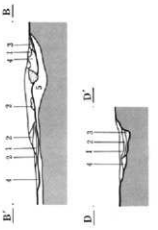
床下土坑　D-D'
1．黒褐色土　焼土粒を少量含む。
2．焼土層　灰を多く含む。
3．焼土粒主体。黒褐色土を若干含む。
4．黒褐色土　ロームブロックを少量含む。（古い土坑か？）
5．黒褐色土　ロームブロックをやや多く含む。（古い土坑か？）

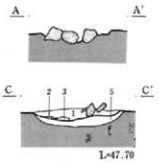
床下土坑　E-E'
1．暗褐色土　焼土粒を多く含む。
2．焼土層　灰、焼土粒からなる。暗褐色土を若干含む。
3．暗褐色土　焼土粒を多く含む。
4．暗褐色土　焼土粒をほとんど含まない。

0　1:60　2m

竈





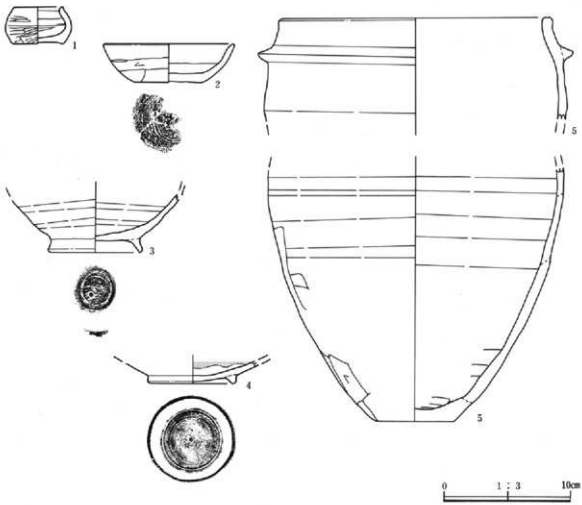


竈　B-B'　C-C'
1．ロームブロック＋焼土粒＋灰。
2．焼土　土層が反転して堆積。（天井の崩落土）
3．灰層　薄く堆積。焼土粒を含む。
4．焼土ブロック主体。青灰色灰を斑状に含む。
5．黒褐色土　ロームブロックを若干含む。焼土粒を含む。
　　上層にAs-Bを含む黒色土あり。

貯蔵穴　D-D'
1．焼土小ブロック＋炭化物＋灰。
2．青灰色灰
3．焼土
4．にぶい黄褐色土　ロームブロック＋黒色土＋灰。

0　1:30　1m

第124図　II-B区22号住居構築面と竈



第125図 II-B区22号住居出土遺物

II-B区22号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 小型無頸壺	南西隅 床上 +2.5cm	口径 3.8 底径 4.0 器高 2.9	①酸化焔②黒 ③細砂・角閃石・白色鉱物粒を含む。	外面 口～底部横方向細かな筆磨き。 内面 口～体部横方向細かな筆磨き。底部細かな筆磨き。	黒色処理 口～底部2/3 残存
2	須恵器 坏	電 床上 +19.2cm	口径 ― 底径 (7.0) 器高 3.0	①酸化焔気味②明赤褐③粗細砂・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1/3 残存
3	須恵器 高台付椀	埋没土	口径 ― 底径 7.0 器高 ―	①還元焔②純い褐 ③粗細砂・白・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面 口縁部欠損。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面 体～底部回転ナデ。	体～底部破片
4	灰釉陶器 皿?	埋没土	口径 ― 底径 6.2 器高 ―	①還元焔②灰白 ③白色鉱物粒少量含む。	外面 体部回転ナデ。底部回転箆削り。付高台。 内面 体～底部回転ナデ。	底部破片
5	須恵器 羽釜	散乱 +1.4 ～17.1cm	口径 ― 底径 6.0 器高 ―	①還元焔②灰褐 ③粗細砂・角閃石・赤色鉱物粒・チャートを含む。	外面 口縁部横ナデ。鍔横ナデ。鍔右下がりに歪んで付く。体部上位回転ナデ。下位回転ナデ後縦方向筆削り。底部箆削り。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口縁部破片 体～底部破片

II-B区23号住居

位　置　L-87　　**写　真**　PL52・53

形　状　現代の排水路により壊されているが、長軸を東西にする超小形長方形を呈する。周壁は南東隅が突出しているが、他はほぼ直線的に掘られている。規模は長軸3.4m、短軸2.9mである。

面　積　8.10m²　　**方　位**　N－88°－E

重　複　34号住居を掘り込んでいる。

埋没土　As-C・焼土・炭化物・ロームを含む黒褐色土で埋まっていた。また埋没土中に焼土・炭化物が集中する層があり、検出できなかった住居の竈の可能性がある。

床　面　遺構確認面から一番深いところで18cmほど掘り込んで構築面とする。構築面からも土器片が出土している。この面に約5cmの貼床を施し床面とする。床面の深さは13cmであり、平坦で硬く締まっていた。

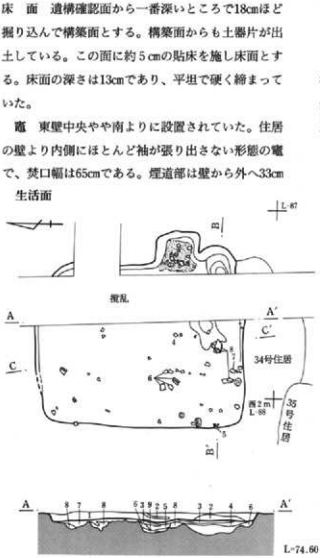
竈　東壁中央やや南よりに設置されていた。住居の壁より内側にほとんど袖が張り出さない形態の竈で、焚口幅は65cmである。煙道部は壁から外へ33cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。底面には灰層が堆積していた。

周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　南東隅で貯蔵穴を検出した。残存する範囲での規模は直径36cm、深さ20cmで円形である。ローム・炭化物・焼土を含む明黄褐色土で埋まっていた。

遺　物　出土遺物は、140点余りである。分布は竈と住居南側に集中していた。そのうち8点を図化した。灰釉陶器(5)の高台は崩れた三日月形で、口縁部の返りも小さい。釉は塗り掛けである。須恵器羽釜(6)は内傾する口縁部にしっかりした面をもつ。体部上位は張るが、中位はくびれる。内外面に煤が付着していた。(1)は須恵器足高高台付椀の高台部破片である。須恵器坏(3)は底部から口縁部が大きく外反する。床面やや上位から完形で出土した。糸切り痕の様子から切り離し時のロクロ回転速度が遅いことが分かる。須恵器(2)は混入と考えられる。

所　見　出土遺物から平安時代(10世紀前半)と考えられる。



住居　A-A'

1. 黒褐色土　As-Cを含む黒色土のくすんだ土。焼土粒・炭化物粒・ローム粒をわずかに含む。
2. ローム大小ブロック＋As-Cを含む黒色土＋焼土小ブロック。炭化物粒をわずかに含む。(他の住居の竈の残骸？)
3. ロームブロック主体。焼土ブロック＋くすんだ黒褐色土ブロック。(竈の崩落土)
4. 黒褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化物粒をわずかに含む。硬く踏みしまる。(貼床)
5. 黒褐色土　くすんだAs-Cを含む黒色土＋ロームブロック含む。下層に黒色灰層あり。
6. As-Cを含む黒色土ブロック。ロームブロックを多く含む。下層に黒色灰あり。(一括埋土)
7. 黒褐色土　As-Cを含む黒色土ブロック＋ロームブロック。
8. ロームブロック主体。As-Cを含む黒色土小ブロックを含む。
9. 黒色灰

0　1:60　2m

第126図　II-B区23号住居

構築面

1号床下土坑 C-C′

1. 黒色土＋黄橙色土　黄橙色土塊(φ30mm)を50%・軽石を含む。締まりややあり
2. 黒色土＋黄橙色土　黄橙色土ブロック(φ10mm)を40%・軽石を含む。締まりややあり。
3. 黄橙色ブロック
4. 黒色土＋黄橙色土　1に似るが黄橙色土ブロック(φ30mm)を40%・軽石含む。締まりあり。

2号床下土坑 C-C′

1. 暗褐色土　軽石を含む。黄橙色土粒(φ5mm)・焼土塊(φ10mm)少量含む。締まりややあり。
2. 黒色土＋黄橙色土　黄橙色土塊(φ30mm)を30%含む。軽石あり。締まりややあり。
3. 黒色土＋黄橙色土　黄橙色土塊(φ10mm)を20%含む。軽石あり。締まりややあり。
4. 暗褐色土　黄橙色土粒(φ10mm)・焼土粒(φ5mm)を少量含む。締まりややあり。
5. 黒色土(40%)＋黄橙色土(60%)　粘性・締まりあり。
6. 黒色土＋黄橙色土　黄橙色土ブロック(φ20mm)を20%含む。締まりあり。軽石あり。

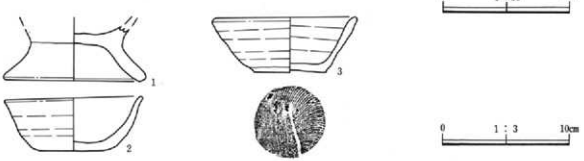
3号床下土坑 D-D′

1. 黒褐色土＋黄橙色土　ロームブロックを少量含む。
2. 黒色土＋黄橙色土　ロームブロックを50%程含む。短期間の人為的埋土。

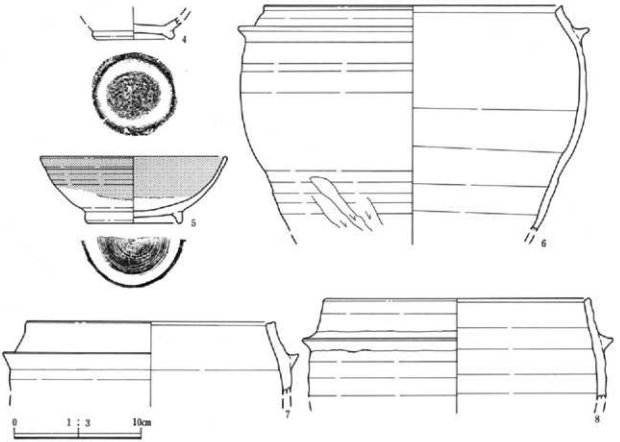
竈

竈 A-A′ B-B′

1. 暗黄褐色土　ローム粒(φ5mm)を多く含む。炭化物・焼土含む。(竈埋設土)
2. 暗黄褐色土　1に似るが、ローム塊主体。(構築材？)
3. 暗赤褐色土　焼土をブロック状に多く含む。炭化物・灰を少量含む。(竈燃焼部)
4. 暗灰青色土　灰層。(竈使用面)
5. 明赤褐色土　ブロック状の焼土主体。
6. 明黄褐色土　ローム塊主体。
7. 黒褐色土　ローム塊(φ10～50mm)を多く含む。焼土・炭化物を少量含む。(竈堀方)



第127図　II-B区23号住居と出土遺物(1)



第128図　Ⅱ-日区23号住居出土遺物(2)

Ⅱ-日区23号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①地成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 台付甕	中央 床下掘方 －1cm	口径　－ 底径 11.2 器高　－	①酸化焔②灰褐 ③粗細砂・白・赤色鉱物粒を含む。	外面　台部横ナデ。 内面　台部横ナデ。	台部のみ
2	須恵器 坏	西側 床上 +3.4cm	口径 10.7 底径 (5.0) 器高 4.2	①還元焔②灰白 ③粗細砂・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部不定方向篦ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1／2残存
3	須恵器 坏	南西隅 床上 +5.5cm	口径 10.5 底径 5.6 器高 4.4	①還元焔②鈍い橙 ③粗細砂・角閃石・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	完形
4	須恵器 高台付椀	中央 床下 －1.9cm	口径　－ 底径 5.8 器高　－	①還元焔 ②灰白 ③粗細砂を含む。	外面　体部回転ナデ。底部回転糸切り(回転方向不明)。無調整。付高台。 内面　体～底部回転ナデ。	底部破片
5	灰釉陶器 高台付椀	南西隅 床上 ＋4cm	口径(14.7) 底径 7.3 器高 5.3	①還元焔②灰白 ③白色鉱物粒を少量含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部回転篦削り。付高台。釉掛り掛けか？ 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1／4残存
6	須恵器 羽釜	西側 床上 +3.4cm	口径(23.7) 底径　－ 器高　－	①還元焔②灰 ③粗細粒・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。中位乱れている。下位縦方向篦削り。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口～体部破片 内外面保けている。
7	須恵器 羽釜	南西隅 床上 +3.6cm	口径(19.5) 底径　－ 器高　－	①還元焔②灰黄 ③粗細砂・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口縁部破片
8	須恵器 羽釜	南西隅 床面直上	口径(20.8) 底径　－ 器高　－	①還元焔②鈍い褐 ③粗細砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口～体部破片

II-B区24号住居

位　置　K-86

写　真　PL53・54

形　状　重複により北・西辺を壊されており、全体の形状は不明である。周壁はほぼ直線的に掘られていた。残存した範囲の規模は、南北長軸1.8m、東西短軸1.4mである。

面　積　計測不可

方　位　N－88°－E

重　複　22・32号住居に掘り込まれている。

埋没土　As-C・炭化物・焼土粒・ロームを含む暗褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認面から10cm掘り込んで中央に床下土坑を掘った後、それを埋めてそのまま床面とする。床面は平坦で、締まっていた。

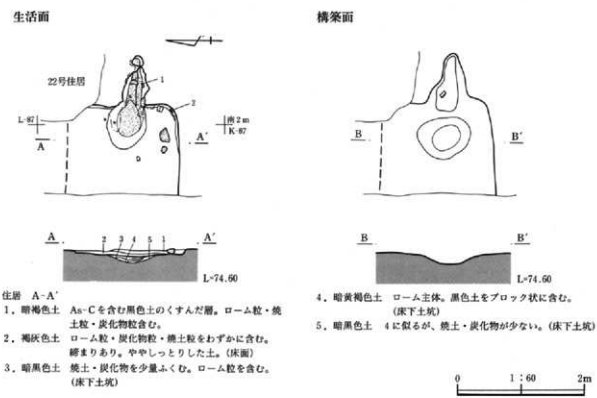
竈　東壁中央に設置されていた。竈の残存状況は良好で、煙道部の天井部が一部検出された。住居の壁より内側にほとんど袖が張り出さない形態の竈で、焚口幅は40cmである。煙道部は壁から外へ80cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。竈左袖には棒状礫が直立して出土し、竈袖心材として使用されたと考えられる。燃焼部から煙道にかけて灰層が拡がっていた。

周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　検出されなかった。

遺　物　出土遺物は30点余りである。分布は竈内に集中している。いずれも小破片で、そのうち図化し得たのは3点のみであった。須恵器高台付椀(2)は酸化焰気味の焼成で、粘土紐状の高台を粗雑に付けている。(3)は口縁部が直立気味で甕の可能性も考えられる。

所　見　出土遺物から平安時代(10世紀前半)と考えられる。



住居　A-A'

1．暗褐色土　As-Cを含む黒色土のくすんだ層。ローム粒・焼土粒・炭化物粒含む。

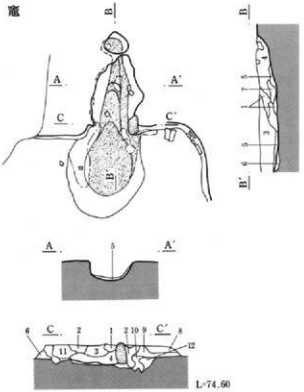
2．褐灰色土　ローム粒・炭化物粒・焼土粒をわずかに含む。締まりあり。ややしっとりした土。(床面)

3．暗黒色土　焼土・炭化物を少量ふくむ。ローム粒を含む。(床下土坑)

4．暗黄褐色土　ローム主体。黒色土をブロック状に含む。(床下土坑)

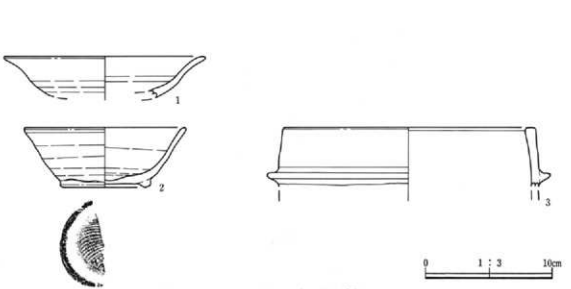
5．暗黒色土　4に似るが、焼土・炭化物が少ない。(床下土坑)

第129図　II-B区24号住居



竈　A-A′　B-B′　C-C′

1. ローム小ブロック＋黒褐色土。
2. ローム層（竈構築土の崩落）
3. 黒褐色土　焼土粒をわずかに含む。土質均質。
4. 黒褐色土　As-Cのくすんだ層。ローム小ブロックを含む。
5. 黒色灰
6. 褐灰色土　ローム小ブロックをわずかに含む。
7. 1層に似るが、ロームが少ない。（竈構築土の崩落）
8. 暗褐色土　ローム粒・焼土粒をわずかに含む。（竈の貼床）
9. ローム小ブロック・焼土粒・炭化物粒を斑状に含む。（竈の貼床）
10. ローム小ブロック＋にぶい黄褐色土。焼土粒をわずかに含む。（竈の貼床）
11. にぶい黄褐色土　ローム小ブロック＋焼土粒。（竈の貼床）
12. 暗褐色土　As-Cを含む黒色土のくすんだ層。土質均質。（竈の貼床）



第130図　II-B区24号住居竈と出土遺物

II-B区24号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 （器形・文様の特徴）	残存状態 備考
1	須恵器 坏	竈内 ＋2.5cm	口径(15.7) 底径　－ 器高　－	①酸化焔気味②橙 ③白・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口～体部破片
2	須恵器 高台付椀	南東隅 床上 ＋4.5cm	口径(12.5) 底径 (6.4) 器高　4.8	①酸化焔気味②鈍い橙③細砂・赤色鉱物粒・雲母を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1/2残存
3	須恵器 羽釜or甑	竈内 掘方 ＋4cm	口径　－ 底径　－ 器高　－	①還元焔②灰褐 ③細礫・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口縁部破片

II-B区25号住居

位　置　J・K-84・85

写　真　PL55

形　状　住居中央を東西に現代の水路により破壊されており全体の形状ははっきりしないが、長軸を南北にする小形長方形を呈すると考えられる。周壁はほぼ直線的に掘られているが、貯蔵穴付近がやや突出している。残存した範囲での規模は、長軸3.8m・短軸2.7mである。

面　積　計測不可

方　位　N－71°－E（短軸）

重　複　本遺構が29号住居を掘り込み、81・97号土坑に掘り込まれている。

埋没土　炭化物粒・焼土粒を含む黒褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認面から18cm掘り込んで構築面とする。構築面は凸凹しており、周囲が低く中央部が高い。床下土坑を2基検出した。この面に12cmの貼床を施し床面とする。床面は平坦で硬く締まっていた。

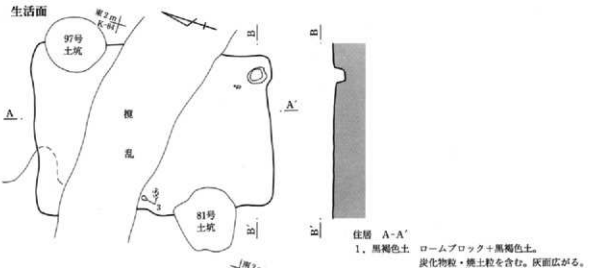
竈　残存した範囲では検出されなかった。攪乱の位置から想定すれば東壁中央付近にに設置されていたと考えたい。

周　溝　検出されなかった。

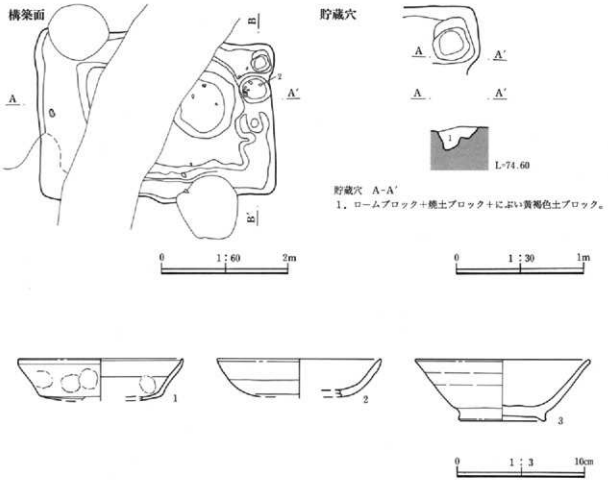
貯蔵穴　南東隅に直径24cm、深さ18cmで不整円形の貯蔵穴を検出した。ローム・焼土ブロックなどで埋まっていた。

遺　物　出土遺物は18点である。構築面・貼床からの出土が多い。そのうち3点を図化した。須恵器高台付椀(3)は床面付近からの出土である。底部から直線的に口縁部が開く。土師器坏(1)は平底から口縁部が外反する。全体として浅い。

所　見　出土遺物から平安時代（9世紀後半）の住居と考えられる。



第131図　II-B区25号住居



第132図　II-B区25号住居構築面と出土遺物

II-B区25号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	南東隅 床下掘方 −11cm	口径　− 底径　− 器高　−	①酸化焔 ②鈍い褐 ③粗砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部篦削り。 内面　口縁部横ナデ。体〜底部丁寧なナデ。	口〜体部破片
2	土師器 坏	南東隅 床下掘方 −5.5cm	口径　− 底径　− 器高　−	①酸化焔 ②鈍い橙 ③粗砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部篦削りか。 内面　口縁部横ナデ。体〜底部ナデ。	口〜体部破片
3	須恵器 高台付椀	西側 床下 −4cm	口径 13.6 底径　6.6 器高　4.9	①還元焔 ②灰白 ③細砂・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部切り離し方法不明。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体〜底部回転ナデ。	口〜底部1/2残存

II-B区26号住居

位　置　K-85　　写　真　PL55

形　状　長軸を南北にする小形長方形を呈する。周壁はほぼ直線的に掘られている。規模は長軸3.4m・短軸2.5mである。

面　積　7.10m²　　方　位　N−97°−E

重　複　20号住居を掘り込んでいる。

埋没土　白色軽石・ローム・炭化物粒・焼土粒を含む暗黄褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認面から28cm掘り込んで構築面とする。構築面は凸凹しており、床下土坑を4基検出した。この面に約13cmの貼床を施し床面とする。床面の深さは15cmである。なお中央部やや西側に焼土の集中部分を検出した。

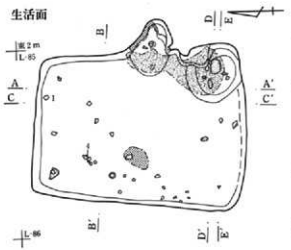
竈　東壁中央やや南寄りに設置されていた。住居の壁よりやや内側に袖が張り出す形態の竈で、焚口幅は65cmである。煙道部は壁から外へ50cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。燃焼部右側と左袖が良く焼けており焼土化していた。灰層が竈から貯蔵穴内に拡がっていた。

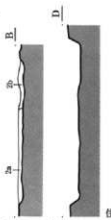
周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　南東隅に直径86cm、深さ40cmで不整形の貯蔵穴を検出した。貯蔵穴内には竈からの灰層が流れ込んでいる。内部からは礫・土器片が出土した。貯蔵穴と竈の間がテラス状に張り出しておりこれに併せて貯蔵穴もやや変形している。

遺　物　出土遺物は280点余りである。分布は貯蔵穴内と住居北西側に散在している。構築面貼床中からの出土も多い。いずれも小破片でそのうち5点を図化した。鉄製品(5)は埋没土からの出土である。須恵器(1)は坏部が浅い特徴を持つ。須恵器羽釜(3・4)は内傾する口縁部にしっかりとした面を持つ。

所　見　出土遺物から平安時代(10世紀後半)の住居と考えられる。





住居　A-A′　B-B′

1．暗黄褐色土　As-B・白色軽石・ローム粒を含む。(As-B降下後の耕作土)

2a．暗黄褐色土　1層に似ているが、色調がやや暗い。白色軽石粒・ローム粒(5mm)を少量含む。焼土・炭化物を含む。(20号住居埋没土)

2b．暗黄褐色土　2a層によく似るが、ローム粒がやや多い。(26号住居埋没土)

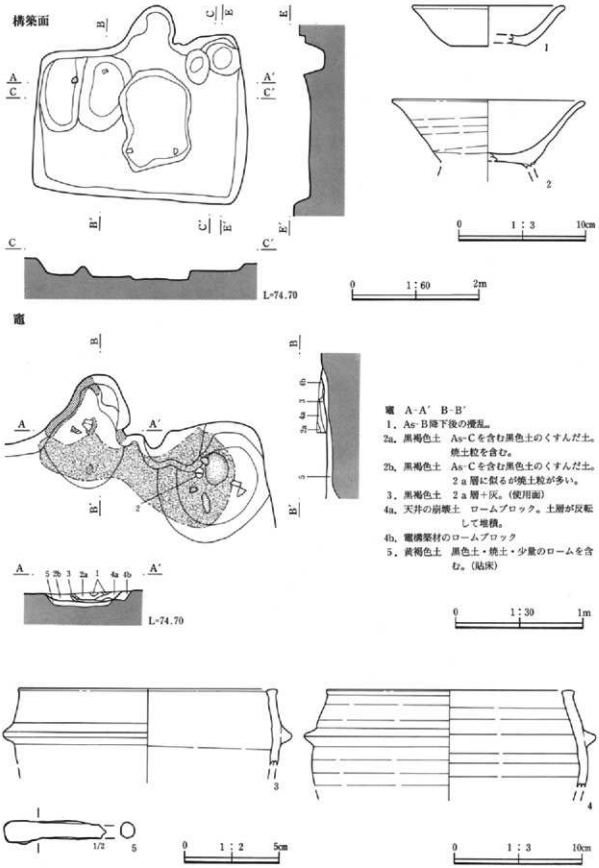
3．暗黒褐色土　上部に炭化物・灰層あり。締まりよく非常に硬い。(床の硬化面)

4．暗黄褐色土　2a層に似るが、ロームブロックが多い。(26号住居床下土坑)

5．暗黄褐色土　4層に似るが、ロームブロック(φ10〜50mm)を多く含む。焼土(φ10mm)を含む。(床下土坑)

0　1:60　2m

第133図　II-B区26号住居



第134図　II-B区26号住居と出土遺物

II-B区26号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 坏	北東隅 床下 +5.1cm	口径(11.8) 底径 (6.0) 器高 3.2	①還元焔 ②灰白 ③粗細砂・白色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右?回転糸切り。無調整。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1/4残存
2	須恵器 高台付椀	貯蔵穴内 −3.8cm	口径 (5.4) 底径 − 器高 −	①還元焔 ②黄灰 ③粗細砂を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部切り離し方法不明。付高台。高台部欠損。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1/4残存
3	須恵器 羽釜	中央 床下掘方 −1cm	口径(20.3) 底径 − 器高 −	①還元焔 ②明褐灰～鈍い橙 ③粗細砂・赤・白色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口縁部破片
4	須恵器 羽釜	中央 床上掘方 −3.2cm	口径 − 底径 − 器高 −	①還元焔 ②灰 ③粗細砂・赤・白色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位弱い回転ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口縁部破片
5	鉄製品 刀子?	埋設土	長さ (5.3) 幅 1.3 厚さ 0.7		断面円形。端部一部欠損。刀子破片か?	

II-B区27号住居

位　置　K・L-84・85

写　真　PL56

形　状　長軸を南北にする小形長方形を呈する。周壁はほぼ直線的に掘られているが、貯蔵穴付近がやや突出している。規模は長軸3.0m・短軸2.6mである。

面　積　6.75m²　　**方　位**　N−67°−E

重　複　14号方形周溝墓を掘り込んでいる。

埋設土　ローム・シルトブロックを含む暗褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認面から約18cm掘り込んで構築面とする。構築面は凸凹しており、北東部と南部が土坑状に掘り込まれていた。この面に8cm程の貼床を施し床面とする。床面までの深さは10cmである。

竈　東壁中央やや南寄りに設置されていた。住居の壁より内側にほとんど袖が張り出さない形態の竈で、焚口幅は45cmである。煙道部は壁から外へ52cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。燃焼部は一部良く焼けており焼土化していた。灰層が竈から住居南半分にかけて拡がっていた。

周　溝　検出されなかった。

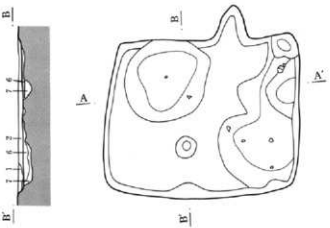
貯蔵穴　南東隅に長径53cm、短径42cm、深さ21cmで不整円形の貯蔵穴を検出した。灰・焼土などによって埋まっていた。中からは土器片が出土している。

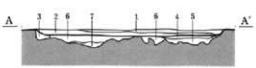
遺　物　出土遺物は245点である。分布は全体に疎らに散在している。いずれも小破片で図化し得たのは4点である。土師器甕(4)は床面付近からの出土である。底部は欠損しているが小形台付甕の可能性もある。(1・2)は須恵器高台付椀であるが、(1)は粘土紐状の高台部を粗雑に貼り付けている。(2)はやや高い高台を持つ。

所　見　出土遺物から平安時代(10世紀前半)の住居と考えられる。

生活面

構築面





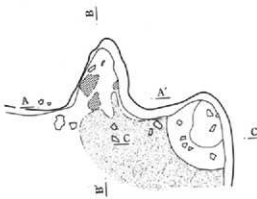
L＝74.60

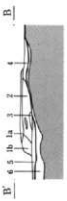
0　1：60　2m

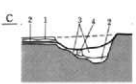
住居　A-A'　B-B'

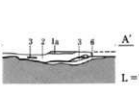
1．暗褐色土　As-B・白色軽石粒を含む。ローム粒(φ1～5mm)を多く含む。焼土・炭化物を少量含む。
2．暗褐色土　1層に似るが、ローム粒(φ5～10mm)をブロック状に含む。シルトブロック(φ50mm)を含む。
3．黒褐色土　白色軽石粒を含む。
4．灰層　灰・焼土(φ5～10mm)を多く含む。(床面)
5．暗褐色土　ロームブロック主体。黒色土を少量含む。(貼床)
6．黒褐色土　6層に似るが黒色土が多く、As-Cを少量含む。
7．黄褐色土　ロームブロック主体。

竈









L＝74.60

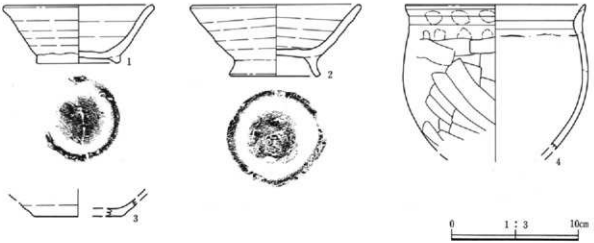
貯蔵穴　C-C'

1．黒色灰・焼土粒をわずかに含む。
2．黒色・青灰色灰　上・下層に焼土小ブロックを含む。
3．焼土ブロック＋黒色灰。(貼床)
4．1に似る。炭化物を含む。(貼床)
5．黒色灰＋焼土小ブロック・ロームブロック含む。(貼床)

竈　A-A'　B-B'

1a．暗黄褐色土　As-B・ローム粒を含む。As-B降下後の耕作による攪乱。
1b．暗褐色土　白色パミス・ローム粒・炭化物・焼土を少量含む。(住居埋没土)
2．暗黄褐色土　1b層に似るが、焼土・炭化物を多く含む。
3．灰層　灰主体。
4．暗褐色土　ロームを含む。焼土(φ5mm)をやや多く含む。灰を少量含む。
5．灰層　厚さ20～30mmに堆積。(竈の使用面)
6．褐色土　ロームブロック主体。(竈の崩方)

第135図　II-B区27号住居



第136図 II-B区27号住居出土遺物

II-B区27号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 高台付椀	中央 床上 ＋4cm	口径 12.0 底径 6.4 器高 4.6	①還元焔②褐灰③粗 細砂・赤色鉱物粒・ 角閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部回転糸切り(回転方向不明)。無調整。付高台。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～体部1／2 残存
2	須恵器 高台付椀	埋没土	口径(13.6) 底径 6.6 器高 5.7	①還元焔②灰白 ③粗細砂・角閃石・ 石英を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右？回転糸切り。無調整。付高台。高台横ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～体部1／2 残存
3	須恵器 坏	埋没土	口径 － 底径 － 器高 －	①還元焔②赤灰 ③細砂・白色鉱物粒 を含む。	外面 体部回転ナデ。底部回転糸切り(回転方向不明)。無調整。 内面 体～底部回転ナデ。	底部破片
4	土師器 甕	西側 床下 －1.8cm	口径(14.2) 底径 － 器高 －	①酸化焔②明褐～橙 ③粗細砂・白色鉱物 粒・角閃石を含む。	外面 口縁部接合痕・指頭痕有り。体部上位横方向篦削り。下位斜縦方向篦削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篦ナデ。	口～体部1／4 残存

II-B区28号住居

位 置 K-86　　写 真 PL57

形 状 遺構の重複により全体の形状ははっきりしないが、長軸を東西にする超小形長方形を呈すると考えられる。検出した範囲での規模は長軸2.1m・短軸1.8mである。

面 積 3.63m²　　方 位 N－87°－E

重 複 89号土坑に掘り込まれている。30・31・32・37・38号住居と重複しているが、土層観察からの新旧関係は判断できなかった。

埋没土 白色軽石粒・ロームブロック・炭化物・焼土を含む暗黄褐色土で埋まっていた。

床 面 遺構確認面から部分的に40cmを掘り込んで構築面とする。構築面は凸凹しており、中央が高く周囲が低い。この面に中央と同じ高さまで周囲を埋め床面とする。床面までの深さは26cmである。

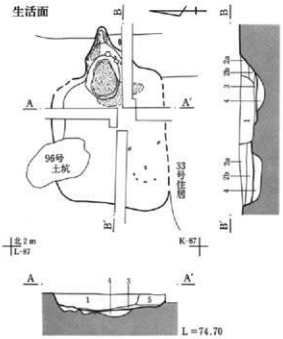
竈 東壁中央に設置されていた。竈の残存状況は良好であった。住居の壁より内側にほとんど袖が張り出さない形態の竈で、焚口幅は50cmである。煙道部は壁から外へ80cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。煙道付近は良く焼けており焼土化していた。内部は竈の構築材と考えられるロームブロックが含まれていた。

周 溝 検出されなかった。

貯蔵穴 検出されなかった。

遺 物 遺物は40点余り出土している。分布は竈を中心とする。図化したのは3点である。

所 見 出土遺物から平安時代(9世紀後半)の住居と考えられる。



住居　A-A'　B-B'

1．89号土坑埋役土。

2a．暗黄褐色土　焼土(φ5～10mm)・ローム粒(φ5mm)・炭化物をやや多く含む。白色軽石粒を少量含む。(28号住居埋役土)

2b．暗黄褐色土　2a層に似るが、焼土・ローム粒が少ない。(28号住居埋役土)

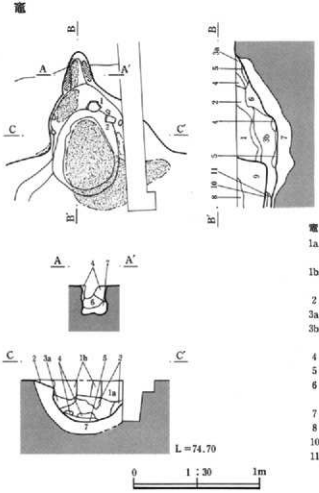
3．暗灰色土　灰、焼土をブロック状に少量含む。

4．暗褐色土　ロームブロック(φ10～50mm)を多く含む。ローム主体。(貼床)

5．ローム小ブロック＋As-Cを含む黒色土ブロック。(人為的埋土。攪乱か)

0　1：60　2m

竈



竈　A-A'　B-B'　C-C'

1a．暗褐色土　As-Cを含む黒色土のくすんだ土。ロームブロックを含む。焼土粒わずかに含む。(攪乱か)

1b．暗褐色土　As-Cを含む黒色土。ロームブロックを含む。焼土粒を少量含む。

2．暗褐色土　1b層に似るが、ロームブロックがやや大きい。

3a．黒色土　As-Cを含む黒色土。

3b．ロームブロック主体。褐灰色土小ブロックを含む。(天井構築土)

4．焼土ブロック

5．焼土ブロック＋青灰色灰層。(竈の使用面)

6．焼土ブロック＋ローム小ブロック＋暗褐色土小ブロック。(竈の燃焼部)

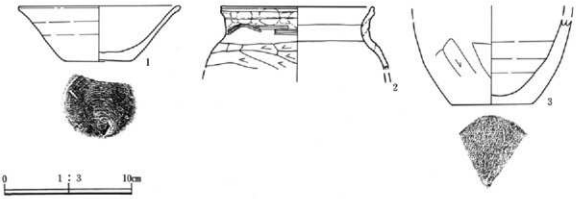
7．ロームブロック＋黒色土。(竈貼床)

8・9　II区89号土坑埋役土。

10．暗褐色土　炭化物＋焼土粒。

11．暗褐色土　As-Cを含む黒色土。焼土粒・炭化物粒を少量含む。

第137図　II-B区28号住居



第138図 II-B区28号住居出土遺物

II-B区28号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 坏	竈内 埋没土 +13.1cm	口径 12.7 底径 5.5 器高 5.4	①還元焔 ②灰白 ③細砂・赤色鉱物粒を少量含む。	外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部2/3 残存
2	土師器 甕	竈内 埋没土 +9.8cm	口径(12.0) 底径 － 器高 －	①酸化焔 ②暗赤褐 ③粗細砂・角閃石・白色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。頸部指頭による調整。体部上位横方向・斜縦方向箆削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向箆ナデ。	口縁部破片
3	須恵器 羽釜	埋没土	口径 － 底径 (6.2) 器高 －	①還元焔②灰黄 ③粗細砂・白・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面 体部下位回転ナデ後縦方向箆削り。底部箆削り。 内面 体～底部回転ナデ。	底部破片

II-B区29号住居

位 置 K-86　　**写 真** PL57・58

形 状 現代の攪乱により南半分を壊され、全体の形状ははっきりしないが、長軸を南北にする超小形長方形を呈すると考えられる。検出した範囲では周壁はほぼ直線的に掘られ、二隅は丸い。規模は東西長2.0mである。

面 積 計測不可　　**方 位** N－89°－E

重 複 本住居が25号住居を掘り込み、20号住居に掘り込まれている。

埋没土 As-C・ロームブロックを含む暗褐色土で埋まっていた。

床 面 遺構確認面から3cmを掘り込み構築面とする。竈と中央部付近が深く掘り込まれていた。その部分を貼床で埋め床面とする。床面の深さは3cmである。

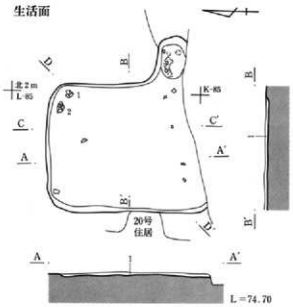
竈 東壁中央やや南よりに設置されていたと考える。住居の壁より内側にほとんど袖が張り出さない形態の竈で、焚口幅は65cmである。煙道部は壁から外へ60cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。底部に灰層が堆積していた。

周 溝 検出されなかった。

貯蔵穴 残存した範囲では、検出されなかった。

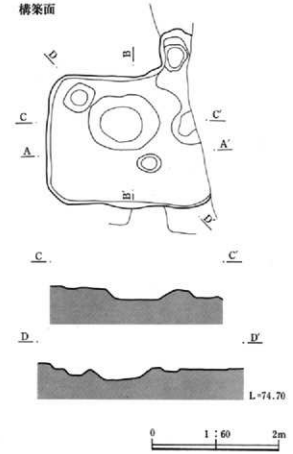
遺 物 出土遺物は60点余り出土している。分布は疎らで、竈内と北東隅にやや集中している。そのうち3点を図化した。須恵器坏(1)・須恵器高台付椀(2)は床面付近からの出土である。

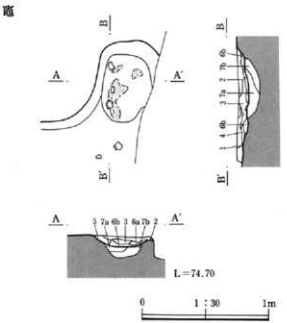
所 見 出土遺物から平安時代(9世紀後半)の住居と考えられる。



住居　A-A′　B-B′

1．暗褐色土　As-Cを含む黒色土のくすんだ土。ロームブロックを含む。(29号住居埋没土)





竈　A-A′　B-B′

1．As-B・焼土粒・ローム粒を含む。褐灰色シルト質粘土あり。(As-B降下後の攪乱)

2．暗褐色土　ローム粒・焼土粒わずかに含む。

3．ローム小ブロック＋焼土粒・軽石粒(As-C)を含む。攪乱を受けている。

4．攪乱

5．黒褐色土　軽石粒をわずかに含む。

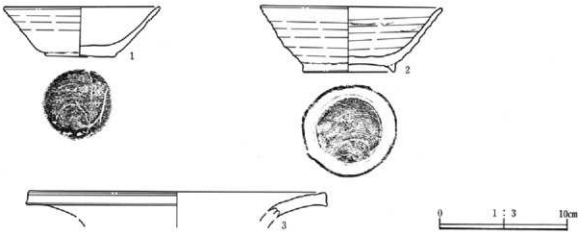
6a．黒褐色土　焼土粒・灰を含む。

6b．焼土粒＋灰。(竈の使用面)

7a．暗褐色土　焼土(φ5～10mm)を多く含む。灰・炭化物を含む。(竈の貼床)

7b．暗褐色土　7aに似るが、焼土・炭化物・灰が少ない。(竈の貼床)

第139図　II-B区29号住居



第140図 II-B区29号住居出土遺物

II-B区29号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③粘土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 高台付椀	北東隅 床下 +1.5cm	口径 14.2 底径 7.1 器高 5.2	①還元焔 ②灰白 ③白色鉱物粒・粗細砂を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部左回転糸切り。無調整。付高台。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	ほぼ完形
2	須恵器 坏	北東隅 床上 −1.2cm	口径 12.2 底径 5.4 器高 3.9	①還元焔 ②灰白 ③粗細砂・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部2/3残存
3	須恵器 甕?	埋没土	口径 − 底径 − 器高 −	①還元焔 ②鈍い橙 ③粗細砂・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	内外面 口縁部回転ナデ。	口縁部破片

II-B区30号住居

位 置 K-86

写 真 PL59

形 状 竈のみの検出のため、全体の形状は不明である。

面 積・方 位 計測不可

重 複 28・32・33・37・38住居と重複しているが、土層観察から新旧関係について判断できなかった。

埋没土 竈は焼土・ローム粒・炭化物を含む黒褐色土、貯蔵穴はAs-C・ロームブロック・炭化物を含む暗褐色土で埋まっていた。

床 面 遺構確認時には既に大部分の床面が削平されていた。構築面からも住居の範囲が判断できなかった。

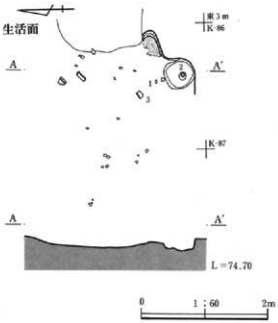
竈 検出した範囲での貯蔵穴と周溝の位置から、東壁に設置されていたと考えられる。住居の壁より内側にほとんど袖が張り出さない形態の竈で、焚口幅は30cmである。煙道部は壁から外へ42cm突出していた。燃焼部は平坦ある。底面に灰層が拡がっていた。

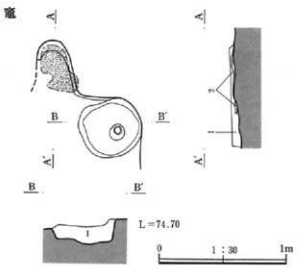
周 溝 検出されなかった。

貯蔵穴 南東隅に直径59cm、深さ12cmで円形の貯蔵穴を検出した。貯蔵穴内から須恵器高台付椀(3)が出土した。

遺 物 出土遺物は30点余りである。遺物は想定される住居の範囲に散乱していた。そのうち貯蔵穴内と貼床から出土した土器を3点図化した。土師器甕(2)は崩れた「コ」の字状口縁を呈している。(3)は焼成がやや酸化焔気味である。

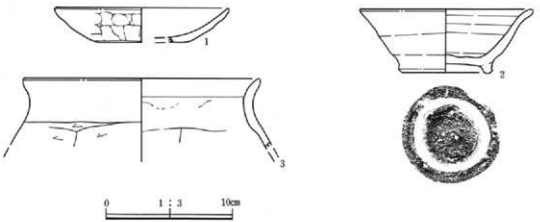
所 見 全体の形状は不明であるが、出土遺物から平安時代(9世紀後半)の住居と考えられる。





竈　A-A'
1．黒褐色土　焼土粒・ローム粒・炭化物粒を含む。
2．黒色土　灰白色灰・焼土粒を含む。(竈の使用面)

貯蔵穴　B-B'
1．暗褐色土　As-Cを含む黒色土のくすんだ土。ローム小ブロック・炭化物粒を含む。



第141図　II-B区30号住居と出土遺物

II-B区30号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	南東隅 床面直上	口径(13.6) 底径　— 器高　—	①酸化焔②灰黄 ③粗雲砂・白色鉱物粒・角閃石・雲母を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部上位上半間い指ナデ・指押さえ。下半横方向筆削り後指ナデ・指押さえ。底部筆削り。 内面　口縁部横ナデ。体～底部横ナデ。	口～体部破片
2	須恵器 高台付椀	貯蔵穴内 ＋5cm	口径 13.6 底径 6.8 器高 5.0	①還元焔②灰黄 ③粗雲砂・赤・白色鉱物粒・チャートを含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口縁部一部欠損
3	土師器 甕	南東隅 床上 ＋7.5cm	口径(18.5) 底径　— 器高　—	①酸化焔 ②純い橙 ③粗雲砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部上位横方向筆削り。 内面　口縁部横ナデ。体部横方向筆削ナデ。	口縁部破片

II-B区31号住居

位　置　K-85・86　　**写　真**　PL59

形　状　南辺を現代の攪乱で壊されているが、短軸を東西にする小形長方形を呈すると考えられる。検出した範囲での周溝はほぼ直線的に掘られている。規模は短軸2.1mである。

面　積　計測不可　　**方　位**　N－89°－E

重　複　本遺構が20・37・38号住居を掘り込み、28号住居に掘り込まれている。

埋没土　ローム粒・炭化物・焼土を含む暗褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認面から4cm掘り込んで構築面とする。この面に厚さ約2cmの貼床を施し床面とする。床面は平坦で、硬く締まっていた。

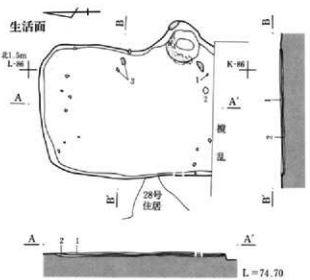
竈　東壁中央やや南より設置されていたと考えられる。住居の壁より内側にほとんど袖が張り出さない形態の竈で、焚口幅は54cmである。煙道部は壁から外へ36cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけてやや急に傾斜していた。燃焼部は一部焼土化しており、底面には灰層が拡がっていた。燃焼部奥と竈前から棒状礫が出土しており、竈構築材であったと考えられる。

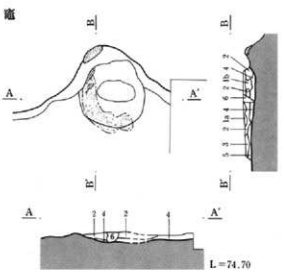
周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　検出されなかった。

遺　物　出土遺物は70点余りである。分布は全体に疎らである。いずれも小破片であり、そのうち3点を図化した。灰釉陶器(2)は底部のみであるが釉は浸け掛けで、崩れた三日月高台をもつ。須恵器羽釜(3)は口縁部が内傾し、しっかりとした面をもつ。

所　見　出土遺物から平安時代(10世紀後半)の住居と考えられる。





住居　A-A'　B-B'

1．暗褐色土　焼土粒・炭化物・ローム粒を少量含む。やや硬質。(床面)

2．黒褐色土　ローム粒を極少量含む。焼土粒・炭化物はほとんど含まない。締まり弱い。(貼床)

竈　A-A'　B-B'

1a．暗褐色土　ローム粒をやや多く含む。焼土・炭化物を少量含む。

1b．暗褐色土　1a層に似るが、焼土をやや多く含む。

2．暗褐色土　ローム粒を非常に多く含む。炭化物を少量含む。(天井崩落土?)

3．暗褐色土　ローム粒を多く含む。

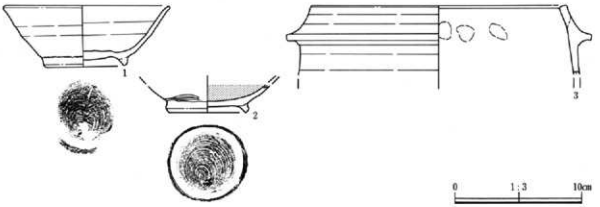
4．黒褐色土　灰・焼土をやや多く含む。

5．黒褐色土　灰・焼土を少量含む。

6．暗褐色土　ローム粒をわずかに含む。

0　1:60　2m　　0　1:30　1m

第142図　II-B区31号住居



第143図　II-B区31号住居出土遺物

II-B区31号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 高台付椀	竈前 床下 −5.8cm	口径(13.2) 底径 6.3 器高 4.9	①還元焔 ②灰白 ③粗細砂・白色鉱物粒・雲母を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体〜底部回転ナデ。	口〜底部1/3残存
2	灰釉陶器 高台付椀?	竈前 床上 +3.1cm	口径 − 底径 6.1 器高 −	①還元焔 ②灰白〜灰黄 ③粗細砂・黒色鉱物粒を含む。	外面　体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　体〜底部回転ナデ。釉浸け掛けか。	底部破片
3	須恵器 羽釜	竈前 床上 +1.9cm	口径 − 底径 − 器高 −	①還元焔 ②純い黄橙 ③粗細砂を含む。	外面　口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。指頭痕有り。体部回転ナデ。	口縁部破片

II-B区32号住居

位　置　K-86・87

写　真　PL60

形　状　床面直上まで削平を受けており、竈のみの検出である。全体の形状不明である。

面　積　計測不可

方　位　計測不可

重　複　24・28・30号住居と重複している。

埋没土　不明。

床　面　遺構確認時に既に床面が露出していた。床面には遺物が散乱していた。

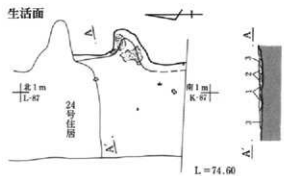
竈　東壁に設置されていたと考えられる。住居の壁より内側に袖が張り出さない形態の竈で、焚口幅は45cmである。煙道部は壁から外へ45cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。灰層が検出された。

周　溝　検出されなかった。

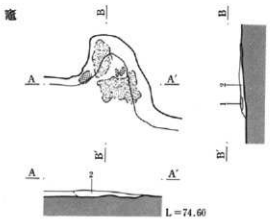
貯蔵穴　検出されなかった。

遺　物　遺物は40点ほど出土している。そのうち図化したのは砥石(1)点のみである。

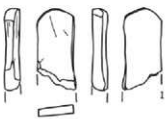
所　見　年代については判断し得ないが、出土遺物と住居形態から平安時代の住居と考えたい。

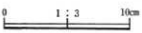


住居 A-A'
1. As-Cを含む黒色土のくすんだ土。焼土粒・焼土ブロック・炭化物粒を含む。底部に灰層あり。
2. 焼土ブロック
3. 焼土ブロック＋灰＋炭化物



竈 A-A' B-B'
1. 赤褐色土 焼土ブロック
2. 暗褐色土 焼土小ブロック・灰・炭化物を含む。





第144図 II-B区32号住居と出土遺物

II-B区32号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	寸法 (cm, g)	石材	特徴
1	石製品 砥石	南東隅 床上 + 7.6 2/3	長 — 幅 3.0 厚 1.2 重 21.0	砥沢石	使用による損耗のためかなり薄くなっている。表裏、両側に使用面。上端部も磨いて成形している。下部欠損。

II-B区33号住居

位置 J・K-86

写真 PL60

形状 東壁中央を土坑に壊されており全体の形状は不明であるが、短軸を南北にする超小形長方形を呈すると考えられる。検出した範囲では、周溝はほぼ直線的に掘られており四隅は丸い。規模は、長軸2.7m・短軸2.0mである。

面積 4.95m²

方位 N－89°－E

重複 本住居が30号住居・89・90号土坑に掘り込まれている。28号住居とも重複しているが、土層観察からは新旧関係を判断できなかった。

埋没土 As-C・ローム・焼土・灰を含む暗褐色土で埋まっていた。

床面 遺構確認面から14cm掘り込んで構築面とする。構築面は中央が高く、周囲が低い。南西隅に床下土坑を1基検出した。この面の低い部分にのみ貼

床を施しそのまま床面とする。床面は平坦で、硬く締まっていた。

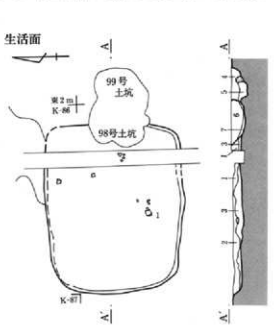
竈　竈は検出されなかったが、土坑との重複の位置から東壁中央付近に設置してあったと想定できる。

周　溝　検出されなかった。

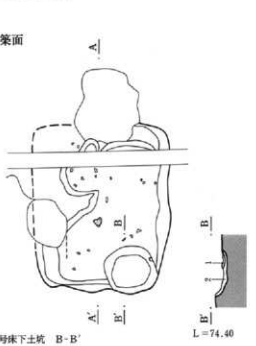
貯蔵穴　検出されなかった。

遺　物　出土遺物は99点である。重複により遺物の所属が明確でなく、またほとんどが小破片であるため、図化し得たのは1点のみである。分布は疎らで、構築面からも土器片が出土した。須恵器坏(1)は、平底から外反する口縁部をもち、全体的にやや浅い。床面付近からの出土である。

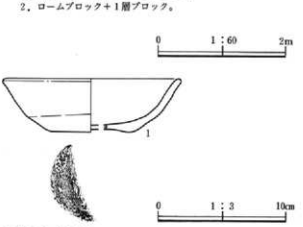
所　見　出土遺物から平安時代(9世紀後半)の住居と考えられる。



住居　A-A'
1．暗褐色土　焼土粒・焼土小ブロック・ローム小ブロック・灰を斑状に含む。
2．暗褐色土　As-Cを含む黒色土のくすんだ層。ローム小ブロック斑状に含む。
3．暗褐色土　1層と2層の中間の土。
4・5　99号土坑埋没土。
6・7　98号土坑埋没土。



1号床下土坑　B-B'
1．暗褐色土　1層+ローム小ブロック。
2．ローム小ブロック+1層ブロック。



第145図　II-B区33号住居と出土遺物

II-B区33号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 坏	南西隅 床上 +1.7cm	口径(13.8) 底径 6.2 器高 4.2	①還元焔 ②灰白 ③粗砂を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1/3 残存

II-B区34号住居

位　置　K・L-87

写　真　PL60

形　状　現代の用水路と23号住居の重複によって住居の大部分を壊されており、全体の形状は不明である。検出した範囲では周溝はやや外に膨らんで掘られており、南東隅もやや丸い。

面　積・方　位　計測不可

重　複　本遺構が23号住居に掘り込まれている。35号住居とも重複しているが、土層関係から新旧関係を判断することが出来なかった。

埋設土　As-C・ロームブロック・焼土・炭化物粒を含む黒色土で埋まっていた。

床　面　検出した範囲では、遺構確認面から26cm掘り込んで構築面とする。床面は凸凹していた。この面に8cmの厚さで、黒褐色土とロームブロックの混ざった土を埋め床面とする。床面までの深さは14cmである。床面には灰が拡がっていた。

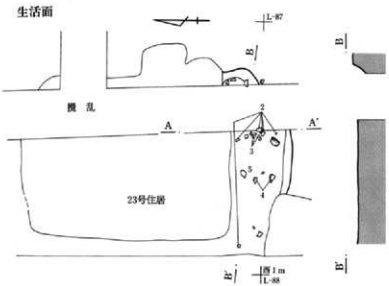
竈　検出されなかった。

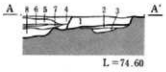
周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　東南隅に貯蔵穴と考えられる土坑を検出した。検出した範囲での規模は直径40cm、深さ40cmである。焼土・炭化物・ロームブロックを含む暗褐色土で埋まっていた。

遺　物　出土遺物は35点である。そのうち5点を図化した。土師器甕(2)は床面直上からの出土である。「コ」の字状口縁の特徴をもつ甕の最終段階である。(1)は小形台付甕の可能性がある。須恵器羽釜(5)は口縁部が内傾し、しっかりした面をもつ。須恵器高台付椀(3)は小さな底部から大きく外反する。高台部の調整は粗雑である。(4)は須恵器足高高台付椀の高台部である。

所　見　出土遺物から平安時代(10世紀前半)の住居と考えられる。





住居　A-A'

1．As-Cを含む黒色土のくすんだ土。ローム小ブロックを多量に含む。焼土粒・炭化物粒を含む。(34号住居埋設土)

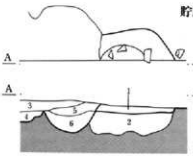
2．黒色灰　焼土粒・ローム小ブロックを含む。

3．ローム小ブロック＋黒褐色土ブロック。

4・5・6・7・8．23号住居埋設土。

0　1:60　2m

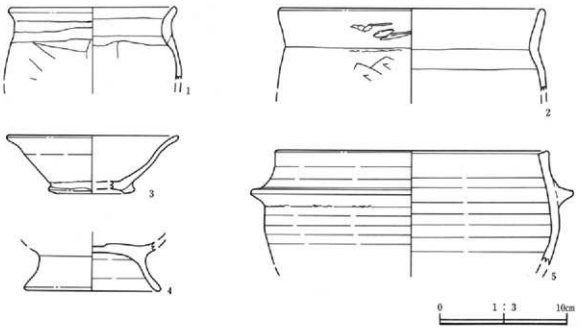
第146図　II-B区34号住居



貯蔵穴　A-A'

1．暗褐色土　焼土・炭化物を少量含む。白色軽石粒を含む。
2．暗褐色土　焼土粒・炭化物を多く含む。ロームをブロック状に含む。
3．暗赤褐色土　炭化物・焼土を多く含む。ローム（φ10～30mm）を含む。
（23号住居埋没土）
4．暗赤褐色土　２層に似るが、焼土・炭化物が多い。（23号住居貼床）
5．明黄色土　ロームブロック主体。焼土・粘土・炭化物を多く含む。
（23号住居貼床）
6．明黄褐色土　ローム主体。焼土・炭化物を少量含む。（23号住居貼床）

0　1：30　1m



第147図　Ⅱ-Ｂ区34号住居貯蔵穴と出土遺物

Ⅱ-Ｂ区34号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 （器形・文様の特徴）	残存状態 備考
1	土師器 甕	南西隅 床上 ＋12cm	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②純い赤褐 ③粗細砂・角閃石・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部上位横方向置削り。 内面　口縁部横ナデ。体部横方向置ナデ。	口縁部破片
2	須恵器 甕	南東隅 床面直上	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔 ②橙 ③細砂・角閃石・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。頸部沿頭による調整。体部上位横方向置削り。 内面　口縁部横ナデ。体部横方向置ナデ。	口縁部破片
3	須恵器 高台付椀	南東隅 床上 ＋12.4cm	口径　－ 底径（5.3） 器高　4.5	①還元焔 ②灰白 ③粗細砂・角閃石・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部回転糸切り（回転方向不明）。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1／3残存
4	須恵器 足高高台付椀	中央 床上 ＋11.1cm	口径　－ 底径 10.4 器高　－	①還元焔②灰白 ③粗細砂・角閃石を含む。	外面　坏体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。高台部横ナデ。 内面　高台部横ナデ。	高台部のみ残存
5	須恵器 羽釜	中央 床上 ＋8.3cm	口径（11.4） 底径　－ 器高　－	①還元焔②燈③細砂・赤・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口縁部破片

II-B区35号住居

位　置　L-87　　**写　真**　PL61

形　状　住居の西半分が調査区域外のため全体の形状は不明である。検出した範囲では、周溝は直線的に掘られている。隅は北東隅がやや角張っている。規模は南北長2.75mである。

面　積　計測不可　　**方　位**　N－90°－E

重　複　34号住居と重複しているが土層観察から新旧関係を判断できなかった。

埋没土　埋没土の記録なし。

床　面　遺構確認面から12cm掘り込んでそのまま床面とする。床面は平坦であるが、竈手前が低く掘り込まれていた。

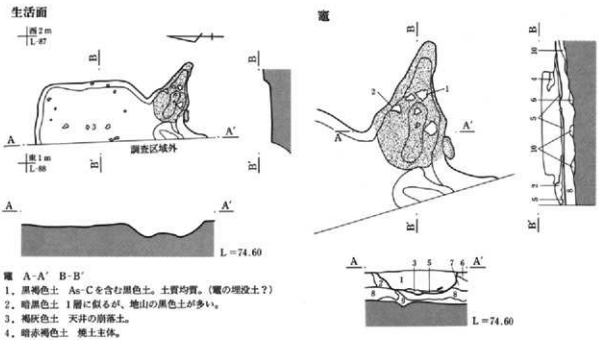
竈　東隅に設置してあった。住居の壁より内側にほとんど袖が張り出さない形態の竈で、焚口幅は45cmである。竈左袖には棒状礫が張り付いて出土しており、竈袖心材として使用されていたと考えられる。煙道部は壁から外へ72cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。底面には灰層が検出された。

周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　竈手前に直径20cm、深さ20cmで不整円形の貯蔵穴と考えられる土坑を検出した。竈と接している。

遺　物　出土遺物は40点ほどである。竈と床面に疎らに分布している。そのうち図化したのは3点である。(1)はいわゆる土釜である。器壁が厚く、体部には縦方向へラケズリが施してある。須恵器羽釜(3)は口縁部が直立気味である、端部の面取りもやや崩れている。須恵器坏(2)は焼成は酸化焔で体部が浅い。

所　見　出土遺物から平安時代(10世紀後半)の住居と考えられる。

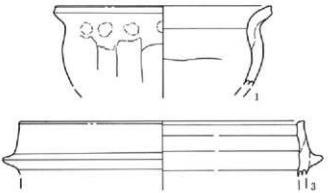


竈　A-A'　B-B'

1. 黒褐色土　As-Cを含む黒色土。土質均質。(竈の埋没土？)
2. 暗黒色土　1層に似るが、地山の黒色土が多い。
3. 褐灰色土　天井の崩落土。
4. 暗赤褐色土　焼土主体。
5. 黒色灰層　(竈の使用面)
6. 褐色土　焼土粒(φ5mm)を少量含む。締まりあり。
7. にぶい褐色土　炭化物(φ10mm)を含む。焼土粒(φ5mm)を3%程・白色土粒(φ2mm)を1%含む。締まりあり。
8. 暗褐色土　白色土粒(φ3mm)少量含む。
9. にぶい褐色土　Hr-FA＋少量の褐色土。
10. Hr-FA層　一次堆積。10号方形周溝墓埋没土。

0　1:60　2m　　0　1:30　1m

第140図　II-B区35号住居



第149図　Ⅱ－Ｂ区35号住居出土遺物

Ⅱ－Ｂ区35号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③軸土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 甕 (土鍋)	電内 床上 +19.5cm	口径(17.0) 底径　－ 器高　－	①酸化焔②明赤褐 ③粗細砂・角閃石・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。頸部指圧による調整。体部縦方向箆削り。 内面　口縁部横ナデ。体部ナデ。	口縁部破片
2	須恵器 坏	電内 床上 +20.5cm	口径(10.1) 底径　6.0 器高　2.4	①酸化焔気味②純い橙③粗細砂・赤色鉱物粒・雲母を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1／3残存
3	須恵器 羽釜	中央 床上 +1.5cm	口径　－ 底径　－ 器高　－	①還元焔②純い橙 ③粗細砂・赤色鉱物粒・雲母を含む。	外面　口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口縁部破片

Ⅰ－Ａ区36号住居

位　置　Ｌ-87　　写　真　ＰＬ61

形　状　住居のほとんどを攪乱によって壊されており、竈だけの検出となった。

面　積　計測不可　　方　位　Ｎ－89°－Ｅ

重　複　検出した範囲ではなかった。

埋没土　竈は暗褐色土で埋まっていた。

床　面　竈は、遺構確認面から40cm掘り込んで構築面とする。構築面は凸凹していた。この面に地山ロームブロック・黒色土を含む暗褐色土で貼り床を施し使用面とする。貼り床の厚さは20cmである。使用面までの深さは20cmである。

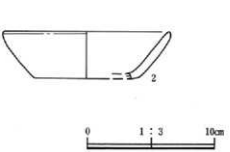
竈　東隅に設置してあった。検出した範囲では幅は50cm・長さ50cmである。煙道部は壁から外へ25cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。底面には灰層が検出された。

周　溝　検出されなかった。

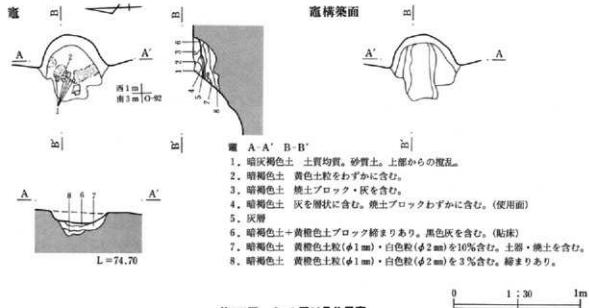
貯蔵穴　検出されなかった。

遺　物　出土遺物は２点のみである。いずれも竈燃焼部からの出土である。土師器坏（１・２）は平底から大きく外反する口縁部をもつ。

所　見　出土遺物から平安時代（９世紀後半）の住居と考えられる。



第150図　Ⅰ－Ａ区36号住居出土遺物



第151図　I－A区36号住居竈

I－A区36号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③粘土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	竈内 ＋11cm	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②純い橙 ③粗細砂・角閃石・雲母を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部篦削り。 内面　口～底部横ナデ。	口～体部1／3残存
2	土師器 坏	竈内 ＋10cm	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②純い橙 ③細砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部篦削り。 内面　口～底部横ナデ。	口縁部破片

I－A区39号住居

位　置　M・N-89　　**写　真**　PL62・63

形　状　現代の用水路により大部分が壊されているが、長軸を東西にする超小形長方形を呈すると考えられる。周壁の東辺は外に膨らんでいるが他は直線的に掘られている。残存する範囲での規模は長軸3.0m、短軸2.6mである。

面　積　推定6.81m²　　**方　位**　N－88°－E

重　複　なし。

埋没土　As-C・焼土・ローム粒・土器片を含む黒褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認面から11cm掘り込んで構築面とする。構築面では南東隅・北側に床下土坑を3基検出した。この面に厚さ6cmの貼床を施し床面とする。床面までの深さは5cmである。

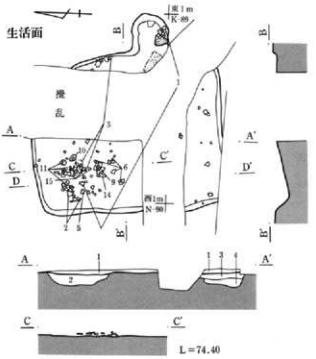
竈　東壁中央やや南寄りに設置してあった。住居の壁より内側にほとんど袖が張り出さない形態の竈で、焚口幅は43cmである。煙道部は壁から外へ58cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。燃焼部からは礫が1個検出され、竈心材に使用されていたと考えられる。底面には灰層が拡がっていた。

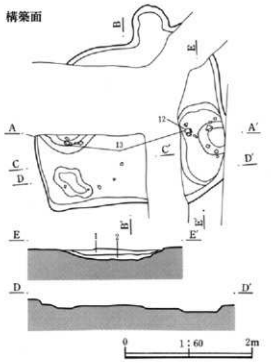
周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　残存した範囲では検出されなかった。

遺　物　出土遺物は180点余りである。分布は床面北西隅に集中している。構築面からも出土した。遺物は坏類が多い。図化したのは16点である。須恵器坏(5)・須恵器高台付椀(3・6～14)はいずれも小さめの底部から外反する。高台付椀は高台の成形がやや粗雑である。内面にタール状の炭化物が付着しているものもある。灰釉陶器皿(16)はやや崩れた三日月高台と小さく外反する口縁部の特徴をもつ。釉は刷毛塗りである。(4)は「コ」の字状口縁部をもつ土師器甕の最終段階の特徴を示している。

所　見　出土遺物から、平安時代(10世紀前半)の住居と考えられる。





住居　A-A'

1．黒褐色土　As-Cを含む黒色土。焼土粒・ローム粒を含む。土器片を多く含む。

2．褐灰色土　ローム・灰・焼土小ブロックを斑状に含む。上層締まり良い。（2号床下土坑埋設土・上層床面）

3・4　1号床下土坑1・2層掘掘。

1号床下土坑　E-E'

1．褐灰色土　As-Cを含む黒色土のくすんだ土。灰白ローム小ブロック・焼土粒含む。

2．1層＋ロームブロック＋焼土粒。下面に薄く灰堆積。（一括埋土）

竈　A-A'　B-B'

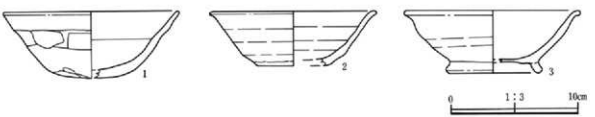
1a．黒褐色土　As-Cを含む黒色土。焼土粒・ローム粒を含む。

1b．黒褐色土　As-Cを含む黒色土＋焼土小ブロック＋ロームブロック。灰・炭を含む。

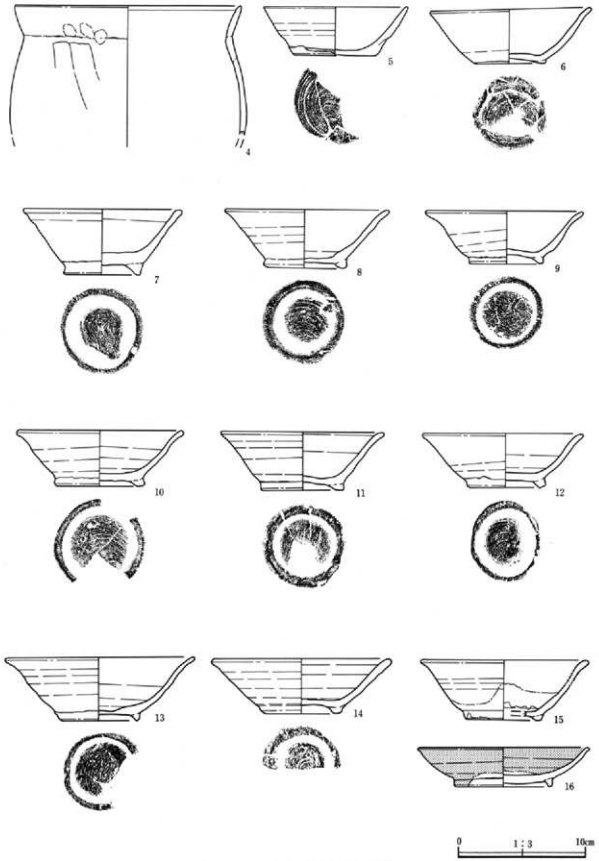
2a．暗青灰色灰＋焼土小ブロック。

2b．青灰色灰（使用面）

3．As-Cを含む黒色土のくすんだ土。ローム小ブロック・小石含む。



第152図　Ⅰ-A区39号住居と出土遺物(1)



第153図 Ⅰ-A区38号住居出土遺物(2)

Ⅰ－Ａ区39号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③特土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	竈内 －0.3～0.9 cm	口径(14.0) 底径 － 器高 (5.3)	①酸化焔②純い橙 ③粗細砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部中位指ナデ・指押さえ。下位弱いナデ。底部箆削り。 内面　口～底部横ナデ。	口～底部破片
2	須恵器 坏	北西隅 床上 ＋0.9cm	口径(13.4) 底径 － 器高 －	①還元焔②灰褐 ③粗細砂・白・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部欠損。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～体部1／3 残存
3	須恵器 高台付椀	北西～ 北東隅 床直	口径 13.5 底径 6.9 器高 5.0	①還元焔②灰白 ③粗細砂・角閃石・石英を含む。	外面　口縁部著しい横ナデ。体部回転ナデ。底部回転糸切り(回転方向不明)。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	高台部一部 欠損
4	土師器 甕	竈 床上 ＋4.3cm	口径(16.0) 底径 － 器高 －	①酸化焔②明褐色 ③粗細砂・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部上位斜縦方向箆削り。 内面　口縁部横ナデ。体部横方向箆ナデ。	口～体部破片
5	須恵器 坏	北西隅 床上 ＋1.4cm	口径(11.4) 底径 (6.4) 器高 (3.9)	①還元焔 ②灰白 ③粗細砂を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1／3 残存
6	須恵器 高台付椀	北西隅 床上 ＋2.2cm	口径 12.5 底径 5.5 器高 4.3	①還元焔 ②灰白 ③粗細砂・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部2／3 残存
7	須恵器 高台付椀	埋没土	口径(12.5) 底径 6.0 器高 5.2	①酸化焔気味 ②純い橙③細礫・赤色鉱物粒・チャートを含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部回転糸切り(回転方向不明)。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部2／3 残存
8	須恵器 高台付椀	埋没土	口径(12.7) 底径 (6.0) 器高 4.6	①還元焔②明褐灰 ③粗細砂・赤色鉱物粒・雲母を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部2／3 残存
9	須恵器 高台付椀	北西隅 床上 ＋0.5cm	口径 12.5 底径 5.4 器高 4.2	①還元焔②黒灰 ③粗細砂・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部著しい横ナデ。体部回転ナデ。底部回転糸切り(回転方向不明)。付高台。高台部ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口縁部一部 欠損
10	須恵器 高台付椀	北西隅 床上 ＋0.3cm	口径(13.4) 底径 (6.2) 器高 4.4	①還元焔②黒灰 ③粗細砂・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1／3 残存
11	須恵器 高台付椀	北西隅 床上 ＋1.5cm	口径 12.7 底径 3.2 器高 4.7	①酸化焔気味 ②純い橙③粗細砂・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部切り離し方法不明。付高台。高台横ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部2／3 残存
12	須恵器 高台付椀	南西隅 床下 －12.5cm	口径(12.5) 底径 5.5 器高 4.3	①還元焔 ②灰白 ③粗細砂を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1／2 残存　堀方・ 19住と接合
13	須恵器 高台付椀	北西～南 西隅堀方 －16.2cm	口径(14.6) 底径 5.7 器高 5.0	①還元焔②灰白 ③粗細砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1／2 残存
14	須恵器 高台付椀	北西隅 床上 ＋1.3cm	口径(13.6) 底径 (5.8) 器高 4.4	①酸化焔気味 ②純い橙③粗細砂・赤・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部破片
15	須恵器 高台付椀	北西隅 床上 ＋1.7cm	口径 13.3 底径 (6.0) 器高 4.7	①還元焔 ②灰黄③細礫・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部切り離し方法不明。付高台。内外面炭化物の付着あり。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1／2 残存
16	灰釉陶器 高台付椀	埋没土	口径(13.6) 底径 (7.4) 器高 (3.1)	①還元焔 ②灰白 ③白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。釉ハケ塗り。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1／2 残存

Ⅰ-A区40号住居

位　置　N・O-88

写　真　PL63

形　状　遺構の東半分が調査区域外のため全体の形状は不明である。検出した範囲での周溝はほぼ直線的に掘られており、隅は丸い。規模は南北長3.0mである。

面　積　計測不可

方　位　計測不可

重　複　検出された範囲ではなし。

埋没土　As-C・ローム小ブロック・土器片を含む黒褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認面から18cm掘り込んで構築面とする。構築面は凸凹しており中央部が高く、周辺が低い。住居中央やや南寄りに床下土坑を1基検出した。床下土坑はローム粒・As-C・炭化物を含む暗黒褐色土によって埋まっていた。この面に厚さ8cmの貼床を施し床面とする。床面までの深さは10cmである。床面は平坦で良く締まっていた。床面には焼土が部分的に認められた。

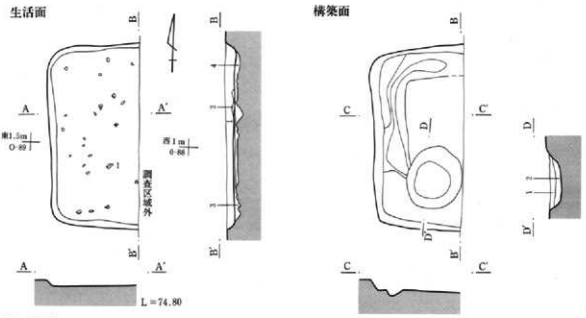
竈　検出されなさった。

周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　検出されなかった。

遺　物　出土遺物は48点である。分布は床面に散在している。いずれも小破片で図化した得たのは須恵器高台付椀(1)の1点のみである。

所　見　出土遺物から、平安時代(9世紀後半)の住居と考えられる。



住居　B-B'

1. 黒褐色土　As-Cを含む黒色土。ローム小ブロック・土器片を含む。
2. ローム＋焼土小ブロック
3. 黒褐色土　ローム小ブロック＋焼土粒。こげ茶色の斑鉄あり。締まり良い。(使用面)
4. 暗褐色土　As-Cをわずかに含む。ローム小ブロックを含む。

床下土坑　D-D'

1. 暗黒褐色土　ローム粒(φ～5mm)・As-Cパミス・炭化物を少量含む。
2. 暗黒褐色土　1に似るが、ローム粒が少ない。

0　1:60　2m

第154図　Ⅰ-A区40号住居

第155図　Ⅰ－A区40号住居出土遺物

Ⅰ－A区40号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 高台付椀	中央 床上 +4.5cm	口径 － 底径 (5.8) 器高 －	①還元焔②灰白 ③粗細砂・白色鉱物粒を含む。	外面　体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　体～底部回転ナデ。	底部破片

Ⅱ－A区41号住居

位　置　M・N－89　　**写　真**　PL64

形　状　遺構検出時には、遺構北側が既に削平されており全体の形状ははっきりしないが、短軸を東西にする超小形長方形を呈すると考えられる。残存する範囲では、周溝はほぼ直線的に掘られており、隅は南西は丸く、南東は角張ってる。規模は南北長2.5m・東西長2.6mである。

面　積　推定7.8㎡　　**方　位**　N－91°－E

重　複　検出された範囲ではなかった。

埋没土　As-C・焼土・ロームを含む暗黒褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認面から6cm掘り込んで構築面とする。構築面は北側が低く、南側が高い。床下土坑を3基検出した。この低い部分に南側と同じ高さまで貼床を施し床面とする。よって床面までの深さは6cmである。床面は平坦で、硬く締まっていた。

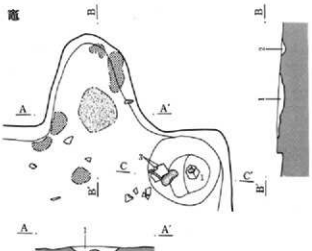
竈　東壁中央やや南寄りに設置してあった。住居の壁より内側にほとんど袖が張り出さない形態の竈で、焚口幅は75cmである。煙道部は壁から外へ75cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。燃焼部は良く焼け、一部焼土化しており底面には灰層が拡がっていた。

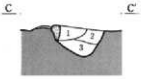
周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　南東隅に直径57cm、深さ21cmの円形の貯蔵穴を検出した。焼土・炭化物・ローム粒を含む暗褐色土で埋まっており、礫・土器片が出土している。

遺　物　出土遺物は44点である。分布は竈と貯蔵穴に集中している。図化し得たのは3点である。須恵器高台付椀(1)は、酸化焔気味の焼成で小さな平底の底部から大きく外反する。高台部の成形も粗雑である。(2)は直立する口縁部の形状から甑と考えられる。

所　見　出土遺物から、平安時代(10世紀後半)の住居と考えられる。





竈　A-A'　B-B'

1．暗黄褐色土　ローム粒をやや多く含む。焼土を多く含む。下部に灰層あり。

2．暗赤褐色土　焼土をブロック状に多く含む。(燃焼部か)

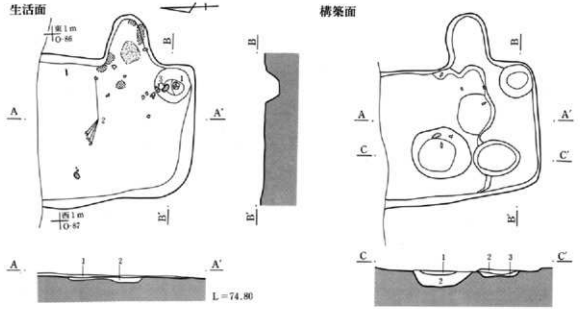
貯蔵穴　C-C'

1．暗褐色土　焼土をブロック状に多く含む。炭化物・ローム粒を少量含む。

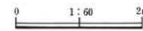
2．攪乱か

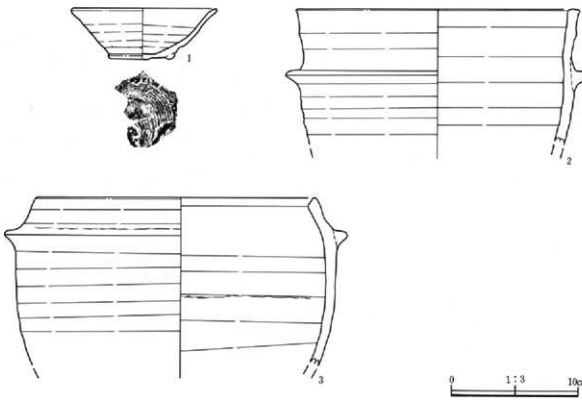
3．暗黒褐色土　1に似るが、焼土が少ない。

第156図　Ⅱ－A区41号住居竈



住居 A-A'
1．暗黒褐色土 As-B・ローム粒・焼土粒を含む。(住居埋設土か)
2．褐灰色土 ローム小ブロック粒・焼土粒を含む。
ややザラついて、硬く締まった土。(床面)





第157図 II-A区41号住居と出土遺物

Ⅱ－A区41号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 坏	貯蔵穴内 +16cm	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔気味 ②浅黄橙③粗細砂・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。底部調整が曖。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ後、底部指頭による調整・内面から粘土補塗。	口～底部2／3 残存
2	須恵器 甕?	中央 床上 +3 cm	口径 － 底径 － 器高 －	①還元焔②黄灰 ③粗細砂・雲母・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口縁部破片
3	須恵器 羽釜	貯蔵穴内 +14cm	口径(22.0) 底径－ 器高－	①還元焔②灰黄 ③粗細砂・角閃石・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口～体部破片

Ⅰ－A区42号住居

位　置　P－88

写　真　PL64

形　状　東半分が調査区域外のため、全体の形状は不明である。残存する範囲では周溝はほぼ直線的である。二隅は丸い。規模は南北長2.1mである。

面　積　残存部分1.66m²

方　位　N－73°－E

重　複　149号土坑と重複しているが、土層観察からは新旧関係を判断できなかった。

埋没土　住居の上層には、攪乱されたAs-B層の下に水田耕作土を確認した。住居はAs-C・焼土・ローム小ブロックを含む黒褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認面から8cm掘り込んで、そのまま床面とする。

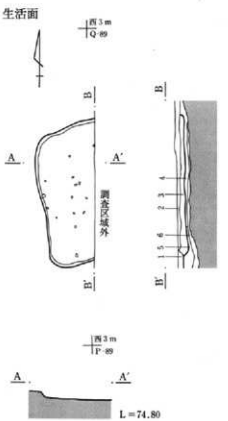
竈　検出した範囲ではなかった。

周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　検出した範囲ではなかった。

遺　物　出土遺物は19点である。分布は検出した床面全体に疎らに散在していた。いずれも小破片で図化し得なかったが、平安時代の土師器甕・須恵器高台付椀の破片が出土した。

所　見　遺物も少なく、遺構の形状も不明なため年代については断定し得ないが、出土遺物と層位から平安時代の住居と考えたい。



住居　B－B'

1．軽石・細砂混じり。鉄分沈着を含む。粘性強い。
2．黒褐色土　As-B細粒含む。水田耕作土。
3．黒褐色土　As-Cを含む黒色土のくすんだ層。焼土粒・土器片・ローム小ブロックを含む。(住居埋没土)
4．黒褐色土　As-Cを含む黒色土をわずかに含む。地山漸位層か?
5．ロームブロック・褐灰色粘質ブロック・炭化物+焼土粒を含む。
6．ロームブロック+As-Cを含む黒色土のくすんだ土のブロック。

0　1:60　2m

第158図　Ⅰ－A区42号住居

Ⅳ-A区1号住居

位　置　Q・R-33

写　真　PL65

形　状　西半分が中世によって壊されており、全体の形状は不明である。

面　積　残存部分13.68㎡

方　位　測定不可

重　複　17号溝（4号館）・73・76号土坑に掘り込まれている。

埋没土　不明。

床　面　遺構確認時には既に床面が削平されており、構築面での検出となった。遺構確認面から8cm掘り込んで構築面とする。この面に地山ロームブロックを多く含む暗褐色土で貼床を施していた。

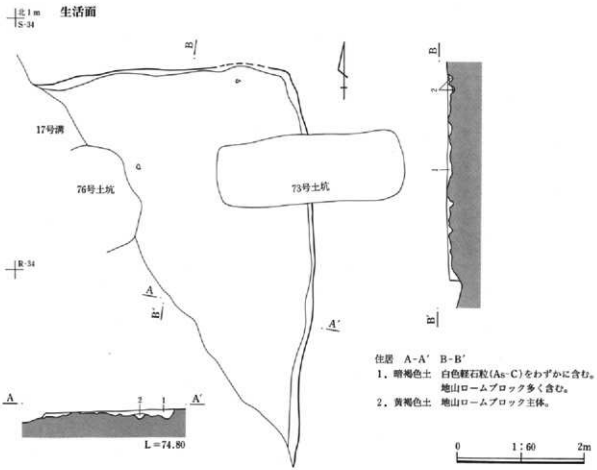
竈　残存する範囲では検出できなかった。

周　溝　検出されなかった。

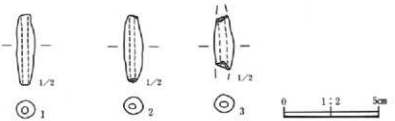
貯蔵穴　残存する範囲では検出できなかった。

遺　物　出土遺物は118点である。いずれも小破片で、図化し得たのは3点のみであった。土錘（1・2・3）は中央が膨らむ筒形で、指頭により調整されている。孔は直線的である。他に平安時代の土師器甕・須恵器坏の破片が出土していた。

所　見　出土遺物も少なく、遺構の形状も不明なため年代については判断し得ないが、平安時代の住居と考えられる。



第159図　Ⅳ-A区1号住居



第160図　Ⅳ-A区1号住居出土遺物

Ⅳ区1号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③釉土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土製品 土錘	埋没土	長さ 3.8 最大径1.0 孔径 0.4	①酸化焔②浅黄橙 ③細砂・赤色鉱物粒を含む。	中央が膨らむ筒形。体部外面指頭による整形。孔は直線的。小口は直線的に切れている。	小口一部欠損
2	土製品 土錘	埋没土	長さ 3.5 最大径1.0 孔径 0.3	①酸化焔 ②浅黄橙 ③細砂を含む。	中央が膨らむ筒形。体部外面指頭による整形。孔は直線的。小口は直線的に切れている。	ほぼ完形
3	土製品 土錘	埋没土	長さ － 最大径1.0 孔径 0.4	①酸化焔②灰白 ③細砂・角閃石を含む。	中央が膨らむ筒形。体部外面指頭による整形。孔は直線的。	両小口欠損

Ⅳ-A区2号住居

位　置　R・S-26

写　真　PL65

形　状　住居の中央部と西辺を中世の土坑群によって壊されているため全体の形状ははっきりしないが、長軸を南北にする小形長方形を呈すると考えられる。北・東辺の周溝はほぼ直線的に掘られている。隅は丸い。残存する範囲での規模は南北長4.0m・東西長2.3mである。

面　積　残存部分9.01m²

方　位　N－90°－E

重　複　中世の土坑・18号井戸に掘り込まれている。

埋没土　As-C・焼土・炭化物・土器片を含む黒褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認面から8cm掘り込んでそのまま床面とする。床面は平坦で、硬く踏み締まっていた。

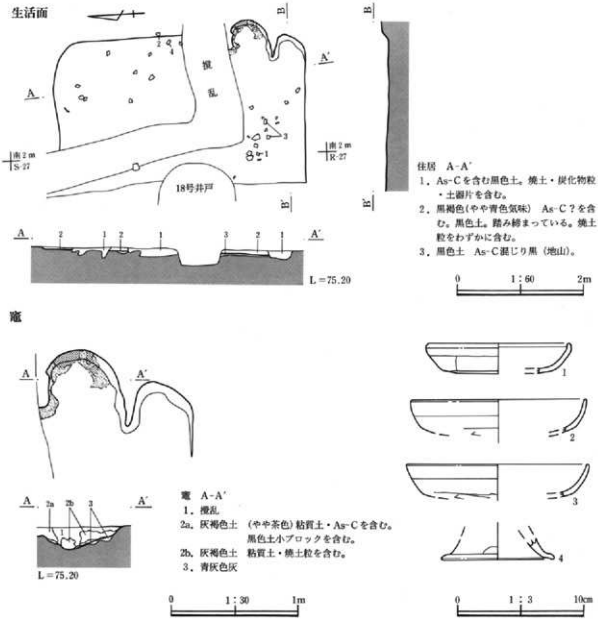
竈　東壁中央やや南寄りに設置してあった。住居の壁より内側に袖が張り出す形態の竈で、竈左袖4.0cm・右袖40cm基部が残存していた。焚口幅は64cmである。煙道部は壁から外へ60cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。燃焼部奥はよく焼け焼土化しており、底面には灰層が拡がっていた。

周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　残存する範囲では検出されなかった。

遺　物　出土遺物は50点弱である。遺物は床面全体に散在しているが、南東部にやや集中した分布を示している。いずれも小破片で、そのうち4点を図化した。土師器坏(1・2・3)は平底気味の底部から、やや内湾する体部をもつ。底部はヘラケズリ調整である。

所　見　出土遺物から平安時代(8世紀後半)の住居と考えられる。



第161図 Ⅳ-A区2号住居と出土遺物

Ⅳ区2号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	南東隅 床上 ＋3cm	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔②橙 ③細砂・角閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部荒削り。 内面 口～体部横ナデ。	口縁部破片
2	土師器 坏	遺構外 床上 ＋2.5cm	口径(13.7) 底径 － 器高 －	①酸化焔②橙 ③粗細砂・角閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部荒削り。 内面 口～底部横ナデ。	口縁部破片
3	土師器 坏	南東隅 床上 ＋4.5cm	口径(14.2) 底径 － 器高 －	①酸化焔 ②鈍い橙～鈍い黄橙 ③角閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部荒削り。 内面 口～底部横ナデ。	口縁部破片
4	土師器 台付甕	北東隅 床上 ＋3cm	口径 － 底径 (8.6) 器高 －	①酸化焔②鈍い橙 ③白色鉱物粒・角閃石を含む。	内外面 横ナデ。	台部破片

Ⅳ-A区3号住居

位　置　V・W-34・35　　**写　真**　PL66

形　状　住居の北辺・南東隅を中世溝に、煙道部分を現代の攪乱によって壊されており全体の形状ははっきりしないが、長軸を東西にする小形長方形を呈すると考えられる。残存した範囲の周壁はほぼ直線的に掘られている。南西隅は丸い。規模は東西長3.4mである。　　**面　積**　4.93m²(残存部分)

方　位　N－78°－E(竈)

重　複　25・12号溝に掘り込まれている。

埋没土　ほぼ床面付近まで攪乱を受けており、住居の埋没土について記録できなかった。

床　面　遺構確認面から20cm掘り込んで構築面とする。構築面は凸凹していた。この面に厚さ18cmの貼床を施し床面とする。床面はほぼ平坦であるが、竈前付近がやや低い。床面の深さは2cmである。

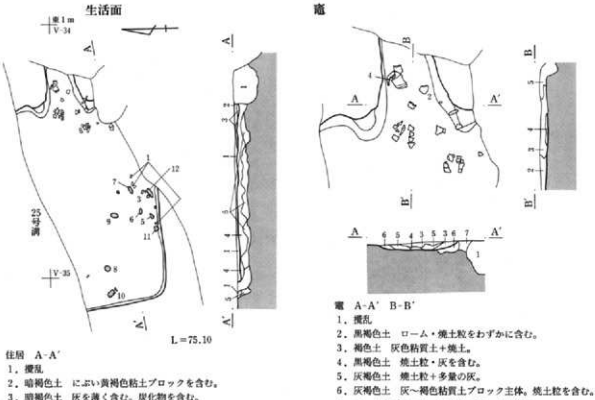
竈　東壁中央に設置してあったと考えられる。住居の壁より内側に袖が張り出す形態の竈で、焚口幅は65cmである。煙道部は残存する範囲で壁から外へ50cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。底面には灰層が拡がっていた。

周　溝　検出されなかった。

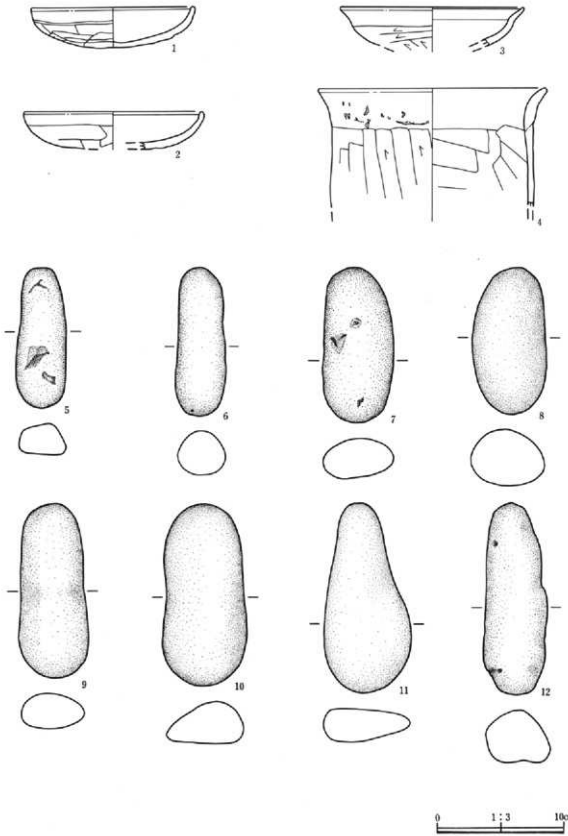
貯蔵穴　残存する範囲では検出できなかった。

遺　物　出土遺物は175点である。分布は竈内・南中央壁際に集中している。土師器坏(1・2)は丸底の底部から内湾する口縁部をもつ。同坏(3)は丸底の底部から外反し口縁部をもつ。土師器甕(4)は砲弾状体部をもつタイプである。竈内からの出土である。礫(5～12)は南中央壁際からまとまって出土した。特に使用された痕跡は認められなかった。

所　見　出土遺物から平安時代(8世紀後半)の住居と考えられる。西善尺司遺跡の平安時代住居のうち、最も古い時期の住居である。



第162図　Ⅳ-A区3号住居



第163図 Ⅳ-A区3号住居出土遺物

Ⅳ区3号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	南西隅 床上 +0.1cm	口径(12.8) 底径 － 器高 －	①酸化焔 ②鈍い橙 ③粗砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体～底部箆削り。 内面　口縁部横ナデ。体～底部ナデ。	口～底部2/3残存
2	土師器 坏	竈 床上 +4.5cm	口径(14.1) 底径 10.4 器高 －	①酸化焔 ②鈍い橙～橙 ③粗砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部箆削り。 内面　口～底部横ナデ	口～底部1/4残存
3	土師器 坏	南西隅 床上 +2.5cm	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔 ②鈍い橙 ③粗砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体～底部箆削り。 内面　口～底部横ナデ。	口縁部破片
4	土師器 甕	竈 床上 +1.5cm	口径(19.4) 底径 － 器高 －	①酸化焔 ②鈍い黄橙 ③粗砂・角閃石・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部上位縦方向箆削り。 内面　口縁部横ナデ。体部横方向箆ナデ。	口～体部破片

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	寸量 (cm, g)	石材	特徴
5	石製品 こもあみ石	南中央 壁際	長 11.0　幅 4.0 厚 2.5　重 180.0 完形	粗粒輝石 安山岩	棒状の円礫。加工痕、使用痕ともに認められない。
6	石製品 こもあみ石	南中央 壁際 完形	長 11.8　幅 4.0 厚 3.5　重 270.0	石英閃緑岩	棒状の円礫。加工痕、使用痕ともに認められない。
7	石製品 こもあみ石	南中央 壁際 完形	長 12.3　幅 5.6 厚 3.1　重 338.0	粗粒輝石 安山岩	棒状の円礫。加工痕、使用痕ともに認められない。
8	石製品 こもあみ石	南西 壁際 完形	長 11.5　幅 5.8 厚 4.5　重 463.0	粗粒輝石 安山岩	棒状の円礫。加工痕、使用痕ともに認められない。
9	石製品 こもあみ石	南中央 壁際 完形	長 13.8　幅 5.2 厚 2.8　重 351.0	ひん岩	棒状の円礫。加工痕、使用痕ともに認められない。
10	石製品 こもあみ石	南西 壁際 完形	長 14.5　幅 6.5 厚 3.3　重 485.0	変質安山岩	棒状の円礫。加工痕、使用痕ともに認められない。
11	石製品 こもあみ石	南中央 壁際 完形	長 15.0　幅 6.8 厚 2.7　重 403.0	粗粒輝石 安山岩	棒状の円礫。加工痕、使用痕ともに認められない。
12	石製品 こもあみ石	南中央 壁際 完形	長 15.2　幅 5.0 厚 4.1　重 503.0	黒色片岩	棒状の円礫。加工痕、使用痕ともに認められない。

Ⅳ-A区4号住居

位　置　U-33・34　　**写　真**　PL67

形　状　住居北辺・煙道部分を現代の攪乱によって壊されており、全体の形状ははっきりしない。周壁は南辺がやや外に膨らんで掘られている。規模は東西長3.5mである。

面　積　残存部分7.48㎡

方　位　N－80°－E

重　複　検出した範囲ではなかった。

埋没土　As-Cを含む黒褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認面から6cm掘り込んでそのまま床面とする。床面は平坦で、灰と焼土が互層に堆積し、踏み締まっていた。

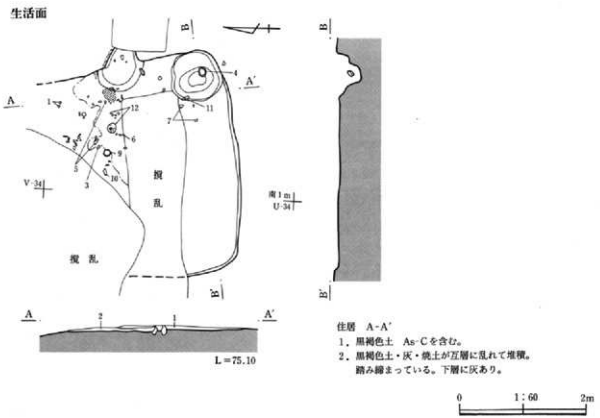
竈　東壁中央に設置してあった。住居の壁より内側に袖がほとんど張り出さない形態の竈で、焚口幅は46cmである。煙道部は残存する範囲で壁から外へ27cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。竈左袖付近に棒状礫が出土した。竈心材として使用されていたと考えられる。燃焼部はよく焼け一部焼土化しており、底面には灰層が検出された。

周　溝　検出されなかった。

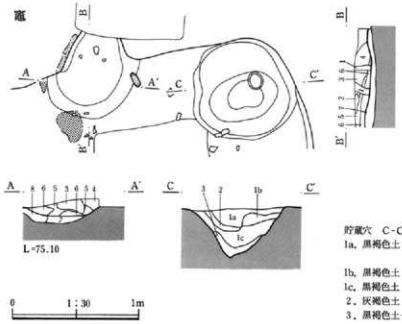
貯蔵穴　東南隅に直径80cm、深さ30cmで円形の貯蔵穴を検出した。上層は焼土・灰・炭化物を含む黒褐色土、下層は黒褐色土とロームブロック主体の土で埋まっていた。

遺　物　出土遺物は150点である。分布は竈前に集中している。土師器坏(4・5)は、平底の底部から口縁部が外反する。特に(5)は墨書土器で、体部に「本」が墨書してあった。床面直上からの出土である。須恵器蓋(12)はわずかな返りをもち摘みが付く。土師器甕(11)は口縁部が「コ」の字状を呈する。

所　見　出土遺物から、平安時代(9世紀後半)の住居と考えられる。

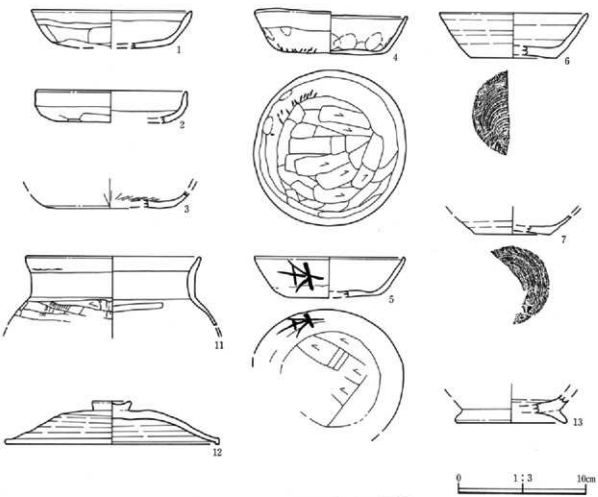


第164図　Ⅳ-A区4号住居



竈　A-A'　B-B'
1．攪乱
2．灰を多く含む。
3．粘土ロームブロックを多く含む。
4．3に似るが、粘土・ロームが少ない。
5．黒褐色土　As-C・焼土粒含む。
6．黒褐色土　灰＋焼土ブロックなどが互層に堆積。複数の床面に見える。
7．灰＋焼土小ブロック。(貼床)
8．暗褐色土　As-Cを含む黒色土。焼土粒をわずかに含む。(貼床)

貯蔵穴　C-C'
1a．黒褐色土　As-Cを含む黒色土。焼土粒・灰・炭化物粒をわずかに含む。
1b．黒褐色土　As-Cを含む黒色土。炭化物をわずかに含む。
1c．黒褐色土　1a層＋ローム小ブロック・灰
2．灰褐色土　灰を主体。焼土粒を含む。
3．黒褐色土＋ロームブロック。



第185図　Ⅳ-A区4号住居竈と出土遺物(1)

第186図 Ⅳ区4号住居出土遺物(2)

Ⅳ-A区4号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	北東隅 床直 +0.1cm	口径(12.6) 底径 9.6 器高 3.0	①酸化焔②純い橙③ 細砂・角閃石・白色 鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部篦 削り。 内面 口～底部横ナデ。	口～底部1/4 残存
2	土師器 坏	埋設土	口径(12.0) 底径 － 器高 －	①酸化焔②純い橙 ③粗細砂・角閃石を 含む。	外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部篦 削り。 内面 口～底部横ナデ。	口～体部破片
3	土師器 坏	中央 床下 －0.6cm	口径 － 底径(10.0) 器高 －	①酸化焔 ②橙 ③粗細砂を含む。	外面 体部指ナデ・指押さえ。底部篦削り。 内面 体～底部ナデ。放射状篦磨き。	底部破片
4	土師器 坏	貯蔵穴内 +13.8cm	口径 12.2 底径 8.4 器高 3.4	①酸化焔②明赤褐 ③粗細砂・角閃石・ 白色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部篦 削り。 内面 口～底部横ナデ。体部指頭痕有り。	完形
5	土師器 坏	中央 床上 +0.2cm	口径 11.9 底径 7.8 器高 3.3	①酸化焔②橙 ③粗細砂・白色鉱物 粒・角閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。「本」の 墨書有り。底部篦削り。 内面 口～底部横ナデ。	口～底部1/2 残存 墨書土器
6	須恵器 坏	中央 床上 +9.2cm	口径(11.6) 底径 (6.8) 器高 (3.6)	①還元焔②灰白 ③粗細砂・赤色鉱物 粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切 り。無調整。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1/2 残存
7	須恵器 坏	南東隅 床上 +0.1cm	口径 － 底径 6.0 器高 －	①還元焔②青灰 ③白・黒色鉱物粒を 含む。	外面 体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面 体～底部回転ナデ。	底部破片
8	須恵器 坏	遺構外 床上 +1.4cm	口径 － 底径 5.6 器高 －	①還元焔 ②灰 ③粗細砂を含む。	外面 体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面 体～底部回転ナデ。	底部破片
9	須恵器 皿	中央 床上 +8.5cm	口径 13.3 底径 5.8 器高 3.2	①還元焔②灰白 ③白色鉱物粒・角閃 石を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切 り。無調整。付高台。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1/2 残存
10	須恵器 高台付椀	中央 床下 －2.4cm	口径 13.2 底径 5.7 器高 3.4	①還元焔②灰白 ③中礫・粗細砂・角 閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部左回転糸切 り。無調整。付高台。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	完形
11	土師器 甕	貯蔵穴 内?床上 +0.8cm	口径 13.8 底径 － 器高 －	①酸化焔 ②橙 ③細砂を少量含む。	外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篦削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篦ナデ。	口縁部破片
12	須恵器 蓋	中央 床下 －0.7cm	口径(16.8) 器高 3.5	①還元焔②黄灰 ③粗細砂・白色鉱物 粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部右回転ナデ。天井部右回転 糸切り後、裏返して右回転篦削り。摘みを付す。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	1/3残存
13	須恵器	埋設土	口径 － 底径 － 器高 －	①還元焔 ②灰 ③黒色鉱物粒を含む。	外面 体部回転ナデ。付け高台。 内面 体部回転ナデ。	高台部のみ 残存

Ⅳ-A区5号住居

位　置　U・V-32・33

写　真　PL68

形　状　住居西・南部を現代の攪乱によって壊されており、全体の形状ははっきりしないが、長軸を南北にする小形長方形を呈すると考えられる。周壁はほぼ直線的に掘られている。隅は丸い。規模は推定南北長4.0mである。

面　積　残存部分8.15m²

方　位　N－89°－E

重　複　Ⅳ-A区4号住居・16号掘立柱建物に掘り込まれている。

埋没土　As-C・焼土・炭化物を含む暗褐色土で埋まっていた。

床　面　遺構確認面から4cm掘り込んで構築面とする構築面は凸凹している。中央やや南寄りに床下土坑を1基検出した。この面に厚さ2cmの貼床を施し床面とする。床面は平坦で、硬く締まっていた。床面までの深さは2cmである。

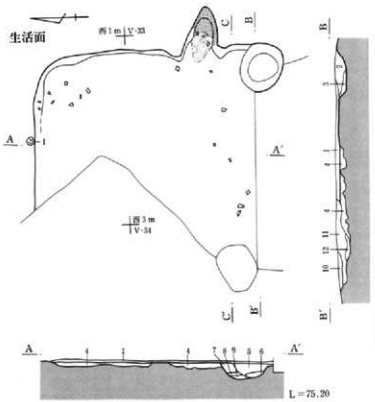
竈　東壁中央やや南寄りにに設置してあった。住居の壁より内側に袖がやや張り出す形態の竈で、竈右袖18cm・左袖8cm基部が残存していた。焚口幅は60cmである。煙道部は壁から外へ64cm突出していた。燃焼部は平坦で、煙道部にかけて緩やかに傾斜していた。燃焼部はよく焼けており、煙道にかけて焼土化していた。底面には灰が拡がっていた。

周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　南東隅に直径78cm・深さ19cmで円形の貯蔵穴と考えられる土坑を検出した。炭化物・焼土を含む暗褐色土で埋まっており、底面には灰層堆積していた。土器片が出土している。

遺　物　出土遺物は200点程である。分布は疎らで、上層からの攪乱により現位置に動いていない。いずれも小破片で図化し得たのは2点のみであった。

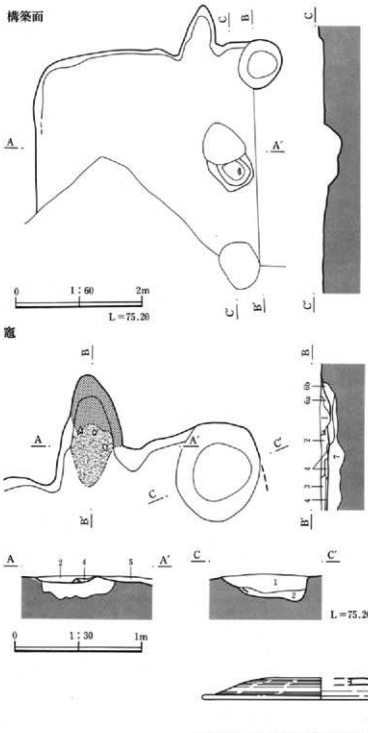
所　見　出土遺物から平安時代(9世紀後半)の住居と考えられる。



住居　A-A'　B-B'
1．暗褐色土　As-Cを少量含む。炭化物・焼土をわずかに含む。
2・3．貯蔵穴土層注記参照。
4．暗褐色土　As-Cを若干含む。焼土粒をわずかに含む。
5．黒褐色土　As-Cを含む黒色土。焼土粒を含む。
6．焼土ブロック＋灰ブロック＋ロームブロック。下層に灰褐色土層。
7．砂質ロームブロック。
8．1層＋ロームブロック。
9．灰黄褐色土　ロームブロック・焼土粒をわずかに含む。
10．暗褐色土　As-C焼土粒若干含む。
11．暗褐色土　10層より焼土の混入が多い。
12．暗褐色土　10層より焼土の混入が少ない。

0　1:60　2m

第167図　Ⅳ-A区5号住居



竈 A-A′ B-B′

1. 焼土ブロック主体。青灰色灰ブロック含む。〔天井崩落土〕
2. 暗褐色土 As-C・焼土粒を若干含む。締まり良。
3. 暗褐色土 As-Bを含む。後世の攪乱。
4. 暗褐色土 灰を多量に含む。焼土粒・粘質土を含む。(竈の使用面)
5. 暗褐色土 As-Cを含む。焼土粒を極僅かに含む。
6a. 焼土ブロック+灰小ブロック。
6b. 黒色土 As-Cを含む黒色土。焼土小ブロックを含む。
7. にぶい黄褐色土 地山砂質ロームブロック+黒褐色土+焼土粒+灰褐色粘土。

貯蔵穴 セクションC-C′

1. 暗褐色土 As-Cを少量含む。炭化物・焼土をわずかに含む。
2. 暗褐色土 1層に似るがAs-Cが少なく、焼土が多い。灰層を含む。土器片出土。

0 1:3 10cm

第168図 Ⅳ-A区5号住居と出土遺物

Ⅳ-A区5号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 坏	遺構外 床上 +3.5cm	口径 − 底径 − 器高 −	①還元焔②暗灰黄 ③中礫あり。白色鉱物粒を含む。	外面 体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面 体〜底部回転ナデ。	底部破片
2	須恵器 蓋	中央 床下堀方 −16.5cm	口径(18.6) 器高 −	①還元焔②黄灰 ③馬・白色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部右回転ナデ。天井部裏返して右回転篦削り。 内面 口縁部横ナデ。体〜天井部回転ナデ。	破片

Ⅳ-A区6号住居

位　置　V-32・33、W-32

写　真　PL68

形　状　住居の北半分を中世の溝によって壊され、全体の形状は不明である。検出した範囲では周壁はほぼ直線的に掘られ、隅も丸い。

面　積　残存部分4.32㎡

方　位　計測不可

重　複　12号溝に掘り込まれている。

埋没土　As-C・焼土土器片を含む黒色土によって埋まっていた。

床　面　遺構確認面から20cm掘り込んで構築面とする。構築面は凸凹していた。この面に厚さ12cmの貼床を施し床面とする。床面の深さは8cm程である。床面は平坦であった。

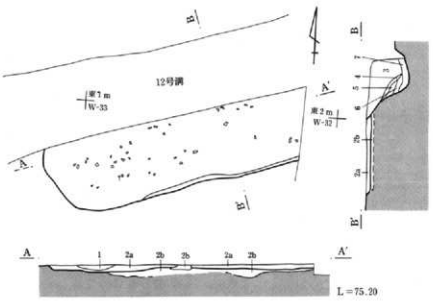
竈　残存した範囲では検出されなかった。

周　溝　検出されなかった。

貯蔵穴　検出されなかった。

遺　物　出土遺物は320点である。分布は床面全体に散在していた。いずれも小破片で、そのうち8点を図化した。土師器坏(1)は平底の底部から外反する口縁部をもつ。土師器甕(4)は崩れた「コ」の字状口縁の特徴をもつ。須恵器(6・7)はやや小さめの平底である。(2)と(5)は混入と考えられ、遺物にはやや時期差がみられる。

所　見　出土遺物から、平安時代(9世紀後半)の住居と考えられる。



住居　A-A'　B-B'

1．撹乱。

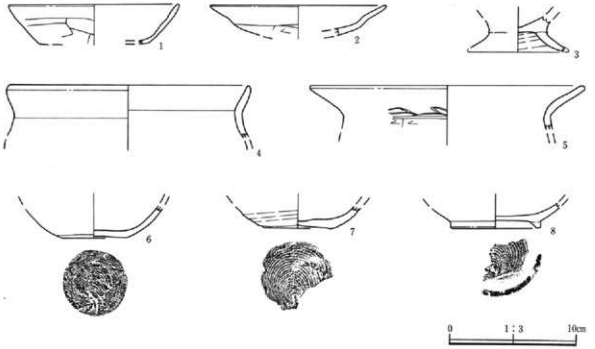
2a．黒色土　As-Cを含む黒色土。焼土粒・焼土小ブロックを含む。土器片を多く含む。

2b．黒色土　1a層に似るが、夾雑物が少ない。

3・4・5・6・7．Ⅳ区12号溝埋没土。

0　1:60　2m

第169図　Ⅳ-A区6号住居



第170図 Ⅳ-A区6号住居出土遺物

Ⅳ-A区6号住居出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	埋設土	口径(13.4) 底径 — 器高 —	①酸化焔②橙 ③粗細砂を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部横方向箆削り。底部箆削り。 内面 口～底部横ナデ。	口～底部破片
2	土師器 盤	埋設土	口径(13.8) 底径 — 器高 —	①酸化焔②橙 ③粗細砂・角閃石を含む。	外面 口～体部横ナデ。底部箆削り。 内面 口～底部横ナデ。	口縁部破片
3	土師器 台付甕	埋設土	口径 — 底径 — 器高 —	①酸化焔②灰赤～暗赤褐③粗細砂・角閃石を含む。	内外面 台部横ナデ。	台部破片 端部欠損
4	土師器 甕	埋設土	口径 — 底径 — 器高 —	①酸化焔②浅黄橙 ③細砂・角閃石を少量含む。	内外面 口縁部横ナデ。	口縁部破片
5	土師器 甕	埋設土	口径 — 底径 — 器高 —	①酸化焔②橙③細砂・角閃石・雲母を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向箆削り。 内面 口縁部横ナデ。	口縁部破片
6	須恵器 坏	南西隅 床上 ＋6cm	口径 — 底径 5.6 器高 —	①還元焔②褐灰～灰褐③粗細砂・白色鉱物粒を含む。	外面 体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面 体～底部回転ナデ。	体～底部破片
7	須恵器 坏	埋設土	口径 — 底径 5.4 器高 —	①還元焔②灰 ③粗細砂・白色鉱物粒を含む。	外面 体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面 体～底部回転ナデ。	底部破片
8	須恵器 高台付椀	埋設土	口径 — 底径 6.7 器高 —	①還元焔②黄灰③粗細砂・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面 体部回転ナデ。底部回転糸切り(回転方向不明)。無調整。付高台。 内面 体～底部回転ナデ。	底部破片

３．掘立柱建物

Ⅰ－Ａ区４号掘立柱建物

位　置　R-109・110

写　真　ＰＬ69

重　複　Ⅰ－Ａ区４号溝に掘り込まれている。

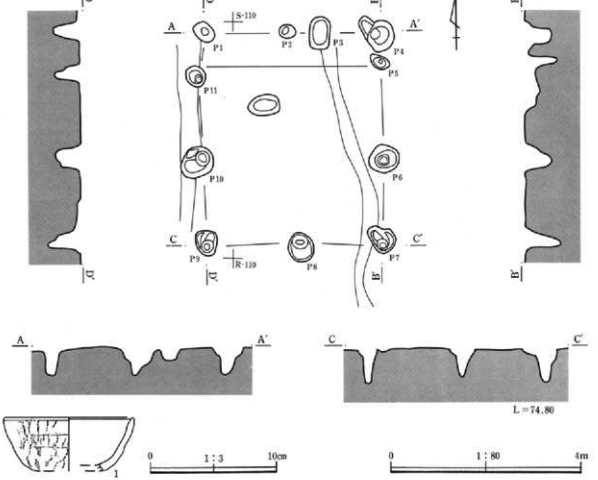
形　状　南北棟建物で身舎は２間×２間(3.88×3.38m)の規模を持つ。北辺に1.02～0.64mの幅で庇または縁が付く。柱間寸法は梁行寸法北列(Ｐ11～Ｐ４)で3.88m、南列(Ｐ９～Ｐ７)は1.94－1.94mと等間である。桁行寸法は西列(Ｐ11～Ｐ９)、東列(Ｐ５～Ｐ７)とも1.64m－1.84mと対応する間口が等しい。の同一寸法で、西間口が広い。

主軸方位　Ｎ－４°－Ｅ

柱　穴　柱穴掘り方は、直径0.40～0.60m、深さ0.70m程の円形あるいは隅丸方形を呈する。柱根は検出できなかった。

遺　物　柱穴掘り方の埋没土から、土師器坏(1)が出土した。

所　見　北列は、前橋市教育委員会が調査を行ったＢ-１に相当する。柱穴の埋没土から、平安時代の掘立柱建物と判断した。



第171図　Ⅰ－Ａ区４号掘立柱建物と出土遺物

Ⅰ－Ａ区４号掘立柱建物出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	埋没土	口径(10.2) 底径　－ 器高　－	①酸化焔　②橙 ③細砂・角閃石を含む。	外面　口縁端部横ナデ。体部無調整。いわゆる型痕。 内面　口～底部ナデ。	口縁部破片

4．井戸

Ⅰ-B区4号井戸

位置 M-90・91　　**写真** PL70

重複 なし。

形状 後世の攪乱と調査時のトレンチによりやや変形しているが、平面形は円形・断面形は擂り鉢形を呈する。

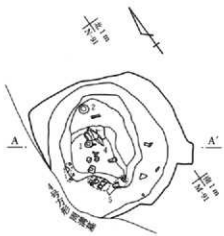
規模 直径2.16m

底面 遺構確認面から0.95m掘り込んで底面とする。底面はほぼ平坦である。底面の標高は73.56mである。

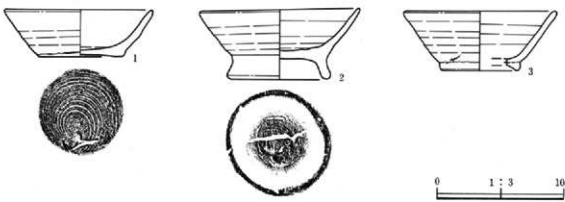
埋没土 上層は黒褐色土で埋まっていた。下層は黒色シルト質土と細砂が互層に堆積していた。

遺物 出土遺物は77点である。須恵器坏(1)、同高台付椀(2・3)、須恵器甕(4)が底部付近からまとまって出土した。(5)は須恵器甑の底部で、内面に孔が対角線に2つ空いていた。

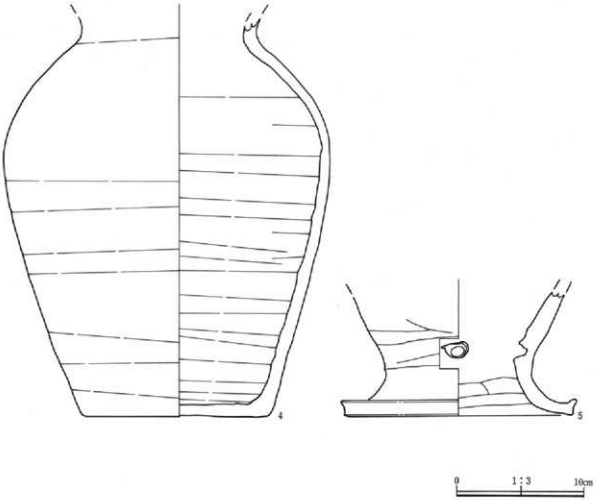
所見 埋没土と出土遺物の時期が集中することから、平安時代(10世紀前半)の井戸と考えたい。



1．暗褐色土　As-Bの上層が鋤込まれ攪乱を受けている。
2a．黒褐色土　As-Cと考えられる軽石粒を多く含む。土器片・礫を含む。焼土粒・炭化物粒をわずかに含む。
2b．黒褐色土　黒色気味。炭化物粒・焼土粒・土器片・小礫を含む。
2c．黒褐色土　褐色気味。鉄分の浸透あり。焼土粒・炭化物粒を含む。
3．暗褐色土　鉄分の沈着あり。粘質土を含む。
4．黒褐色土　黒色粘質土・シルト質土を含む。焼土・炭化物粒を含む。
5．黒色シルト質土　滞水によるノロ状の堆積？
6．黒色シルト質土＋黄白色シルト。
7．黒色シルト質土＋細砂(変色したAs-YP)。
8．As-YP粒・As-YP＋灰地山ブロック＋黒色シルト。壁の崩落土。



第172図　Ⅰ-B区4号井戸と出土遺物(1)



第173図　Ⅰ-B区4号井戸出土遺物(2)

Ⅰ-B区4号井戸出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 坏	+17cm	口径 11.8 底径 6.8 器高 3.7	①還元焔②灰 ③細砂・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	完形
2	須恵器 足高高台付椀	+25cm	口径 12.5 底径 7.6 器高 5.5	①還元焔 ②灰白 ③粗細砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。丁寧で痕あり。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。高台横ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	完形 焼き歪みあり
3	須恵器 高台付椀	埋没土	口径(12.0) 底径 (5.8) 器高 4.7	①還元焔②オリーブ黒③細砂・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部切離方法不明。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部破片
4	須恵器 大型甕	+14cm	口径 － 底径 15.4 器高 －	①還元焔②灰白③粗細砂・赤・白色鉱物粒。角閃石を含む。	内外面　口縁部欠損。胴～底部回転ナデ。底部篦ナデ。	口縁部欠損
5	須恵器 甑	+82cm	口径 － 底径 17.8 器高 －	①還元焔②黄灰 ③粗細砂・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　体～底部回転ナデ。 内面　体～底部回転ナデ。指頭による調整。蒸気孔の支えあり。	底部破片

II-B区7号井戸

位　置　I-87　　**写　真**　PL70

重　複　II区7号溝に掘り込まれている。9号井戸と重複していると考えられるが、土層観察からは新旧関係を判断できなかった。

形　状　底部付近のみの検出のため全体の形状ははっきりしない。残存した範囲での平面形は隅丸正方形・断面形は不明である。

規　模　長径0.6m　短径0.46m

底　面　遺構確認面から0.97m掘り込んで底面とする。底面はほぼ平坦である。底面の標高は73.42mである。

埋没土　不明。

遺　物　礫が底部付近から多数出土した。土器の出土は少なく10点余りであった。いずれも小破片で図化し得なかった。

所　見　埋没土と重複するII区7号溝より古いことから、平安時代の井戸と考えたい。

II-B区9号井戸

位　置　I-87　　**写　真**　PL70

重　複　II区7号溝に掘り込まれている。7号井戸と重複していると考えられるが、土層観察からは新旧関係を判断できなかった。

形　状　重複のため全体の形状ははっきりしないが、平面形は隅丸正方形・断面形は井筒形から上部は外反すると考えられる。

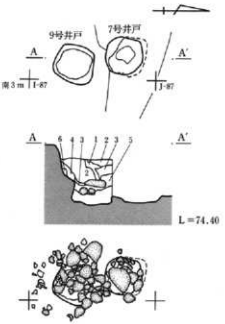
規　模　直径0.6m

底　面　遺構確認面から0.92m掘り込んで底面となる。底面はほぼ平坦である。底面の標高は73.45mである。

埋没土　上層は褐灰色粘質土・ロームブロックにより埋まっていた。下層は記載漏れのため土層については不明である。礫は褐灰色粘質土の下層に集中していた。

遺　物　土器は須恵器高台付椀の小破片が1点出土したのみであった。礫が底部からやや上位で出土した。

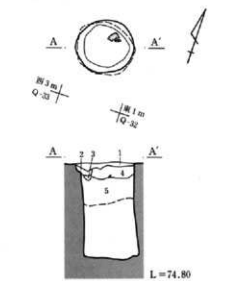
所　見　埋没土と7号溝より古いことから、平安時代の井戸と考えたい。



1．攪乱
2．褐灰色土　ローム粒・焼土粒を斑状に含む。
3．灰褐色粘質土　シルト・細砂がラミナ状に堆積。
4．ローム大小ブロック・褐灰色粘土ブロック。
5．灰褐色細砂
6．黒色土ブロック

0　1:60　2m

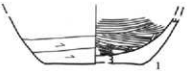
第174図　II-B区7号・9号井戸

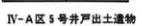


1．暗灰色砂質土　As-B含む。
2・3．IV区18号溝埋没土。
4．黒褐色土　As-Bを含む黒色土。ロームを若干含む。
5．黒褐色土　4層に似るが、As-C少なくロームやや多い。締まりやや弱い。

0　1:60　2m

第175図　IV-A区5号井戸





第176図　Ⅳ-A区5号井戸出土遺物

Ⅳ-A区5号井戸　出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏?	不明	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②外：鈍い黄橙、内：黒③粗細砂・赤色鉱物粒	外面　体部回転ナデ。底部篦ナデ。 内面　内面黒色処理後、細かい篦磨き。	底部破片 黒色土器

Ⅳ-A区5号井戸

位　置　Q-32　　写　真　PL71

重　複　Ⅳ区18号溝に掘り込まれる。

形　状　平面形は円形・断面形は井筒形である。

規　模　直径0.91m

底　面　遺構確認面から1.51m掘り込んで底面となる。底面はほぼ平坦である。底面の標高は73.20mである。

埋没土　上層に攪乱されたAs-Bが堆積していた。中層は黒褐色土で埋まっていた。下層は記録できなかった。

遺　物　出土遺物は3点である。土師器坏(1)は内面黒色処理後、細かい磨きが施されている。

所　見　最上層に攪乱されたAs-Bが堆積しているが埋没土中にAs-Bが含まれないことと、遺物の年代から本遺構が掘削・使用された時期はAs-B降下前の平安時代であると考えられる。

Ⅳ-B区7号井戸

位　置　N-30・31　　写　真　PL71

重　複　なし。

形　状　平面形は円形・断面形は井筒形であるが、上半部はアグリのため不定形である。

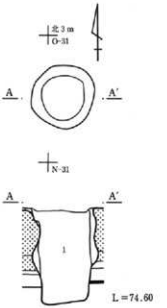
規　模　直径1.0m

底　面　遺構確認面から1.51m掘り込んで底面となる。底面はほぼ平坦である。底面の標高は72.98mである。

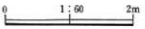
埋没土　暗褐色砂質土・少量のローム粒で埋まっていた。

遺　物　出土しなかった。

所　見　埋没土からAs-B降下前の平安時代の井戸と考えられる。



1. 暗褐色土　砂粒とローム粒の混土。炭化粒・軽石(Hr-FP・As-C)混入。



第177図　Ⅳ-B区7号井戸

Ⅳ-B区8号井戸

位　置　L・M-30　　**写　真**　PL71

重　複　Ⅳ区17号溝に掘り込まれていた。

形　状　一部削られているが平面形は楕円形・断面形は朝顔形と考えられる。

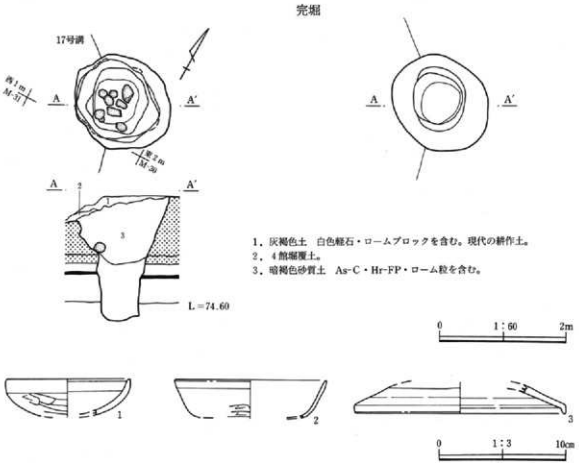
規　模　長径1.67m　短径1.37m

底　面　遺構確認面から1.97m掘り込んで底面となる。底面はほぼ平坦である。底面の標高は72.55mである。

埋没土　上層は暗褐色砂質土で埋まっていた。下層は調査できなかったため不明である。

遺　物　出土遺物は32点である。礫は3層下層付近に集中して出土した。土師器坏(1)は丸底の底部から内湾する口縁部をもつ。

所　見　埋没土と出土遺物から平安時代（9世紀前半）の井戸と考えたい。



第178図　Ⅳ-B区8号井戸と出土遺物

Ⅳ-B区8号井戸出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	埋没土	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②鈍い橙 ③細砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。坏部横方向箆削り。 内面　口縁部横ナデ。坏部ナデ。	口縁部破片
2	土師器 坏	埋没土	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②鈍い橙～橙③細砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。底部箆削り。 内面　口縁部横ナデ。体～底部ナデ。	口縁部破片
3	須恵器 蓋	埋没土	口径　－ 底径　－ 器高　－	①還元焔 ②灰白 ③細砂を含む。	内外面　回転ナデ。	口縁部破片

Ⅳ-A区12号井戸

位　置　P-33

写　真　PL72

重　複　なし。

形　状　平面形は不定形・断面形は朝顔形である。

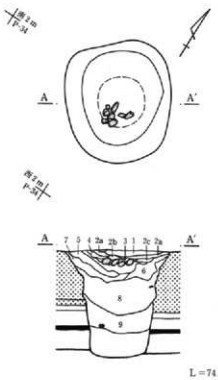
規　模　長径1.68m　短径1.68m

底　面　遺構確認面から1.68m掘り込んで底面となる。底面はほぼ平坦である。底面の標高は72.94mである。

埋没土　上層はAs-Bの二次堆積層・黒褐色土・焼土礫が複雑に堆積している。下層は黒褐色・暗褐色砂質土で埋まっていた。

遺　物　出土遺物は2点である。礫は2b下に集中していた。上層の埋没土中から骨鏃器と思われる石製品2点が出土した。内外面とも鑿によるハツリの痕がみられる。

所　見　埋没土と上層のAs-Bの二次堆積と考えられる土層の堆積から、掘削・使用時期はAs-B降下前の平安時代の井戸と考えたい。



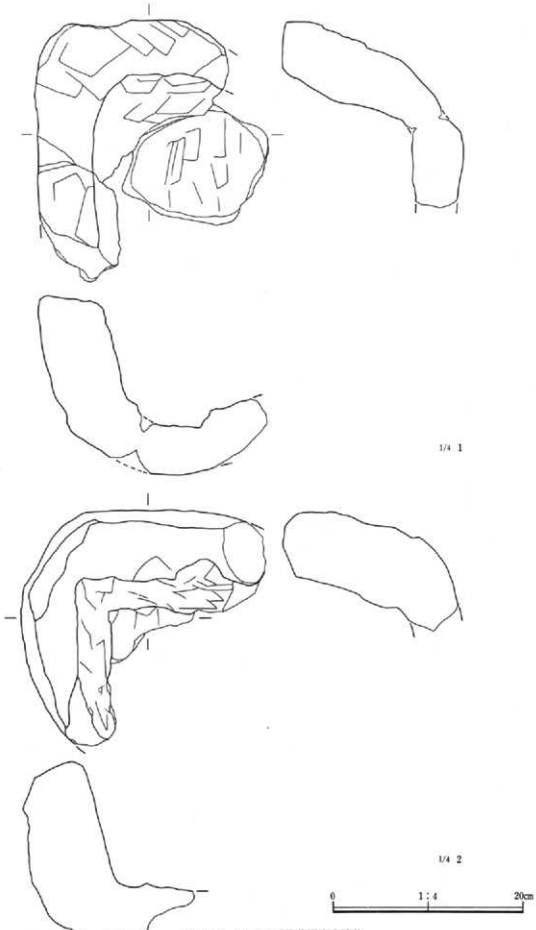
1．灰褐色砂質土　As-Bを含む黒色土。ローム小ブロックをわずかに含む。細砂を含む。
2a．As-Bを含む黒色土＋多量の細砂。ローム小ブロックをわずかに含む。
2b．黒褐色砂質土　As-Bなのか細砂なのか不明瞭。
2c．As-Bを含む黒色土　黒褐色粘質土を含む。
3．黒褐色土　As-Bを含む黒色土。やや紫色気味。薄い焼土層と灰白色灰が互層に堆積。
4．細砂　As-Bを含むか？
5．As-Bを含む黒色土　1に似るが中小ロームブロックを斑状に含む。
6．暗褐色粘土ブロック＋細砂・As-Bを含む黒色土。
7．黒褐色砂質土
8．黒褐色砂質土　暗褐色粘土・As-Bブロックを含む。
9．暗褐色砂質土　ロームブロックを含む。

0　1:60　2m

第179図　Ⅳ-A区12号井戸

Ⅳ-A区12号井戸出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	寸法 (cm、g)	石材	特徴
1	石製品 骨鏃器	＋144cm 1/4	長(48.0)　幅(45.0) 厚　－　重　4750	二ツ岳 軽石	内外面ともに幅2～3cm程の鑿による調整痕有り。
2	石製品 骨鏃器	＋146cm 破片	長(45.0)　幅(45.6) 厚　重　5550	二ツ岳 軽石	内外面ともに幅2～3cm程の鑿による調整痕有り。



第180図 Ⅳ-A区12号井戸出土遺物

Ⅳ-A区19号井戸

位　置　Q-26

写　真　PL72

重　複　なし。

形　状　平面形はやや不整形な円形・断面形は不定形な井筒形である。

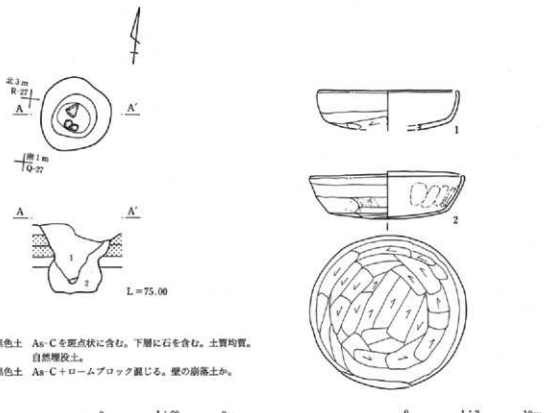
規　模　直径1.15m

底　面　遺構確認面から1.29m掘り込んで底面となる。底面はほぼ平坦である。底面の標高は73.80mである。

埋没土　黒色土で埋まっていた。

遺　物　出土遺物は27点である。礫は1層の下層から数点出土した。土器は2点を図化した。埋没土中からの出土ではあるが、出土位置は不明である。土師器坏(2)は完形であった。(1・2)とも平底気味の底部から内湾する口縁部をもつ。

所　見　埋没土と出土遺物の時期が集中することから、平安時代(8世紀末～9世紀初頭)の井戸と考えたい。



1．黒色土　As-Cを斑点状に含む。下層に石を含む。土質均質。自然埋没土。
2．黒色土　As-C＋ロームブロック混じる。壁の崩落土か。

第181図　Ⅳ-A区19号井戸と出土遺物

Ⅳ-A区19号井戸出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	不明	口径(10.8) 底径 － 器高 －	①酸化焔②明褐 ③細砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部篦削り。内面　口縁～体部横ナデ・指頭による調整。底部ナデ。	ロ～体部破片
2	土師器 坏	不明	口径 12.0 底径 9.4 器高 3.4	①酸化焔②純い赤褐 ③粗細砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部篦削り。内面　口縁～体部横ナデ・指頭による調整。底部ナデ・指頭による調整。	完形

Ⅳ-A区20号井戸

位　置　U・V-30　　**写　真**　PL73

重　複　なし。

形　状　平面形は楕円形・断面形は不定形である。

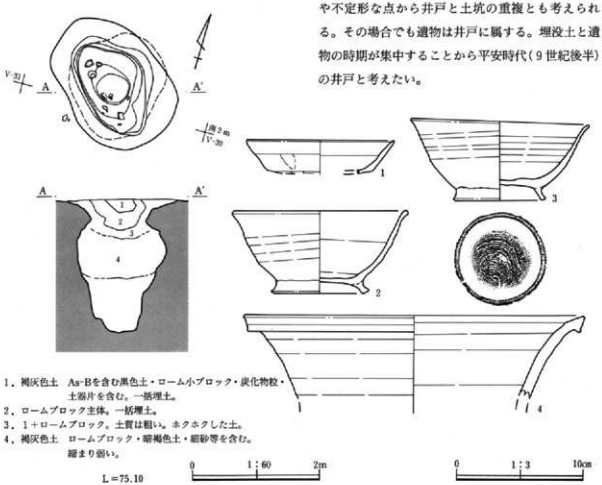
規　模　長径2.21m　短径1.58m

底　面　遺構確認面から2.06m掘り込んで底面となる。底面は中央部がやや窪み、標高は72.91mである。

埋没土　下層は調査できなかったため不明である。中層は褐灰色土、上層は褐灰色土とロームブロックを中心に埋まっていた。上層と中・下層では埋没土の堆積状況が異なる。

遺　物　出土遺物は37点である。そのうち4点を図化した。

所　見　上層と下層の埋没土の違いや、平面形のやや不定形な点から井戸と土坑の重複とも考えられる。その場合でも遺物は井戸に属する。埋没土と遺物の時期が集中することから平安時代(9世紀後半)の井戸と考えたい。



第182図　Ⅳ-A区20号井戸と出土遺物

Ⅳ-A区20号井戸出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	埋没土	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔②純い橙 ③細砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部荒削り。 内面　口縁部横ナデ。体～底部ナデ。	口～体部破片
2	須恵器 高台付椀	埋没土	口径(14.4) 底径(8.9) 器高 6.2	①還元焔②灰 ③細砂・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1／4残存
3	須恵器 高台付椀	＋44.5cm	口径 14.4 底径 8.9 器高 6.2	①還元焔②灰 ③細砂・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	ほぼ完形
4	須恵器 甕	＋211cm	口径(26.8) 底径 － 器高 －	①還元焔②灰 ③細砂・白色鉱物粒を含む。	内外面　回転ナデ。自然釉付着。	口縁部破片

Ⅳ-A区21号井戸

位　置　U-30、U・V-31　　**写　真**　PL73・74

重　複　なし。

形　状　平面形は楕円形・断面形は不定形である。

規　模　長径2.00m　短径1.66m

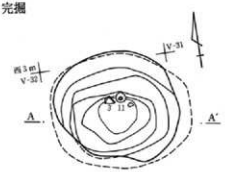
底　面　遺構確認面から2.17m掘り込んで底面となる。底面は擂り鉢形で、中央が窪んでいる。底面の標高は72.80mである。

埋没土　最下層は調査できなかったため不明である。上層は暗褐色土・礫・ロームブロックで埋まっていた。礫は特に1a層に集中している。中・下層は黒褐色粘質土で埋まっており、使用時の滞水による堆積と考えられる。

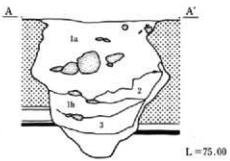
遺　物　出土遺物330点余りである。須恵器坏(3)(4)・灰釉陶器(11)は墨書土器である。(3)は「嶋？」が内面に、(4)は「叶」が内外面、(11)は「士」が底部外面に墨書されていた。他に灰釉陶器耳皿(13)・瓦(15)が出土している。

所　見　埋没土と遺物の時期が集中することから、平安時代(9世紀後半)の井戸と考えたい。

完掘

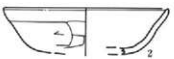


遺物出土状況



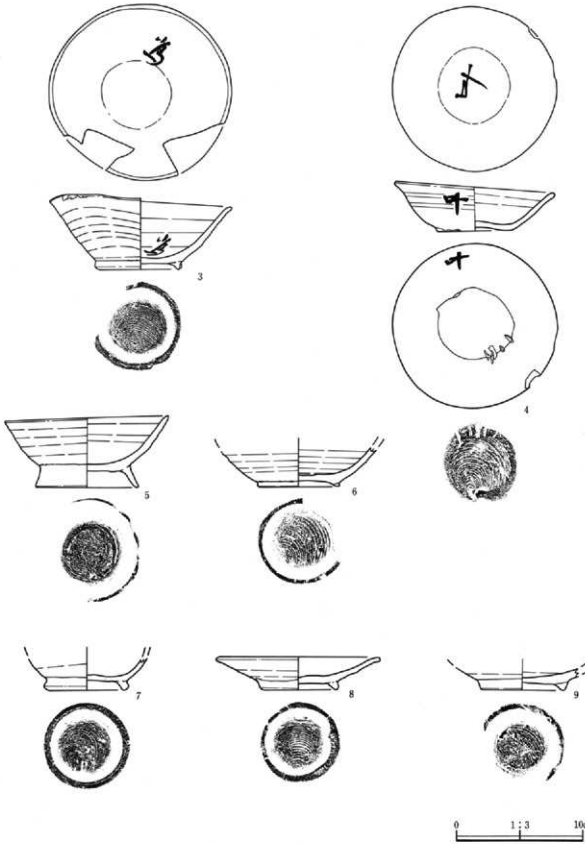
1a．暗褐色土　白色軽石(As-B)・焼土粒・炭化物粒を少量含む。
1b．暗褐色土　シルト・ローム小ブロックを含む。水成堆積。
2．ローム大ブロック主体。壁の崩落土。
3．黒褐色粘質土　灰白色シルト・褐灰色シルト等を互層に堆積。滞水による堆積。

0　1:60　2m

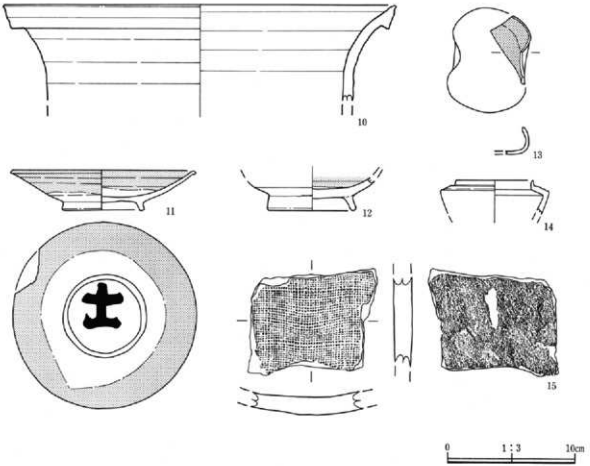


0　1:3　10cm

第183図　Ⅳ-A区21号井戸と出土遺物(1)



第184図 Ⅳ-A区21号井戸出土遺物(2)



第185図　Ⅳ-A区21号井戸出土遺物(3)

Ⅳ-A区21号井戸　出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	埋没土	口径(11.8) 底径 － 器高 －	①酸化焔②鈍い赤褐 ③粗砂・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部跡削り。 内面　口縁部横ナデ。体～底部ナデ。	口～底部破片
2	土師器 坏	埋没土	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔②鈍い橙 ③細砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部跡削り。 内面　口縁部横ナデ。体～底部ナデ。	口～底部破片
3	須恵器 高台付椀 墨書土器	+94cm	口径 14.2 底径 6.5 器高 5.6	①還元焔②灰 ③粗砂・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。体部下位「鳴」の墨書あり。	ほぼ完形
4	須恵器 坏 墨書土器	埋没土	口径 12.5 底径 5.7 器高 3.5	①還元焔②灰 ③粗砂・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。体部「叶」の墨書あり。内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。底部「叶」の墨書あり。	完形
5	須恵器 足高高台付椀	埋没土	口径 13.8 底径 8.0 器高 5.5	①酸化焔②橙 ③粗砂・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部3／4 残存
6	須恵器 高台付椀	+178cm	口径 － 底径 6.4 器高 －	①還元焔②灰 ③細砂・白色鉱物粒を含む。	外面　体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　体～底部回転ナデ。	体～底部破片
7	須恵器 高台付椀	埋没土	口径 － 底径 6.0 器高 －	①還元焔②明オリーブ灰③粗砂・白色鉱物粒を含む。	外面　体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　体～底部回転ナデ。	底部破片

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
8	須恵器 皿	埋没土	口径(12.6) 底径 5.7 器高 2.6	①還元焔②灰白 ③粗砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1/2 残存
9	須恵器 高台付椀	+233cm	口径 － 底径 6.4 器高 －	①還元焔②灰白 ③細砂・角閃石・赤色鉱物粒を含む。	外面　体部回転ナデ。底部右回転糸切り無調整。付高台。 内面　体～底部回転ナデ。	底部破片
10	須恵器 甕	埋没土	口径 － 底径 － 器高 －	①還元焔②青黒③細砂・白色鉱物粒を含む。	内外面　口縁部回転ナデ。	口縁部破片
11	灰釉陶器 高台付皿 墨書土器	+93cm	口径 14.4 底径 6.1 器高 3.2	①還元焔②灰白③細砂・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部付高台後ナデ。「士」の墨書あり。内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。釉刷毛塗り。	口縁部一部 欠損
12	灰釉陶器 高台付椀？	埋没土	口径 － 底径 6.9 器高 －	①還元焔②灰白 ③黒・白色鉱物粒を含む。	外面　体部回転ナデ。底部付高台後ナデ。釉浸け掛け。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。釉浸け掛け。	底部破片
13	灰釉陶器 耳皿	埋没土	口径 － 底径 － 器高 －	①還元焔②灰白 ③黒色鉱物粒を含む。	内外面　回転ナデ。	口縁部破片
14	須恵器 無頸壺	埋没土	口径 (6.0) 底径 － 器高 －	①還元焔②灰 ③細砂・赤色鉱物粒を含む。	内外面　回転ナデ。	口～体部破片
15	瓦	+233cm			外面　ヘラナデ。 内面　布目痕あり。	破片

Ⅳ-A区24号井戸

位　置　R-35・36　　**写　真**　PL74

重　複　なし。

形　状　平面形は楕円形・断面形は井筒形から上位は外反する。長軸方向に段をもつ。

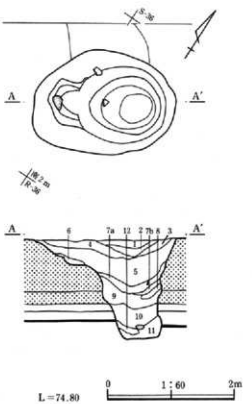
規　模　長径2.29m・短径1.66m

底　面　遺構確認面から1.58m掘り込んで底面となる。底面はほぼ平坦である。底面の標高は73.15mである。

埋没土　上層は褐灰色土、中層はロームブロック主体の暗黄褐色土、下層は暗褐色土で埋まっていた。

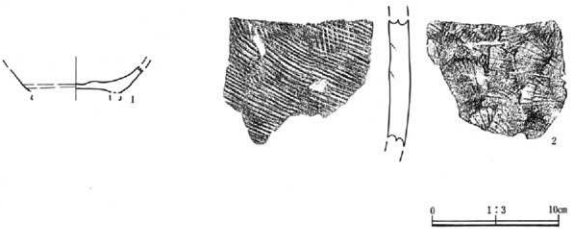
遺　物　出土遺物は23点である。そのうち2点を図化した。

所　見　埋没土と出土遺物から、平安時代の井戸と考えられる。



第186図　Ⅳ-A区24号井戸

1．褐灰色土　白色パミス(φ1～5㎜、Hr-FP起源か)を10%含む。
2．褐灰色土　1に似るが、粒子が細かくややシルト質。
3．褐灰色土　1に似るが、白色パミス(φ1～5㎜)を30%程含む。
4．褐灰色土　1と同じか。
5．褐灰色土　1と似る。白色パミス(φ1～10㎜)・黒色土ブロック(φ3～10㎜)・ローム粒(φ1～5㎜)を少量含む。黒色土を層位的に含む。
6．暗黄褐色土　ロームブロック主体。
7a．暗黄褐色土　ローム粒を少量含む。ややシルト質。
7b．暗黄褐色土　7によく似るが、層位的に堆積。シルト質。
8．灰黄褐色土　ロームブロック主体。(壁の崩落)
9．暗黄褐色土　ローム粒(φ5～20㎜)を40%含む。黒色土ブロックを少量含む。
10．暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを極少量含む。シルト質。底面にφ250㎜・h60～70㎜程の石あり。
11．暗褐色土　10に似るが、やや砂質。
12．褐色粘土層



第187図　Ⅳ-Ａ区24号井戸出土遺物

Ⅳ-Ａ区24号井戸出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③粘土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 高台付椀	+70cm	口径　－ 底径　－ 器高　－	①還元焔②灰白 ③粗細砂・角閃石を含む。	外面　体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。付高台。 内面　体～底部回転ナデ。	底部破片
2	須恵器 大甕	+130cm	口径　－ 底径　－ 器高　－	①還元焔②灰白 ③細砂・赤・白色鉱物粒を含む。	外面　平行タタキ。 内面　当て具痕。	体部破片

5．土　坑

Ⅰ-A区22号土坑

位　置　Q-108　**写　真**　PL75　**重　複**　なし。

形　状　検出した範囲では平面形は不定形、断面形は盤形である。

規　模　検出した範囲では長径1.70mである。

底　面　遺構確認面から0.22m掘り込み底面となる。

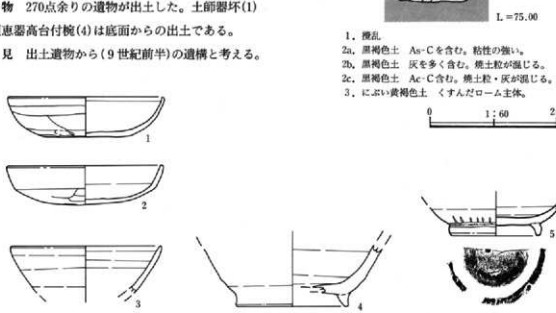
埋没土　As-Cを含む黒褐色土で埋まっていた。底面付近には焼土・灰層が認められた。

遺　物　270点余りの遺物が出土した。土師器坏(1)と須恵器高台付椀(4)は底面からの出土である。

所　見　出土遺物から（9世紀前半）の遺構と考える。

1．撹乱
2a．黒褐色土　As-Cを含む。粘性の強い。
2b．黒褐色土　灰を多く含む。焼土粒が混じる。
2c．黒褐色土　Ac-C含む。焼土粒・灰が混じる。
3．にぶい黄褐色土　くすんだローム主体。

0　1：60　2m



第188図　Ⅰ-A区22号土坑と出土遺物

Ⅰ-A区22号土坑出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	+0.5cm	口径 12.4 底径 7.5 器高 3.2	①酸化焔②橙 ③細砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部弱い撫削り。 内面　口縁部横ナデ。体～底部ナデ。	口～底部2／3 残存
2	土師器 坏	+9.6cm	口径 12.2 底径 － 器高 3.1	①酸化焔②明褐 ③角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部篦削り。 内面　口縁部横ナデ。体～底部ナデ。	口～底部破片
3	須恵器 坏	+7.8cm	口径 － 底径 － 器高 －	①還元焔②灰 ③白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口縁部破片
4	須恵器 高台付椀	－0.2cm	口径 － 底径 (8.5) 器高 －	①還元焔②褐灰～黄灰③細砂・白色鉱物粒を含む。	外面　体部回転ナデ。底部付高台後ナデ。 内面　体～底部回転ナデ。	底部破片
5	灰釉陶器？ 高台付椀	埋没土	口径 － 底径 6.8 器高 －	①還元焔②灰白 ③白色鉱物粒を含む。	外面　体部回転ナデ。施釉痕あり。底部付高台後ナデ。 内面　体～底部回転ナデ。	底部破片

Ⅰ-A区24号土坑

位　置　O・P-103　**写　真**　PL75　**重　複**　なし。

形　状　平面形は楕円形・断面形は盤形である。

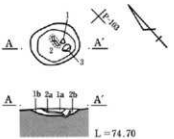
規　模　長径0.78m　短径0.64m

底　面　遺構確認面から0.13m掘り込み底面となる。

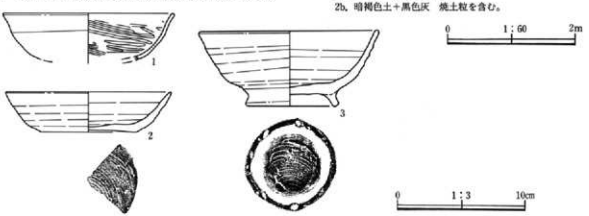
埋没土　中・下位に、焼土・灰層が堆積していた。

遺　物　出土遺物は7点である。土師器坏(1)は内面に黒色処理後、細かい横方向磨きが施されている。

所　見　出土遺物から、9世紀中葉の遺構と考える。



1a、暗褐色土　灰含む。ローム粒・焼土粒をわずかに含む。
1b、暗褐色土　ローム粒・焼土粒を含む。
2a、黒色灰　焼土粒を含む。
2b、暗褐色土＋黒色灰　焼土粒を含む。



第189図　Ⅰ-A区24号土坑と出土遺物

Ⅰ-A区24号土坑出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏 黒色土器	+8.8cm	口径(15.0) 底径　－ 器高　－	①酸化焔②外：明褐 内：黒③粗細砂・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁～体部横ナデ。 内面　黒色処理後横方向細かな磨き。	口～体部破片
2	須恵器 坏	+4.6cm	口径(13.6) 底径 (7.6) 器高　3.2	①還元焔②灰黄 ③粗細砂・角閃石・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部破片
3	須恵器 高台付椀	−7.3cm	口径(14.2) 底径　7.0 器高　5.9	①還元焔②灰白 ③角閃石・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。高台底面重による当て痕あり。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	ほぼ完形

Ⅰ-A区146号土坑

位　置　M-89　　**写　真**　なし。

重　複　なし。

形　状　一部攪乱に削られてはっきりしないが、平面形は円形・断面形は擂鉢形と考えられる。

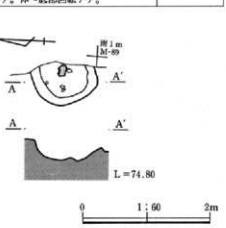
規　模　検出した範囲では、直径0.95mである。

底　面　遺構確認面から0.35m掘り込み底面となる。

埋没土　埋没土の記載なし。

遺　物　出土遺物は6点であるが図化し得なかった。

所　見　遺物から平安時代の遺構と考えられる。



第190図　Ⅰ-A区146号土坑

Ⅰ-B区110号土坑

位　置　L-89　　**写　真**　PL76

重　複　29・30・33号住居と重複するが新旧関係は判断できなかった。

形　状　平面形は不定形、断面形は箱形である。

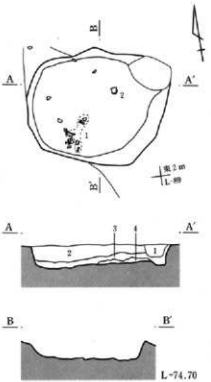
規　模　長径 2.19m　短径 1.75m

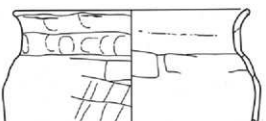
底　面　遺構確認面から0.36m掘り込み底面となる。

埋没土　ロームブロックを含む褐灰色土で埋まっていた。下層ほどロームブロックが多い。

遺　物　遺物は20点余り出土している。図化し得たのは2点である。土師器甕(1)・須恵器坏(2)は埋没土中からの出土である。

所　見　出土遺物から9世紀後半の遺構と考えられる。





1．攪乱
2．褐灰色土　As-CもしくはAs-Bを斑点状に含む。
　　ローム小ブロックが混じる。
3．ロームブロック＋1層ブロック。
4．暗褐色土　3に似るが、ロームブロックが多い。

第191図　Ⅰ-B区110号土坑と出土遺物

Ⅰ-B区110号土坑出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 甕	埋没土	口径 18.3 底径 － 器高 －	①酸化焔②褐～明褐 ③粗細砂・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ・指頭による調整。体部上位横方向箆削り。下位斜縦方向箆削り。 内面　口縁部横ナデ。体部横方向箆ナデ。	口～体部破片
2	須恵器 高台付椀	埋没土	口径(14.0) 底径 6.5 器高 5.2	①還元焔②橙 ③粗細砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1/3

Ⅰ-A区149号土坑

位　置　P-88　　写　真　PL76

重　複　42号住居に掘り込まれている。

形　状　一部調査区域外で全体の形状は不明だが、平面形は円形と考えられる。断面形は不定形である。

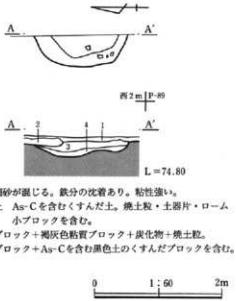
規　模　検出した範囲では、長径1.46mである。

底　面　遺構確認面から0.16m掘り込んで底面となる。底面はやや凸凹している。

埋没土　ロームブロック・褐灰色土・焼土・炭化物で埋まっていた。

遺　物　出土遺物は小破片が数点で、図化し得るものはなかった。

所　見　埋没土と新旧関係から平安時代の遺構と考えられる。



第192図　Ⅰ-A区149号土坑

Ⅰ-B区148号土坑

位　置　P-88　　写　真　PL76

重　複　なし。

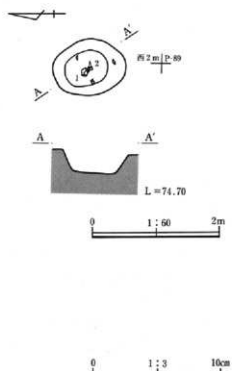
形　状　平面形は楕円形、断面形は箱形である。

規　模　長径1.14m　短径0.89m

底　面　遺構確認面から0.31m掘り込み底面となる。

埋没土　埋没土の記録なし。

遺　物　出土遺物は7点である。図化した2点は埋没土上層からの出土である。　所　見　出土遺物から9世紀後半の遺構と考えられる。



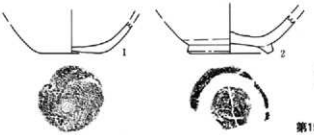
第193図　Ⅰ-A区148号土坑と出土遺物

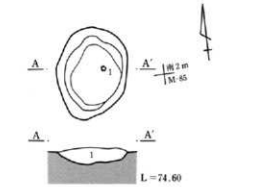
Ⅰ-A区148号土坑出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①成形 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 高台付椀	+37.1cm	口径 12.2 底径 6.2 器高 4.6	①還元焔②黄灰③粗 細砂・白・赤色鉱物 粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部回転糸切り。 付高台後ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部2/3 残存
2	須恵器 坏	+37.8cm	口径 － 底径 5.6 器高 －	①酸化焔②浅黄橙 ③白色鉱物粒を含む。	外面　体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	底部破片

II-B区83号土坑

位　置　M-85　写　真　PL76　重　複　なし。
形　状　平面形は楕円形、断面形は浅擂鉢形である。
規　模　長径1.46m　短径1.12m
底　面　遺構確認面から0.21m掘り込み底面となる。
埋没土　黒褐色土・ロームブロックで埋まっていた。
遺　物　出土遺物は11点である。ほとんどが小破片であり、図化し得たのは2点である。　所　見　埋没土と出土遺物から9世紀後半の遺構と考えられる。





第194図　II-B区83号土坑と出土遺物

II-B区83号土坑出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 坏	+0.8cm	口径 － 底径 4.5 器高 －	①還元焔②黄灰 ③角閃石・赤・白色鉱物粒を含む。	外面　体部回転ナデ。底部右回転糸切り後弱いナデ。 内面　体～底部回転ナデ。	底部破片
2	須恵器 高台付椀	埋没土	口径 － 底径 6.0 器高 －	①還元焔②黒～黒褐 ③粗細砂・角閃石を含む。	外面　体部回転ナデ。底部回転糸切り(回転方向不明)。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	底部破片

II-B区88号土坑

位　置　J-85　　写　真　PL76
重　複　不明土坑を掘り込んでいる。
形　状　平面形は円形、断面形は不定形である。
規　模　直径0.99m　底　面　遺構確認面から0.26m掘り込んで底面となる。底面は凸凹している。
埋没土　ロームブロック・黒色土で埋まっていた。
遺　物　出土遺物は1点である。
所　見　埋没土と出土遺物から9世紀後半の遺構と考えられる。

第195図　II-B区88号土坑と出土遺物

II-B区88号土坑出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	+15.8cm	口径(11.8) 底径 － 器高 －	①酸化焔②橙 ③粗細砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体～底部横方向撫削り。 内面　口縁部横ナデ。体～底部ナデ。	口～底部破片

II-B区89号土坑

位　置　K-86　　写　真　PL77

重　複　37号住居を掘り込んでいる。

形　状　平面形は楕円形、断面形は逆台形である。

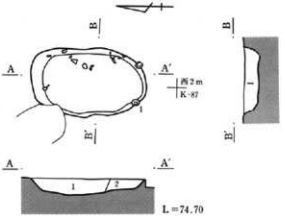
規　模　長径1.84m　短径1.08m

底　面　遺構確認面から0.27m掘り込み底面となる。

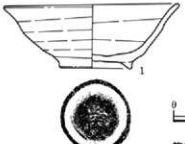
埋没土　焼土・炭化物を含む暗褐色土で埋まっていた。

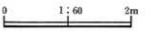
遺　物　出土遺物は87点で、ほとんどが小破片である。底面付近から須恵器高台付椀(1)が完形で出土した。

所　見　埋没土と出土遺物から9世紀後半の遺構と考えられる。



1．暗黄褐色土　焼土・炭化物(φ5～10mm)・ローム粒・白色軽石粒を少量含む。
2．ローム小ブロック＋As-Cを含む黒色土ブロック。(人為的埋土)





第196図　II-B区89号土坑と出土遺物

II-B区89号土坑出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 高台付椀	−3.2cm	口径 13.6 底径 5.7 器高 5.0	①酸化気味②純い黄橙③粗砂・角閃石・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	完形 炭化物の付着あり。

II-B区93号土坑

位　置　J-84　　写　真　PL77

重　複　なし。

形　状　平面形は円形、断面形は浅擂鉢形である。

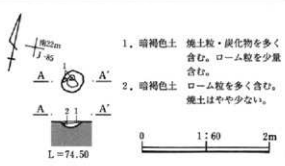
規　模　直径0.35m

底　面　遺構確認面から0.08m掘り込み底面となる。

埋没土　上層は焼土粒・炭化物を多く含む暗褐色土、下層はロームが多い暗褐色土で埋まっていた。

遺　物　出土遺物は1点のみである。ほぼ底面から須恵器坏(1)が出土した。

所　見　埋没土と出土遺物から9世紀後半の遺構と考えられる。



1．暗褐色土　焼土粒・炭化物を多く含む。ローム粒を少量含む。
2．暗褐色土　ローム粒を多く含む。焼土はやや少ない。

第197図　II-B区93号土坑と出土遺物

II-B区93号土坑出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 坏	+1.5cm	口径 (12.6) 底径 (6.0) 器高 −	①還元焔②灰③粗砂・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部切り離し方法不明。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部破片

II-B区94号土坑

位　置　J-84　　**写　真**　PL77

重　複　なし。

形　状　平面形は不整円形、断面形は箱形である。

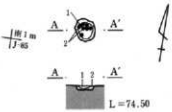
規　模　長径0.36m　短径0.32mである。

底　面　掘り込みは浅く遺構確認面から0.08m掘り込んで底面となる。底面は平坦である。

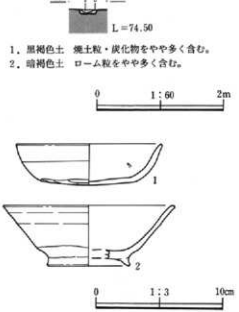
埋没土　上層は焼土・炭化物をやや多く含む黒褐色土、下層はロームをやや多く含む明褐色土で埋まっていた。

遺　物　出土遺物は13点である。ほとんどが小破片で、そのうち2点を図化した。遺物は底面から約5～6cm浮いた状態で出土した。土師器坏(1)・須恵器高台付椀(2)は土坑の北側に集中していた。

所　見　埋没土と出土遺物から9世紀後半の遺構と考えられる。



1．黒褐色土　焼土粒・炭化物をやや多く含む。
2．暗褐色土　ローム粒をやや多く含む。



第198図　II-B区94号土坑と出土遺物

II-B区94号土坑出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)		残存状態 備考
1	土師器 坏	＋5cm	口径(11.5) 底径 6.8 器高 3.3	①酸化焔②純い橙 ③細砂・角閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部篦削り。 内面 口縁部横ナデ。体～底部ナデ。		口～底部1/4 残存
2	須恵器 高台付椀	＋6.1cm	口径(13.2) 底径 (6.2) 器高 4.8	①還元焔②灰③細砂・角閃石・白色鉱物粒を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。		口～底部破片

II-B区96号土坑

位　置　K-86　　**写　真**　PL77

重　複　28号住居と重複している。新旧関係は分からなかった。

形　状　平面形は楕円形、断面形は擂鉢形である。

規　模　長径1.12m　短径0.66m

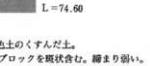
底　面　遺構確認面から0.38m掘り込み底面となる。

埋没土　灰・焼土・ロームブロックを含む黒褐色土で埋まっていた。

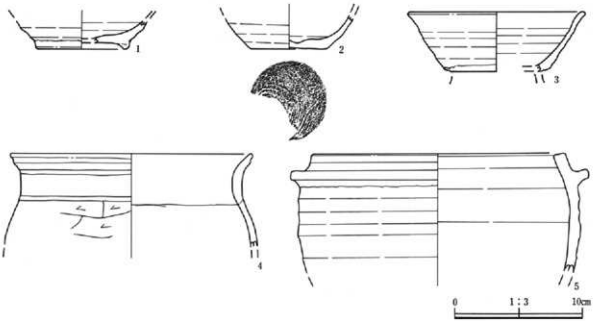
遺　物　出土遺物は17点である。図化したのは5点である。いずれも底面より上位で散乱して出土した。

所　見　埋没土と出土遺物から10世紀前半の遺構と考えられる。

1．暗褐色土　As-Cを含む黒色土のくすんだ土。
2a．黒褐色土　ローム・焼土小ブロックを斑状含む。締まり弱い。
2b．黒褐色土　2aに似るが、灰が多い。
3．焼土ブロック＋ロームブロック。竈の崩落土か。
4．青灰色灰　1ブロックが混じる。
5．焼土ブロックを斑状に含む。やや黄色がかった灰が混じる。
6．暗褐色土　1に似る。



第199図　II-B区96号土坑



第200図　II-B区96号土坑出土遺物

II-B区96号土坑出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 高台付椀	+25.5cm	口径 － 底径 (7.0) 器高 －	①酸化気味②純い橙 ③細砂・雲母を含む。	外面　体部回転ナデ。底部右回転？糸切り。無調整。付高台。 内面　体～底部回転ナデ。	底部破片
2	須恵器 坏	+10.5cm	口径 － 底径 6.0 器高 －	①還元焔②灰 ③白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　体部回転ナデ。底部左回転糸切り。無調整。 内面　体～底部回転ナデ。	体～底部破片
3	須恵器 高台付椀	+6.5cm	口径 (8.9) 底径 － 器高 －	①還元焔②灰③粗細砂・赤・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。高台部欠損。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口～体部破片
4	土師器 甕	+8.8cm	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔②橙 ③細砂・角閃石・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部上位横方向箆削り。 内面　口縁部横ナデ。体部横方向箆ナデ。	口縁部破片
5	須恵器 羽釜	+22cm	口径 (22.0) 底径 － 器高 －	①還元焔②暗灰黄 ③粗細砂・白・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。鍔横ナデ。体部上位回転ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。	口～体部1／4残存

II-B区97号土坑

位　置　K-84　　写　真　PL78

重　複　25号住居より古い。

形　状　平面形は円形、断面形は盤形である。

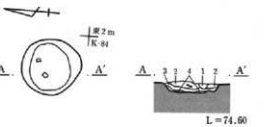
規　模　直径0.95mである。

底　面　遺構確認面から0.14m掘り込み底面となる。

埋没土　ロームを含む暗褐色土で埋まっていた。

遺　物　出土遺物は数点で、小破片のため図化し得なかった。

所　見　埋没土から平安時代の遺構と考えられる。



第201図　II-B区97号土坑

II-B区98号土坑

位　置　J-86　　写　真　PL78

重　複　99号土坑を掘り込んでいる。

形　状　平面形は不定形、断面形は擂鉢形である。

規　模　長径0.88m　短径0.75m

底　面　遺構確認面から0.22m掘り込み底面となる。

埋没土　ロームを含む暗褐色土で埋まっていた。

遺　物　出土遺物は28点である。土師器甕(2)、鉄製刀子(1)が各1点出土した。

所　見　埋没土と出土遺物から9世紀後半の遺構と考えられる。

II-B区99号土坑

位　置　J-86　　写　真　PL78

重　複　98号土坑に掘り込まれている。

形　状　平面形は円形、断面形は盤形である。

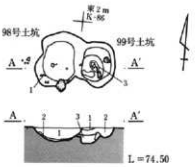
規　模　直径0.71m

底　面　遺構確認面から0.26m掘り込み底面となる。

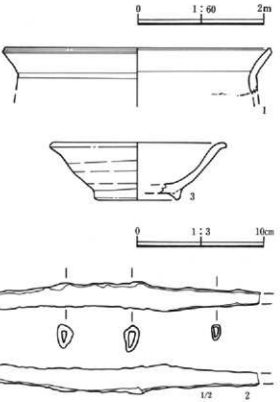
埋没土　ロームブロック・焼土・炭化物で埋まっていた。一部上層が貼り床状に硬化していた。

遺　物　出土遺物は14点である。小破片が多く図化し得たのは2点である。

所　見　埋没土と出土遺物から9世紀後半の遺構と考えられる。



1．暗褐色土　ローム粒小ブロック・炭化物を含む。焼土粒わずかに混じる。
2．ロームブロック＋暗褐色土ブロック。
3．ローム大小ブロック＋褐色土ブロックの混土。



第202図　II-B区98・99号土坑と出土遺物

II-B区98・99号土坑出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③粘土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 甕	98土坑 +12cm	口径　－ 底径　－ 器高　－	①酸化焔②橙～鈍い橙③粗細砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。 内面　口縁部横ナデ。体部横方向箆ナデ。	口縁部破片
2	鉄製品 刀子	98土坑 埋没土	長さ 14.8 幅　1.3 厚さ　0.8		先端部一部欠損。断面三角形で中空。	
3	須恵器 高台付椀	99土坑 +14.1cm	口径(13.2) 底径 (6.2) 器高　4.6	①酸化焔②鈍い褐③粗細砂・角閃石・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部切り離し方法不明。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1/3

II-B区104号土坑

位　置　K-86　　写　真　PL78

重　複　89号土坑と重複している。

形　状　平面形は円形、断面形は擂鉢形である。

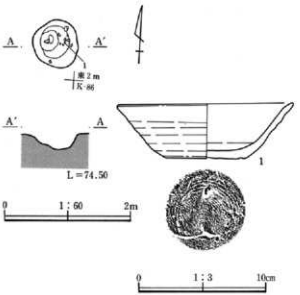
規　模　直径0.74m

底　面　遺構確認面から0.24m掘り込んで底面となる。底面は西側が低く、東側は段をもち緩やかに高くなっている。全体に凹凸している。

埋没土　記載なし。

遺　物　出土遺物は6点である。土器は小破片で、散乱して検出された。土師器坏(1)は上層からの出土である。

所　見　出土遺物から、9世紀後半の遺構と考えられる。



第203図　II-B区104号土坑と出土遺物

II-B区104号土坑出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 坏	+39cm	口径 13.8 底径 6.2 器高 4.3	①還元焔②灰白 ③粗細砂・白・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部2/3 残存

II-B区105号土坑

位　置　L・M-86

写　真　PL78

重　複　9号方形周溝墓の周溝埋没土を掘り込んでいる。

形　状　平面形は楕円形、断面形は浅擂鉢形である。

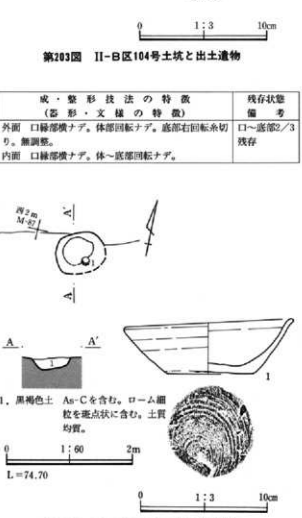
規　模　長径0.79m　短径0.65m

底　面　遺構確認面から0.18m掘り込んで底面となる。底面は平坦である。

埋没土　ローム細粒を含む黒褐色土で埋まっていた。

遺　物　出土遺物は1点である。埋没土中位から須恵器坏(1)が完形で出土した。

所　見　埋没土と出土遺物から9世紀後半の遺構と考えられる。



第204図　II-B区105号土坑と出土遺物

II-B区105号土坑出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 坏	埋没土	口径 13.0 底径 6.8 器高 4.4	①還元焔②灰黄 ③粗細砂・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	完形

II-B区127号土坑

位　置　J-86　　写　真　PL79

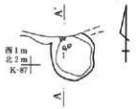
重　複　33号住居を掘り込んでいる。

形　状　平面形は不整円形、断面形は盤形である。

規　模　直径0.75m　底　面　掘り込みは浅く、遺構確認面から0.04m掘り込んで底面となる。

埋没土　ロームブロック・焼土・炭化物を含む黒褐色土で埋まっていた。

遺　物　2点出土している。そのうち須恵器坏1点を図化した。　所　見　埋没土と出土遺物から、10世紀代の遺構と考えられる。



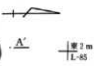
1．黒褐色土　ロームブロックを多く含む。焼土粒・炭化物粒を含む。一括埋土。

第205図　II-B区127号土坑と出土遺物

IV-B区127号土坑出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③粘土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 坏	埋没土	口径(12.9) 底径 (5.3) 器高 (3.1)	①酸化気味②鈍い橙 ③粗細砂・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ヘラ切り(回転方向不明)。無調整。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部破片

II-B区130号土坑



位　置　K-85　　写　真　PL78

重　複　なし。

形　状　平面形は円形、断面形は擂鉢形である。

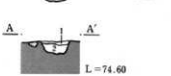
規　模　直径0.46m

底　面　遺構確認面から0.18m掘り込んで底面となる。底面は平坦である。

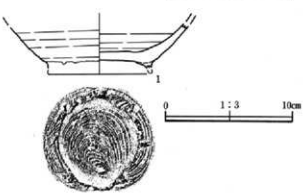
埋没土　ロームを少量含む暗褐色土で埋まっていた。

遺　物　出土遺物は約10点である。須恵器高台付椀(1)は埋没土中からの出土である。

所　見　埋没土と出土遺物から9世後半の遺構と考えられる。



1．暗褐色土　ローム粒(φ1mm)を5%含む。白色土粒を少量含む。
2．暗褐色土　ローム粒(φ3mm)を3%含む。



第206図　II-B区130号土坑と出土遺物

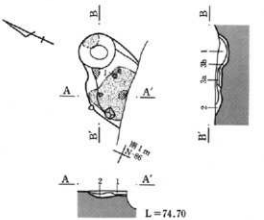
II-B区130号土坑出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③粘土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 高台付椀	埋没土	口径　－ 底径　－ 器高　－	①還元焔②黒褐③粗 細砂・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　体～底部回転ナデ。	口縁部・高台端部欠損

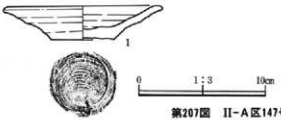
Ⅱ-Ｂ区147号土坑

位　置　Ｎ-85　　**写　真**　ＰＬ78

重　複　21号住居と重複しているが、新旧関係は不明である。　**形　状**　平面形・断面形は不定形である。　**規　模**　検出した範囲では長径1.04mである。　**底　面**　遺構確認面から0.12m掘り込み底面となる。　**埋没土**　底面に灰が堆積していた。　**遺　物**　図化し得たのは１点のみである。　**所　見**　埋没土と出土遺物から９世紀後半の遺構と考えられる。



1．褐灰色土　焼土小ブロック・灰小ブロックを含む。
2．暗青灰色灰　灰層。焼土粒小ブロック・炭化物を含む。
3a．褐灰色土　焼土小ブロック・灰・炭化物を含む。
3b．褐灰色土　3ａ層にローム小ブロック混じる。



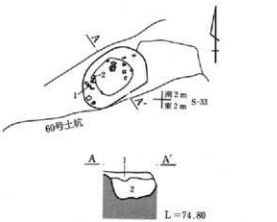
第207図　Ⅱ-Ａ区147号土坑と出土遺物

Ⅱ-Ｂ区147号土坑出土遺物観察表

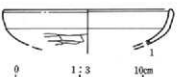
番号	種類 器種	出土位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 皿	埋没土	口径 11.8 底径 5.0 器高 2.7	①酸化気味②灰白 ③細砂・白色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。底部回転ヘラ切り。無調整。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1/3 残存

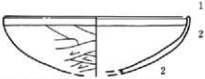
Ⅳ-Ａ区74号土坑

位　置　Ｓ-33　**写　真**　ＰＬ79　**重　複**　60・72土坑、19溝と重複している。　**形　状**　平面形は楕円形、断面形は箱形である。　**規　模**　長径1.14m短径0.72m　**底　面**　遺構確認面から0.32m掘り込み底面となる。　**埋没土**　暗褐色砂質土で埋まっていた。　**遺　物**　遺物は100点程出土しているが、図化し得たのは２点である。　**所　見**　遺物から８世紀後半の遺構と考えられる。



1．暗褐色砂質土　地山ロームブロックを多く含む。
2．暗褐色砂質土　軽石が少なくロームを含まない。黒色気味。





第208図　Ⅳ-Ａ区74号土坑と出土遺物

Ⅳ-Ａ区74号土坑出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	+2.3cm	口径(13.2) 底径　－ 器高　－	①酸化焔②橙～明赤褐③角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部篦削り。 内面　口縁部横ナデ。体～底部ナデ。	口～底部破片
2	土師器 坏	+7.1cm	口径(14.6) 底径　－ 器高　－	①酸化焔②鈍い橙 ③粗細砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部上位無調整。下位指ナデ・指押さえ。底部篦削り。 内面　口縁部横ナデ。体～底部ナデ。	口～底部破片

6．溝

I-A区3号溝

位　置　P-108・109、Q-108・109

写　真　PL79・80

重　複　I区4溝と重複するが新旧関係は不明である。

規　模　検出した範囲では、上幅1.75m、下幅1.11m、深さ0.83m、調査長6mである。

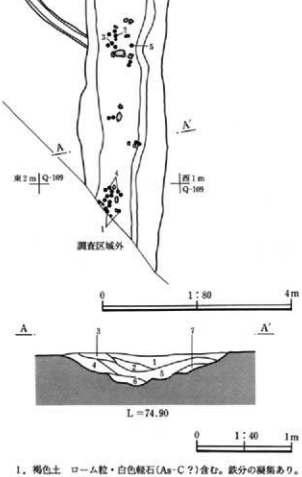
形　状　断面形状は擂り鉢形を呈する。

走　行　ほぼ南北を走行する。

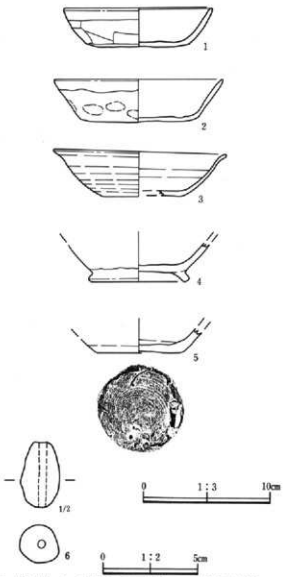
埋没土　ロームブロック・白色軽石を含む褐色土で埋まっていた。

遺　物　400点余りの遺物がまとまって出土している。いずれも破片が多く底部からやや上位で出土した。遺物は土師器坏(2)(3)・須恵器(5)は北寄りで、土師器(1)・須恵器(4)は南寄りで出土している。土錘は埋没土中からの出土である。

所　見　遺物と埋没土から9世紀後半の遺構と考えられる。



1．褐色土　ローム粒・白色軽石(As-C？)含む。鉄分の凝集あり。
2．褐色土　褐灰色土＋ロームブロック。
3．褐色土　1層に似るが、ローム粒をわずかに含む。
4．にぶい黄褐色土　くすんだローム＋褐灰色土。ロームブロックを含む。



5．褐灰色土　As-C軽石を含む。細砂・シルトが互層に堆積。水成堆積。
6．褐灰色土とローム＋ロームブロック。掘り残された土。
7．ローム＋褐色土ブロック。

第209図　I-A区3号溝と出土遺物

Ⅰ-A区3号溝出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	+12cm	口径(11.2) 底径 6.2 器高 3.1	①酸化焔②橙③角閃石・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部篦削り。 内面　口～底部ナデ。	口～底部2/3 残存
2	土師器 坏	+23.4cm	口径(13.4) 底径 － 器高 3.4	①酸化焔②橙③粗細砂・角閃石・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部篦削り。 内面　口～底部横ナデ。	口～底部1/3 残存
3	須恵器 高台付椀	+15.7cm	口径(13.5) 底径 － 器高 －	①還元焔②浅黄～灰黄③白・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部左回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～体部1/2 残存 高台部欠損
4	須恵器 高台付椀	+10cm	口径 － 底径 7.2 器高 －	①還元焔②灰黄褐～褐灰③白色鉱物粒を含む。	外面　体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　体～底部回転ナデ。	底部破片
5	須恵器 坏	+14.7cm	口径 － 底径 6.6 器高 －	①還元焔②灰 ③白・赤色鉱物粒を含む。	外面　体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面　体～底部回転ナデ。	底部破片
6	土製品 土錘	埋没土	長さ 3.5 最大径2.1 孔径 0.4	①酸化焔②純い黄橙③粗細砂・白色鉱物粒を含む。	中央が著しく膨らむ筒形。体部外面指頭による整形。孔は直線的。小口は直線的に切れている。	ほぼ完形

Ⅰ-B区8号溝

位　置　L-103・104　　**写　真**　PL80

重　複　畠を掘り込んでいる。

規　模　上幅0.66～0.47m　下幅0.30～0.14m
深さ0.22m　調査長8m

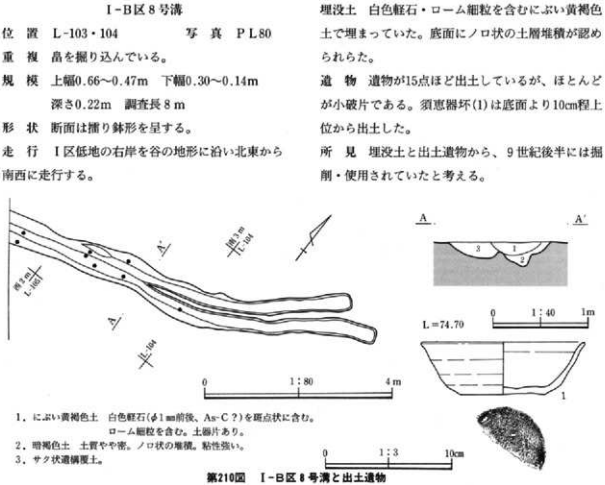
形　状　断面は擂り鉢形を呈する。

走　行　Ⅰ区低地の右岸を谷の地形に沿い北東から南西に走行する。

埋没土　白色軽石・ローム細粒を含むにぶい黄褐色土で埋まっていた。底面にノロ状の土層堆積が認められた。

遺　物　遺物が15点ほど出土しているが、ほとんどが小破片である。須恵器坏(1)は底面より10cm程上位から出土した。

所　見　埋没土と出土遺物から、9世紀後半には掘削・使用されていたと考える。



1．にぶい黄褐色土　白色軽石(φ1mm前後、As-C？)を斑点状に含む。
　　ローム細粒を含む。土器片あり。
2．暗褐色土　土質やや密。ノロ状の堆積。粘性強い。
3．サク状遺構覆土。

第210図　Ⅰ-B区8号溝と出土遺物

Ⅰ-B区8号溝出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	須恵器 坏	+10cm	口径(12.6) 底径 6.6 器高 4.2	①還元焔②灰白 ③粗細砂・角閃石・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部回転篦削り。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部破片

II-A B区9号溝

位　置　L-78・79、M-79・80、O・P-81、Q-81・82、R・S・T-82　　**写　真**　PL80

重　複　10号溝を掘り込んでいる。

規　模　幅0.60～0.33m　深さ0.23～0.10m
調査長53m

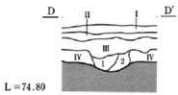
形　状　断面形状は浅擂鉢形を呈する。

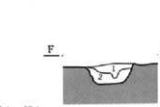
走　行　一部道路下のため調査できなかったが、II区低地の左岸を地形に沿い、蛇行しながら北北西から南南東へ走行する。

埋没土　白色軽石粒・ロームブロックを多く含む暗灰褐色粘質土で埋まっていた。

遺　物　出土遺物は7点と少なく、図化し得たのは4点である。土師器坏(1)・(2)がこの溝の使用期間に近いものと考える。(2)は橙色で軟質の土師器で、口縁部が小さく外反する。体部は弱いナデ調整である。土師器坩(3)は混入と考えられる。

所　見　埋没土と出土遺物から、この遺構は9世紀代には掘削・使用されていたと考える。生産域であった低地に沿い走行していることから、農業用水路といった遺構の性格が想定できよう。



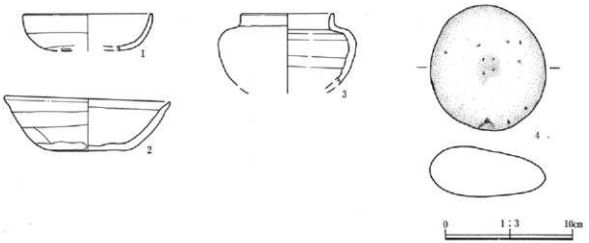


I　As-B
II　暗灰褐色土　水田耕作土。
III　暗灰褐色土　白色軽石粒を多く含む。
IV　褐色粘質土　地山最上層ローム。
1．暗灰褐色粘質土　白色軽石粒・ローム粒をわずかに含む。締まり良。
2．暗灰褐色粘質土　ロームブロックを多量に含む。
3．暗灰褐色粘質土　2層に似るが色調が濃い。10号溝埋没土。
4．褐色砂質土　地山砂礫を多量に含む。

0　1:40　1m

0　1:200　10m

第211図　I-A・B区9号溝



第212図　Ⅰ-A・B区9号溝出土遺物

Ⅱ-A・B区9号溝出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	埋没土	口径(10.1) 底径 － 器高 －	①酸化焔②淺黄橙 ③粗細砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篦削り。 内面　口縁部横ナデ。体～底部ナデ。	口～底部破片
2	土師器 坏	埋没土	口径(13.1) 底径 6.0 器高 4.2	①酸化焔・軟質②橙 ③粗細砂・片岩・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部指ナデ?。底部調整不明。 内面　口～底部ナデ?	口～底部2/3 残存
3	土師器 小形丸底 鉢?	＋9cm	口径 － 底径 － 器高 －	①酸化焔②橙 ③粗細砂・赤色鉱物粒を含む。	内外面　口縁～体部横ナデ。	口～体部破片

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	寸量 (cm、g)	石材	特徴
4	石製品 磨石	埋没土 完形	長 10.0　幅 9.0 厚 4.0　重 500	粗粒輝石安山岩	円盤状の円礫素材。表面中央に敲打痕、表裏に摩耗面有り。裏面には並行して走る線状の傷見られる。

Ⅰ・Ⅱ-B区7号溝

位　置　H-83～87・89～91、I-83～87・89～90

写　真　PL. 81・82

重　複　中世の2号館に掘り込まれている。

規　模　上幅3.13～2.20m　下幅2.25～2.00m
深さ0.83m　調査長40m

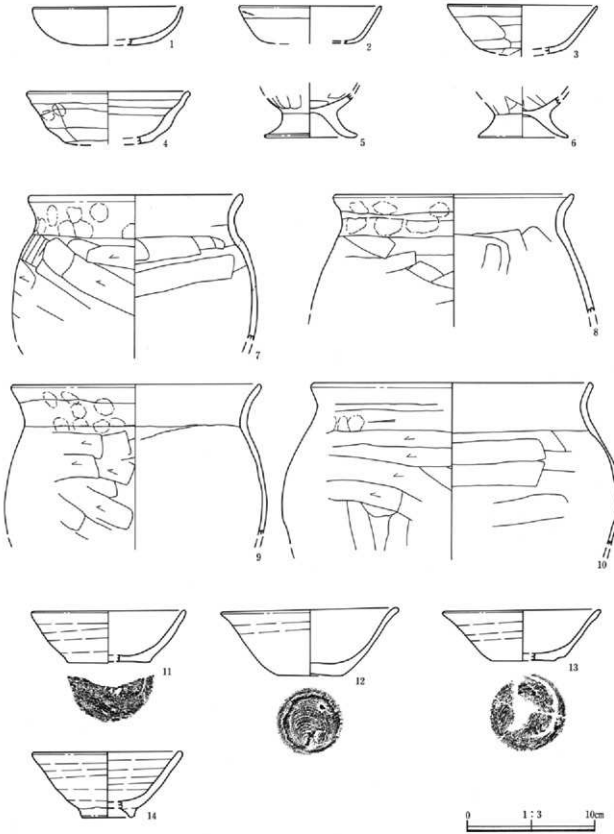
形　状　断面形状は擂り鉢形を呈する。

走　行　検出した範囲では、東北東から南東に屈曲していた。底面は平坦で走行の向きは不明である。

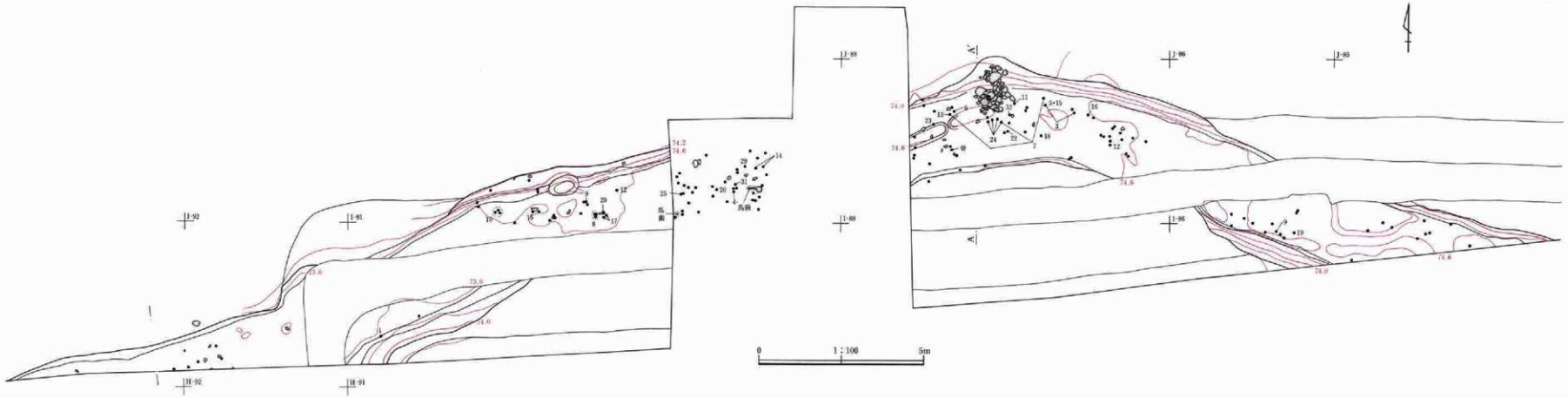
埋没土　最上層にはAs-Bの一次堆積層、中層には白色軽石・焼土・ロームブロックを含む黒褐色土・下層には褐灰色シルトが互層に堆積していた。土層観察からは2～3回の変遷が確認できた。

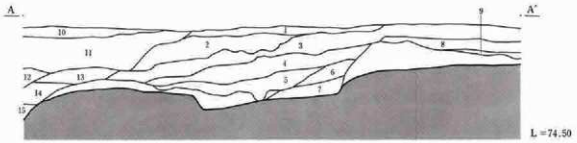
遺　物　出土遺物は多く1100点以上出土した。遺物は屈曲部付近に集中している。器種も坏・甕・灰釉陶器・瓦等と多種である。隣接する集落から投棄されたと考えらる。

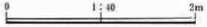
所　見　埋没土と遺物の時期が集中することから、本遺構は9世紀中葉には掘削・使用され、割合短期間のうちに埋没したと考えられる。溝と隣接する集落の継続期間とは概ね一致し、集落との密接な関係が伺える。遺構の性格については底部付近の土層から流水の痕跡が認められるものの、検出した範囲では不明である。



第213図 Ⅰ・Ⅱ-B区7号溝出土遺物(1)

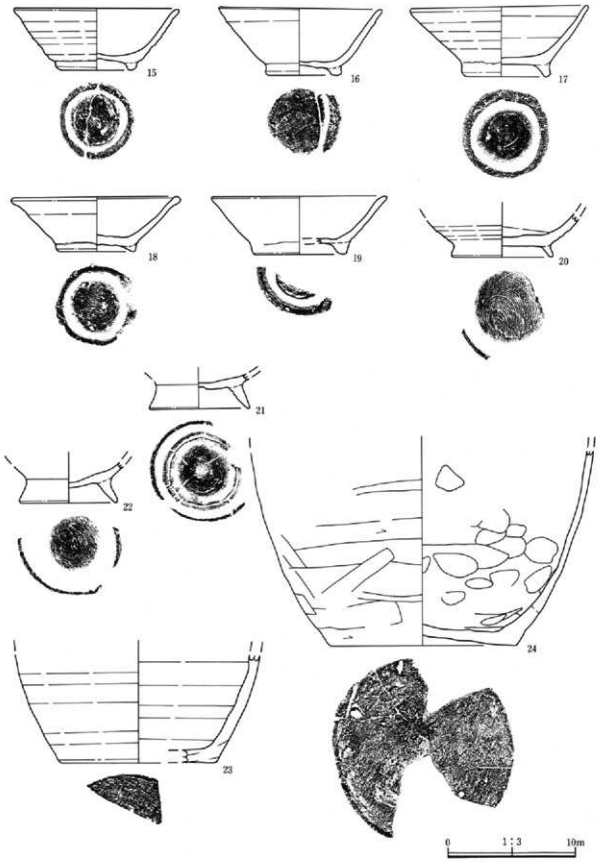




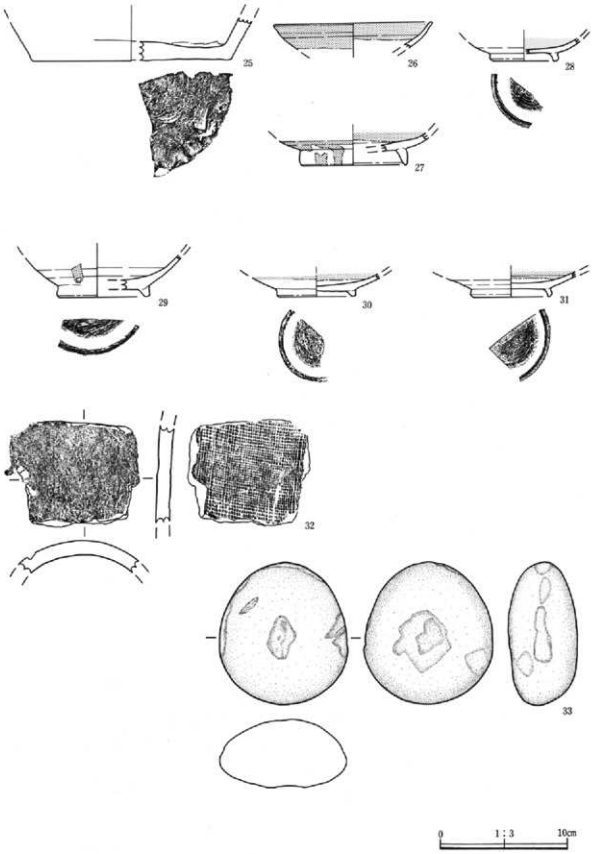


I・II区7号溝　A-A'（2層を含む）
1．黒褐色土　As-B下絡作土。粘質土。
2．灰黄褐色土　As-Cと思われる軽石粒（φ1～3mm）＋ローム粒。粘性強い。
3．黒褐色土　As-Cと思われる軽石粒（φ1～3mm）・炭化物粒・焼土粒を含む。ローム小ブロック混じる。粘性強い。
4．褐灰色土　As-YPアッシュ小ブロック＋ローム小ブロック＋2層ブロック。
5．褐灰色土　4層に似るが、As-YPが多い。砂質。
6．褐灰色土　5層に似る。シルトが互層に堆積。
7．As-YPパミス＋As-YPアッシュブロック＋褐灰色土ブロック。
8．黒褐色土　As-Cを含む黒色土。粘性強い。
9．ローム＋黒褐色土。
10～15．2層崩壊土。

第214図　I・II-B区7号溝



第215図　Ⅰ・Ⅱ-B区7号溝出土遺物(2)



第216図 Ⅰ・Ⅱ-B区7号溝出土遺物(3)

Ⅰ・Ⅱ-B区７号溝出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成　②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	+33.8cm	口径(11.8) 底径　－ 器高　3.0	①酸化焔②橙 ③細砂・角閃石を含む。	外面　口～体部横ナデ。底部筆削り。 内面　口～底部横ナデ。	口縁部破片
2	土師器 坏	埋没土	口径　－ 底径　－ 器高 (3.0)	①酸化焔 ②橙 ③角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。底部筆削り。 内面　口縁～底部横ナデ。	口縁部破片
3	土師器 坏	+25.8cm	口径(11.8) 底径　－ 器高 (3.9)	①酸化焔②純い橙 ③細砂が目立つ。赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部筆削り。 内面　口縁部横ナデ。体～底部ナデ。	口～底部破片
4	土師器 坏	不明	口径(12.6) 底径　－ 器高　4.2	①酸化焔②純い橙 ③粗細砂・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部筆削り。 内面　口縁部横ナデ。体～底部ナデ。	口～底部1/3残存
5	土師器 台付甕	+28.6cm	口径　－ 底径　7.0 器高　－	①酸化焔②純い赤褐 ③細砂・白色鉱物粒を含む。	外面　体部下位縦方向筆削り。台部横ナデ。 内面　体部下位筆ナデ。台部内面横ナデ。	台部破片
6	土師器 台付甕	+45cm	口径　－ 底径　7.0 器高　－	①酸化焔②純い赤褐 ③細砂・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　体部下位縦方向筆削り。台部横ナデ。 内面　体部下位筆ナデ。台部内面横ナデ。	台部破片
7	土師器 甕	+21.2cm	口径 16.9 底径　－ 器高　－	①酸化焔②純い黄橙 ③細砂・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ・指圧による調整。体部上位横方向筆削り。 内面　口縁部横ナデ。体部横方向筆ナデ。	口～底部破片
8	土師器 甕	+7.6cm	口径(18.9) 底径　－ 器高　－	①酸化焔②純い橙～橙③粗細砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。指圧による調整。体部上位横方向筆削り。 内面　口縁部横ナデ。体部横方向筆ナデ。	口縁部破片
9	土師器 甕	+31.2cm	口径(19.6) 底径　－ 器高　－	①酸化焔②橙 ③細砂・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ・指圧による調整。体部上位横方向筆削り。 内面　口縁部横ナデ。体部横方向筆ナデ。	口縁部破片
10	土師器 甕	+23.2cm	口径(22.0) 底径　－ 器高　－	①酸化焔②純い黄褐 ③細砂・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ・指圧による調整。上位横方向筆削り。 内面　口縁部横ナデ。体部横方向筆ナデ。	口縁部破片
11	須恵器 坏	+40.8cm	口径(12.0) 底径 (6.4) 器高 (4.1)	①還元焔②明灰黄 ③粗細砂・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1/3残存
12	須恵器 高台付椀	+17.8cm	口径 14.0 底径 (5.0) 器高　5.2	①還元焔②明褐灰 ③角閃石・赤色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部2/3高台部欠損
13	須恵器 坏	+39.1cm	口径 12.3 底径　4.9 器高　4.1	①還元焔②浅黄 ③粗細砂・赤色鉱物粒が目立つ。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部2/3残存
14	須恵器 高台付椀	不明	口径(11.8) 底径 (4.0) 器高　5.2	①還元焔②灰白 ③細砂を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部破片
15	須恵器 高台付椀	+28.6cm	口径 12.8 底径　5.5 器高　4.9	①還元焔②灰白 ③粗細砂・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部1/2残存
16	須恵器 高台付椀	+65.5cm	口径 12.7 底径　5.5 器高　5.3	①還元焔②褐灰 ③粗細砂・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	高台部欠損
17	須恵器 高台付椀	+7.8cm	口径 13.9 底径　6.3 器高　5.5	①還元焔②灰③粗細砂・白・赤色鉱物粒・角閃石を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部2/3残存
18	須恵器 高台付椀	+28.8cm	口径 12.9 底径　5.5 器高　4.3	①還元焔②褐灰 ③粗細砂・赤・白色鉱物粒を含む。	外面　口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面　口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部2/3残存

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
19	須恵器 高台付椀	+38.2cm	口径 13.8 底径 7.0 器高 4.6	①還元焔②灰 ③細砂・角閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面 口縁部横ナデ。体～底部回転ナデ。	口～底部破片
20	須恵器 高台付椀	不明	口径 － 底径 7.7 器高 －	①還元焔②灰白③粗細砂・赤色鉱物粒を含む。	外面 体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面 体～底部回転ナデ。	底部破片
21	須恵器 高台付椀	+19.6cm	口径 － 底径 7.9 器高 －	①酸化焔②橙 ③細砂・角閃石を含む。	内外面 高台部横ナデ。	底部破片
22	須恵器 高台付椀	＋1cm	口径 － 底径 7.9 器高 －	①酸化焔②橙 ③細砂・角閃石を含む。	内外面 高台部横ナデ。	底部破片
23	須恵器 壷or甕	+42.8cm	口径 － 底径(12.0) 器高 －	①還元焔②青灰 ③粗細砂・白色鉱物粒を含む。	外面 体部回転ナデ。底部篦削り。 内面 体～底部回転ナデ。	底部破片
24	須恵器 壷or甕	+12cm	口径 － 底径 14.5 器高 －	①還元焔②暗灰黄～黄灰③粗細砂・赤色鉱物粒を含む。	外面 体部回転ナデ。底部篦削り。 内面 体部回転ナデ・指頭による調整。	体部破片
25	須恵器 壷or甕	不明	口径 － 底径(16.0) 器高 －	①還元焔②青灰 ③細砂を含む。	外面 体部回転ナデ調整。底部篦ナデ。 内面 体～底部回転ナデ。	底部破片
26	灰釉陶器	埋設土	口径(12.6) 底径 － 器高 －	①還元焔②灰白 ③白色鉱物粒を少量含む。	内外面 口縁部回転ナデ。釉浸け掛け。	口縁部破片
27	灰釉陶器	不明	口径 － 底径 8.2 器高 －	①還元焔②灰白 ③白色鉱物粒を少量含む。	内外面 体部回転ナデ。付高台。釉付着。	底部破片
28	灰釉陶器	－1cm	口径 － 底径 5.0 器高 －	①還元焔②灰白 ③細砂を少量含む。	内外面 体部回転ナデ。付高台。釉付着。	底部破片
29	灰釉陶器 高台付椀	不明	口径 － 底径 － 器高 －	①還元焔②灰黄～灰白③細砂を少量含む。	内外面 体部回転ナデ。付高台。	底部破片
30	灰釉陶器 高台付皿	埋設土	口径 － 底径 6.2 器高 －	①還元焔②灰白 ③黒・白色鉱物粒を含む。	内外面 体部回転ナデ。付高台。釉付着。	底部破片
31	灰釉陶器 高台付皿	不明	口径 － 底径 6.2 器高 －	①還元焔②灰白 ③黒色鉱物粒を含む。	内外面 体部回転ナデ。付高台。釉付着。	底部破片
32	瓦 男瓦	+59.4cm	口径 － 底径 － 器高 －	①還元焔②浅黄橙 ③細砂・赤色鉱物粒を含む。	外面 内面 布目痕。	

番号	種類 器種	出土状況 残存状況	法量 (cm、g)	石材	特徴
33	石製品 敲石	埋設土 完形	長 11.4 幅 10.0 厚 5.4 重 739.0	粗粒 輝石安山岩	円盤状の円礫。表裏中央に敲打痕。表面に煤付着。

Ⅰ-A・B区2号溝

位　置　K・L・M・N・O・P-92、L・P・Q・R・S-93

写　真　PL82

重　複　本遺構が1・4・6号方形周溝墓を掘り込む。

規　模　上幅0.45～0.25m　下幅0.26～0.10m
深さ0.14m　　調査長47m

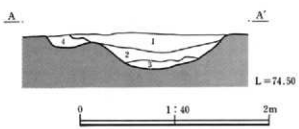
形　状　断面形状は擂鉢形を呈する。

走　行　Ⅰ区低地の左岸を方形周溝墓に規制されながらもほぼ北から南へ走行する。

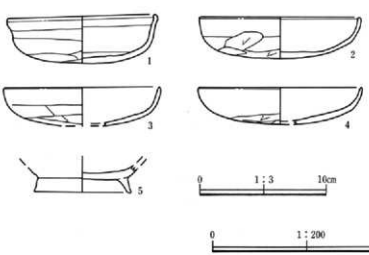
埋没土　褐灰色粘質土によって埋まっていた。底部付近には流水による細砂の堆積を確認した。

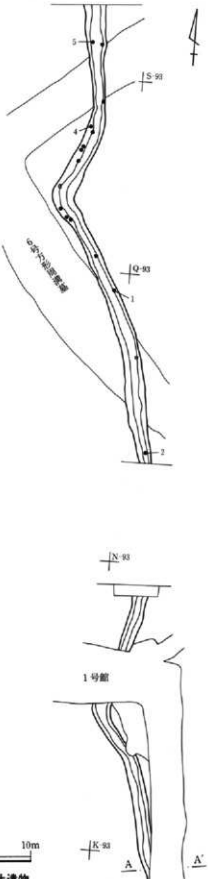
遺　物　出土遺物は破片で200点ほど出土した。(1)～(4)が本遺構の時期を示していると考える。

所　見　埋没土と出土遺物の年代が集中することから8世紀後半には掘削・使用されていたと考える。低地縁辺を走行することから用水路といった遺構の性格が想定されよう。



1～3．1号館埋没土。
4．褐灰色粘土　ノロ＋細石。ラミナ状に堆積。流水の痕跡。





第217図　Ⅰ-A・B区2号溝と出土遺物

I－A・B区2号溝出土遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	寸法 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土	成・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	残存状態 備考
1	土師器 坏	+23cm	口径 11.6 底径 9.3 器高 3.8	①酸化焔②軟い橙 ③角閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部箆削り。 内面 口～底部横ナデ。	ほぼ完形
2	土師器 坏	＋3cm	口径(12.8) 底径(9.5) 器高 3.3	①酸化焔②淡赤橙～橙③粗細砂・角閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部箆削り。 内面 口～底部横ナデ。	口～底部3／4残存
3	土師器 坏	埋没土	口径(12.3) 底径 － 器高 3.1	①酸化焔②橙 ③粗細砂・角閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部箆削調による調整。 内面 口縁部横ナデ。底部指頭による調整。	口～底部1／3残存
4	土師器 坏	+14cm	口径(13.0) 底径 － 器高 2.9	①酸化焔②橙 ③粗細砂・角閃石を含む。	外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ・指押さえ。底部箆削り。 内面 口～底部横ナデ。	口～底部破片
5	須恵器 高台付椀	+16cm	口径 － 底径 7.7 器高 －	①還元焔②灰白 ③粗細砂・角閃石・赤色鉱物粒を含む。	外面 体部回転ナデ。底部右回転糸切り。無調整。付高台。 内面 体～底部回転ナデ。	底部破片

Ⅳ-A区27・30号溝

位　置　U-37・38、V-38、R-35・36、Q-34・35、T-37・38、S-36

写　真　PL83・84

重　複　本遺構が36号溝を掘り込み、4号館25・12号溝に掘り込まれている。

規　模　上幅0.80m　下幅0.41m
深さ0.19m　調査長37m

形　状　断面形状は擂鉢～薬研形を呈する。

走　行　N－40°－W

埋没土　灰黄褐色の洪水砂を挟んで、暗褐色土が堆積していた。

遺　物　下層の30号溝から遺物が出土した。いずれも小破片である。

所　見　調査時は洪水砂を挟んで別遺構として調査した。下層の出土遺物の年代が集中することから8世紀前半には掘削・使用された遺構と考えたい。

Ⅳ-A区29・33号溝

位　置　P-33、Q・R-34、S-35、T-35・36、U-36・37、V-37、W-38・39

写　真　PL83・84

重　複　本遺構が34・26号溝を掘り込み、4号館25・12号溝に掘り込まれている。

規　模　上幅1.59m　下幅0.13m
深さ0.25m　調査長38m

形　状　断面形状は擂鉢～薬研形を呈する。

走　行　N－40°－W

埋没土　中層の灰黄褐色の洪水砂を挟んで、上層は灰白色シルト、下層には白色軽石を含む褐色土が堆積していた。

遺　物　下層の33号溝から土師器坏(1)・(2)が出土した。

所　見　調査時は洪水砂を挟んで別遺構としてとして調査した。下層の出土遺物の年代が集中することから8世紀前半には掘削・使用された遺構と考えたい。

Ⅳ-A区37号溝

位　置　S-36・37、T-37

写　真　なし。

重　複　なし。

規　模　上幅0.69m　下幅0.41m
深さ0.06m　調査長6m

形　状　断面形状は浅い盤形を呈する。

走　行　N－35°－W

埋没土　暗褐色土で埋まっていた。上層には洪水砂が層位的に堆積していた。

遺　物　出土遺物はなかった。

所　見　出土遺物はなく年代については不明であるが、27・29・30・33号溝と共通する洪水砂があり、同様な土層堆積をしていることから平安時代の遺構と考えられる。